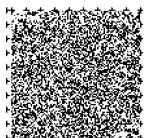
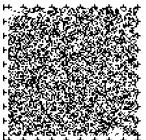


武蔵村山市第七次障害者計画・  
第八期障害福祉計画・  
第四期障害児福祉計画  
策定のための市民意識調査報告書

令和8年3月

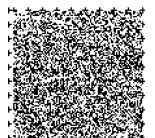
武蔵村山市



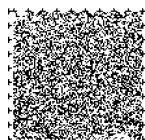


# 目次

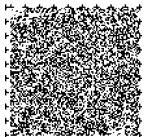
I 調査の実施内容	
1 調査の目的	1
2 調査の概要	1
3 報告書の見方	2
4 調査結果の概要について	3
障害者（18歳以上）の調査結果	3
障害児（18歳未満）の調査結果	10
障害福祉サービス事業所の調査結果	15
II 障害者（18歳以上）の調査結果	
1 回答者の属性	19
2 生活について	24
3 健康・医療・リハビリテーションについて	32
4 日常生活の状況について	36
5 日中の過ごし方について	45
6 将来の過ごし方について	50
7 外出や活動などについて	64
8 コミュニティ（地域）について	69
9 防災対策について	74
10 障害のある方の権利擁護について	80
11 情報入手や普段の相談について	89
12 障害福祉サービスについて	104
13 障害者・障害児施策全般について	109
14 自由意見	115
III 障害児（18歳未満）の調査結果	
1 回答者の属性	123
2 生活について	126
3 健康・医療・リハビリテーションについて	132
4 日常生活の状況について	136
5 日中の過ごし方について	143
6 将来の過ごし方について	146
7 外出や活動などについて	154
8 防災対策について	156

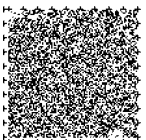


9	障害のある方の権利擁護について.....	159
10	情報入手や普段の相談について.....	165
11	障害福祉サービスについて.....	175
12	障害者・障害児施策全般について.....	178
13	自由意見 .....	182
IV	事業所の調査結果	
1	事業所の概要について.....	189
2	事業所の運営状況等について.....	197
3	サービス提供について.....	202
4	地域生活支援への取組について.....	205
5	サービスの質の向上について.....	209
6	災害や虐待防止の取組について.....	211
7	自由意見 .....	213
V	資料編	
1	市民生活ニーズ把握のためのアンケート調査票（18歳以上の方）.....	219
2	市民生活ニーズ把握のためのアンケート調査票（18歳未満の方）.....	224
3	障害福祉サービス事業所調査票.....	228



## I 調査の実施内容





## 1 調査の目的

武蔵村山市第七次障害者計画・第八期障害福祉計画・第四期障害児福祉計画の策定に当たり、障害者施策に関する市民の意向等を把握し、計画づくりに反映させることを目的とします。

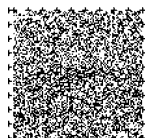
## 2 調査の概要

### ■市民意識調査

調査名	①市民生活ニーズ把握のためのアンケート調査（18歳以上の方）	②市民生活ニーズ把握のためのアンケート調査（18歳未満の方）
調査地域	武蔵村山市全域	
調査対象	18歳以上の身体障害者、知的障害者、精神障害者、自立支援医療受給者、難病患者 (令和7年10月1日現在)	18歳未満の身体障害児、知的障害児、精神障害者、自立支援医療受給者、難病患者 (令和7年10月1日現在)
調査方法	郵送配布・郵送又はWEB回収	
調査対象数 (配布数)	750名	250名
抽出方法	住民基本台帳に基づく無作為抽出 (性別、地区、年代及び障害の内容により区分し、人口割合等で按分して抽出)	
回収数	435名	123名
回収率	58.0%	49.2%
記名の有無	無記名式	
実施期間	令和7年11月14日(金)～12月15日(月)	

### ■障害福祉サービス事業所調査

調査名	③障害福祉サービス事業所調査
調査地域	武蔵村山市全域
調査対象	市内の障害福祉サービス事業所 (令和7年10月1日現在)
調査方法	郵送配布・郵送又はWEB回収
調査対象数 (配布数)	47か所
抽出方法	全数調査
回収数	37か所
回収率	78.7%
記名の有無	任意記名式
実施期間	令和7年11月14日(金)～12月15日(月)



### 3 報告書の見方

(1) 回答者数について

- ・ 図中の「回答者数 (n)」は、各設問に該当する回答者の総数であり、回答率 (%) の母数を表しています。

なお、異なる障害者手帳を所持するなど障害種別が重複するため、障害種別ごとの回答者数 (n) は全体の回答者数 (n) を超えることがあります。

(2) 百分率について

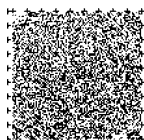
- ・ 百分率 (%) は、全て小数点以下第 2 位を四捨五入した数値であるため、合計が 100% にならない場合があります。
- ・ 回答者が 2 つ以上回答することができる設問 (複数回答) の場合、その回答率の合計は 100% を超えることがあります。

(3) 図表の単位について

- ・ 本文中に掲載した図表の単位は、特にことわりのない限り、「%」で表しています。

(4) 表記について

- ・ 選択肢の語句が長い場合、本文や図表中では省略した表現を用いている場合があります。



## 4 調査結果の概要について

### 障害者（18歳以上）の調査結果

#### (1) 調査について

対象者数750人、有効回収数435件、有効回収率58.0%（前回調査（令和4年度）44.0%）となりました。

※ 以下、令和4年12月に実施した前回調査については、「前回調査」と表記します。

#### (2) 回答者の属性

##### ア 障害種別について

- 「身体障害者手帳」が40.9%と最も多く、前回調査の47.3%より6.4ポイント減少しています。
- 「難病医療費など助成の受給」が20.5%で、前回調査の16.1%より4.4ポイント増加しています。
- 「自立支援医療の受給」が17.5%で、前回調査の22.1%より4.6ポイント減少しています。
- 「精神障害者保健福祉手帳」が15.9%で、前回調査の19.1%より3.2ポイント減少しています。
- 「愛の手帳（療育手帳）」が11.7%で、前回調査の10.3%より1.4ポイント増加しています。

##### イ 医療費などの助成を受けるまでの問題

- 「制度を知らなかった」が30.8%と最も多く、前回調査の30.6%とほぼ同じ割合となっています。
- 「特に問題はなかった」が38.6%で、前回調査の34.5%より4.1ポイント増加しています。

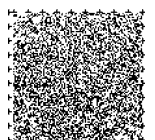
#### (3) 生活について

##### ア 現在の生活で困っていることについて

- 「経済的なこと」が33.3%と最も多く、前回調査の33.0%とほぼ同じ割合となっています。
- 次いで、「将来の援助（介助・支援）のこと」が28.7%で、前回調査の30.3%より1.6ポイント減少しています。

##### イ 困っていることを相談する相手について

- 「家族や親族」が74.9%と最も多く、前回調査の72.1%より2.8ポイント増加しています。
- 次いで、「医療機関」が29.4%で、前回調査の25.5%より3.9ポイント増加しています。



(4) 健康・医療・リハビリテーションについて

ア 健康管理や医療について困ったり不便に感じることにについて

- 「医療費の負担が大きい」が19.8%と最も多く、前回調査の21.2%より1.4ポイント減少しています。
- 「専門的な治療を行っている医療機関が身近にない」が16.6%で、前回調査の17.3%とほぼ同じ割合となっています。

(5) 日常生活の状況について

ア 主な介助者（支援者）について

- 「同居している家族・親族」が41.1%と最も多く、前回調査の38.8%より2.3ポイント増加しています。

イ 主な介助者（支援者）の年齢について

- 「70代以上」が24.1%と最も多く、前回調査の30.2%より6.1ポイント減少しています。
- 次いで、「50代以上」が22.8%で、前回調査の23.3%とほぼ同じ割合となっています。

ウ 主な介助者（支援者）が介助（支援）できないときの対応について

- 「一人でなんとかする」が22.8%と最も多く、前回調査の18.0%より4.8ポイント増加しています。

エ 回答者を介助（支援）する上で介助者（支援者）が困っていることについて

- 「将来の見通しに不安がある」が38.8%と最も多く、前回調査の38.6%とほぼ同じ割合となっています。
- 「介助（支援）する人の健康に不安がある」が23.2%で、前回調査の26.5%より3.3ポイント減少しています。

オ 他の人との意思疎通で困っていることについて

- 新たな設問で、日常生活での意思疎通で困っている人は、33.4%となっています。

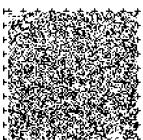
(6) 日中の過ごし方について

ア 日中の過ごし方について

- 「主に自宅にいる（働いていない）」が45.3%と最も多く、前回調査の47.6%より2.3ポイント減少しています。
- 「働いている（福祉的就労の場も含む）」が41.8%で、前回調査の33.9%より7.9ポイント増加しています。

イ 仕事をする上で困ったり、つらいことについて

- 「収入が少ない」が34.1%と最も多く、前回調査の41.1%より7.0ポイント減少しています。
- 次いで、「職場の人間関係」が18.1%で、前回調査の20.5%より2.4ポイント減少しています。



(7) 将来の過ごし方について

ア 将来の暮らし方について

○「家族と一緒に暮らしたい」が56.1%と最も多く、前回調査の62.4%より6.3ポイント減少しています。

○「一人で暮らしたい」が11.7%で、前回調査の13.3%より1.6ポイント減少しています。

イ 「家族と一緒に暮らしたい」、「一人で暮らしたい」及び「友人や仲間と一緒に暮らしたい」を選択した人について

○「地域で生活したい」が70.7%で、前回調査の72.2%より1.5ポイント減少しています。

ウ 地域で生活する上での課題について

○「特になし」が29.8%と最も多く、前回調査の24.5%より5.3ポイント増加しています。

○次いで、「面倒を見てくれる人の衰え」が21.4%で、前回調査の31.0%より9.6ポイント減少しています。

エ 地域生活への移行を進めるために期待する支援について

○新たな設問で、「生活費や住宅に関する支援」が37.9%と最も多くなっています。

オ 今後（将来）働くことについて

○「働きたい」が49.0%と最も多く、前回調査の43.3%より5.7ポイント増加しています。

○次いで、「働きたくない、または働きたいが働けない」が32.0%で、前回調査の33.9%より1.9ポイント減少しています。

カ 希望する働き方について

○「企業などで正社員・正職員」が30.5%と最も多く、前回調査の27.7%より2.8ポイント増加しています。

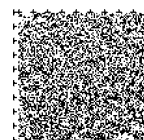
キ 一般就労に移行するために必要な支援について

○新たな設問で、「職場の環境や仕事の内容、時間などの配慮」が39.3%と最も多くなっています。

ク 障害のある方の就業を促進するために必要なことについて

○「従業員の理解」が57.2%と最も多く、前回調査の44.5%より12.7ポイント増加しています。

○次いで、「経営者の理解」は54.7%で、前回調査の44.8%より9.9ポイント増加しています。



(8) 外出や活動について

ア 外出する回数について

○週1回以上外出している人は85.5%で、前回調査の86.4%とほぼ同じ割合となっています。

イ 外出する時に、不便に感じることや困っていることについて

○「ある」を選択した人(※)は43.7%で、前回調査の46.8%より3.1ポイント減少しています。

(※)「特に困ることはない」、「ほとんど外出しないのでわからない」、「無回答」を除く人の割合。

○不便に感じることや困っていることの主な要因は以下のとおりです。

・「道路や建物・駅に階段や段差が多い」が16.1%と最も多く、前回調査の17.0%より0.9ポイント減少しています。

・「外出に費用がかかりすぎる」が13.1%で、前回調査の11.2%より1.9ポイント増加しています。

ウ 趣味や学習、スポーツなど余暇活動をするときに困ること、または活動を行っていない理由について

○「特になし」が33.1%と最も多く、前回調査の34.2%より1.1ポイント減少しています。

○次いで、「経済的余裕がない」が20.9%で、前回調査の24.2%より3.3ポイント減少しています。

(9) コミュニティ(地域)について

ア 障害のある方とない方が共に生きる社会をつくっていくために必要なことについて

○「障害についての理解が深められるよう、情報提供を充実させる」が31.0%と最も多く、前回調査の31.8%とほぼ同じ割合となっています。

○次いで、「学校教育の中で、障害や福祉に関する学習を充実させる」が30.3%で、前回調査の32.4%より2.1ポイント減少しています。

(10) 防災対策について

ア 災害時に一人で避難できるかについて

○新たな設問で、「できる」が54.9%と最も多くなっています。

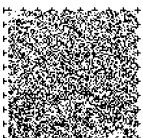
イ 地震などの災害時に困ることについて

○「避難所の設備について不安」が38.6%と最も多く、前回調査の40.6%より2.0ポイント減少しています。

○次いで、「避難場所で医療ケアなどが受けられるか不安」が31.0%で、前回調査の35.2%より4.2ポイント減少しています。

ウ 災害時に必要とする支援について

○新たな設問で、「救援物資(食事・水・衣服・薬など)の配給」が81.6%と最も多くなっています。



エ 避難行動要支援者名簿の関係機関への情報提供について

- 「同意している」及び「同意していないが、今後、同意したい」を合わせて27.1%で、前回調査の30.6%より3.5ポイント減少しています。

(11) 障害のある方の権利擁護について

ア 成年後見制度、障害者差別解消法の認知度について

- 新たな設問で、各制度の認知度は以下のとおりです。
  - ・成年後見制度：「全く知らない」が33.6%と最も多くなっています。
  - ・障害者差別解消法：「全く知らない」が60.9%と最も多くなっています。

イ 障害者虐待防止法、障害者虐待防止センターの認知度について

- 新たな設問で、各制度の認知度は以下のとおりです。
  - ・障害者虐待防止法：「全く知らない」が51.7%と最も多くなっています。
  - ・障害者虐待防止センター：「全く知らない」が61.4%と最も多くなっています。

ウ 障害が原因で差別を受けたこと又はいやな思いをしたことの主な要因は以下のとおりです。

- 「学校、職場、施設などで不当な扱いを受けた」が8.3%と最も多く、前回調査の10.6%より2.3ポイント減少しています。
- 次いで、「バス、電車、タクシーの乗員の対応で、不愉快な思いをした」が7.1%で、前回調査の7.6%とほぼ同じ割合となっています。

エ 障害が原因で差別を受けたり、いやな思いをした経験について、誰かに打ち明けたり、相談した人について

- 障害が原因で差別を受けたり、いやな思いをした経験について、誰かに打ち明けたり、相談した人は、36.8%で、前回調査の43.1%より6.3ポイント減少しています。
- 相談をしなかった人は54.7%で、前回調査の50.5%より4.2ポイント増加しています。
- 相談しなかった主な理由は以下のとおりです。
  - ・「相談しても無駄だと思ったから」が70.3%と最も多く、前回調査の61.8%より8.5ポイント増加
  - ・次いで、「どこ（誰）に相談してよいのかわからなかったから」が37.5%で、前回調査の32.7%より4.8ポイント増加

(12) 情報入手や普段の相談について

ア 普段ICT機器（パソコンやスマートフォン、タブレット型端末など）を利用する目的について

- 新たな設問で、「情報の取得・検索」が66.0%と最も多くなっています。

イ ICT機器を活用するうえで、今後行政や地域に期待する支援について

- 新たな設問で、「特に希望はない」が45.1%と最も多く、次いで、「機器や通信費用の助成」が30.6%となっています。



ウ 福祉に関する情報を取得する手段について

- 「都や市の広報・ホームページやガイドブック」が49.2%と最も多く、前回調査の49.4%より0.2ポイント減少しています。
- 「インターネット（パソコン、スマートフォン）」が36.3%で、前回調査の23.6%より12.7ポイント増加しています。
- 次いで、「病院など医療機関」が22.3%で、前回調査の24.5%より2.2ポイント減少しています。
- 次いで、「市役所・保健所・児童相談所」が21.8%で、前回調査の18.5%より3.3ポイント増加しています。

エ 福祉サービスを利用するときに困ること（困ったこと）について

- 「どんなサービスがあるのか知らない」が23.2%と最も多く、前回調査の33.0%より9.8ポイント減少しています。
- 「どの事業者が良いのかわからない」が8.5%で、前回調査の9.1%より0.6ポイント減少しています。

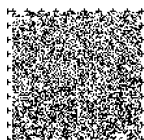
オ 相談事業を充実するために必要なことについて

- 「気軽に相談できる窓口の数を増やす」が46.9%と最も多く、前回調査の46.1%より0.8ポイント増加しています。
- 次いで、「1か所できまざまな相談に対応できる窓口を整備する」が28.7%で、前回調査の36.1%より7.4ポイント減少しています。

(13) 障害福祉サービスについて

ア 武蔵村山市の障害福祉サービスの利用状況と今後の利用希望について

- 新たな設問で、利用状況は以下のとおりです。
  - ・訪問系サービス：「はい（利用している人）」は、①居宅介護が3.9%と最も多くなっています。
  - ・日中活動系サービス：「はい（利用している人）」は、⑦就労継続支援（B型・非雇用型）が7.1%と最も多くなっています。
  - ・居住系サービス：「はい（利用している人）」は、①共同生活援助（グループホーム）が2.3%と最も多くなっています。
  - ・地域生活支援事業系サービス：「はい（利用している人）」は、①相談支援事業が8.0%と最も多くなっています。
  - ・その他サービス：「はい（利用している人）」は、①自立支援医療が19.3%と最も多くなっています。
- 新たな設問で、今後の利用希望は以下のとおりです。
  - ・訪問系サービス：「今後利用したい」人は、③同行援護が10.1%と最も多くなっています。
  - ・日中活動系サービス：「今後利用したい」人は、①生活介護が8.7%と最も多くなっています。



- ・居住系サービス：「今後利用したい」人は、③施設入所支援が7.4%と最も多くなっています。
- ・地域生活支援事業系サービス：「今後利用したい」人は、①相談支援事業が12.0%と最も多くなっています。
- ・その他サービス：「今後利用したい」人は、①自立支援医療、③地域定着支援がともに9.2%と最も多くなっています。

(14) 障害者・障害児施策全般について

ア 武蔵村山市の福祉サービス全般の満足度について

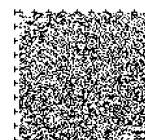
- 「満足している」（「満足している」及び「少し満足している」の合計）が31.5%で、前回調査の30.0%より1.5ポイント増加しています。
- 「満足していない」（「あまり満足していない」及び「満足していない」の合計）が13.8%で、前回調査の17.9%より4.1ポイント減少しています。

イ 今後の施策として必要なことについて

- 「経済的な援助の充実」が38.9%と最も多く、前回調査の38.8%とほぼ同じ割合となっています。
- 次いで、「暮らしやすいまちづくり」が21.1%で、前回調査の27.0%より5.9ポイント減少しています。
- 次いで、「災害時における避難誘導體制の確立」が19.3%で、前回調査の20.9%より1.6ポイント減少しています。

ウ 障害のある子どもたちが武蔵村山市で成長するにあたって重要と思うことについて

- 「地域の人々の理解」が60.2%と最も多く、前回調査の58.5%より1.7ポイント増加しています。
- 次いで、「学校の先生や職員の理解」が52.2%で、前回調査の49.7%より2.5ポイント増加しています。



## 障害児（18歳未満）の調査結果

### (1) 調査について

対象者数250人、有効回収数123件、有効回収率49.2%（前回調査（令和4年度）35.6%）となりました。

### (2) 生活について

#### ア 現在の生活で困っていることについて

- 「進路や就職のこと」が40.7%と最も多く、前回調査の34.8%より5.9ポイント増加しています。
- 「親が亡くなった後の過ごし方」が34.1%で、前回調査の30.3%より3.8ポイント増加しています。
- 「思うように意思疎通ができないこと」は26.8%で、前回調査の27.0%とほぼ同じ割合となっています。

#### イ 困っていることを相談する相手について

- 「家族や親族」が78.9%と最も多く、前回調査の75.3%より3.6ポイント増加しています。
- 「学校の先生や保育所・幼稚園の先生」が48.8%で、前回調査の50.6%より1.8ポイント減少しています。

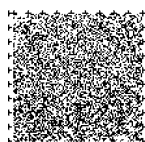
#### ウ 趣味や学習、スポーツなど余暇活動をするときに困ること、または活動を行っていない理由について

- 「障害のない大勢の人たちの中に入っていくのに気が引ける」が23.6%と最も多く、前回調査の25.8%より2.2ポイント減少しています。
- 「障害のある方が参加できる講座・イベントなどが少ない」が18.7%で、前回調査の32.6%より13.9ポイント減少しています。
- 「一緒に参加する友人、仲間がいない」が17.1%で、前回調査の20.2%より3.1ポイント減少しています。
- 「興味がないので参加しない」が11.4%で、前回調査の15.7%より4.3ポイント減少しています。

### (3) 健康・医療・リハビリテーションについて

#### ア 病院にかかるときに困ったり不便に感じることにについて

- 「専門的な治療を行っている病院が近くにない」が10.6%と最も多く、前回調査の14.6%より4.0ポイント減少しています。
- 「近所に診てくれる病院がない」が9.8%で、前回調査の9.0%とほぼ同じ割合となっています。



(4) 日常生活の状況について

ア 主な介助者（支援者）について

○「親」が86.7%と最も多く、前回調査の93.2%より6.5ポイント減少しています。

イ 主な介助者（支援者）の年齢について

○「40代」が53.0%と最も多く、前回調査の53.7%とほぼ同じ割合となっています。

ウ 主な介助者（支援者）が介助（支援）できないときの対応について

○「同居している他の家族・親族に頼む」が40.9%と最も多く、前回調査の39.0%より1.9ポイント増加しています。

エ 回答者を介助（支援）する上で介助者（支援者）が困っていることについて

○「将来の見通しに不安がある」が58.7%と最も多く、前回調査の51.1%より7.6ポイント増加しています。

○次いで、「体力的に心配がある」が30.7%で、前回調査の36.2%より5.5ポイント減少しています。

オ 他の人との意思疎通で困っていることについて

○新たな設問で、日常生活での意思疎通で困っている人は、59.3%となっています。

(5) 日中の過ごし方について

ア 平日の昼間の過ごし方について

○「学校に通っている」が92.7%と最も多く、前回調査の86.5%より6.2ポイント増加しています。

イ 通園や通学で困っていることについて

○「通うのが大変」が23.7%で、前回調査の11.7%より12.0ポイント増加しています。

○次いで、「人間関係がうまくいかない」が11.4%で、前回調査の6.5%より4.9%増加しています。

(6) 将来の過ごし方について

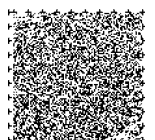
ア 将来の暮らし方について

○「家族と一緒に暮らしたい」が72.4%と最も多く、前回調査の48.3%より24.1ポイント増加しています。

○「一人で暮らしたい」が8.1%で、前回調査の13.5%より5.4ポイント減少しています。

イ 「家族と一緒に暮らしたい」、「一人で暮らしたい」及び「友人や仲間と一緒に暮らしたい」を選択した人について

○「地域で生活したい」が61.2%で、前回調査の77.4%より16.2ポイント減少しています。



ウ 地域で生活する上での課題について

- 「障害のある方に適した住居がない」が28.6%と最も多く、前回調査の29.2%とほぼ同じ割合となっています。
- 「働ける場所がない」が27.0%で、前回調査の27.1%とほぼ同じ割合となっています。
- 「面倒を見てくれる人の衰え」が25.4%で、前回調査の45.8%より20.4ポイント減少しています。

エ 地域生活への移行を進めるために期待する支援について

- 新たな設問で、「生活費や住宅に関する支援」が54.5%と最も多くなっています。

オ 今後（将来）働くことについて

- 新たな設問で、「働きたい」が69.9%と最も多くなっています。

カ 一般就労に移行するために必要な支援について

- 新たな設問で、「職場の環境や仕事の内容、時間などの配慮」が57.7%と最も多くなっています。

(7) 外出や活動について

ア 外出するときに、不便に感じることや困っていることについて

- 「特に困ることはない」が34.1%と最も多く、前回調査の31.5%より2.6ポイント増加しています。
- 次いで、「自分の意見を伝えたり、コミュニケーションをとることがむずかしい」が32.5%で、前回調査の23.6%より8.9ポイント増加しています。

(8) 防災対策について

ア 災害時に一人で避難できるかについて

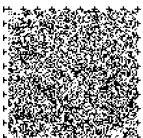
- 新たな設問で、「できない」が52.0%と最も多くなっています。

イ 地震などの災害時に困ることについて

- 「避難場所を知らない」が45.5%と最も多く、前回調査の19.1%より26.4ポイント増加しています。
- 次いで、「通勤、通学、通所の途中で災害にあった場合の対応がわからない」が44.7%で、前回調査の34.8%より9.9ポイント増加しています。

ウ 災害時に必要とする支援について

- 新たな設問で、「救援物資（食事・水・衣服・薬など）の配給」が82.1%と最も多くなっています。



(9) 障害のある方の権利擁護について

ア 障害が原因で差別を受けたこと又はいやな思いをしたことの主な要因は以下のとおりです。

○「学校、職場、施設などで不当な扱いを受けた」(※)が13.8%と最も多く、前回調査の19.1%より5.3ポイント減少しています。

(※) 前回調査では「学校での対応」

○「バス、電車、タクシーの乗員の対応で、不愉快な思いをした」(※)が10.6%で、前回調査の14.6%より4.0ポイント減少しています。

(※) 前回調査では「バス、電車、タクシーでの対応」

○「特になし」が63.4%で、前回調査の50.6%より12.8ポイント増加しています。

イ 障害が原因で差別を受けたり、いやな思いをした経験について、誰かに打ち明けたり、相談した人について

○障害が原因で差別を受けたり、いやな思いをした経験について、誰かに打ち明けたり、相談した人は、55.8%で、前回調査(※)の61.0%より5.2ポイント減少しています。

(※) 前回調査では「虐待や不適切な行為をされた経験がある人」

○相談をしなかった人は41.9%で、前回調査の39.0%より2.9ポイント増加しています。

○相談しなかった主な理由は以下のとおりです。

・「相談しても無駄だと思ったから」が55.6%と最も多く、前回調査の87.5%より31.9ポイント減少しています。

・次いで、「どこ(誰)に相談してよいのかわからなかったから」が38.9%で、前回調査の31.3%より7.6ポイント増加しています。

(10) 情報入手や普段の相談について

ア 普段ICT機器(パソコンやスマートフォン、タブレット型端末など)を利用する目的について

○新たな設問で、「娯楽(動画やゲームなど)」が82.9%と最も多くなっています。

イ ICT機器を活用するうえで、今後行政や地域に期待する支援について

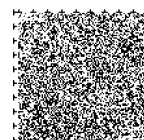
○新たな設問で、「特に希望はない」が35.8%と最も多く、次いで、「機器や通信費用の助成」が35.0%となっています。

ウ 福祉に関する情報を取得する手段について

○新たな設問で、「家族や友人」が54.5%と最も多く、次いで、「インターネット(パソコン、スマートフォン)」が39.8%となっています。

エ 相談支援体制についてどのようなことの充実を望むかについて

○新たな設問で、「就職や就職後の支援に関する専門的な相談」が48.8%と最も多くなっています。



(11) 障害福祉サービスについて

ア 武蔵村山市の障害福祉サービスの利用状況と今後の利用希望について

○新たな設問で、利用状況は以下のとおりです。

- ・障害児通所支援サービス：「はい（利用している人）」は、②放課後等デイサービスで39.8%と最も多くなっています。
- ・訪問系サービス：「はい（利用している人）」は、①居宅介護が1.6%と最も多くなっています。
- ・その他サービス：「はい（利用している人）」は、⑧補装具が21.1%と最も多くなっています。

○新たな設問で、今後の利用希望は以下のとおりです。

- ・障害児通所支援サービス：「今後利用したい」人は、②放課後等デイサービスが16.3%と最も多くなっています。
- ・訪問系サービス：「今後利用したい」人は、④行動援護が13.8%と最も多くなっています。
- ・その他サービス：「今後利用したい」人は、①短期入所（ショートステイ）、⑤移動支援事業がともに17.9%と最も多くなっています。

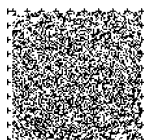
(12) 障害者・障害児施策全般について

ア 障害のある子どもが武蔵村山市で成長するために重要なことについて

- 「進学や就職に向けた情報提供」が61.0%と最も多く、前回調査の60.7%とほぼ同じ割合となっています。
- 次いで、「地域の人々の理解」が57.7%で、前回調査の50.6%より7.1ポイント増加しています。
- 次いで、「学校の先生や職員の理解」は56.9%で、前回調査の62.9%より6.0ポイント減少しています。

イ 療育や支援でさらに充実させるべきと思うことについて

- 新たな設問で、「学校での障害者理解の普及・啓発」が18.7%と最も多く、次いで、「自立に向けた専門的な教育の充実」が10.6%となっています。



## 障害福祉サービス事業所の調査結果

### (1) 調査について

対象事業所数47か所、有効回収数37件、有効回収率78.7%となりました。

### (2) 事業所の属性について

ア 提供している障害福祉サービス、児童福祉法に基づく障害児サービスについて

○「共同生活援助（グループホーム）」が24.3%と最も多く、次いで、「就労継続支援（B型）」が21.6%となっています。

### (3) 事業所の運営状況等について

ア 運営状況について

○「安定的に運営できている」（「十分安定的に運営できている」及び「やや安定的に運営できている」の合計。）が43.2%、「運営が厳しい」（「少々厳しい」及び「かなり厳しい」の合計。）が56.7%となっています。

イ 運営上の課題について

○「職員の確保」が54.1%と最も多く、次いで、「利用者の確保」、「報酬単価が低い」がともに32.4%となっています。

ウ 職員（人手）の充足具合について

○「やや不足している」が48.6%と最も多く、次いで、「十分である」、「不足している」がともに18.9%となっています。

エ 職員（人手）が不足と感じる理由について

○「人材の確保が難しい」が96.4%と最も多くなっています。

オ 離職する理由について

○「能力や実績に照らして、給与（賃金）や手当が低いため」、「精神的負担が大きいため」がともに21.6%と最も多く、次いで、「身体的負担が大きい（体力に不安がある）ため」が18.9%となっています。

カ 人材確保のための取組について

○「柔軟な勤務形態の導入（短時間就労など）」が73.0%と最も多く、次いで、「賃金の改善」が64.9%となっています。

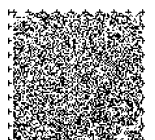
### (4) サービス提供について

ア 今後3年間の事業の見通しについて

○「現状維持」が56.8%と最も多くなっています。

イ 市内全体の事業所で不足していると思うサービスについて

○「短期入所（ショートステイ）」が24.3%と最も多く、次いで、「居宅介護」が21.6%となっています。



ウ 利用者からの依頼に対して、受け入れ（サービス提供）ができなかったことについて

○「ある」が64.9%と最も多くなっています。

エ 受け入れ（サービス提供）ができなかった理由について

○「新規利用者を受け入れる余裕がなかった（職員体制など）」が54.2%と最も多く、次いで、「希望される時間帯に利用が集中し、定員に余裕がなかった」が29.2%となっています。

(5) 地域生活支援への取組について

ア 障害者（児）が地域で安心して暮らすために必要なことについて

○「緊急時対応体制（受入施設の空床確保等）の整備」、「体験の機会や場（グループホーム、日中活動）の整備」がともに51.4%と最も多く、次いで、「地域の障害者理解を促進するための活動」が48.6%となっています。

(6) サービスの質の向上について

ア サービスの質向上のための取組について

○「利用者の個々の状況に応じたサービス提供の工夫」が94.6%と最も多く、次いで、「苦情や相談の受付態勢の整備」が75.7%となっています。

(7) 災害や虐待防止の取組について

ア 災害時の対策として取り組んでいることについて

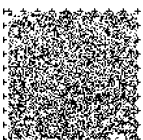
○「事業継続計画（BCP）の策定」が86.5%と最も多く、次いで、「定期的に避難訓練を実施」が78.4%となっています。

イ 虐待事案の対応経験について

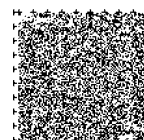
○「ない」が56.8%と最も多くなっています。

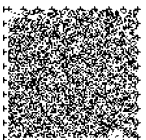
ウ 虐待防止の取組について

○「事業所内で従業員向けに研修を実施している」が89.2%と最も多く、次いで、「虐待防止委員会を設置している」が86.5%となっています。



## Ⅱ 障害者（18歳以上）の調査結果

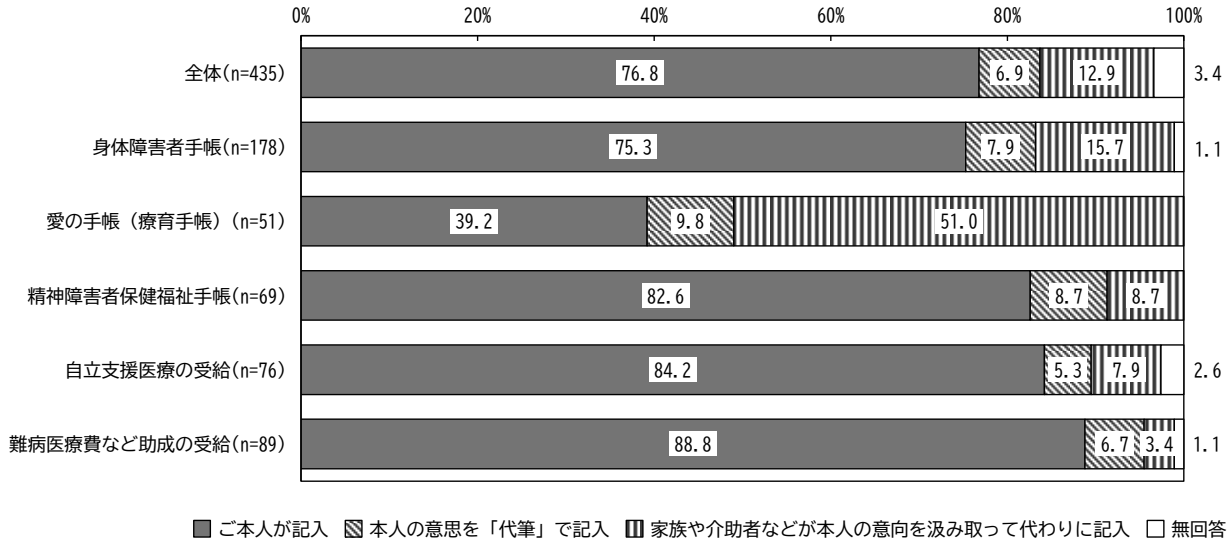




# 1 回答者の属性

## 問1 このアンケートにご記入いただく方はどなたですか。(1つに○)

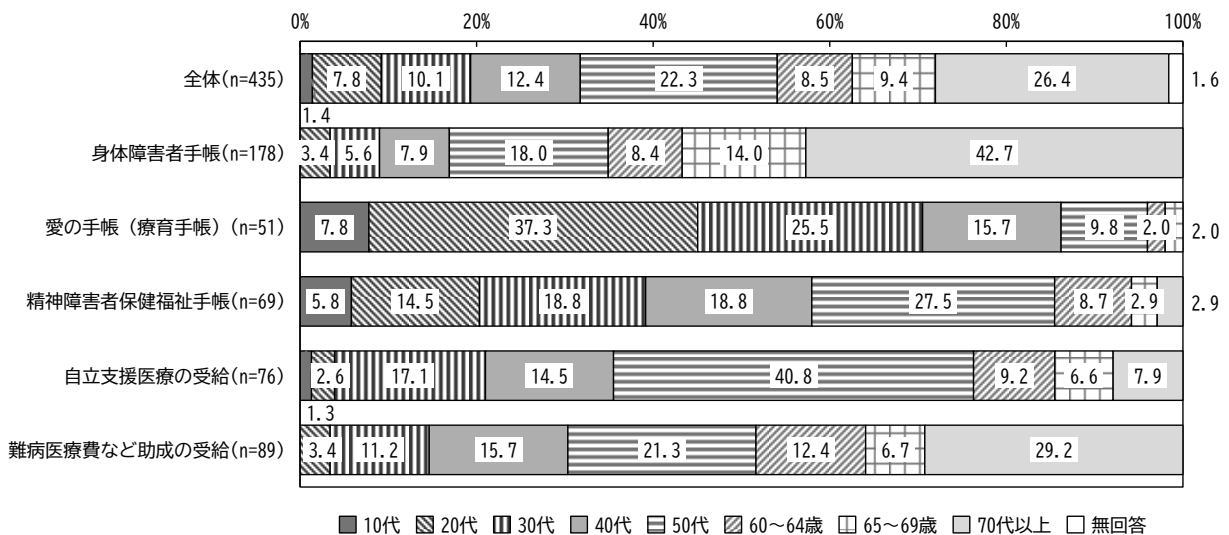
アンケートの記入者は、全体では「ご本人が記入」が76.8%、「本人の意思を「代筆」で記入」が6.9%、「家族や介助者などが本人の意向を汲み取って代わりに記入」が12.9%となっています。  
 障害種別ごとでは、愛の手帳（療育手帳）所持者以外で「ご本人が記入」が70%以上となっています。



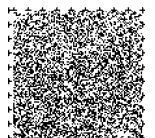
■ ご本人が記入   ■ 本人の意思を「代筆」で記入   ■ 家族や介助者などが本人の意向を汲み取って代わりに記入   □ 無回答

## 問2 あなたは、何歳ですか。(1つに○)【令和7年10月1日現在】

回答者の年齢は、全体では「70代以上」が26.4%と最も多く、次いで、「50代」が22.3%、「40代」が12.4%となっています。  
 障害種別ごとでは、70代以上が占める割合が身体障害者手帳所持者では42.7%、難病医療費など助成の受給者で29.2%、他の障害種別では10%未満となっています。

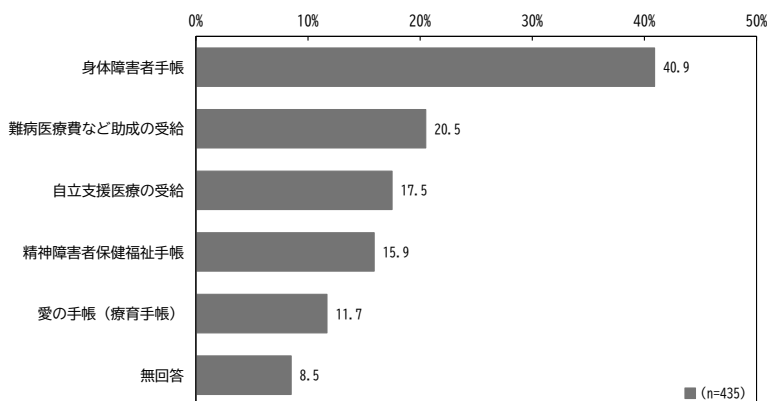


■ 10代   ■ 20代   ■ 30代   ■ 40代   ■ 50代   ■ 60~64歳   ■ 65~69歳   ■ 70代以上   □ 無回答



問3 あなたはどの障害者手帳を持っていたり、医療費などの助成を受けていたりしますか。  
 (あてはまるものすべてに○)

回答者の障害種別は、「身体障害者手帳」が40.9%と最も多く、次いで、「難病医療費など助成の受給」が20.5%、「自立支援医療の受給」が17.5%、「精神障害者保健福祉手帳」が15.9%、「愛の手帳（療育手帳）」が11.7%となっています。



他の手帳の所持や受給の有無については、身体障害者手帳所持者では、「愛の手帳（療育手帳）」が4.5%、「難病医療費など助成の受給」が3.4%、愛の手帳（療育手帳）所持者では「身体障害者手帳」及び「精神障害者保健福祉手帳」がそれぞれ15.7%、「自立支援医療の受給」が13.7%、精神障害者保健福祉手帳所持者では、「自立支援医療の受給」が42.0%、「愛の手帳（療育手帳）」が11.6%となっています。

また、自立支援医療の受給者では、「精神障害者保健福祉手帳」が38.2%、「愛の手帳（療育手帳）」が9.2%、難病医療費など助成の受給者では、「身体障害者手帳」が6.7%、「自立支援医療の受給」及び「愛の手帳（療育手帳）」がそれぞれ1.1%となっています。

(単位:%)

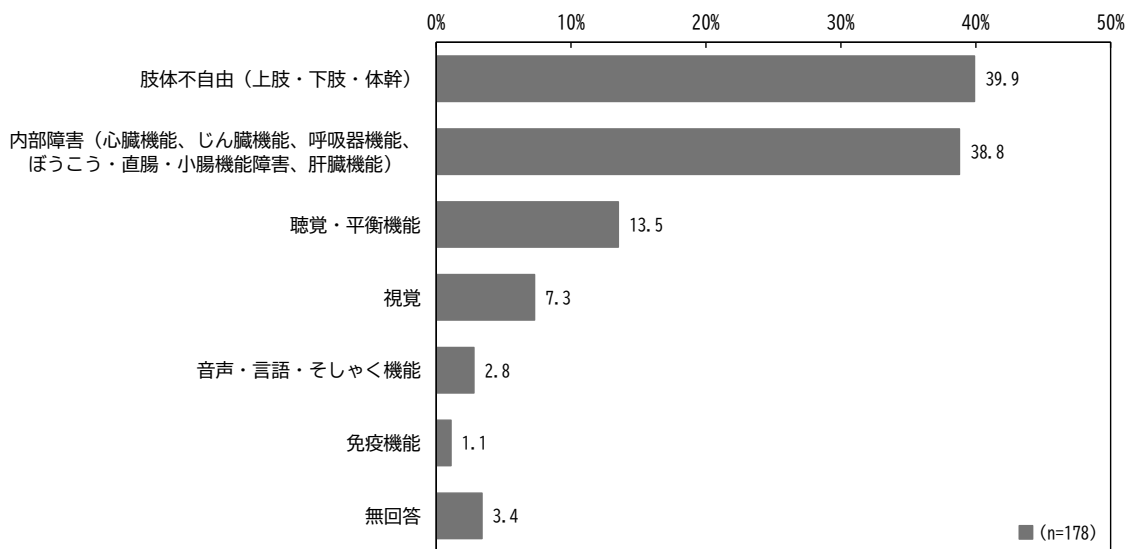
	身体障害者手帳	難病医療費など助成の受給	自立支援医療の受給	精神障害者保健福祉手帳	愛の手帳 (療育手帳)	無回答
全体 (n=435)	40.9	20.5	17.5	15.9	11.7	8.5
身体障害者手帳 (n=178)	100.0	3.4	2.8	2.2	4.5	0.0
愛の手帳 (療育手帳) (n=51)	15.7	2.0	13.7	15.7	100.0	0.0
精神障害者保健福祉手帳 (n=69)	5.8	0.0	42.0	100.0	11.6	0.0
自立支援医療の受給 (n=76)	6.6	1.3	100.0	38.2	9.2	0.0
難病医療費など助成の受給 (n=89)	6.7	100.0	1.1	0.0	1.1	0.0



問4は身体障害者手帳を所持していると答えた方におうかがいします。

問4 あなたが手帳を取るきっかけとなったのはどのような障害によるものですか。  
(あてはまるものすべてに○)

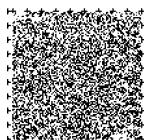
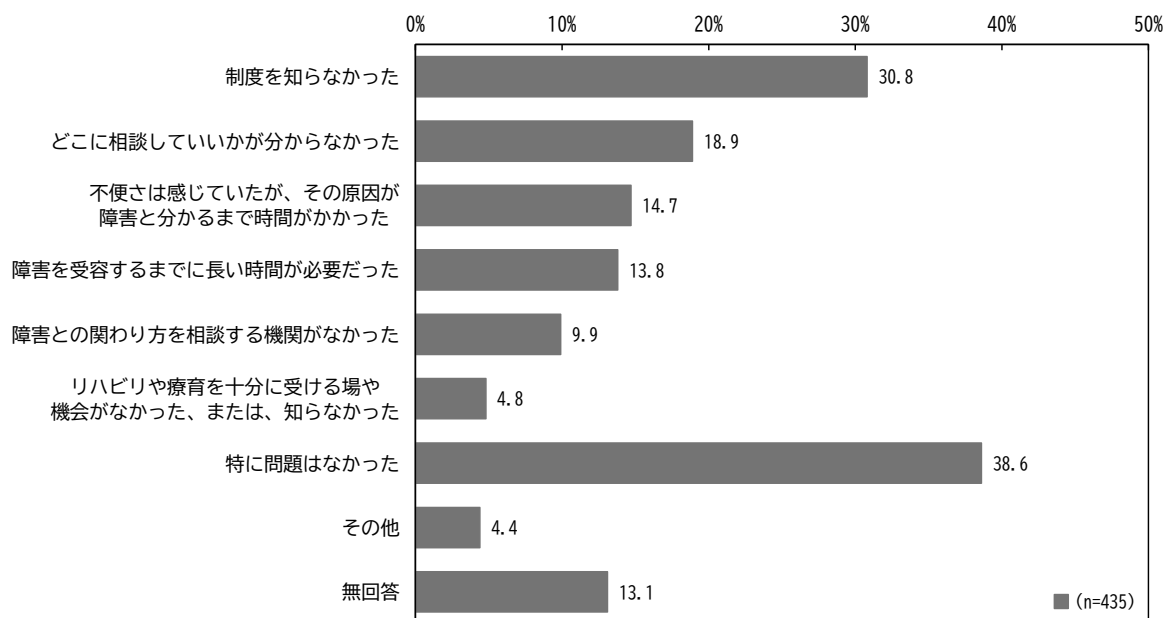
回答者が手帳を取るきっかけとなった障害は、「肢体不自由（上肢・下肢・体幹）」が39.9%と最も多く、次いで、「内部障害（心臓機能、じん臓機能、呼吸器機能、ぼうこう・直腸・小腸機能障害、肝臓機能）」が38.8%、「聴覚・平衡機能」が13.5%となっています。



問5 障害者手帳や医療費などの助成を受けるまでにどのような問題がありましたか。

(あてはまるものすべてに○)

医療費などの助成を受けるまでの問題については、「制度を知らなかった」が30.8%と最も多く、次いで、「どこに相談していいかが分からなかった」が18.9%、「不便さは感じていたが、その原因が障害と分かるまで時間がかかった」が14.7%となっています。



障害種別ごとでは、身体障害者手帳所持者及び愛の手帳（療育手帳）所持者では、「特に問題はなかった」がそれぞれ51.1%、39.2%と最も多く、次いで、「制度を知らなかった」がそれぞれ19.7%、33.3%となっています。

なお、愛の手帳（療育手帳）所持者では、「どこに相談していいかが分からなかった」及び「不便さを感じていたが、その原因が障害と分かるまで時間がかかった」が同じく27.5%となっています。

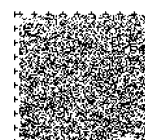
精神障害者保健福祉手帳所持者では、「制度を知らなかった」が43.5%と最も多く、次いで、「どこに相談していいかが分からなかった」が40.6%となっています。

自立支援医療受給者では、「制度を知らなかった」が64.5%と最も多く、次いで、「どこに相談していいかが分からなかった」が31.6%となっています。

難病医療費など助成の受給者では、「特に問題はなかった」が41.6%で最も多く、次いで、「制度を知らなかった」が31.5%となっています。

(単位:%)

	制度を知らなかった	どこに相談していいかが分からなかった	不便さを感じていたが、その原因が障害と分かるまで時間がかかった	障害を受容するまでに長い時間が必要だった	障害との関わり方を相談する機関がなかった	リハビリや療育を十分に受ける場や機会がなかった、または、知らなかった	特に問題はなかった	その他	無回答
全体 (n=435)	30.8	18.9	14.7	13.8	9.9	4.8	38.6	4.4	13.1
身体障害者手帳 (n=178)	19.7	13.5	9.0	9.0	7.9	1.1	51.1	3.9	11.8
愛の手帳 (療育手帳) (n=51)	33.3	27.5	27.5	25.5	15.7	11.8	39.2	5.9	2.0
精神障害者保健福祉手帳 (n=69)	43.5	40.6	30.4	33.3	21.7	10.1	27.5	5.8	1.4
自立支援医療の受給 (n=76)	64.5	31.6	18.4	21.1	14.5	10.5	25.0	3.9	5.3
難病医療費など助成の受給 (n=89)	31.5	16.9	16.9	9.0	5.6	3.4	41.6	4.5	5.6



## 2 生活について

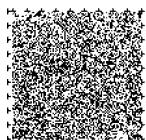
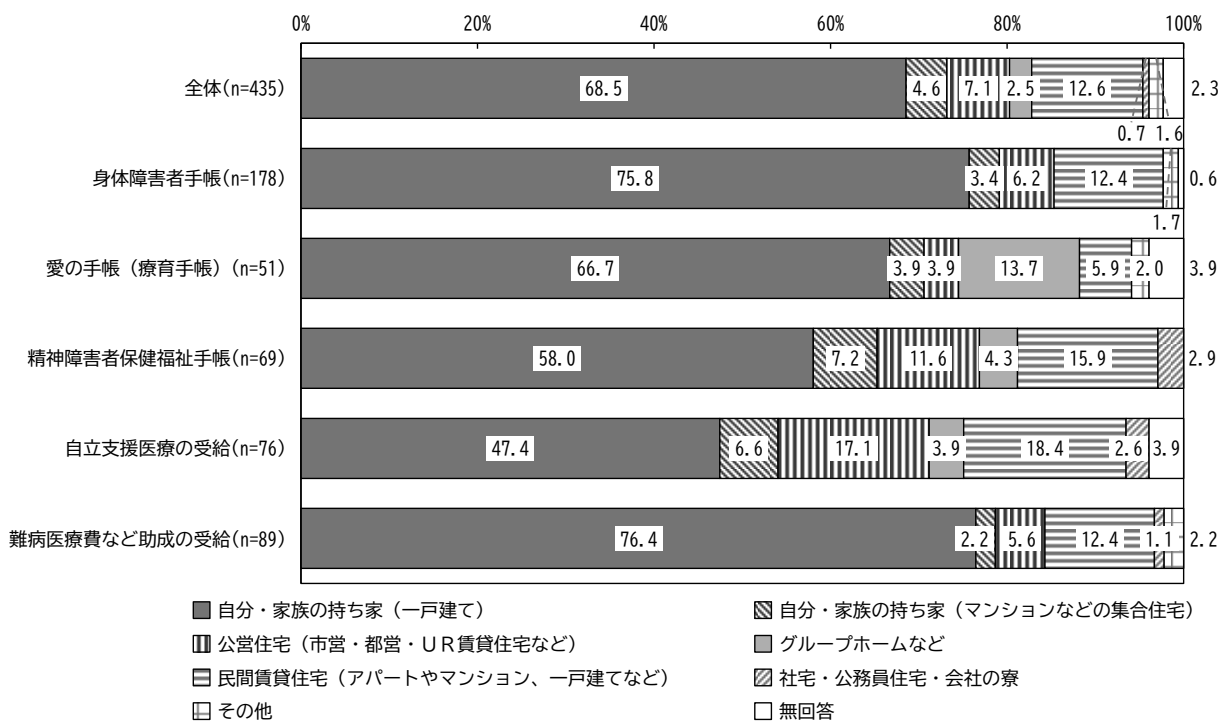
問6 あなたの現在のお住まい（生活の場）はどこですか。（1つに○）

病院に入院中の方は、入院する前のお住まいについてお答えください。

回答者の住まい（生活の場）については、障害種別に関係なく「自分・家族の持ち家（一戸建て）」が最も多く、難病医療費など助成の受給者では76.4%、身体障害者手帳所持者では75.8%となっています。

次いで、身体障害者手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者、自立支援医療の受給者及び難病医療費など助成の受給者では「民間賃貸住宅（アパートやマンション、一戸建てなど）」で、それぞれ12.4%、15.9%、18.4%、12.4%となっています。

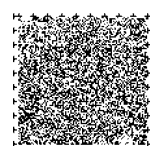
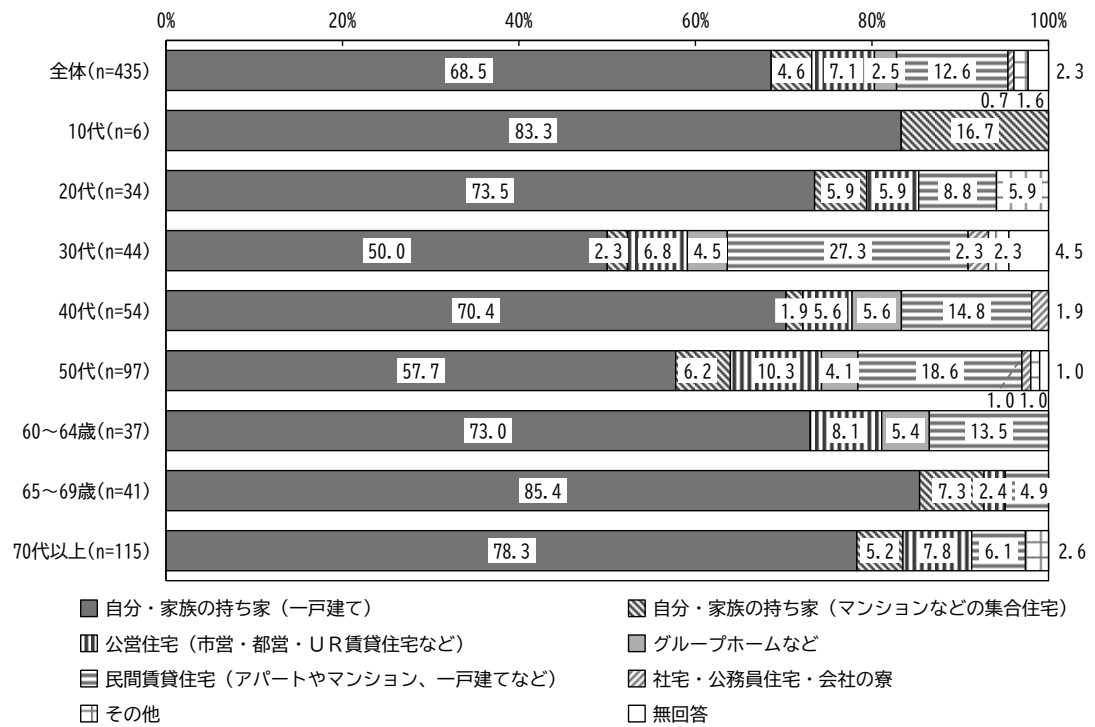
また、愛の手帳（療育手帳）所持者では「グループホームなど」が13.7%となっています。



年代別では、全ての年代で「自分・家族の持ち家（一戸建て）」が最も多く、65～69歳では85.4%、10代では83.3%、他の年代でも50%以上となっています。

次いで、70代以上では「公営住宅（市営・都営・UR賃貸住宅など）」となっていますが、10代及び65～69歳では「自分・家族の持ち家（マンションなどの集合住宅）」、他の年代では「民間賃貸住宅（アパートやマンション、一戸建てなど）」となっています。

なお、20代では、「自分・家族の持ち家（マンションなどの集合住宅）」及び「公営住宅（市営・都営・UR賃貸住宅など）」がともに5.9%で同じ割合となっています。



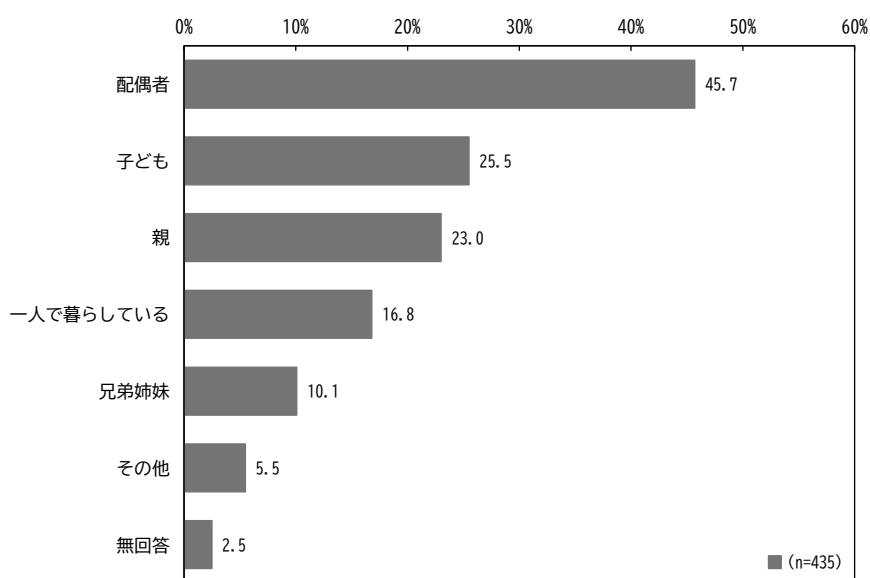
問7 あなたは、どなたと一緒に暮らしていますか。(あてはまるものすべてに○)

回答者の同居人について、全体では「配偶者」が45.7%と最も多く、次いで、「子ども」が25.5%となっています。

障害種別ごとでは、身体障害者手帳所持者、自立支援医療の受給者及び難病医療費など助成の受給者では「配偶者」が最も多く、それぞれ57.3%、35.5%、66.3%、愛の手帳（療育手帳）所持者及び精神障害者保健福祉手帳所持者では「親」が最も多く、それぞれ70.6%、44.9%となっています。

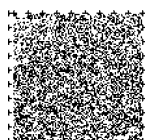
次いで、身体障害者手帳所持者及び難病医療費など助成の受給者では「子ども」がそれぞれ30.3%、37.1%、愛の手帳（療育手帳）所持者及び精神障害者保健福祉手帳所持者は「兄弟姉妹」がそれぞれ35.3%、21.7%となっています。

なお、自立支援医療の受給者では、「配偶者」に次いで、「一人で暮らしている」が28.9%となっています。



(単位:%)

	配偶者	子ども	親	一人で暮らしている	兄弟姉妹	その他	無回答
全体 (n=435)	45.7	25.5	23.0	16.8	10.1	5.5	2.5
身体障害者手帳 (n=178)	57.3	30.3	15.7	14.0	5.6	3.9	1.1
愛の手帳（療育手帳） (n=51)	3.9	0.0	70.6	7.8	35.3	19.6	0.0
精神障害者保健福祉手帳 (n=69)	15.9	14.5	44.9	17.4	21.7	5.8	4.3
自立支援医療の受給 (n=76)	35.5	25.0	22.4	28.9	10.5	5.3	0.0
難病医療費など助成の受給 (n=89)	66.3	37.1	12.4	11.2	5.6	4.5	0.0



問8 あなたの世帯の主な収入源はどれですか。(あてはまるものすべてに○)

回答者の世帯の主な収入源については、全体では「年金」が49.9%と最も多く、次いで、「ご家族の給与・賃金」が35.2%となっています。

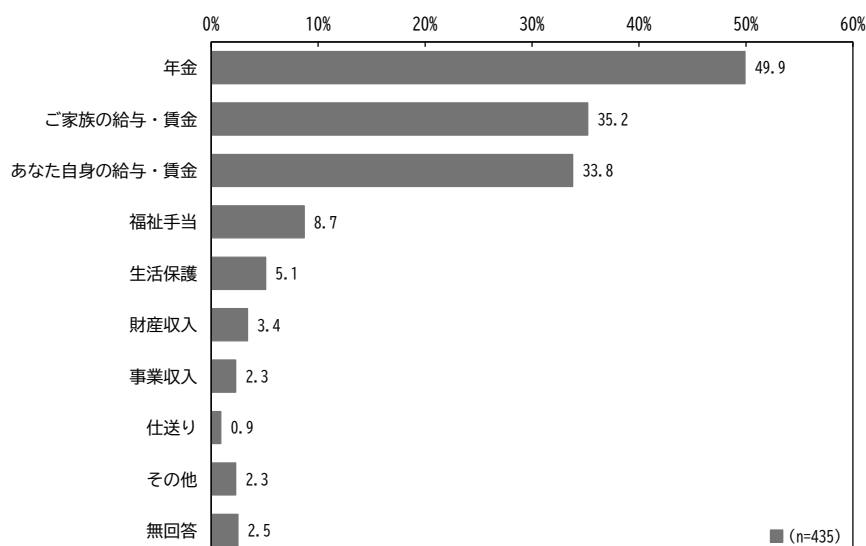
障害種別ごとでは、身体障害者手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者及び自立支援医療の受給者では「年金」が最も多く、それぞれ62.9%、55.1%、38.2%となっています。

また、難病医療費など助成の受給者では「ご家族の給与・賃金」が最も多く、44.9%となっています。

次いで、身体障害者手帳所持者及び自立支援医療の受給者では「あなた自身の給与・賃金」がそれぞれ30.3%、35.5%、精神障害者保健福祉手帳所持者では「ご家族の給与・賃金」が52.2%、難病医療費など助成の受給者では「年金」が39.3%となっています。

なお、自立支援医療の受給者では「ご家族の給与・賃金」が「あなた自身の給与・賃金」と同じ割合となっています。

愛の手帳（療育手帳）保持者では「年金」、「ご家族の給与・賃金」がともに51.0%と最も多く、次いで、「あなた自身の給与・賃金」、「福祉手当」がともに25.5%となっています。



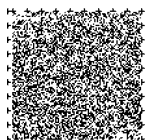
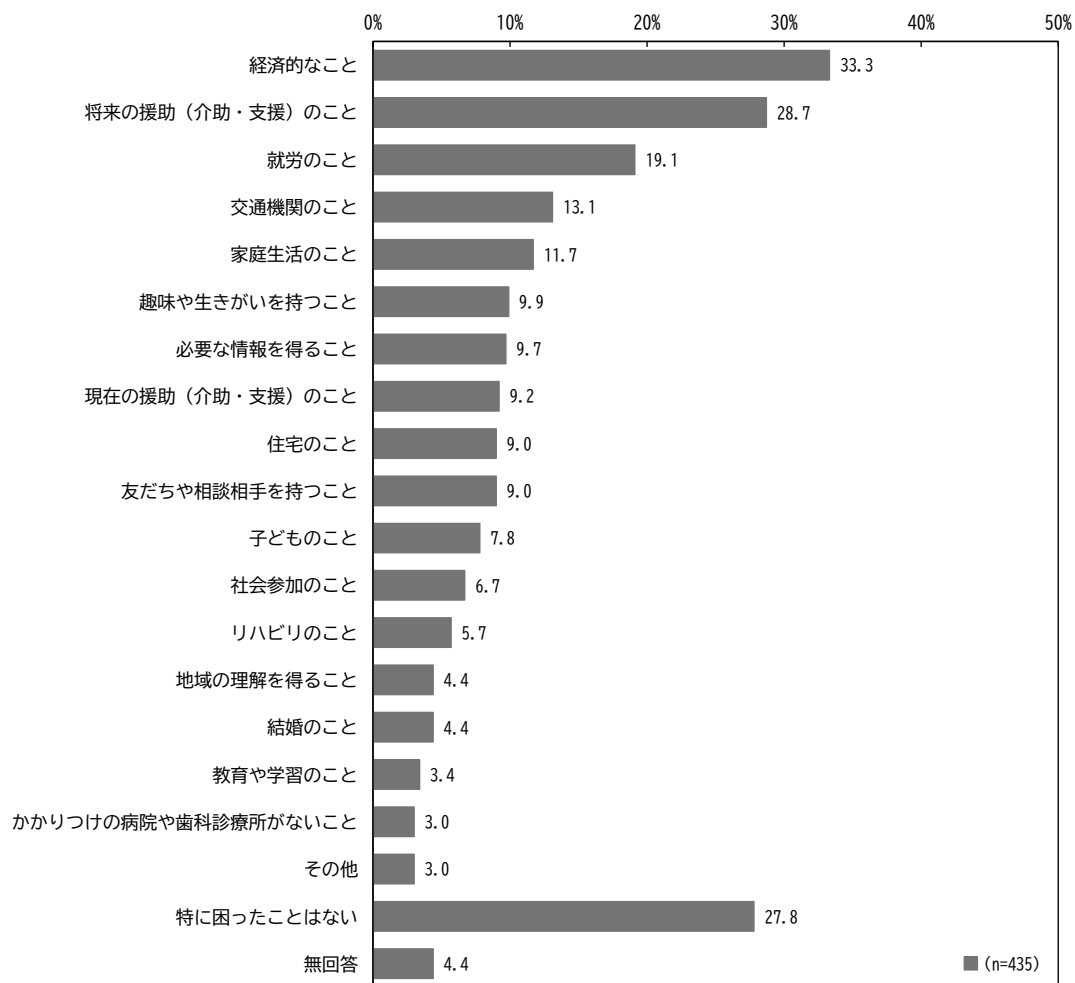
(単位: %)

	年金	ご家族の給与・賃金	あなた自身の給与・賃金	福祉手当	生活保護	財産収入	事業収入	仕送り	その他	無回答
全体 (n=435)	49.9	35.2	33.8	8.7	5.1	3.4	2.3	0.9	2.3	2.5
身体障害者手帳 (n=178)	62.9	26.4	30.3	11.8	3.9	4.5	3.4	1.1	1.7	0.6
愛の手帳（療育手帳）(n=51)	51.0	51.0	25.5	25.5	0.0	0.0	0.0	2.0	2.0	0.0
精神障害者保健福祉手帳 (n=69)	55.1	52.2	46.4	7.2	4.3	5.8	1.4	1.4	2.9	0.0
自立支援医療の受給 (n=76)	38.2	35.5	35.5	7.9	15.8	3.9	2.6	2.6	3.9	2.6
難病医療費など助成の受給 (n=89)	39.3	44.9	36.0	4.5	4.5	1.1	2.2	0.0	2.2	0.0



問9 あなたは、現在、生活で困っていることがありますか。(あてはまるものすべてに○)

生活で困っていることについては、全体では「経済的なこと」が33.3%と最も多く、次いで、「将来の援助（介助・支援）のこと」が28.7%となっています。



障害種別ごとでは、身体障害者手帳所持者では「特に困ったことはない」が34.8%と最も多く、自立支援医療の受給者及び難病医療費など助成の受給者では「経済的なこと」がそれぞれ42.1%、40.4%、愛の手帳（療育手帳）所持者では「将来の援助（介助・支援）のこと」が52.9%、精神障害者保健福祉手帳所持者では「就労のこと」が42.0%と最も多くなっています。

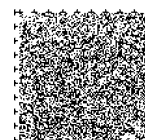
次いで、身体障害者手帳所持者では「将来の援助（介助・支援）のこと」が33.7%、愛の手帳（療育手帳）所持者及び自立支援医療の受給者では「就労のこと」がそれぞれ31.4%、31.6%、精神障害者保健福祉手帳所持者では、「経済的なこと」が40.6%、難病医療費など助成の受給者では「特に困ったことはない」が31.5%となっています。

(単位:%)

	経済的なこと	将来の援助（介助・支援）のこと	就労のこと	交通機関のこと	家庭生活のこと	趣味や生きがいを持つこと	必要な情報を得ること	現在の援助（介助・支援）のこと	住宅のこと	友だちや相談相手を持つこと
全体 (n=435)	33.3	28.7	19.1	13.1	11.7	9.9	9.7	9.2	9.0	9.0
身体障害者手帳 (n=178)	29.8	33.7	9.6	12.9	10.7	5.1	4.5	6.7	10.1	4.5
愛の手帳（療育手帳）(n=51)	25.5	52.9	31.4	13.7	13.7	13.7	27.5	19.6	5.9	17.6
精神障害者保健福祉手帳 (n=69)	40.6	37.7	42.0	17.4	20.3	26.1	20.3	13.0	14.5	21.7
自立支援医療の受給 (n=76)	42.1	27.6	31.6	9.2	15.8	18.4	11.8	10.5	13.2	13.2
難病医療費など助成の受給 (n=89)	40.4	19.1	18.0	13.5	7.9	9.0	10.1	9.0	6.7	5.6

(単位:%)

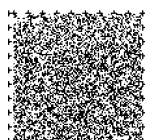
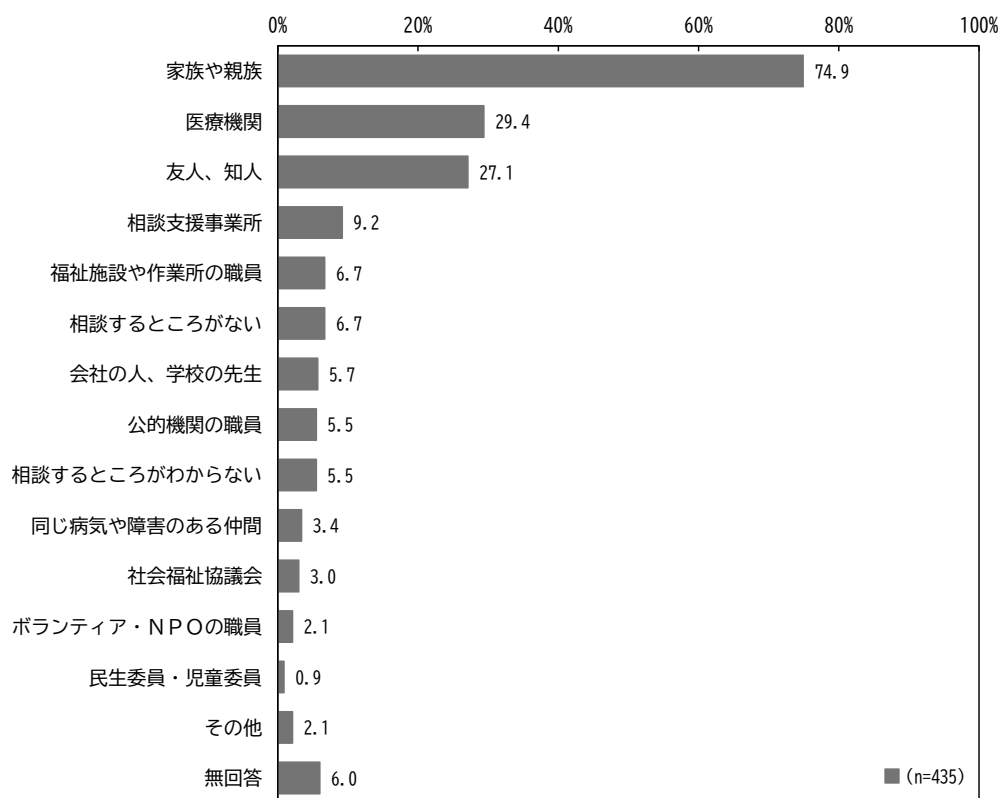
	子どものこと	社会参加のこと	リハビリのこと	地域の理解を得ること	結婚のこと	教育や学習のこと	かかりつけの病院や歯科診療所がないこと	その他	特に困ったことはない	無回答
全体 (n=435)	7.8	6.7	5.7	4.4	4.4	3.4	3.0	3.0	27.8	4.4
身体障害者手帳 (n=178)	7.3	4.5	8.4	2.2	3.4	1.7	1.1	1.7	34.8	3.4
愛の手帳（療育手帳）(n=51)	0.0	11.8	2.0	5.9	9.8	9.8	9.8	3.9	19.6	0.0
精神障害者保健福祉手帳 (n=69)	7.2	13.0	2.9	13.0	13.0	5.8	5.8	4.3	10.1	1.4
自立支援医療の受給 (n=76)	11.8	10.5	2.6	6.6	3.9	5.3	2.6	7.9	21.1	1.3
難病医療費など助成の受給 (n=89)	11.2	3.4	4.5	4.5	2.2	2.2	1.1	1.1	31.5	2.2



問10 困っていることを相談する相手は次のうちどなたですか。(あてはまるものすべてに○)

困っていることを相談する相手については、障害種別に関係なく「家族や親族」が最も多く、難病医療費など助成の受給者では85.4%、精神障害者保健福祉手帳所持者では75.4%、他の障害種別でも70%以上となっています。

次いで、身体障害者手帳所持者、愛の手帳（療育手帳）所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者及び自立支援医療の受給者では「医療機関」がそれぞれ25.3%、23.5%、44.9%、44.7%、難病医療費など助成の受給者では「友人、知人」が31.5%となっています。

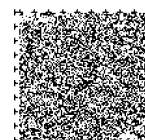


(単位：%)

	家族や親族	医療機関	友人、知人	相談支援事業所	福祉施設や作業所の職員	相談するところがない	会社の人、学校の先生	公的機関の職員
全体 (n=435)	74.9	29.4	27.1	9.2	6.7	6.7	5.7	5.5
身体障害者手帳 (n=178)	75.3	25.3	21.9	6.7	2.8	6.2	3.4	2.2
愛の手帳(療育手帳) (n=51)	74.5	23.5	9.8	23.5	21.6	3.9	5.9	0.0
精神障害者保健福祉手帳 (n=69)	75.4	44.9	34.8	20.3	18.8	10.1	8.7	5.8
自立支援医療の受給 (n=76)	75.0	44.7	31.6	15.8	14.5	3.9	9.2	14.5
難病医療費など助成の受給 (n=89)	85.4	25.8	31.5	4.5	2.2	5.6	6.7	5.6

(単位：%)

	相談するところがない	同じ病気や障害のある仲間	社会福祉協議会	ボランティア・NPOの職員	民生委員・児童委員	その他	無回答
全体 (n=435)	5.5	3.4	3.0	2.1	0.9	2.1	6.0
身体障害者手帳 (n=178)	4.5	3.9	3.4	1.7	2.2	2.8	6.2
愛の手帳(療育手帳) (n=51)	11.8	0.0	5.9	7.8	0.0	2.0	11.8
精神障害者保健福祉手帳 (n=69)	7.2	5.8	4.3	5.8	0.0	2.9	2.9
自立支援医療の受給 (n=76)	3.9	5.3	1.3	3.9	0.0	1.3	3.9
難病医療費など助成の受給 (n=89)	6.7	3.4	1.1	1.1	0.0	2.2	1.1

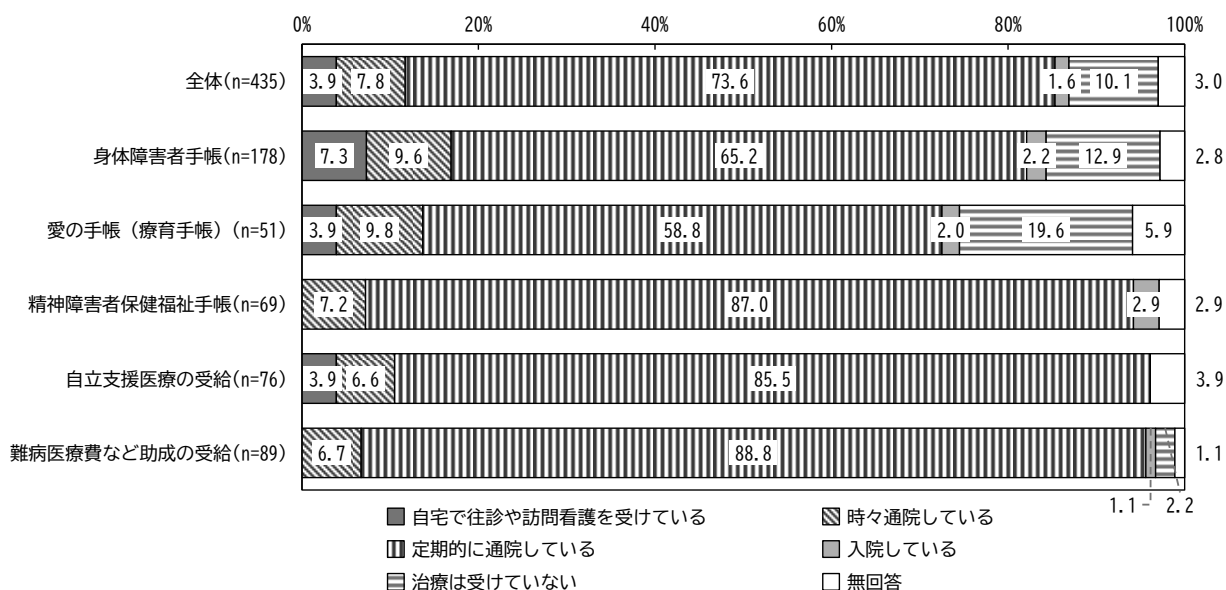


### 3 健康・医療・リハビリテーションについて

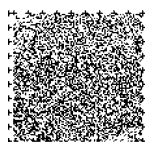
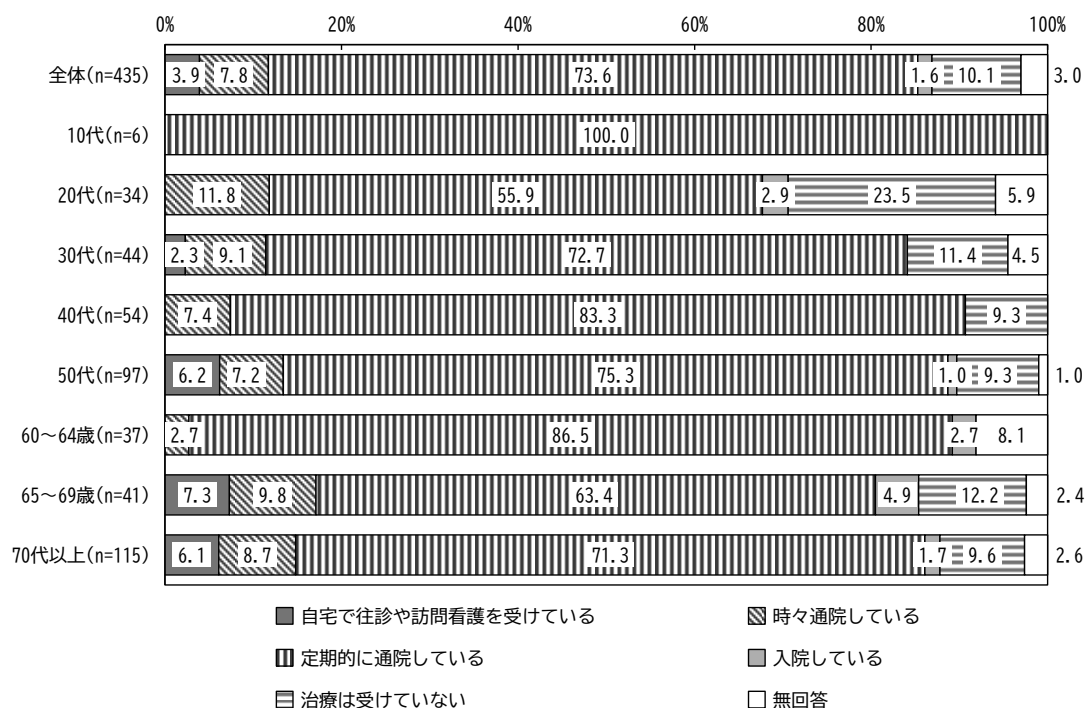
問11 現在、医師の治療を受けていますか。(1つに○)

現在、医師の治療を受けている人(「自宅で往診や訪問介護を受けている」、「時々通院している」、「定期的に通院している」及び「入院している」の合計。以下同じ。)は、全体では86.9%となっています。

障害種別ごとでは、身体障害者手帳所持者で84.3%、愛の手帳(療育手帳)所持者で74.5%、精神障害者保健福祉手帳所持者で97.1%、自立支援医療の受給者で96.0%、難病医療費など助成の受給者で96.6%となっています。



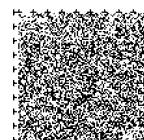
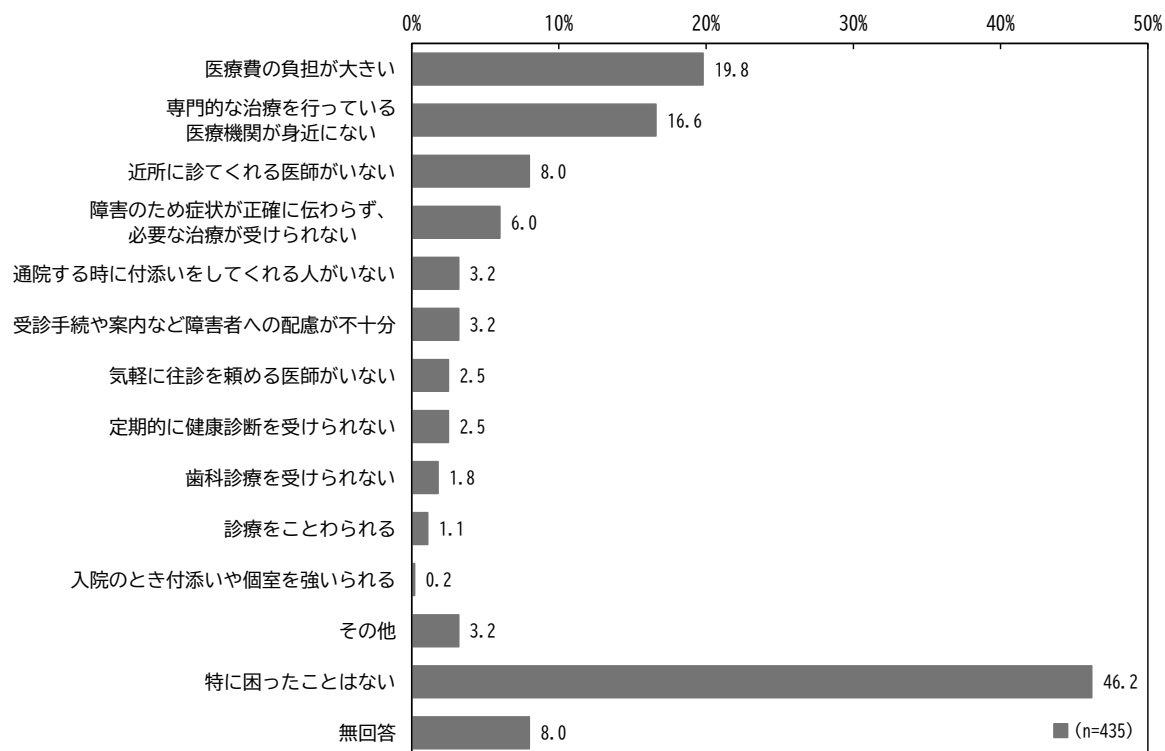
年代別では、現在、医師の治療を受けている人は、10代で100.0%と最も多く、次いで、60～64歳で91.9%、40代で90.7%となっています。



問12 健康管理や医療について困ったり不便に思ったことがありますか。

(あてはまるものすべてに○)

健康管理や医療で困っていることについては、全体では「特に困ったことはない」が46.2%と、最も多く、次いで、「医療費の負担が大きい」が19.8%、「専門的な治療を行っている医療機関が身近にない」が16.6%となっています。



障害種別ごとでは、全ての種別において「特に困ったことはない」が最も多くなっています。

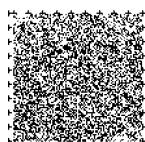
次いで、身体障害者手帳所持者及び愛の手帳（療育手帳）所持者では「専門的な治療を行っている医療機関が身近にない」がそれぞれ18.0%、21.6%、精神障害者保健福祉手帳所持者及び難病医療費など助成の受給者では「医療費の負担が大きい」がそれぞれ24.6%、28.1%、自立支援医療の受給者では「近所に診てくれる医師がいない」が19.7%となっています。

(単位:%)

	医療費の負担が大きい	専門的な治療を行っている医療機関が身近にない	近所に診てくれる医師がいない	障害のため症状が正確に伝わらず、必要な治療が受けられない	通院する時に付添いをしてくれない人がいない	受診手続や案内など障害者への配慮が不十分	気軽に往診を頼める医師がいない	定期的に健康診断を受けられない
全体 (n=435)	19.8	16.6	8.0	6.0	3.2	3.2	2.5	2.5
身体障害者手帳 (n=178)	16.3	18.0	4.5	3.4	3.9	3.9	1.1	2.2
愛の手帳（療育手帳）(n=51)	15.7	21.6	7.8	19.6	3.9	9.8	3.9	5.9
精神障害者保健福祉手帳 (n=69)	24.6	14.5	20.3	11.6	5.8	4.3	2.9	4.3
自立支援医療の受給 (n=76)	13.2	13.2	19.7	3.9	3.9	3.9	5.3	5.3
難病医療費など助成の受給 (n=89)	28.1	21.3	4.5	3.4	2.2	0.0	4.5	0.0

(単位:%)

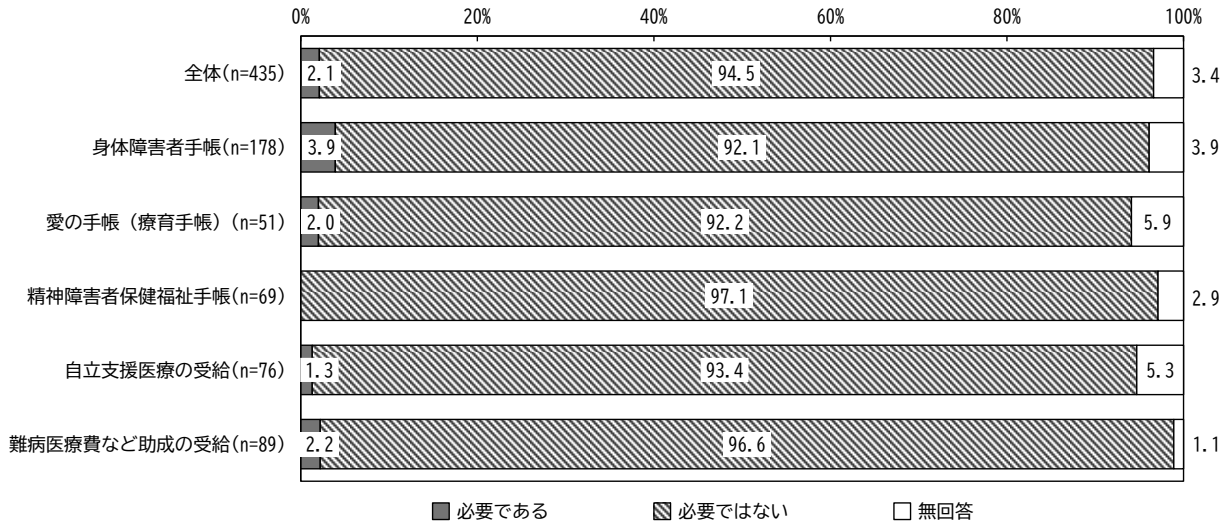
	歯科診療を受けられない	診療をことわられる	入院のとき付添いや個室を強いられる	その他	特に困ったことはない	無回答
全体 (n=435)	1.8	1.1	0.2	3.2	46.2	8.0
身体障害者手帳 (n=178)	2.2	1.1	0.0	1.1	48.9	9.6
愛の手帳（療育手帳）(n=51)	0.0	2.0	2.0	3.9	39.2	9.8
精神障害者保健福祉手帳 (n=69)	1.4	0.0	1.4	4.3	39.1	4.3
自立支援医療の受給 (n=76)	2.6	0.0	0.0	7.9	52.6	5.3
難病医療費など助成の受給 (n=89)	2.2	2.2	0.0	3.4	42.7	3.4



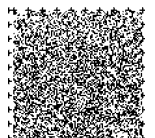
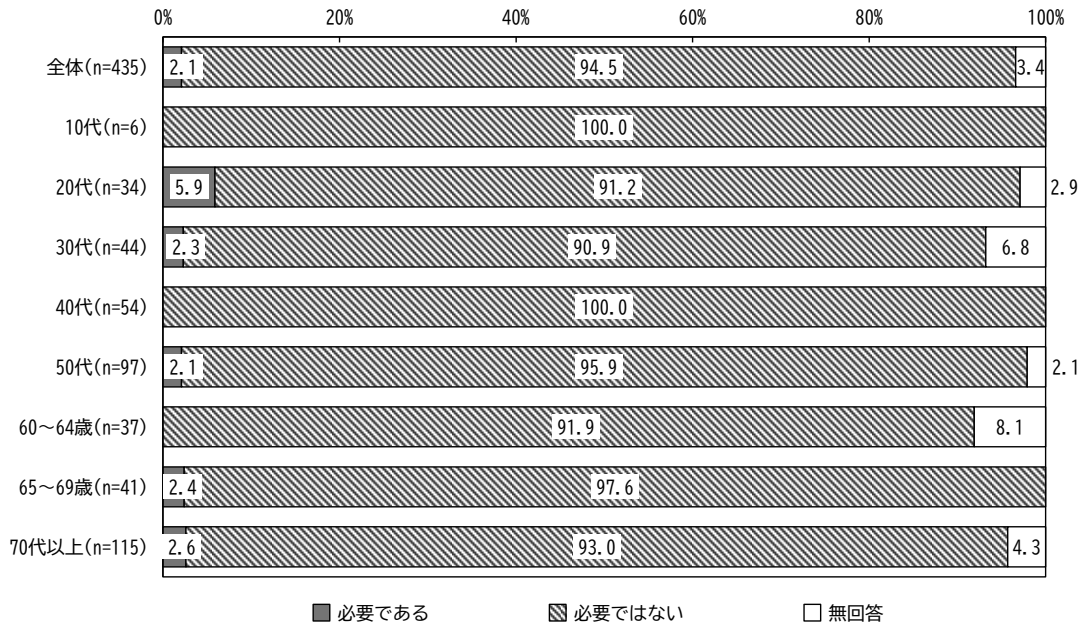
問13 あなたは、普段の生活で経管栄養、気管切開、人工呼吸器などの医療的ケアが必要ですか。  
(1つに○)

普段の生活で医療的ケアが「必要である」と回答した人は、全体では2.1%となっています。

障害種別ごとでは、身体障害者手帳所持者が3.9%、愛の手帳（療育手帳）所持者が2.0%、精神障害者保健福祉手帳所持者が0%、自立支援医療の受給者が1.3%、難病医療費など助成の受給者が2.2%となっています。



年代別では、普段の生活で医療的ケアが「必要である」と回答した人は、20代で5.9%と最も多く、次いで、70代以上で2.6%、65～69歳で2.4%となっています。

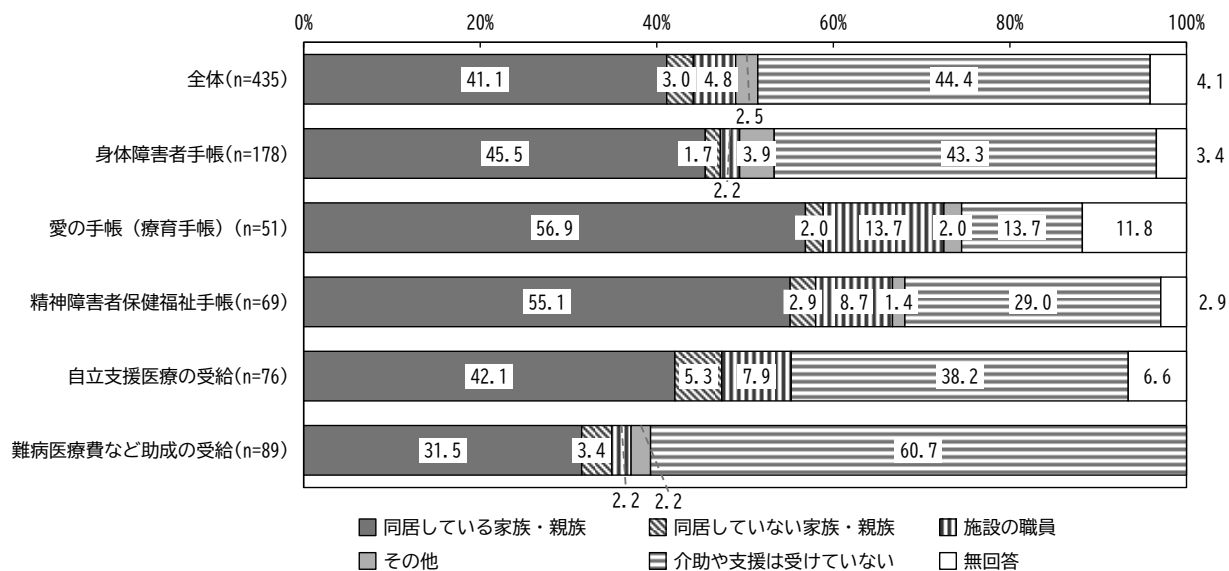


## 4 日常生活の状況について

問14 普段、あなたを主に介助・支援しているのはどなたですか。（1つに○）

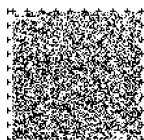
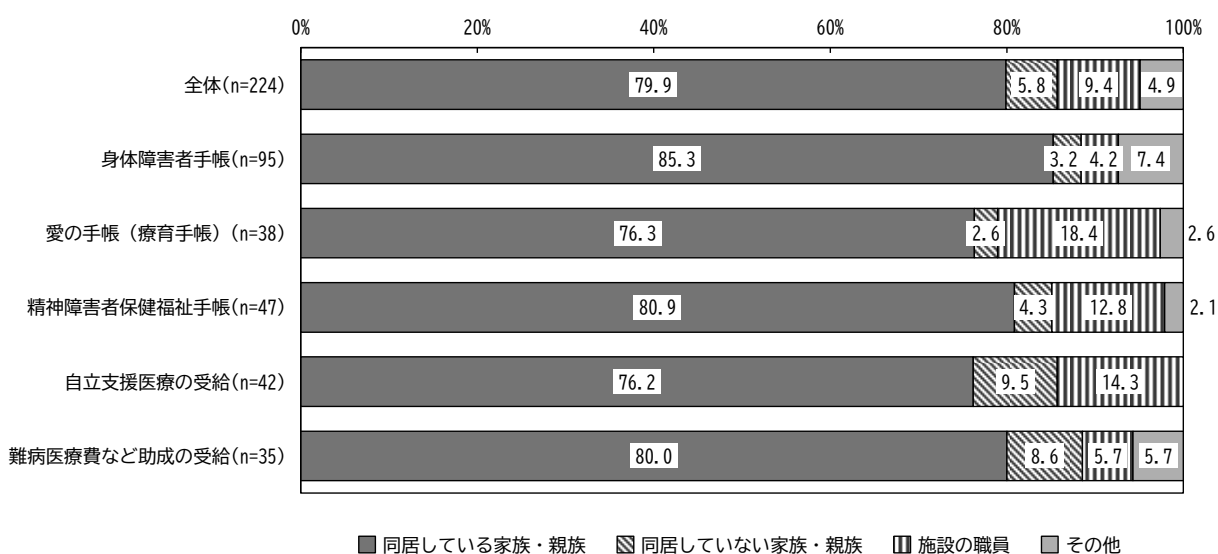
介助者（支援者）がいる人（「同居している家族・親族」、「同居していない家族・親族」、「施設の職員」及び「その他」の合計。）は、全体では51.4%となっています。

障害種別ごとでは、愛の手帳（療育手帳）所持者で74.6%と障害種別の中で最も多く、精神障害者保健福祉手帳所持者で68.1%、自立支援医療の受給者で55.3%、身体障害者手帳所持者で53.3%、難病医療費など助成の受給者で39.3%となっています。



### ■介助者（支援者）の内訳（問14）

回答者を介助（支援）している人は、障害種別に関係なく「同居している家族・親族」が最も多く、身体障害者手帳所持者では85.3%と障害種別の中で最も多くなっています。



問14で「1」～「4」と答えた方におうかがいします。

問15 その方の年齢について教えてください。(1つに○)

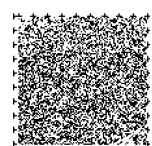
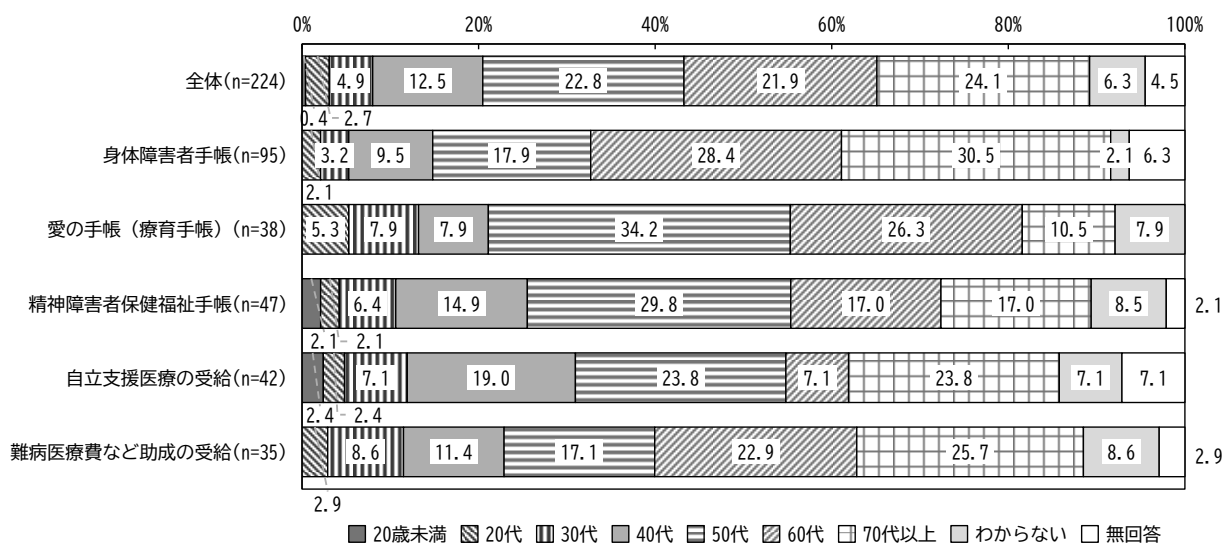
介助者(支援者)の年齢は、全体では70代以上が24.1%と最も多く、次いで、50代が22.8%となっています。

障害種別ごとでは、身体障害者手帳所持者、自立支援医療の受給者及び難病医療費など助成の受給者では、「70代以上」が最も多く、それぞれ30.5%、23.8%、25.7%となっています。次いで、身体障害者手帳所持者及び難病医療費など助成の受給者では「60代」、自立支援医療の受給者では「40代」が多くなっています。

なお、自立支援医療の受給者では「50代」が「70代以上」と同じ割合となっています。

愛の手帳(療育手帳)所持者及び精神障害者保健福祉手帳所持者では「50代」が最も多く、それぞれ34.2%、29.8%となっています。

次いで、愛の手帳(療育手帳)所持者では「60代」、精神障害者保健福祉手帳所持者では「60代」及び「70代以上」が多くなっています。

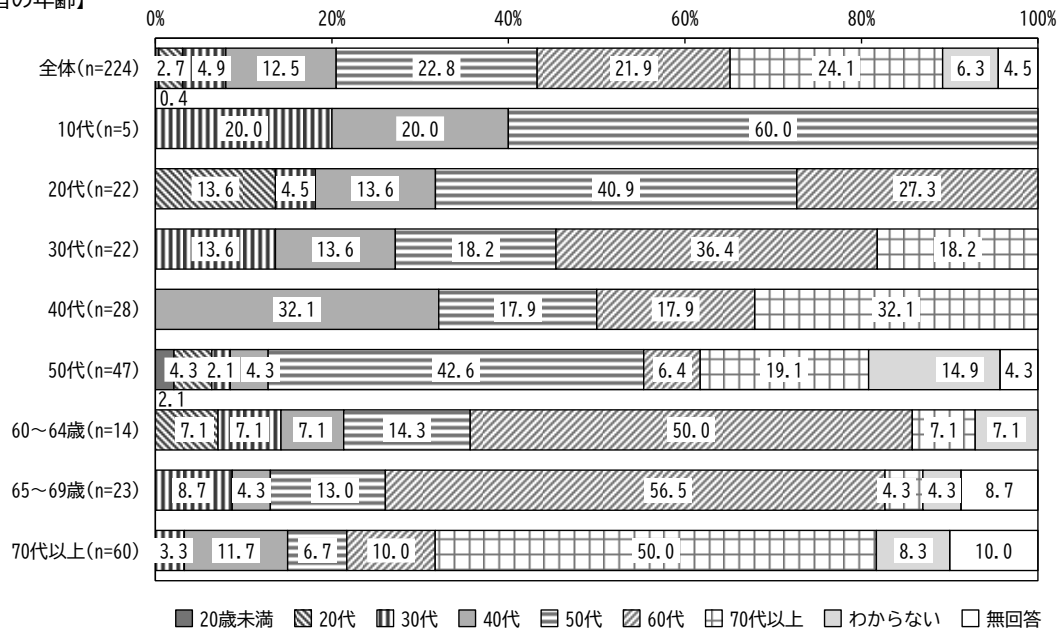


■障害者の年齢（問2）×介助者（支援者）の年齢（問15）

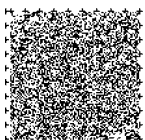
障害者の年齢が「10代」、「20代」及び「50代」では、介助者（支援者）の年齢は「50代」が最も多く、障害者の年齢が「30代」、「60～64歳」及び「65～69歳」では、介助者（支援者）の年齢は「60代」が最も多く、障害者の年齢が「40代」及び「70代以上」では、介助者（支援者）の年齢は「70代以上」が最も多くなっています。

なお、障害者の年齢が「50代」では、「70代以上」の介助者（支援者）が19.1%となっています。

【障害者の年齢】



【介助者（支援者）の年齢】

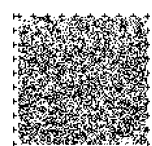
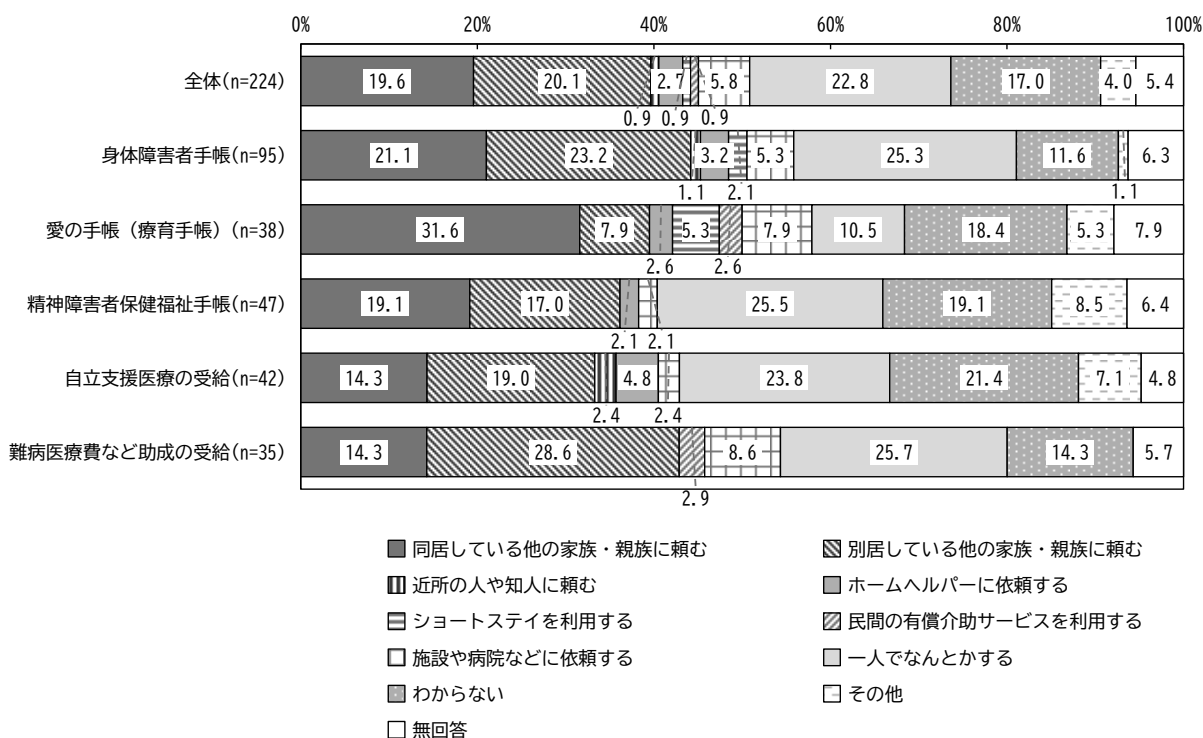


問16 主な介助者（支援者）が介助（支援）できないときはどうしますか。（1つに○）

介助者（支援者）が介助（支援）できないときは、全体では「一人でなんとかする」が22.8%と最も多く、次いで、「別居している他の家族・親族に頼む」が20.1%となっています。

障害種別ごとでは、愛の手帳（療育手帳）所持者及び難病医療費など助成の受給者以外では「一人でなんとかする」が最も多くなっています。

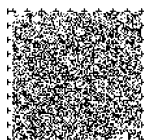
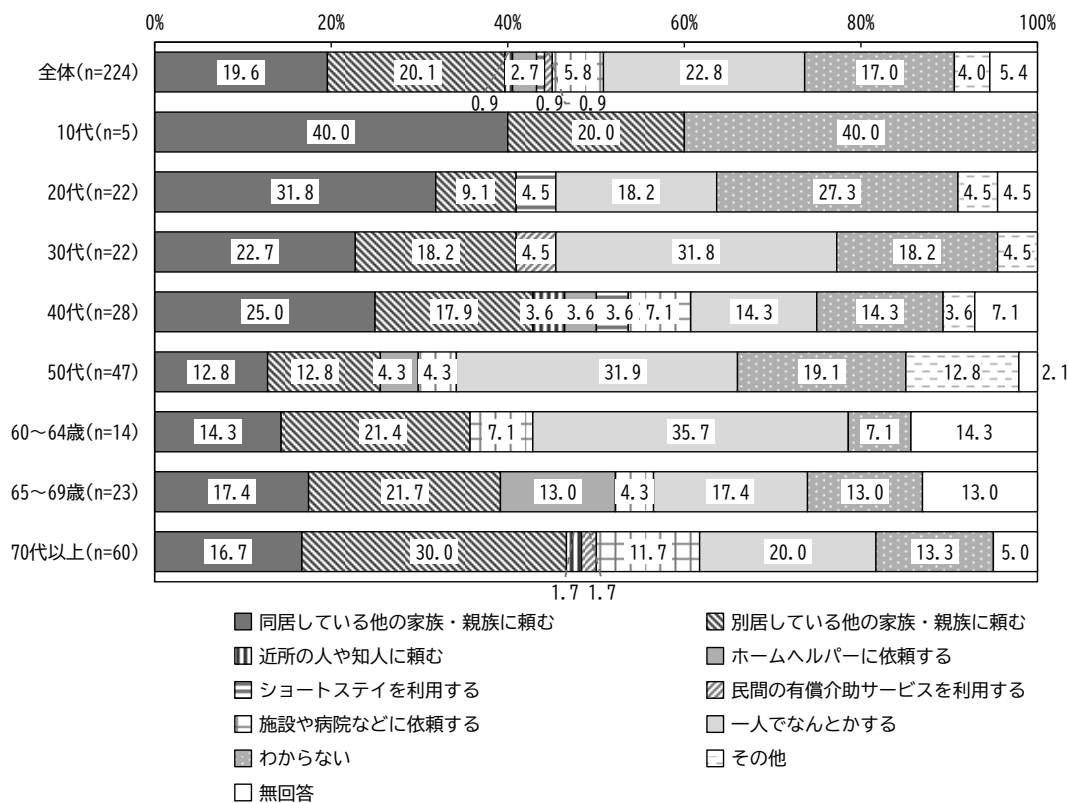
愛の手帳（療育手帳）所持者では「同居している他の家族・親族に頼む」が31.6%と最も多くなっています。



年代別で最も多い回答は、10代、20代、40代では「同居している他の家族・親族に頼む」、65～69歳及び70代以上では「別居している他の家族・親族に頼む」となっています。

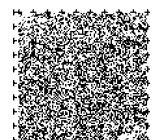
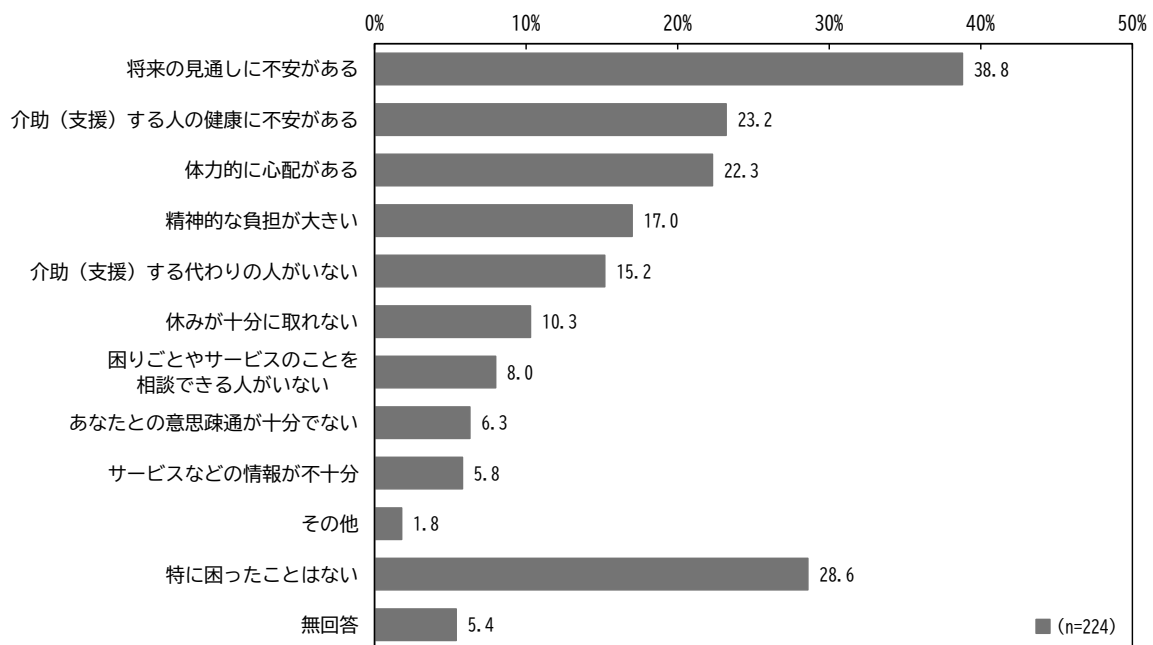
なお、10代では、「同居している他の家族・親族に頼む」が「わからない」と同じ割合となっています。

また、30代、50代及び60～64歳では「一人でなんとかする」が最も多くなっています。



問17 あなたを介助（支援）している人が、あなたを介助（支援）する上で、何か困っていることはありますか。わかる範囲でお答えください。（あてはまるものすべてに○）

介助者（支援者）が困っていることについては、全体では「将来の見通しに不安がある」が38.8%と最も多く、次いで、「介助（支援）する人の健康に不安がある」が23.2%、「体力的に心配がある」が22.3%となっています。



障害種別ごとでは、全ての種別で「将来の見通しに不安がある」が最も多くなっています。

次いで、身体障害者手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者、自立支援医療の受給者及び難病医療費など助成の受給者では「特に困ったことはない」がそれぞれ26.3%、25.5%、31.0%、31.4%、愛の手帳（療育手帳）所持者では「介助（支援）する人の健康に不安がある」が34.2%となっています。

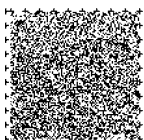
なお、身体障害者手帳所持者では、「特に困ったことはない」が「体力的に心配がある」と同じ割合となっています。

(単位:%)

	将来の見通しに不安がある	介助（支援）する人の健康に不安がある	体力的に心配がある	精神的な負担が大きい	介助（支援）する代わりに人がいない	休みが十分に取れない	困りごとやサービスのことを相談できる人がいない
全体 (n=224)	38.8	23.2	22.3	17.0	15.2	10.3	8.0
身体障害者手帳 (n=95)	37.9	25.3	26.3	16.8	16.8	14.7	4.2
愛の手帳（療育手帳） (n=38)	60.5	34.2	26.3	18.4	18.4	10.5	13.2
精神障害者保健福祉手帳 (n=47)	44.7	19.1	21.3	21.3	14.9	6.4	14.9
自立支援医療の受給 (n=42)	42.9	21.4	19.0	23.8	14.3	4.8	9.5
難病医療費など助成の受給 (n=35)	34.3	22.9	17.1	11.4	11.4	14.3	2.9

(単位:%)

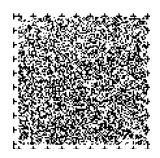
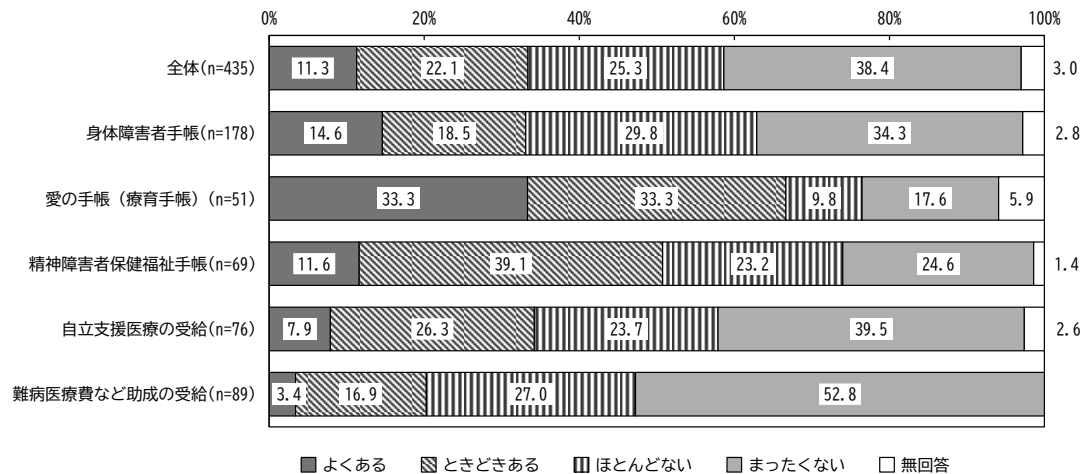
	あなたとの意思疎通が十分でない	サービスなどの情報が不十分	その他	特に困ったことはない	無回答
全体 (n=224)	6.3	5.8	1.8	28.6	5.4
身体障害者手帳 (n=95)	5.3	4.2	0.0	26.3	7.4
愛の手帳（療育手帳） (n=38)	15.8	10.5	5.3	21.1	5.3
精神障害者保健福祉手帳 (n=47)	6.4	10.6	4.3	25.5	4.3
自立支援医療の受給 (n=42)	4.8	4.8	2.4	31.0	0.0
難病医療費など助成の受給 (n=35)	2.9	5.7	0.0	31.4	2.9



問18 あなたは日常生活の中で、他の人との意思疎通（話す、聞く、読む、書く、コミュニケーション機器の利用など）に困ることはありますか。（1つに○）

日常生活での意思疎通で困っている人（「よくある」及び「ときどきある」の合計。以下、同じ。）は、33.4%となっています。

障害種別ごとでは、身体障害者手帳所持者で33.1%、愛の手帳（療育手帳）所持者で66.6%、精神障害者保健福祉手帳所持者で50.7%、自立支援医療の受給者で34.2%、難病医療費など助成の受給者で20.3%となっています。

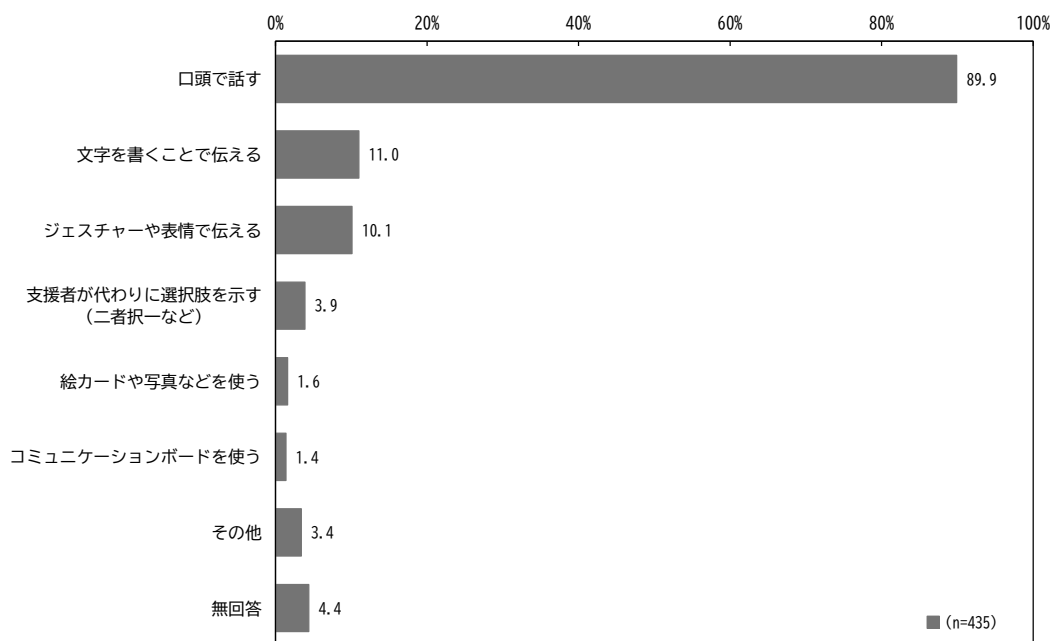


問19 あなたは、日常生活において自分の意思を伝えるためにどのような方法を使っていますか。  
(あてはまるものすべてに○)

自分の意思を伝える方法については、全体では「口頭で話す」が89.9%と最も多く、次いで、「文字を書くことで伝える」が11.0%、「ジェスチャーや表情で伝える」が10.1%となっています。

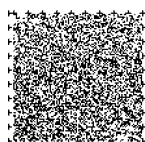
障害種別ごとでは、全ての種別で「口頭で話す」が最も多くなっています。

次いで、精神障害者保健福祉手帳所持者、自立支援医療の受給者及び難病医療費など助成の受給者では「文字を書くことで伝える」がそれぞれ13.0%、21.1%、7.9%、身体障害者手帳所持者では「ジェスチャーや表情で伝える」が10.1%、愛の手帳（療育手帳）所持者では「支援者が代わりに選択肢を示す（二者択一など）」が21.6%となっています。



(単位:%)

	口頭で話す	文字を書くことで伝える	ジェスチャーや表情で伝える	支援者が代わりに選択肢を示す (二者択一など)	絵カードや写真などを使う	コミュニケーションボードを使う	その他	無回答
全体 (n=435)	89.9	11.0	10.1	3.9	1.6	1.4	3.4	4.4
身体障害者手帳 (n=178)	85.4	7.3	10.1	3.4	0.6	1.1	5.1	5.1
愛の手帳 (療育手帳) (n=51)	78.4	15.7	13.7	21.6	5.9	7.8	5.9	7.8
精神障害者保健福祉手帳 (n=69)	91.3	13.0	11.6	4.3	2.9	1.4	2.9	2.9
自立支援医療の受給 (n=76)	96.1	21.1	17.1	3.9	2.6	0.0	2.6	2.6
難病医療費など助成の受給 (n=89)	96.6	7.9	5.6	2.2	1.1	0.0	1.1	3.4



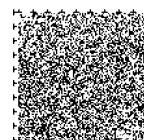
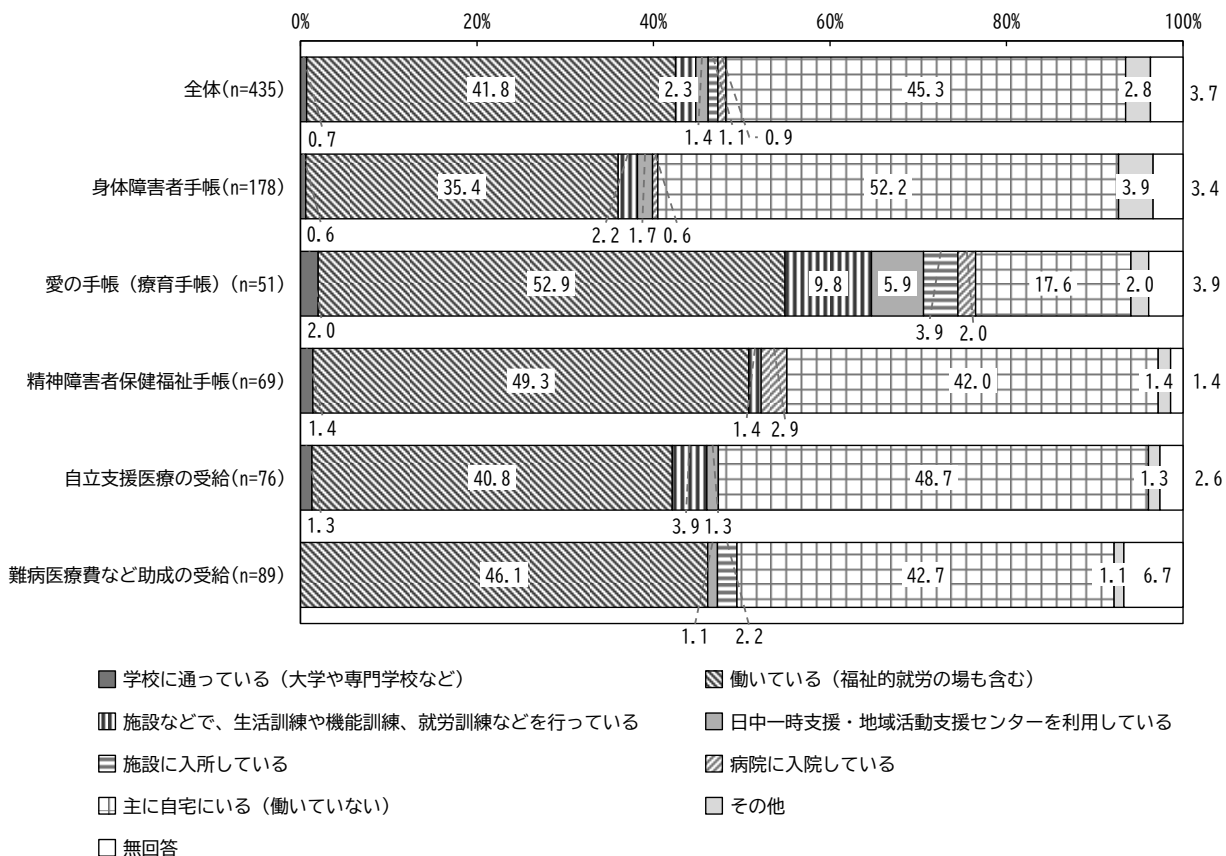
## 5 日中の過ごし方について

問20 あなたは、平日の昼間は、主にどこで（何をして）過ごしていますか。（1つに○）

平日の昼間の過ごし方については、全体では「主に自宅にいる（働いていない）」が45.3%と最も多く、次いで、「働いている（福祉的就労の場も含む）」が41.8%となっています。

障害種別ごとでは、愛の手帳（療育手帳）所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者及び難病医療費など助成の受給者では「働いている（福祉的就労の場も含む）」が最も多く、それぞれ52.9%、49.3%、46.1%、身体障害者手帳所持者及び自立支援医療の受給者では「主に自宅にいる（働いていない）」が最も多く、それぞれ52.2%、48.7%となっています。

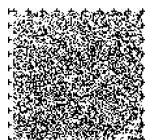
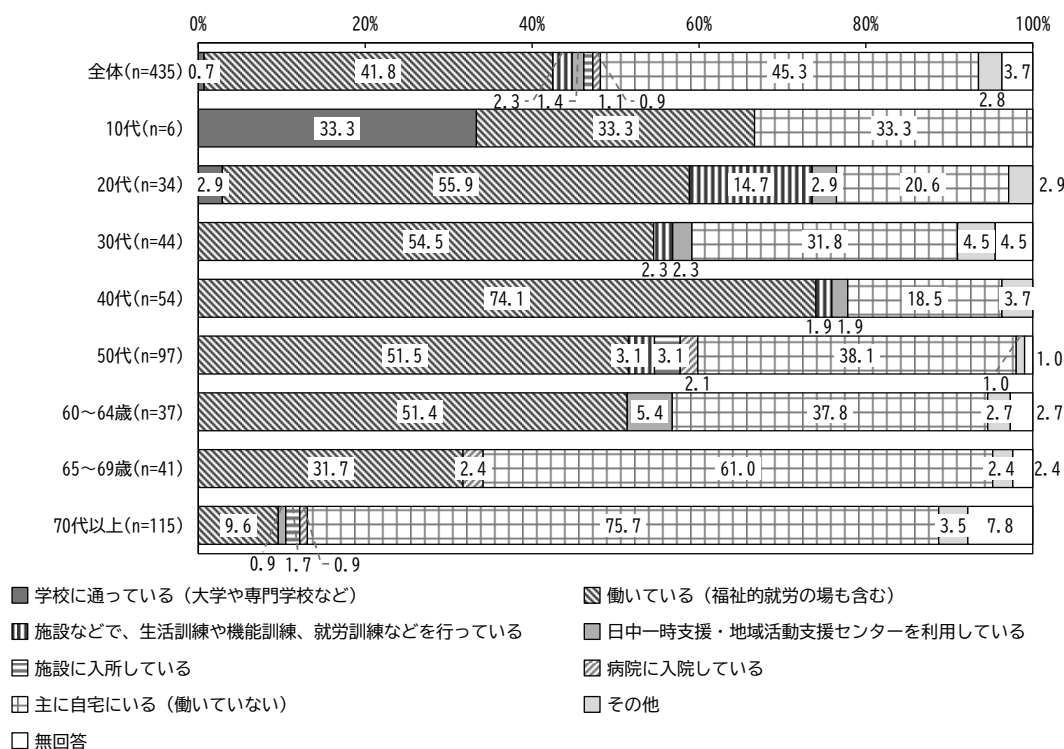
次いで、身体障害者手帳所持者及び自立支援医療の受給者では「働いている（福祉的就労の場も含む）」がそれぞれ35.4%、40.8%、愛の手帳（療育手帳）所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者及び難病医療費など助成の受給者では「主に自宅にいる（働いていない）」がそれぞれ17.6%、42.0%、42.7%となっています。



年代別では、10代、20代、30代、40代、50代及び60～64歳では「働いている（福祉的就労の場を含む）」が最も多く、それぞれ33.3%、55.9%、54.5%、74.1%、51.5%、51.4%、65～69歳及び70代以上では「主に自宅にいる（働いていない）」が最も多く、それぞれ61.0%、75.7%となっています。

次いで、20代、30代、40代、50代及び60～64歳では「主に自宅にいる（働いていない）」がそれぞれ20.6%、31.8%、18.5%、38.1%、37.8%、65～69歳及び70代以上では「働いている（福祉的就労の場を含む）」がそれぞれ31.7%、9.6%となっています。

なお、10代では「学校に通っている（大学や専門学校など）」、「働いている（福祉的就労の場を含む）」及び「主に自宅にいる（働いていない）」が同じ割合となっています。



問20で「2. 働いている（福祉的就労の場も含む）」と答えた方におうかがいします。

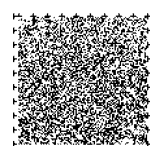
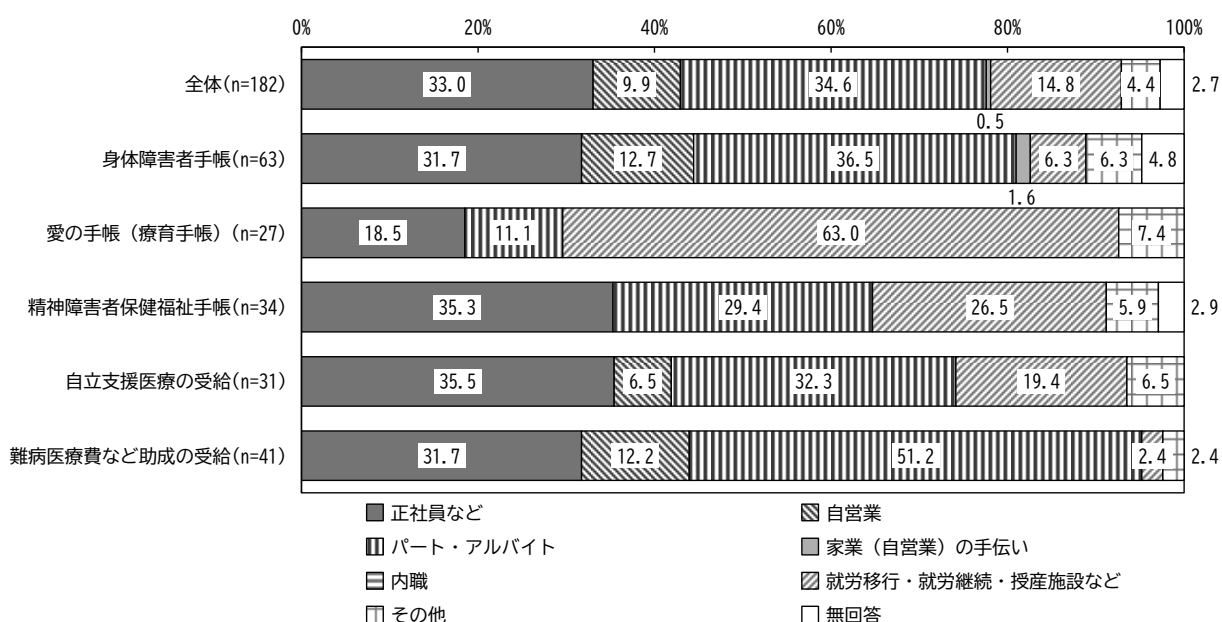
問21 あなたは、どのような働き方をしていますか。（1つに○）

回答者の勤務形態については、全体では「パート・アルバイトなど」が34.6%と最も多く、次いで、「正社員など」が33.0%、「就労移行・就労継続・授産施設など」が14.8%となっています。

障害種別ごとでは、精神障害者保健福祉手帳所持者及び自立支援医療の受給者では「正社員など」が最も多く、それぞれ35.3%、35.5%、身体障害者手帳所持者及び難病医療費など助成の受給者では「パート・アルバイトなど」が最も多く、それぞれ36.5%、51.2%となっています。

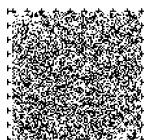
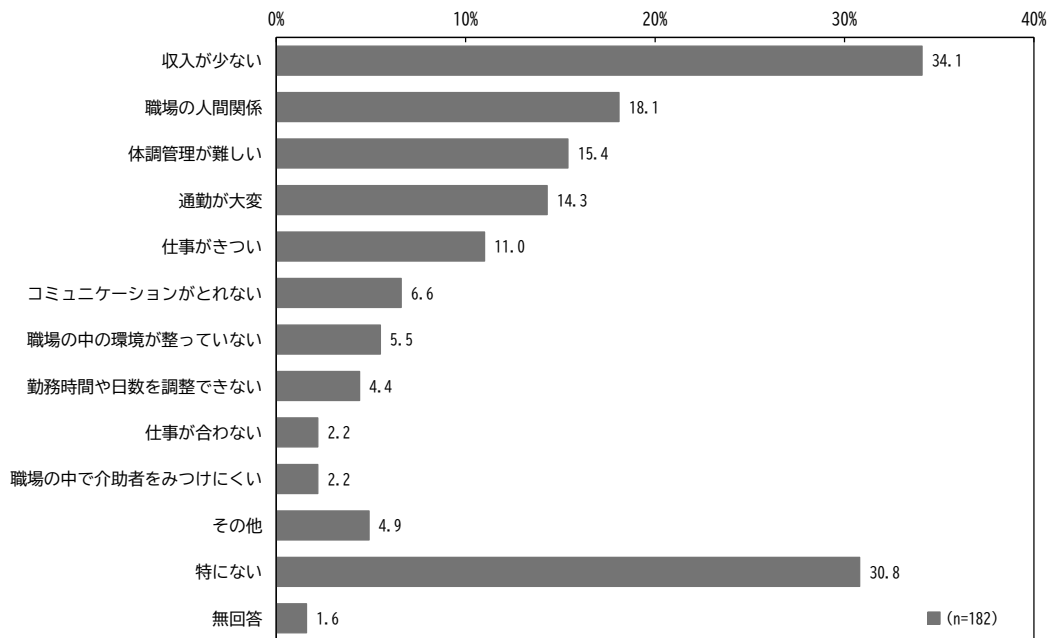
また、愛の手帳（療育手帳）所持者では「就労移行・就労継続・授産施設など」が63.0%と最も多くなっています。

次いで、精神障害者保健福祉手帳所持者及び自立支援医療の受給者では「パート・アルバイトなど」がそれぞれ29.4%、32.3%、身体障害者手帳所持者、愛の手帳（療育手帳）所持者及び難病医療費など助成の受給者では「正社員など」がそれぞれ31.7%、18.5%、31.7%となっています。



問22 仕事をする上で困ったり、つらいことは主にどのようなことですか。  
(あてはまるものすべてに○)

仕事をする上で困っていることについては、全体では「収入が少ない」が34.1%と最も多く、次いで、「職場の人間関係」が18.1%、「体調管理が難しい」が15.4%となっています。



障害種別ごとでは、身体障害者手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者及び自立支援医療の受給者では「収入が少ない」が最も多く、それぞれ33.3%、50.0%、48.4%、愛の手帳（療育手帳）所持者及び難病医療費など助成の受給者では「特にない」がそれぞれ37.0%、31.7%となっています。

次いで、愛の手帳（療育手帳）所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者及び自立支援医療の受給者では「職場の人間関係」がそれぞれ33.3%、26.5%、25.8%、身体障害者手帳所持者では「特にない」が30.2%、難病医療費など助成の受給者では「収入が少ない」が29.3%となっています。

(単位:%)

	収入が少ない	職場の人間関係	体調管理が難しい	通勤が大変	仕事がかたい	コミュニケーションがとれない	職場の中の環境が整っていない	勤務時間や日数を調整できない
全体 (n=182)	34.1	18.1	15.4	14.3	11.0	6.6	5.5	4.4
身体障害者手帳 (n=63)	33.3	11.1	12.7	20.6	9.5	6.3	3.2	3.2
愛の手帳（療育手帳）(n=27)	22.2	33.3	18.5	14.8	14.8	14.8	7.4	3.7
精神障害者保健福祉手帳 (n=34)	50.0	26.5	14.7	17.6	5.9	5.9	14.7	5.9
自立支援医療の受給 (n=31)	48.4	25.8	12.9	12.9	3.2	9.7	12.9	3.2
難病医療費など助成の受給 (n=41)	29.3	9.8	26.8	7.3	17.1	0.0	2.4	4.9

(単位:%)

	仕事が含まれない	職場の中で介助者をつつけにくい	その他	特にない	無回答
全体 (n=182)	2.2	2.2	4.9	30.8	1.6
身体障害者手帳 (n=63)	1.6	0.0	4.8	30.2	3.2
愛の手帳（療育手帳）(n=27)	0.0	7.4	0.0	37.0	3.7
精神障害者保健福祉手帳 (n=34)	5.9	5.9	5.9	23.5	0.0
自立支援医療の受給 (n=31)	3.2	9.7	6.5	22.6	0.0
難病医療費など助成の受給 (n=41)	2.4	0.0	4.9	31.7	0.0



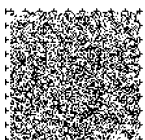
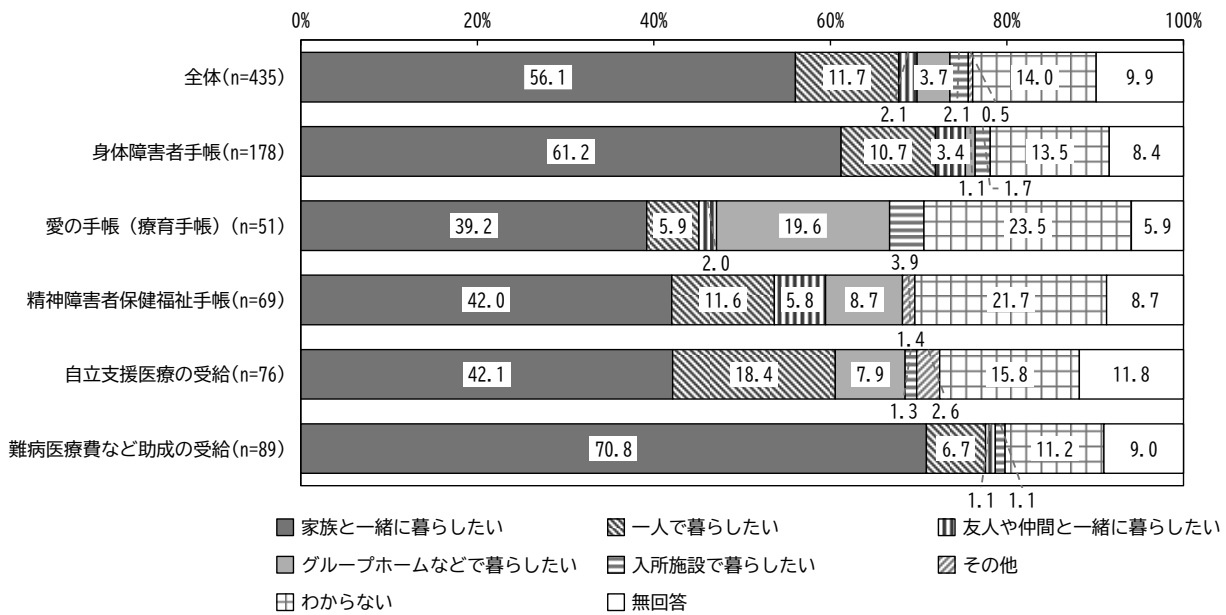
## 6 将来の過ごし方について

問23 あなたは、将来（おおよそ5年後）どのように暮らしたいですか。（1つに○）

将来の暮らし方については、障害種別に関係なく「家族と一緒に暮らしたい」が最も多く、全体では56.1%となっています。

障害種別ごとでは、難病医療費など助成の受給者では70.8%となっていますが、愛の手帳（療育手帳）所持者では39.2%、精神障害者保健福祉手帳所持者では42.0%と少なくなっています。

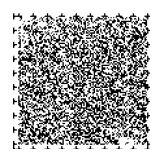
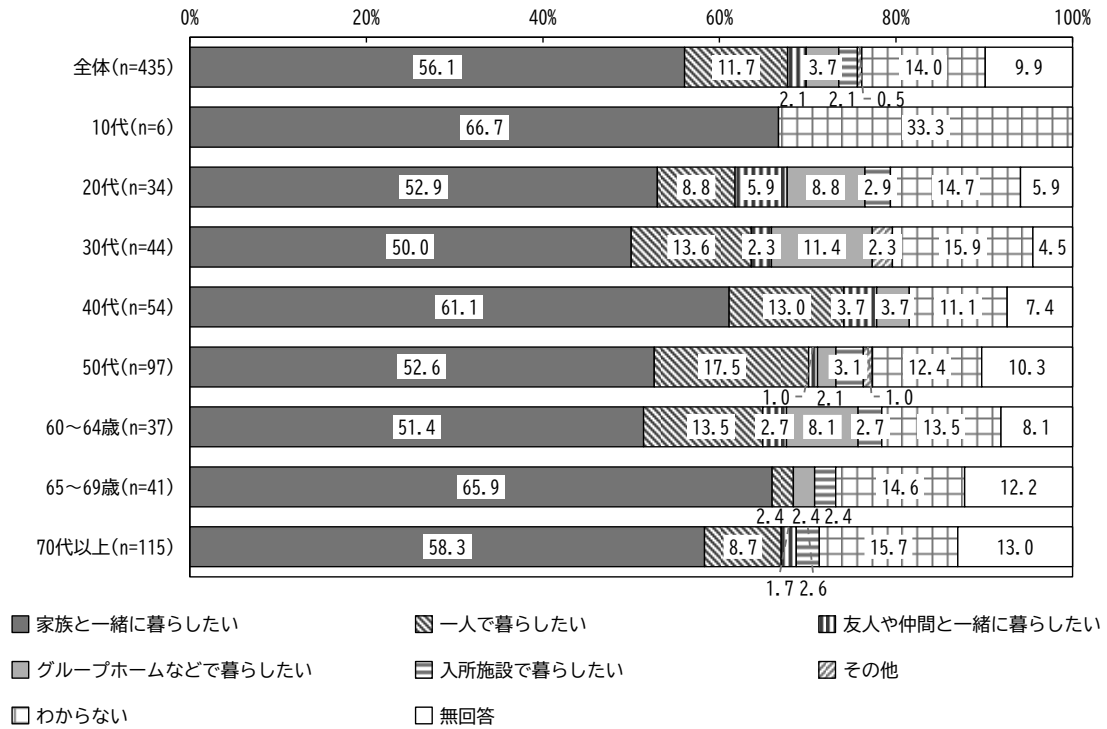
次いで、自立支援医療の受給者では「一人で暮らしたい」が18.4%、それ以外の障害種別では「わからない」が多く、特に愛の手帳（療育手帳）所持者では23.5%、精神障害者保健福祉手帳所持者では21.7%となっています。



年代別では、全ての年代で「家族と一緒に暮らしたい」が最も多く、特に10代では66.7%、65～69歳では65.9%となっています。

次いで、40代、50代及び60～64歳では「一人で暮らしたい」がそれぞれ13.0%、17.5%、13.5%、10代、20代、30代、65～69歳及び70代以上では「わからない」がそれぞれ33.3%、14.7%、15.9%、14.6%、15.7%、となっています。

なお、60～64歳では、「一人で暮らしたい」が「わからない」と同じ割合となっています。

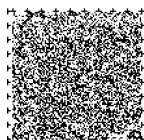
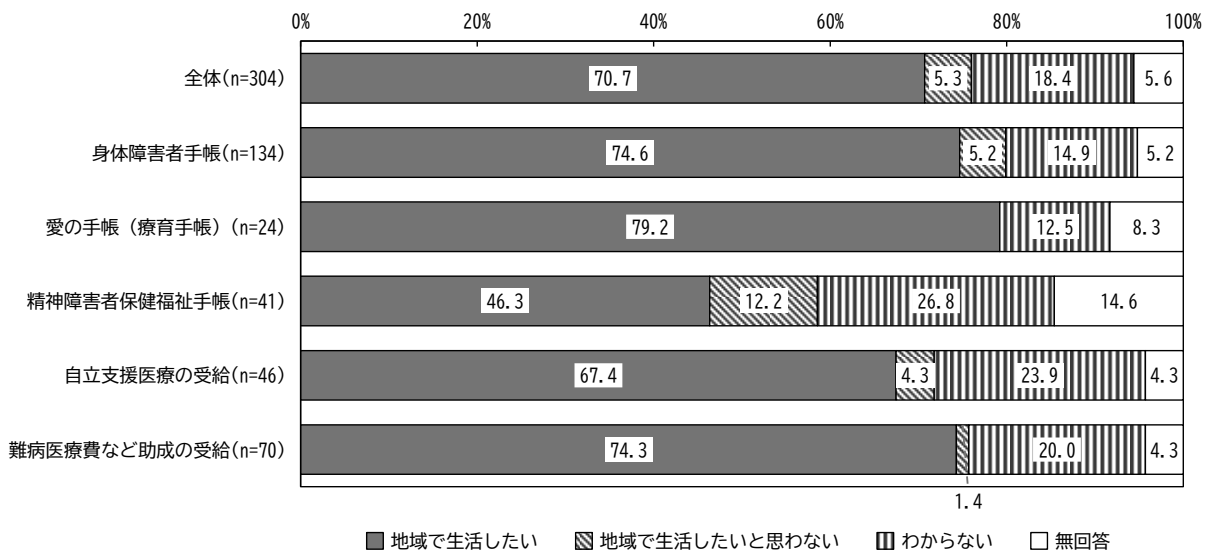


問23で「1」～「3」と答えた方におうかがいします。

問24 あなたは将来、地域（武蔵村山市）で生活したいと思いますか。（1つに○）

将来の生活については、障害種別に関係なく「地域で生活したい」が最も多く、全体では70.7%となっています。

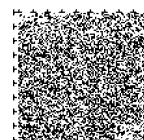
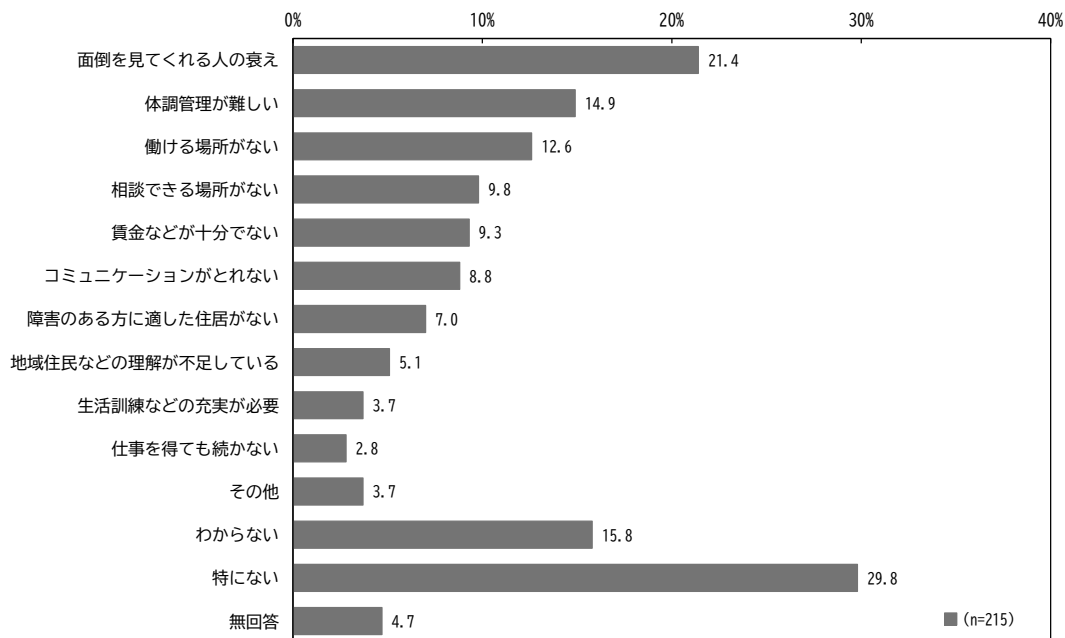
なお、「地域で生活したいと思わない」が5.3%、「わからない」が18.4%となっています。



問24で「1. 地域で生活したい」と答えた方におうかがいします。

問25 地域で生活するためにどのようなことが課題と感じますか。(あてはまるものすべてに○)

地域で生活するにあたっての課題については、全体では「特になし」が29.8%と最も多く、次いで、「面倒を見てくれる人の衰え」が21.4%、「体調管理が難しい」が14.9%、「体調管理が難しい」が14.9%となっています。なお、「わからない」が15.8%となっています。



障害種別ごとでは、身体障害者手帳所持者、自立支援医療の受給者及び難病医療費など助成の受給者では「特にない」が最も多く、それぞれ27.0%、35.5%、38.5%、愛の手帳（療育手帳）所持者及び精神障害者手帳所持者では「面倒を見てくれる人の衰え」がそれぞれ52.6%、31.6%となっています。

また、愛の手帳（療育手帳）所持者では、「面倒を見てくれる人の衰え」と「コミュニケーションがとれない」が同じ割合となっています。

次いで、身体障害者手帳所持者では「面倒を見てくれる人の衰え」が25.0%、愛の手帳（療育手帳）所持者では「働ける場所がない」が31.6%、精神障害者手帳所持者及び自立支援医療の受給者では「体調管理が難しい」がそれぞれ26.3%、22.6%、難病医療費など助成の受給者では「わからない」が19.2%となっています。

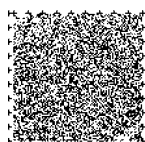
なお、精神障害者手帳所持者では、「体調管理が難しい」、「働ける場所がない」、「障がいのある方に適した住居がない」が同じ割合となっています。

(単位:%)

	面倒を見てくれる人の衰え	体調管理が難しい	働ける場所がない	相談できる場所がない	賃金などが十分でない	コミュニケーションがとれない	障害のある方に適した住居がない	地域住民などの理解が不足している
全体 (n=215)	21.4	14.9	12.6	9.8	9.3	8.8	7.0	5.1
身体障害者手帳 (n=100)	25.0	13.0	8.0	11.0	5.0	4.0	5.0	7.0
愛の手帳（療育手帳） (n=19)	52.6	15.8	31.6	26.3	21.1	52.6	15.8	0.0
精神障害者保健福祉手帳 (n=19)	31.6	26.3	26.3	15.8	21.1	10.5	26.3	15.8
自立支援医療の受給 (n=31)	12.9	22.6	9.7	9.7	6.5	3.2	6.5	9.7
難病医療費など助成の受給 (n=52)	11.5	11.5	15.4	0.0	9.6	3.8	3.8	1.9

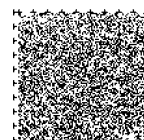
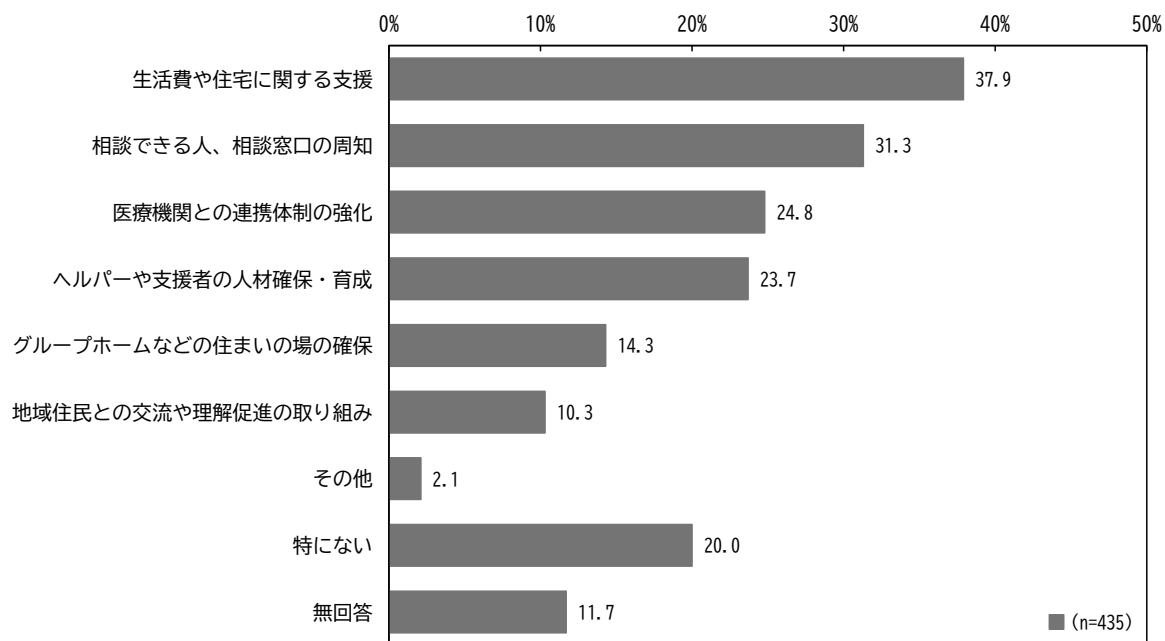
(単位:%)

	生活訓練などの充実が必要	仕事を得ても続かない	その他	わからない	特にない	無回答
全体 (n=184)	3.7	2.8	3.7	15.8	29.8	4.7
身体障害者手帳 (n=91)	5.0	1.0	4.0	15.0	27.0	6.0
愛の手帳（療育手帳） (n=11)	10.5	10.5	10.5	5.3	5.3	0.0
精神障害者保健福祉手帳 (n=32)	10.5	10.5	5.3	10.5	5.3	0.0
自立支援医療の受給 (n=37)	0.0	6.5	6.5	16.1	35.5	3.2
難病医療費など助成の受給 (n=39)	0.0	1.9	1.9	19.2	38.5	7.7



問26 地域生活への移行を進めるために、行政や地域にどのような支援を期待しますか。  
(あてはまるものすべてに○)

行政や地域に期待する支援については、全体では「生活費や住宅に関する支援」が37.9%、「相談できる人、相談窓口の周知」が31.3%、「医療機関との連携体制の強化」が24.8%となっています。



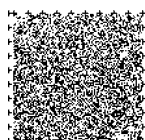
障害種別ごとでは、身体障害者手帳所持者、精神障害者手帳所持者及び難病医療費など助成の受給者では「生活費や住宅に関する支援」が最も多く、それぞれ30.9%、52.2%、51.7%、愛の手帳（療育手帳）所持者及び自立支援医療の受給者では「相談できる人、相談窓口の周知」がそれぞれ41.2%、47.4%となっています。

なお、精神障害者手帳所持者では、「生活費や住宅に関する支援」が「相談できる人、相談窓口の周知」と同じ割合となっています。

次いで、身体障害者手帳所持者では「相談できる人、相談窓口の周知」が26.4%、愛の手帳（療育手帳）所持者では「ヘルパーや支援者の人材確保・育成」が39.2%、精神障害者手帳所持者及び難病医療費など助成の受給者では「医療機関との連携体制の強化」がそれぞれ21.7%、30.3%、自立支援医療の受給者では「生活費や住宅に関する支援」が44.7%となっています。

(単位:%)

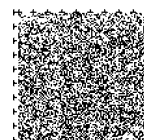
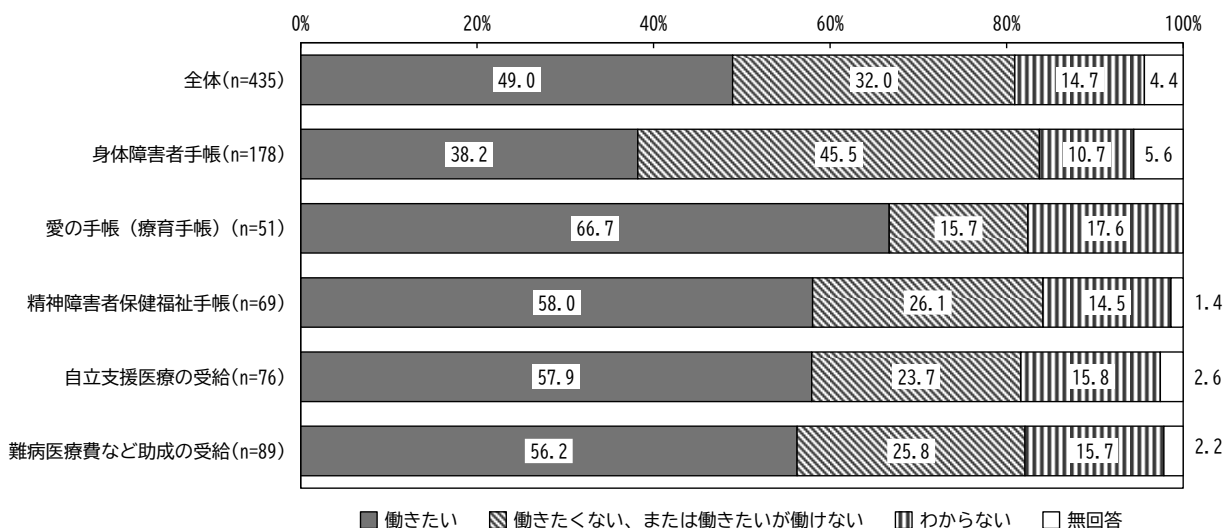
	生活費や住宅に関する支援	相談できる人、相談窓口の周知	医療機関との連携体制の強化	ヘルパーや支援者の人材確保・育成	グループホームなどの住まいの場の確保	地域住民との交流や理解促進の取り組み	その他	特になし	無回答
全体 (n=435)	37.9	31.3	24.8	23.7	14.3	10.3	2.1	20.0	11.7
身体障害者手帳 (n=178)	30.9	26.4	23.0	23.6	11.2	6.2	2.8	20.2	16.3
愛の手帳（療育手帳） (n=51)	23.5	41.2	31.4	39.2	31.4	15.7	3.9	15.7	15.7
精神障害者保健福祉手帳 (n=69)	52.2	52.2	21.7	20.3	14.5	15.9	1.4	13.0	5.8
自立支援医療の受給 (n=76)	44.7	47.4	25.0	25.0	13.2	14.5	0.0	18.4	9.2
難病医療費など助成の受給 (n=89)	51.7	20.2	30.3	20.2	12.4	12.4	1.1	18.0	6.7



問27 あなたは今後（将来）働くことを希望しますか。（1つに○）

今後の就業希望については、全体では「働きたい」が49.0%、「働きたくない、または働きたいが働けない」が32.0%、「わからない」が14.7%となっています。

障害種別ごとでは、身体障害者手帳所持者では「働きたくない、または働きたいが働けない」が「働きたい」を上回っていますが、それ以外の障害種別では「働きたい」が「働きたくない、または働きたいが働けない」を上回っています。



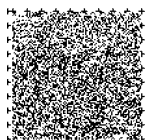
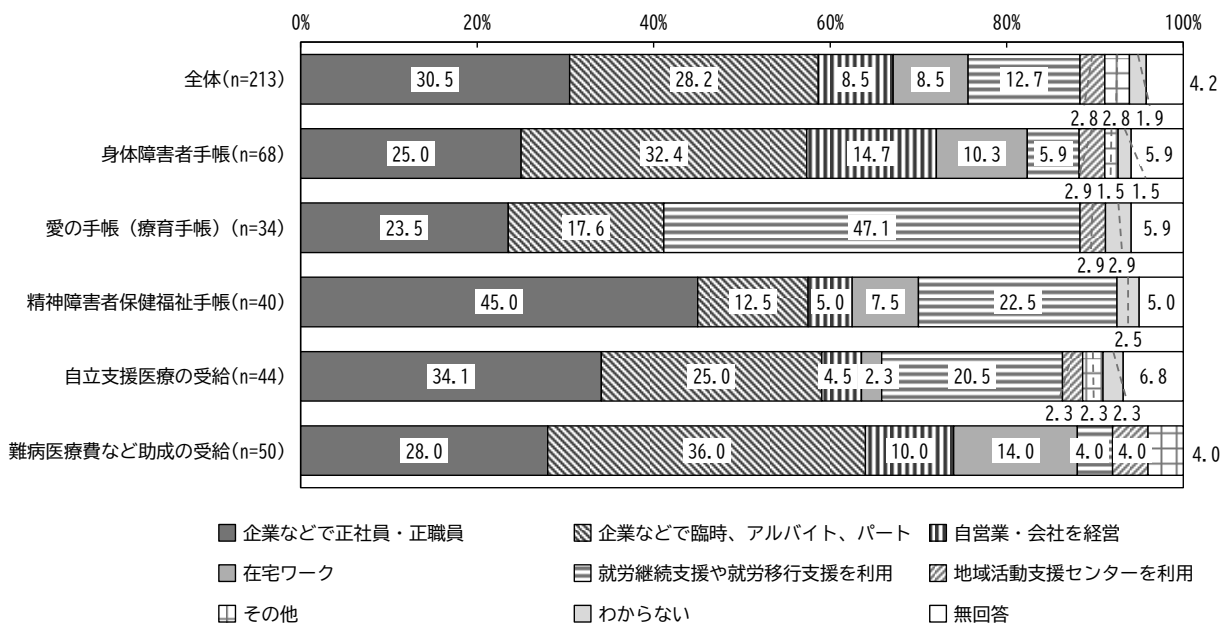
問27で「1. 働きたい」と答えた方におうかがいします。

問28 どのように働きたいですか。(1つに○)

希望する雇用形態については、全体では「企業などで正社員・正職員」が30.5%、次いで、「企業などで臨時、アルバイト、パート」が28.2%、「就労継続支援や就労移行支援を利用」が12.7%となっています。

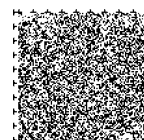
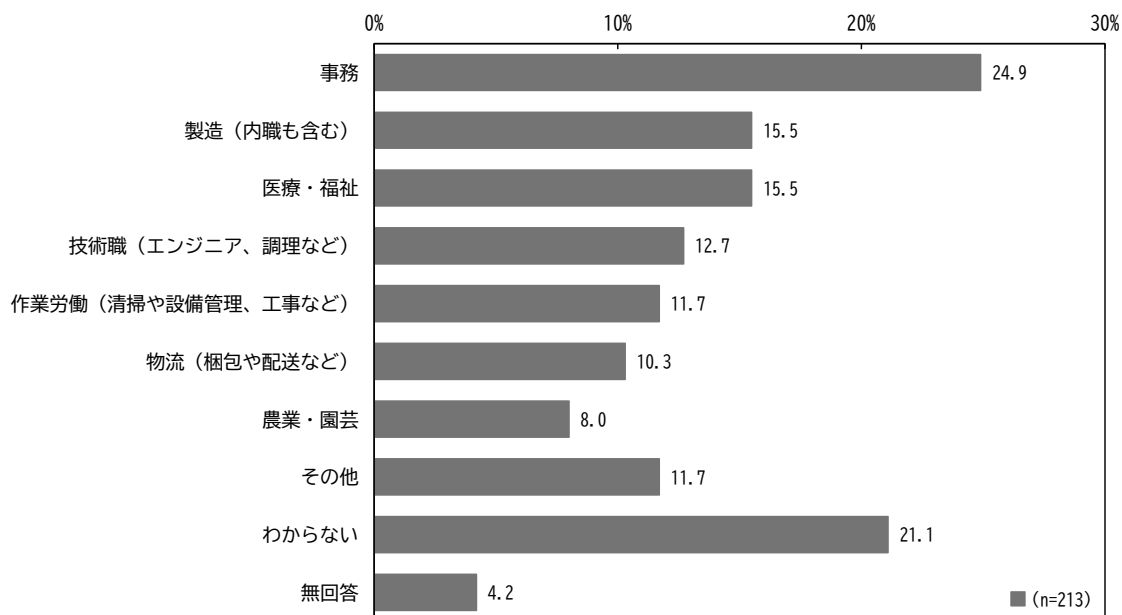
障害種別ごとでは、精神障害者保健福祉手帳所持者及び自立支援医療の受給者では「企業などで正社員・正職員」が最も多く、それぞれ45.0%、34.1%、愛の手帳（療育手帳）所持者では「就労継続支援や就労移行支援を利用」が47.1%、身体障害者手帳所持者及び難病医療費など助成の受給者では「企業などで臨時、アルバイト、パート」がそれぞれ32.4%、36.0%となっています。

次いで、身体障害者手帳所持者、愛の手帳（療育手帳）所持者及び難病医療費など助成の受給者では「企業などで正社員・正職員」がそれぞれ25.0%、23.5%、28.0%、精神障害者保健福祉手帳所持者では「就労継続支援や就労移行支援を利用」が22.5%、自立支援医療の受給者では「企業などで臨時、アルバイト、パート」が25.0%となっています。



問29 あなたが今後（将来）希望する仕事内容は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

希望する仕事内容については、全体では「事務」が24.9%と最も多く、次いで、「わからない」が21.1%となっています。



障害種別ごとでは、身体障害者手帳所持者、愛の手帳（療育手帳）所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者及び自立支援医療の受給者では「わからない」が最も多く、それぞれ19.1%、35.3%、30.0%、22.7%、難病医療費など助成の受給者では「事務」が36.0%となっています。

なお、身体障害者手帳所持者では、「わからない」と「事務」が、自立支援医療の受給者では「わからない」と「製造(内職も含む)」が同じ割合となっています。

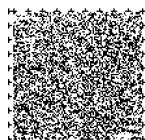
次いで、精神障害者保健福祉手帳所持者及び自立支援医療の受給者では「事務」がそれぞれ27.5%、18.2%、身体障害者手帳所持者では「医療・福祉」及び「技術職（エンジニア、調理など）」がともに13.2%、愛の手帳（療育手帳）所持者では「その他」が26.5%、難病医療費など助成の受給者では「製造(内職も含む)」及び「わからない」がともに22.0%となっています。

(単位:%)

	事務	製造 (内職も含む)	医療・福祉	技術職(エンジニア、 調理など)	作業労働(清掃や設 備管理、工事など)	物流 (梱包や配送な ど)	農業・園芸
全体 (n=213)	24.9	15.5	15.5	12.7	11.7	10.3	8.0
身体障害者手帳 (n=68)	19.1	8.8	13.2	13.2	11.8	11.8	8.8
愛の手帳(療育手帳) (n=34)	20.6	14.7	8.8	2.9	11.8	8.8	5.9
精神障害者保健福祉手帳 (n=40)	27.5	15.0	12.5	15.0	10.0	10.0	5.0
自立支援医療の受給 (n=44)	18.2	22.7	6.8	4.5	15.9	15.9	9.1
難病医療費など助成の受給 (n=50)	36.0	22.0	16.0	12.0	10.0	6.0	6.0

(単位:%)

	その他	わからない	無回答
全体 (n=213)	11.7	21.1	4.2
身体障害者手帳 (n=68)	11.8	19.1	7.4
愛の手帳(療育手帳) (n=34)	26.5	35.3	0.0
精神障害者保健福祉手帳 (n=40)	5.0	30.0	5.0
自立支援医療の受給 (n=44)	9.1	22.7	6.8
難病医療費など助成の受給 (n=50)	4.0	22.0	2.0

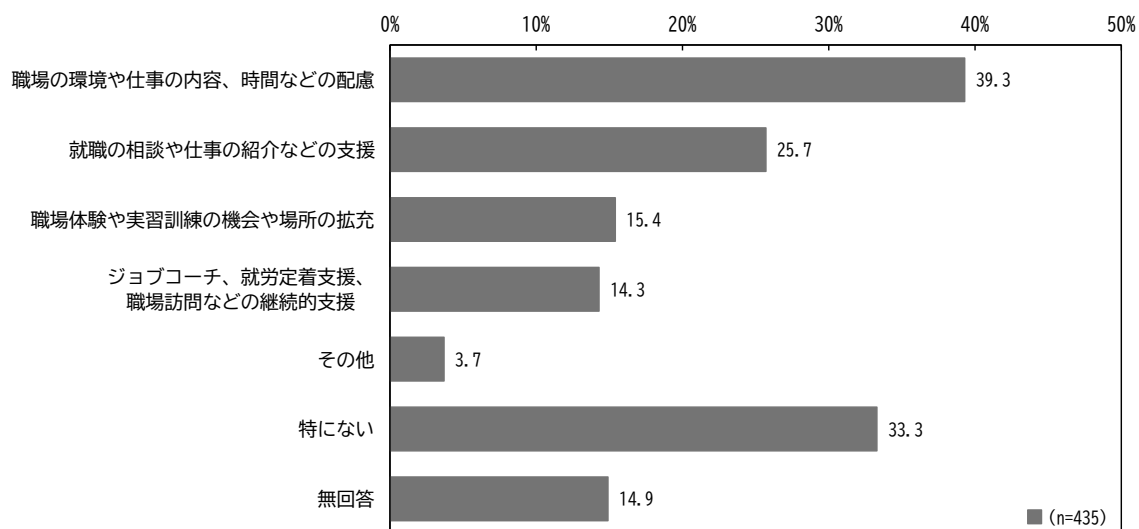


問30 どのような支援があれば企業などでの一般就労に移行できると思いますか。

(あてはまるものすべてに○)

一般就労に移行するために必要な支援については、全体では「職場の環境や仕事の内容、時間などの配慮」が39.3%と最も多く、次いで、「特にない」が33.3%となっています。

障害種別ごとでは、愛の手帳（療育手帳）所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者及び自立支援医療の受給者では「職場の環境や仕事の内容、時間などの配慮」が、それぞれ47.1%、56.5%、57.9%、身体障害者手帳所持者及び難病医療費など助成の受給者では「特にない」がそれぞれ37.1%、39.3%と最も多くなっています。



(単位:%)

	職場の環境や仕事の内容、時間などの配慮	就職の相談や仕事の紹介などの支援	職場体験や実習訓練の機会や場所の拡充	ジョブコーチ、就労定着支援、職場訪問などの継続的支援	その他	特にない	無回答
全体 (n=435)	39.3	25.7	15.4	14.3	3.7	33.3	14.9
身体障害者手帳 (n=178)	34.8	20.2	11.8	7.9	4.5	37.1	18.5
愛の手帳 (療育手帳) (n=51)	47.1	29.4	31.4	31.4	5.9	29.4	5.9
精神障害者保健福祉手帳 (n=69)	56.5	37.7	31.9	29.0	5.8	20.3	8.7
自立支援医療の受給 (n=76)	57.9	39.5	21.1	21.1	1.3	23.7	10.5
難病医療費など助成の受給 (n=89)	34.8	25.8	9.0	9.0	2.2	39.3	10.1

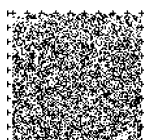
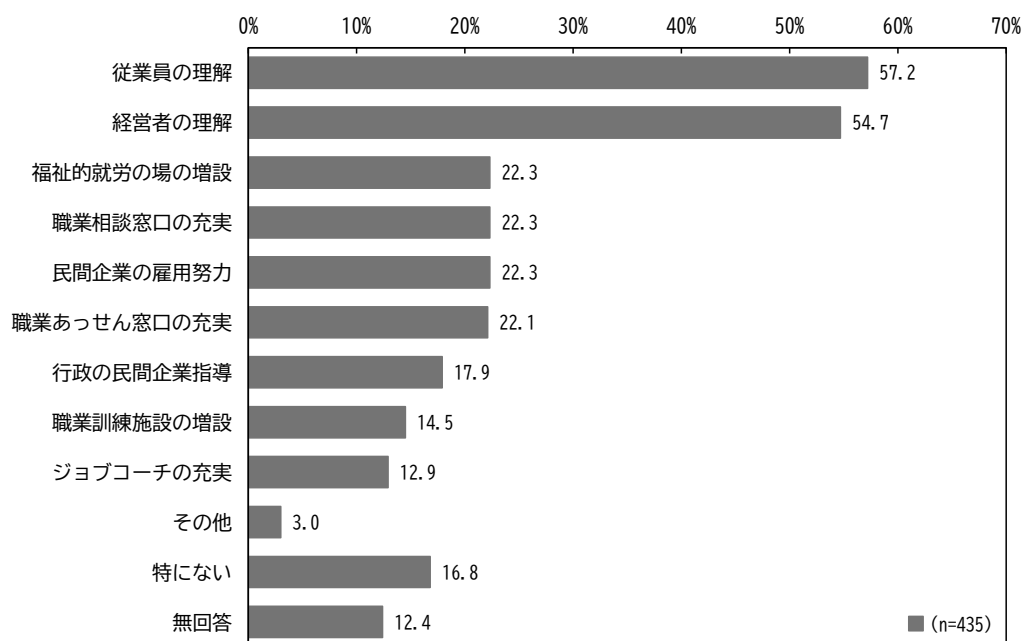


問3 1 障害のある方の就業を促進するために、どのようなことが必要と思いますか。

(あてはまるものすべてに○)

障害のある方の就業に必要なことについては、全体では「従業員の理解」が57.2%と最も多く、次いで、「経営者の理解」が54.7%となっています。

障害種別ごとでは、いずれの障害種別でも「従業員の理解」及び「経営者の理解」が多くなっていますが、愛の手帳（療育手帳）所持者では「福祉的就労の場の増設」が、40%以上となっています。

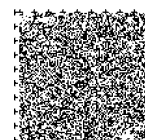


(単位:%)

	従業員の理解	経営者の理解	福祉的就労の場の増設	職業相談窓口の充実	民間企業の雇用努力	職業あつせん窓口の充実	行政の民間企業指導	職業訓練施設の増設
全体 (n=435)	57.2	54.7	22.3	22.3	22.3	22.1	17.9	14.5
身体障害者手帳 (n=178)	48.9	47.2	18.0	18.5	17.4	21.3	19.1	13.5
愛の手帳 (療育手帳) (n=51)	64.7	51.0	45.1	25.5	27.5	21.6	23.5	17.6
精神障害者保健福祉手帳 (n=69)	73.9	69.6	33.3	29.0	31.9	26.1	18.8	23.2
自立支援医療の受給 (n=76)	68.4	60.5	27.6	28.9	26.3	26.3	21.1	19.7
難病医療費など助成の受給 (n=89)	56.2	60.7	15.7	20.2	20.2	20.2	11.2	7.9

(単位:%)

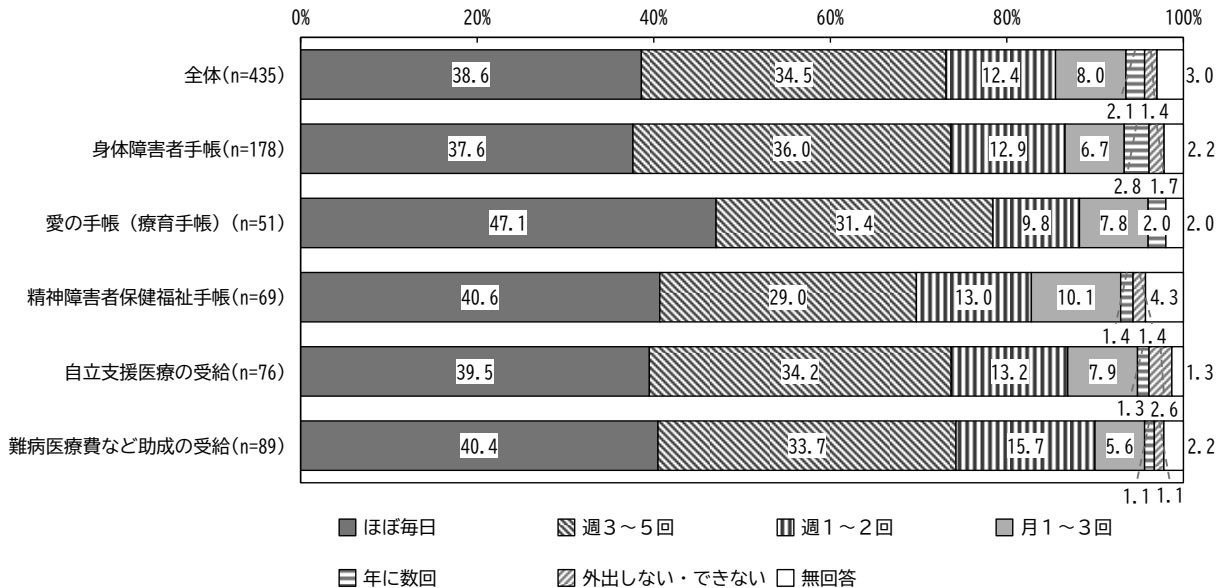
	ジョブコーチの充実	その他	特にない	無回答
全体 (n=435)	12.9	3.0	16.8	12.4
身体障害者手帳 (n=178)	7.3	2.8	20.8	13.5
愛の手帳 (療育手帳) (n=51)	29.4	0.0	13.7	7.8
精神障害者保健福祉手帳 (n=69)	26.1	2.9	10.1	5.8
自立支援医療の受給 (n=76)	17.1	3.9	11.8	5.3
難病医療費など助成の受給 (n=89)	7.9	4.5	14.6	13.5



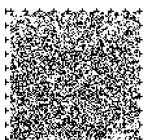
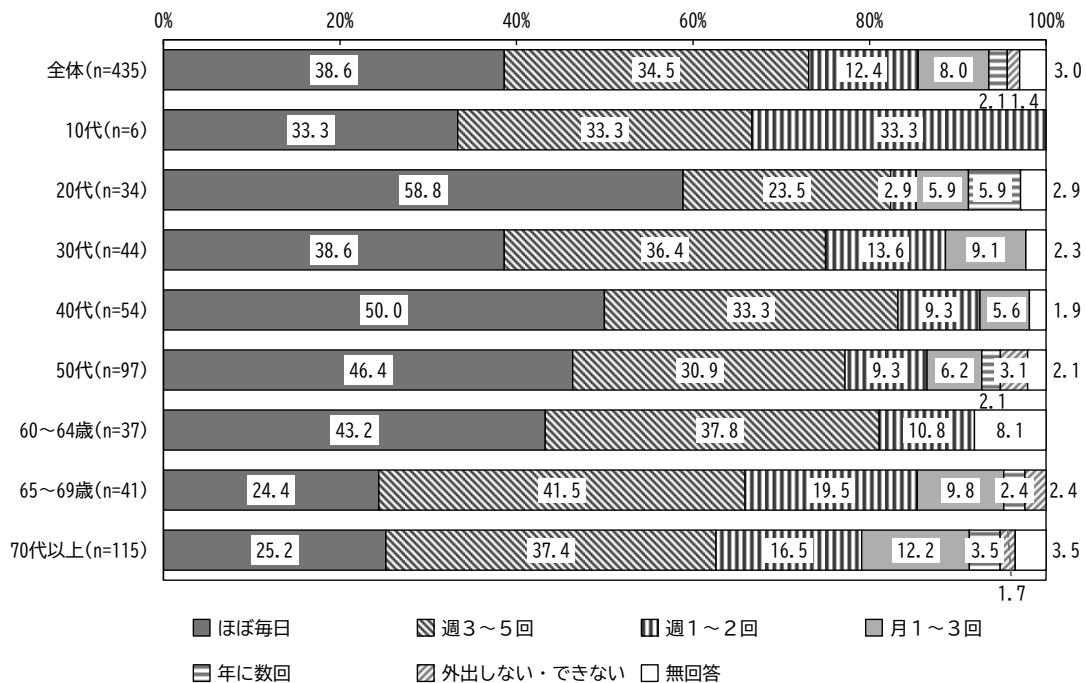
## 7 外出や活動などについて

問32 あなたの外出する回数は、およそどのくらいですか。職場や学校への通勤・通学、病院への通院も回数に数えてください。(1つに○)

外出する回数については、障害種別に関係なく、週1回以上外出している人が80%以上となり、特に、愛の手帳（療育手帳）所持者では、「ほぼ毎日」が47.1%と障害種別の中で最も多くなっています。



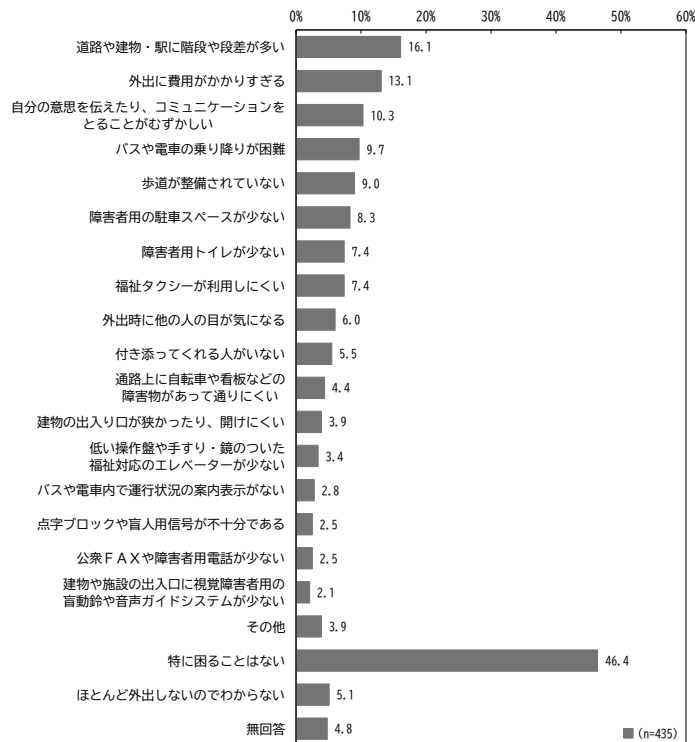
年代別では、どの年代でも週1回以上外出している人が60%以上となっていますが、65~69歳以降は「ほぼ毎日」が少なくなっています。



問33 外出するときに、不便に感じることや困っていることはありますか。

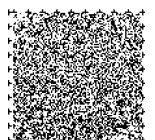
(あてはまるものすべてに○)

外出する時に困っていることについては、全体では「特に困ることはない」が46.4%と最も多くなっています。



以下では寄せられたご意見を分割せず、個人等が特定できる記載を除いて原文のまま掲載しています。

「4. 歩道が整備されていない」具体的な場所	「5. 障害者用の駐車スペースが少ない」具体的な場所
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市内全域</li> <li>・ 全体的に歩道がせまい。</li> <li>・ ほとんどの場所</li> <li>・ 残堀街道（新残堀橋周辺）歩道はあるが狭い、平和通り（伊奈平・残堀地区）</li> <li>・ 新青梅街道の両側歩道</li> <li>・ 平和通りの歩道に電信柱があり歩けない。江戸街道も電信柱があり歩けません。</li> <li>・ 三ツ木八王子線</li> <li>・ 裏路地</li> <li>・ 住宅街</li> <li>・ 遊歩道、家族がケガをした。役所進言（済）</li> <li>・ 車イスの人が通る時段差が多すぎ。</li> <li>・ 段差や坂、歩道の狭さ。</li> <li>・ 工事跡、車が私道に入る際のスロープ。</li> <li>・ ガードレールがない所が危険。</li> <li>・ 歩道に電柱が有り、車椅子が通過できない。特に自宅前の歩道が電柱のために、通り抜けできない。</li> <li>・ アスファルトの下に木の根がはり、凹凸があると歩きづらく、つまづいて転倒する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 団地商店街</li> <li>・ スーパー</li> <li>・ 各商業施設</li> <li>・ ショッピングセンター</li> <li>・ 市役所</li> <li>・ 病院</li> <li>・ 駅の周辺</li> <li>・ 学校</li> <li>・ 商業施設の駐車スペースに健常者の車が駐車している。</li> <li>・ 一般の人が止めていて、障害がある人が止めづらい！</li> <li>・ いろんな所で明らかに一般の方（障がないのいい方）が停めているため空いていない。私は近くに止めたいのではなく、乗り降りする時にドアを開かないといけないため、隣の車とのスペースが必要。</li> <li>・ 障害者専用駐車場に健常者が駐車するから、自分が駐車出来ない。</li> </ul>



障害種別ごとでは、愛の手帳（療育手帳）所持者では「自分の意見を伝えたり、コミュニケーションをとることがむずかしい」が45.1%、それ以外の障害種別では「特に困ることはない」が最も多くなっています。

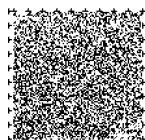
次いで、身体障害者手帳所持者及び難病医療費など助成の受給者では「道路や建物・駅に階段や段差が多い」がそれぞれ27.0%、18.0%、精神障害者保健福祉手帳所持者及び自立支援医療の受給者では「外出に費用がかかりすぎる」がそれぞれ27.5%、18.4%となっています。

(単位:%)

	道路や建物・駅に階段や段差が多い	外出に費用がかかりすぎる	自分の意見を伝えたり、コミュニケーションをとることがむずかしい	バスや電車の乗り降りが困難	歩道が整備されていない	障害者用の駐車スペースが少ない	障害者用トイレが少ない	福祉タクシーが利用しにくい	外出時に他の人の目が気になる	付き添ってくれる人がいない	通路上に自転車や看板などの障害物がある通りにくい
全体 (n=435)	16.1	13.1	10.3	9.7	9.0	8.3	7.4	7.4	6.0	5.5	4.4
身体障害者手帳 (n=178)	27.0	11.2	8.4	12.4	15.2	15.7	13.5	12.4	2.2	5.6	7.3
愛の手帳 (療育手帳) (n=51)	9.8	15.7	45.1	21.6	0.0	3.9	2.0	9.8	7.8	13.7	0.0
精神障害者保健福祉手帳 (n=69)	7.2	27.5	17.4	13.0	4.3	2.9	2.9	5.8	20.3	8.7	4.3
自立支援医療の受給 (n=76)	5.3	18.4	6.6	2.6	2.6	1.3	1.3	3.9	10.5	6.6	1.3
難病医療費など助成の受給 (n=89)	18.0	10.1	3.4	7.9	9.0	6.7	5.6	5.6	1.1	4.5	4.5

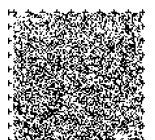
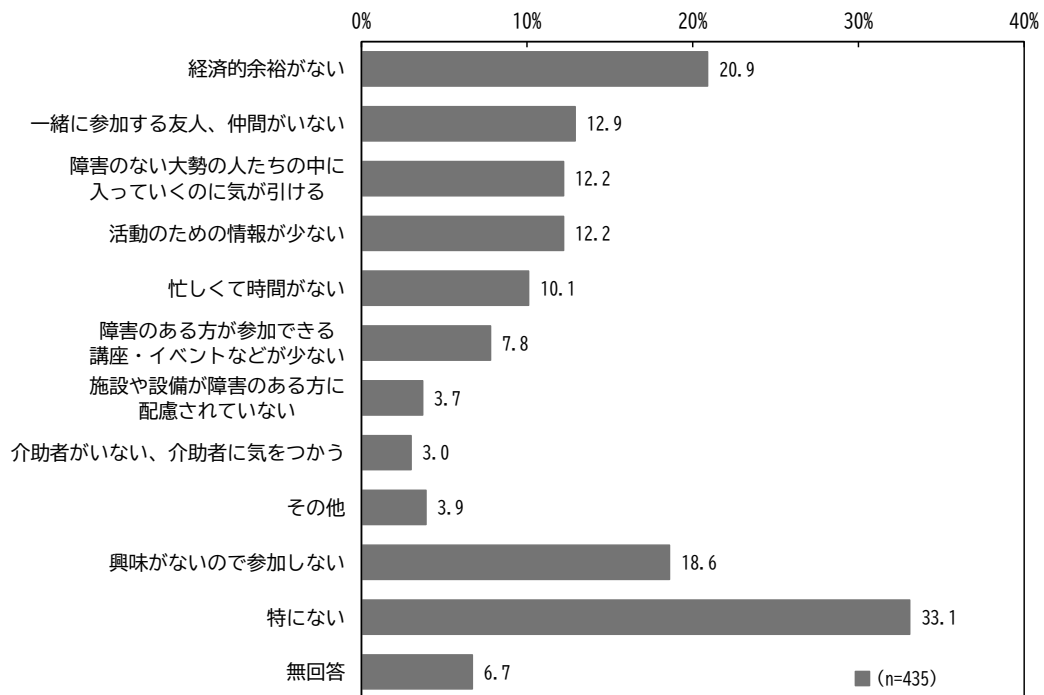
(単位:%)

	建物の出入り口が狭かったり、開けにくい	低い操作盤や手すり・鏡のついた福祉対応のエレベーターが少ない	バスや電車内で運行状況の案内表示がない	点字ブロックや盲人用信号が不十分である	公衆FAXや障害者用電話が少ない	建物や施設の出入口に視覚障害者用の盲動鈴や音声ガイドシステムが少ない	その他	特に困ることはない	ほとんど外出しないのでわからない	無回答
全体 (n=435)	3.9	3.4	2.8	2.5	2.5	2.1	3.9	46.4	5.1	4.8
身体障害者手帳 (n=178)	6.2	5.1	2.8	3.9	4.5	3.4	3.4	36.0	4.5	5.6
愛の手帳 (療育手帳) (n=51)	3.9	3.9	3.9	2.0	2.0	0.0	2.0	33.3	5.9	0.0
精神障害者保健福祉手帳 (n=69)	2.9	4.3	5.8	1.4	1.4	1.4	4.3	39.1	5.8	2.9
自立支援医療の受給 (n=76)	1.3	1.3	1.3	0.0	1.3	1.3	2.6	60.5	5.3	2.6
難病医療費など助成の受給 (n=89)	3.4	3.4	3.4	1.1	1.1	2.2	6.7	62.9	2.2	2.2



問34 あなたが、趣味や学習、スポーツなど余暇活動をするときに困ること、または活動を行っていない理由はどのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)

余暇活動をするときに困っていることについては、全体では「経済的余裕がない」が20.9%と最も多く、次いで、「一緒に参加する友人、仲間がいない」が12.9%、「障害のない大勢の人たちの中に入っていくのに気が引ける」及び「活動のための情報が少ない」がともに12.2%となっています。なお、「特にない」が33.1%となっています。



障害種別ごとでは、身体障害者手帳所持者、愛の手帳（療育手帳）所持者、自立支援医療の受給者及び難病医療費など助成の受給者では「特にない」がそれぞれ32.6%、31.4%、30.3%、39.3%と最も多く、精神障害者保健福祉手帳所持者では「経済的余裕がない」が最も多く、37.7%、となっています。

また、自立支援医療の受給者では、「経済的余裕がない」が「特にない」と同じ割合となっています。

次いで、身体障害者手帳所持者では、「興味がないので参加しない」が17.4%、難病医療費など助成の受給者では「経済的余裕がない」が23.6%、愛の手帳（療育手帳）所持者では「障害のある方が参加できる講座・イベントなどが少ない」が27.5%、精神障害者保健福祉手帳所持者及び自立支援医療の受給者では「一緒に参加する友人、仲間がいない」がそれぞれ26.1%となっています。

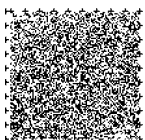
なお、精神障害者保健福祉手帳所持者では、「一緒に参加する友人、仲間がいない」と「興味がないので参加しない」が同じ割合となっています。

(単位:%)

	経済的余裕がない	一緒に参加する友人、仲間がいない	障害のない大勢の人たちの中に入っていくのに気が引ける	活動のための情報が少ない	忙しくて時間がない	障害のある方が参加できる講座・イベントなどが少ない	施設や設備が障害のある方に配慮されていない	介助者がいない、介助者に気をつかう
全体 (n=435)	20.9	12.9	12.2	12.2	10.1	7.8	3.7	3.0
身体障害者手帳 (n=178)	16.3	11.2	15.2	12.4	7.9	7.9	3.4	3.9
愛の手帳（療育手帳）(n=51)	7.8	11.8	5.9	21.6	3.9	27.5	7.8	9.8
精神障害者保健福祉手帳 (n=69)	37.7	26.1	23.2	14.5	17.4	13.0	5.8	2.9
自立支援医療の受給 (n=76)	30.3	22.4	14.5	17.1	10.5	7.9	1.3	5.3
難病医療費など助成の受給 (n=89)	23.6	6.7	4.5	7.9	10.1	0.0	0.0	1.1

(単位:%)

	その他	興味がないので参加しない	特にない	無回答
全体 (n=435)	3.9	18.6	33.1	6.7
身体障害者手帳 (n=178)	3.4	17.4	32.6	5.6
愛の手帳（療育手帳）(n=51)	3.9	13.7	31.4	3.9
精神障害者保健福祉手帳 (n=69)	1.4	26.1	20.3	2.9
自立支援医療の受給 (n=76)	3.9	19.7	30.3	1.3
難病医療費など助成の受給 (n=89)	7.9	19.1	39.3	10.1



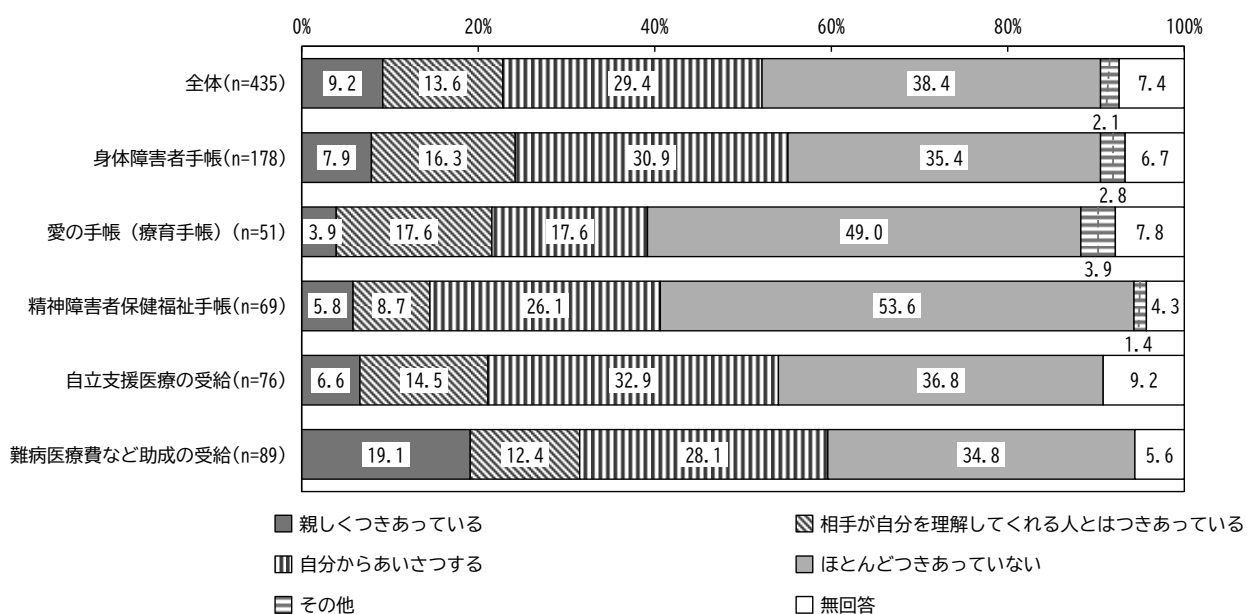
## 8 コミュニティ（地域）について

問35 あなたは、近所や地域の人とどの程度のつきあい方をしていますか。（1つに○）

近所や地域の人とつきあっている（「親しくつきあっている」及び「相手が自分を理解してくれる人とはつきあっている」の合計。以下、同じ。）と回答した人は、全体では22.8%となっています。

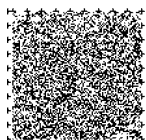
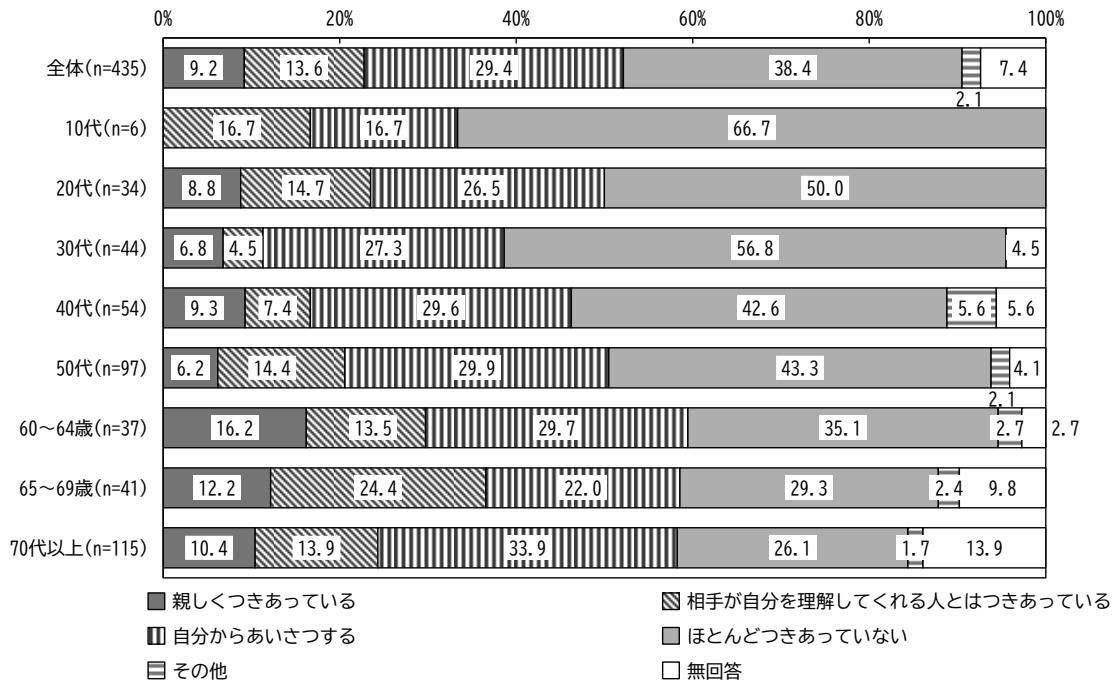
障害種別ごとでは、難病医療費など助成の受給者では31.5%、身体障害者手帳所持者では24.2%、愛の手帳（療育手帳）所持者では21.5%、自立支援医療の受給者では21.1%となっています。

一方で、障害種別に関係なく「ほとんどつきあっていない」と回答した人が多く、精神障害者保健福祉手帳所持者及び愛の手帳（療育手帳）所持者では、それぞれ53.6%、49.0%で半数近くとなっています。



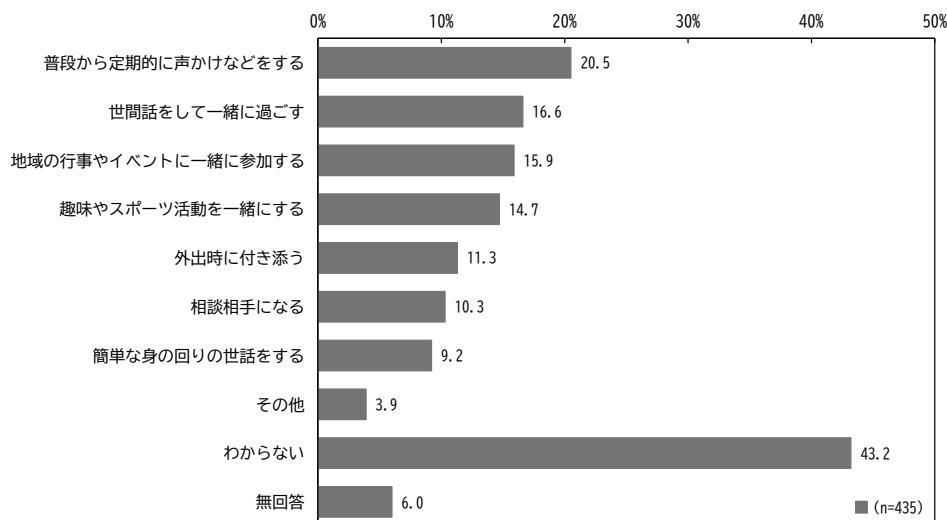
年代別では、近所や地域の人とつきあっていると回答した人は、20代で23.5%、30代で11.3%と、年代が上がるにつれて減少していますが、40代以上になると、40代で16.7%、50代で20.6%、60～64歳で29.7%、65～69歳で36.6%と年代が上がるにつれて増加しています。

なお、70代以上では減少に転じ、24.3%となっています。



問36 あなたは、地域の方が何かボランティア活動をしたいと思っている場合、どのような支援・交流があったらいいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

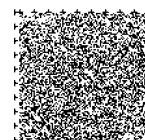
地域の方がボランティアをしたいと思っている場合、あるとよい支援・交流については、全体では「わからない」が43.2%と最も多く、次いで、「普段から定期的に声かけなどをする」が20.5%となっています。



障害種別ごとでは、愛の手帳（療育手帳）所持者では「地域の行事やイベントと一緒に参加する」が31.4%となっていますが、他の障害種別では「普段から定期的に声かけなどをする」が10%以上となっています。

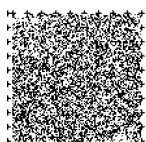
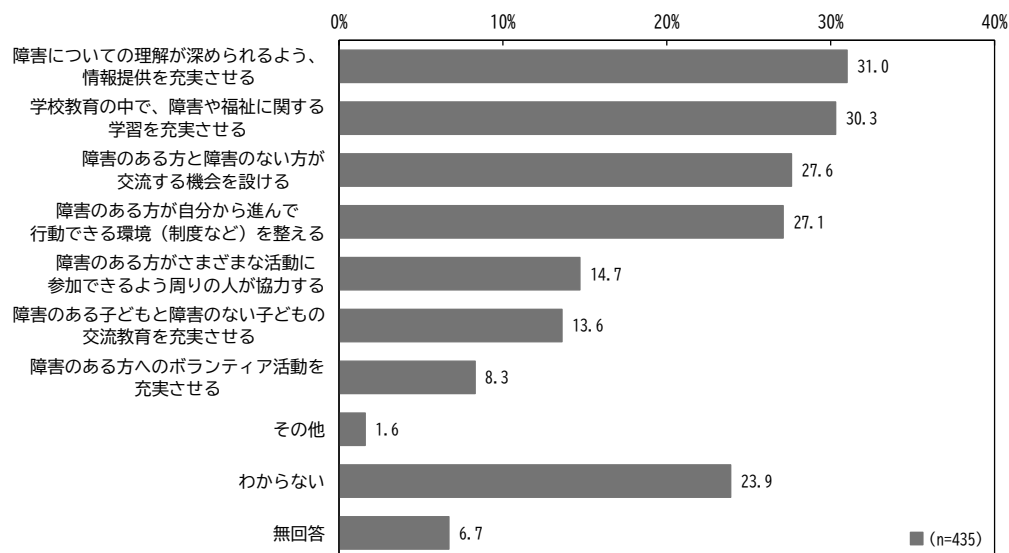
(単位: %)

	普段から定期的に声かけなどをする	世間話をして一緒に過ごす	地域の行事やイベントと一緒に参加する	趣味やスポーツ活動を一緒にする	外出時に付き添う	相談相手になる	簡単な身の回りの世話をする	その他	わからない	無回答
全体 (n=435)	20.5	16.6	15.9	14.7	11.3	10.3	9.2	3.9	43.2	6.0
身体障害者手帳 (n=178)	17.4	17.4	10.1	11.8	11.8	7.9	9.0	3.4	45.5	6.7
愛の手帳（療育手帳）(n=51)	27.5	7.8	31.4	13.7	27.5	11.8	9.8	3.9	35.3	3.9
精神障害者保健福祉手帳 (n=69)	17.4	17.4	14.5	15.9	11.6	11.6	11.6	7.2	43.5	4.3
自立支援医療の受給 (n=76)	23.7	23.7	23.7	18.4	10.5	15.8	10.5	6.6	43.4	2.6
難病医療費など助成の受給 (n=89)	21.3	12.4	15.7	19.1	6.7	9.0	10.1	2.2	44.9	4.5



問37 障害のある方と障害のない方がお互いに理解しあい、共に生きる社会をつくっていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(3つまでに○)

障害のある方とない方が共に生きる社会をつくっていくために必要な事については、全体では「障害についての理解が深められるよう、情報提供を充実させる」が31.0%と最も多く、次いで、「学校教育の中で、障害や福祉に関する学習を充実させる」が30.3%、「障害のある方と障害のない方が交流する機会を設ける」が27.6%となっています。



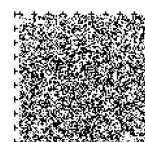
障害種別ごとでは、身体障害者手帳所持者及び難病医療費など助成の受給者では「学校教育の中で、障害や福祉に関する学習を充実させる」がそれぞれ29.8%、33.7%と最も多く、精神障害者保健福祉手帳所持者及び自立支援医療の受給者では「障害についての理解が深められるよう、情報提供を充実させる」がそれぞれ36.2%、42.1%、愛の手帳（療育手帳）所持者では「障害のある方と障害のない方が交流する機会を設ける」が41.2%となっています。

次いで、身体障害者手帳所持者、愛の手帳（療育手帳）所持者及び難病医療費など助成の受給者では「障害についての理解が深められるよう、情報提供を充実させる」がそれぞれ28.7%、39.2%、29.2%、精神障害者保健福祉手帳所持者では「障害のある方が自分から進んで行動できる環境（制度など）を整える」が31.9%、自立支援医療の受給者では「学校教育の中で、障害や福祉に関する学習を充実させる」が38.2%となっています。

なお、身体障害者手帳所持者では、「障害についての理解が深められるよう、情報提供を充実させる」と「障害のある方が自分から進んで行動できる環境（制度など）を整える」が同じ割合となっています。

(単位：%)

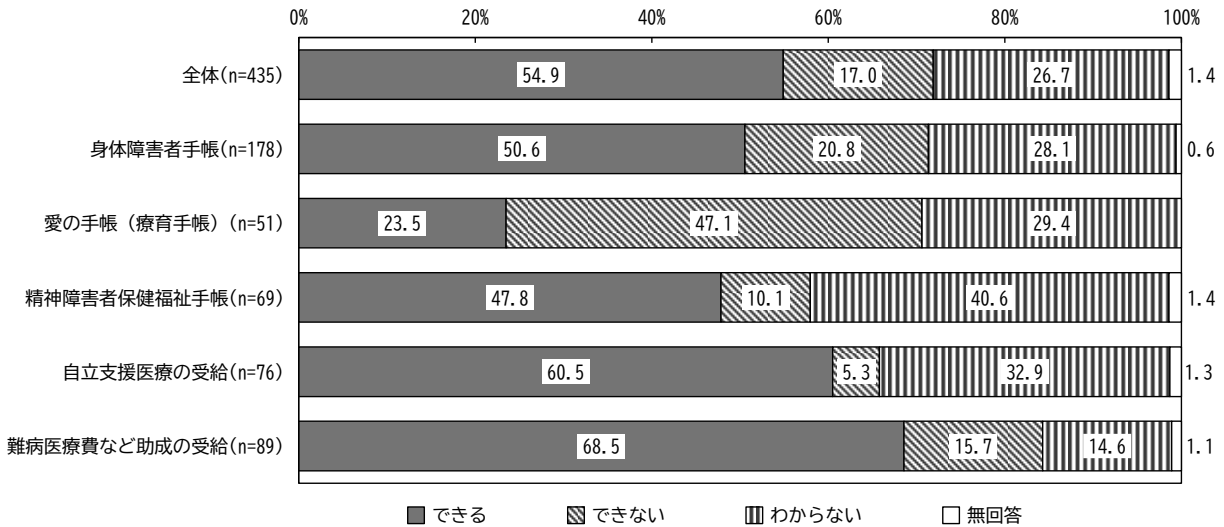
	障害についての理解が深められるよう、情報提供を充実させる	学校教育の中で、障がいや福祉に関する学習を充実させる	障害のある方と障害のない方が交流する機会を設ける	障害のある方が自分から進んで行動できる環境（制度など）を整える	障害のある方がさまざまな活動に参加できるように周りの人が協力する	障害のある子どもと障害のない子どもの交流教育を充実させる	障害のある方へのボランティア活動を充実させる	その他	わからない	無回答
全体 (n=435)	31.0	30.3	27.6	27.1	14.7	13.6	8.3	1.6	23.9	6.7
身体障害者手帳 (n=178)	28.7	29.8	26.4	28.7	12.9	11.8	8.4	1.1	23.6	6.2
愛の手帳（療育手帳） (n=51)	39.2	31.4	41.2	27.5	23.5	27.5	9.8	0.0	13.7	7.8
精神障害者保健福祉手帳 (n=69)	36.2	23.2	29.0	31.9	13.0	10.1	8.7	4.3	23.2	7.2
自立支援医療の受給 (n=76)	42.1	38.2	30.3	30.3	11.8	19.7	9.2	3.9	18.4	2.6
難病医療費など助成の受給 (n=89)	29.2	33.7	24.7	22.5	20.2	12.4	7.9	1.1	27.0	5.6



## 9 防災対策について

問38 あなたは、地震などの災害時に一人で避難できますか。(1つに○)

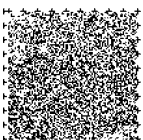
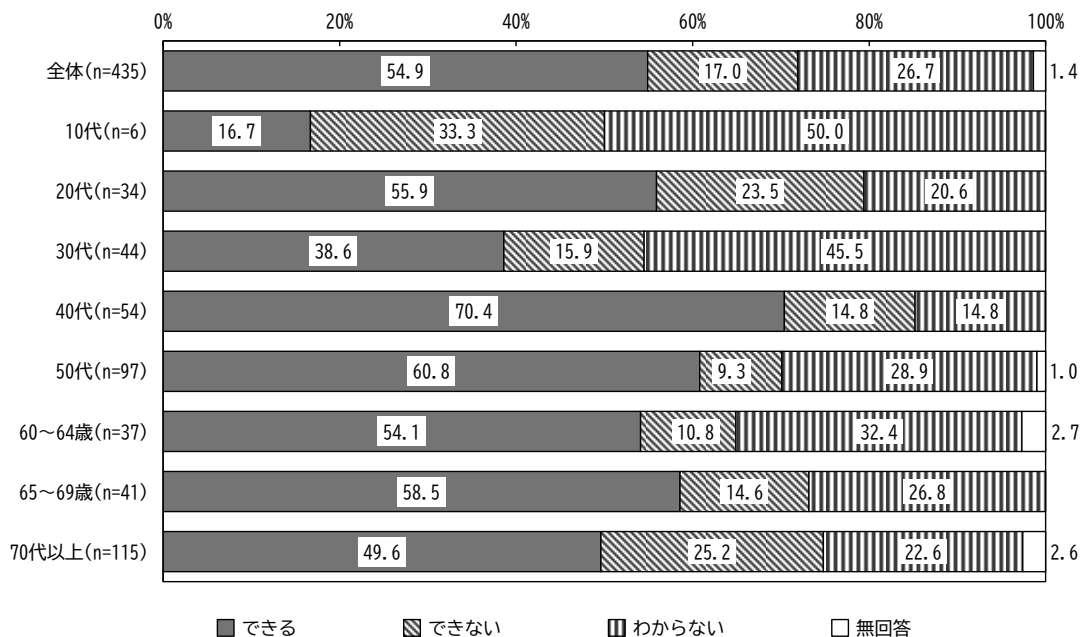
災害時に一人で避難できるかについては、愛の手帳(療育手帳)所持者では「できない」が47.1%と最も多く、それ以外の障害種別では、「できる」が最も多くなっています。



年代別では、20代、40代、50代、60~64歳、65~69歳及び70代以上では「できる」が最も多く、それぞれ55.9%、70.4%、60.8%、54.1%、58.5%、49.6%となっています。10代及び30代では「わからない」がそれぞれ50.0%、45.5%と最も多くなっています。

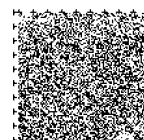
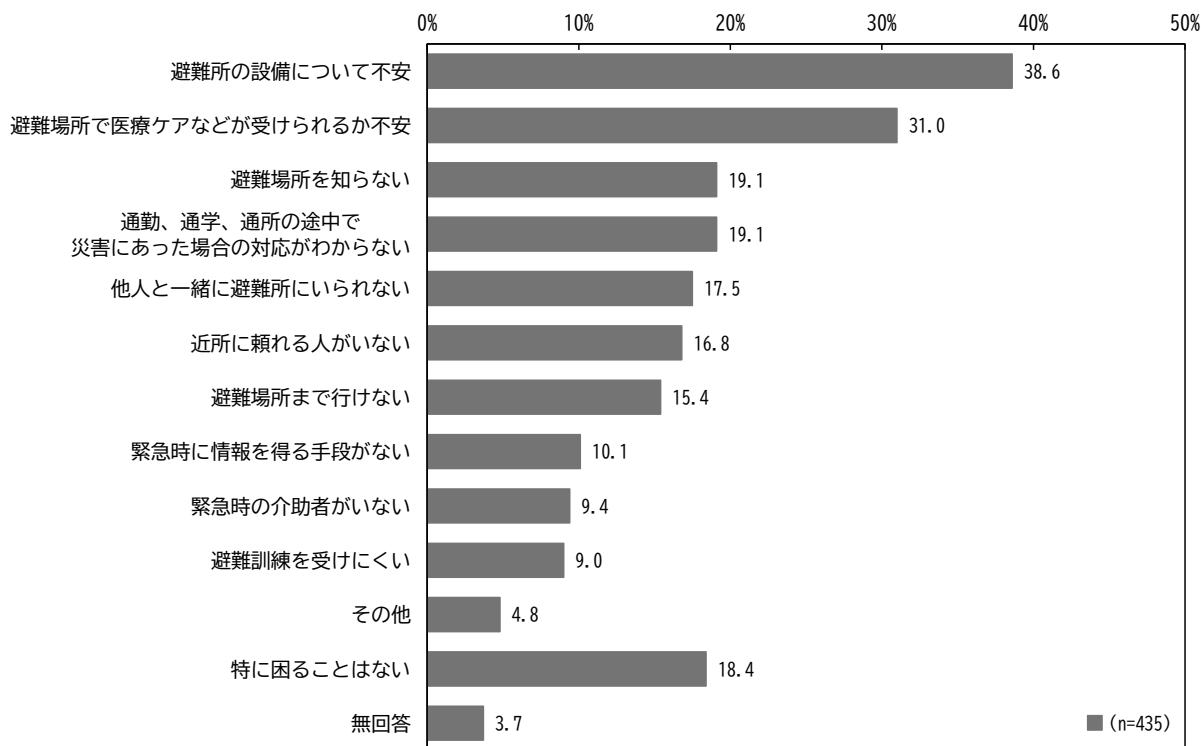
次いで、10代、20代、40代及び70代以上では「できない」がそれぞれ33.3%、23.5%、14.8%、25.2%となっています。50代、60~64歳及び65~69歳では「わからない」がそれぞれ28.9%、32.4%、26.8%、30代では「できる」が38.6%となっています。

なお、40代では、「できない」が「わからない」と同じ割合となっています。



問39 あなたが地震など災害時に困ることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

災害時に困ることについては、全体では「避難所の設備について不安」が38.6%と最も多く、次いで、「避難場所で医療ケアなどが受けられるか不安」が31.0%、「避難場所を知らない」及び「通勤、通学、通所の途中で災害にあった場合の対応がわからない」がともに19.1%となっています。



障害種別ごとでは、身体障害者手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者及び自立支援医療の受給者では「避難所の設備について不安」がそれぞれ45.5%、36.2%、38.2%と最も多く、愛の手帳（療育手帳）所持者では「避難場所を知らない」が37.3%、難病医療費など助成の受給者では「避難場所で医療ケアなどが受けられるか不安」が38.2%となっています。

次いで、身体障害者手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者及び自立支援医療の受給者では「避難場所で医療ケアなどが受けられるか不安」がそれぞれ33.1%、34.8%、34.2%、愛の手帳（療育手帳）所持者では「通勤、通学、通所の途中で災害にあった場合の対応がわからない」が35.3%、難病医療費など助成の受給者では「避難所の設備について不安」が37.1%となっています。

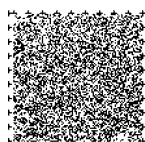
なお、精神障害者保健福祉手帳所持者では、「避難所の設備について不安」と「避難場所を知らない」が同じ割合となっています。

(単位:%)

	避難所の設備について不安	避難場所で医療ケアなどが受けられるか不安	避難場所を知らない	通勤、通学、通所の途中で災害にあった場合の対応がわからない	他人と一緒に避難所にいられない	近所に頼れる人がいない	避難場所まで行けない	緊急時に情報を得る手段がない
全体 (n=435)	38.6	31.0	19.1	19.1	17.5	16.8	15.4	10.1
身体障害者手帳 (n=178)	45.5	33.1	15.7	15.7	14.0	14.6	23.0	11.8
愛の手帳（療育手帳）(n=51)	31.4	25.5	37.3	35.3	29.4	21.6	21.6	17.6
精神障害者保健福祉手帳 (n=69)	36.2	34.8	34.8	33.3	31.9	29.0	7.2	14.5
自立支援医療の受給 (n=76)	38.2	34.2	22.4	17.1	25.0	21.1	7.9	7.9
難病医療費など助成の受給 (n=89)	37.1	38.2	13.5	14.6	11.2	12.4	12.4	4.5

(単位:%)

	緊急時の介助者がいない	避難訓練を受けにくい	その他	特に困ることはない	無回答
全体 (n=435)	9.4	9.0	4.8	18.4	3.7
身体障害者手帳 (n=178)	12.4	10.1	5.1	18.0	2.2
愛の手帳（療育手帳）(n=51)	13.7	7.8	5.9	9.8	5.9
精神障害者保健福祉手帳 (n=69)	13.0	14.5	7.2	11.6	4.3
自立支援医療の受給 (n=76)	9.2	9.2	2.6	19.7	1.3
難病医療費など助成の受給 (n=89)	5.6	5.6	5.6	15.7	3.4

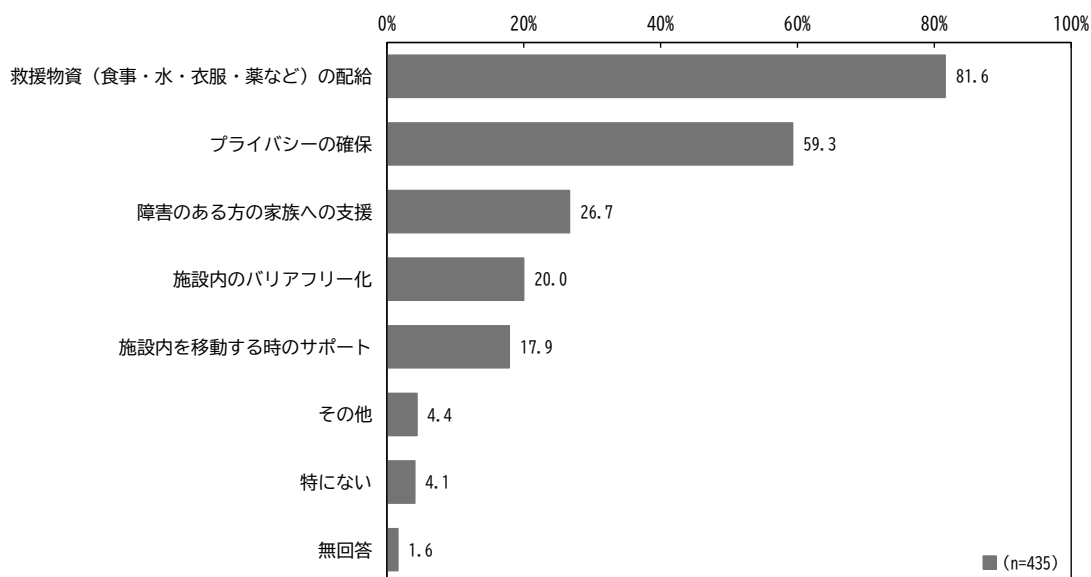


問40 あなたが、災害の際に避難所で生活するために必要とする支援は何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

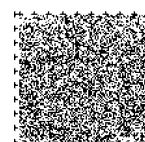
必要とする支援については、「救援物資（食事・水・衣服・薬など）の配給」が81.6%と最も多く、次いで、「プライバシーの確保」が59.3%、「障害のある方の家族への支援」が26.7%となっています。

障害種別ごとでは、いずれの障害種別でも「救援物資（食事・水・衣服・薬など）の配給」が最も多く、「プライバシーの確保」が2番目に多くなっています。



(単位:%)

	救援物資（食事・水・衣服・薬など）の配給	プライバシーの確保	障害のある方の家族への支援	施設内のバリアフリー化	施設内を移動する時のサポート	その他	特にない	無回答
全体 (n=435)	81.6	59.3	26.7	20.0	17.9	4.4	4.1	1.6
身体障害者手帳 (n=178)	80.3	51.7	28.7	30.3	19.1	5.6	5.1	0.0
愛の手帳（療育手帳）(n=51)	78.4	56.9	49.0	15.7	31.4	5.9	3.9	0.0
精神障害者保健福祉手帳 (n=69)	85.5	73.9	29.0	10.1	15.9	4.3	2.9	1.4
自立支援医療の受給 (n=76)	88.2	67.1	17.1	11.8	11.8	5.3	1.3	2.6
難病医療費など助成の受給 (n=89)	85.4	64.0	22.5	18.0	10.1	3.4	2.2	0.0

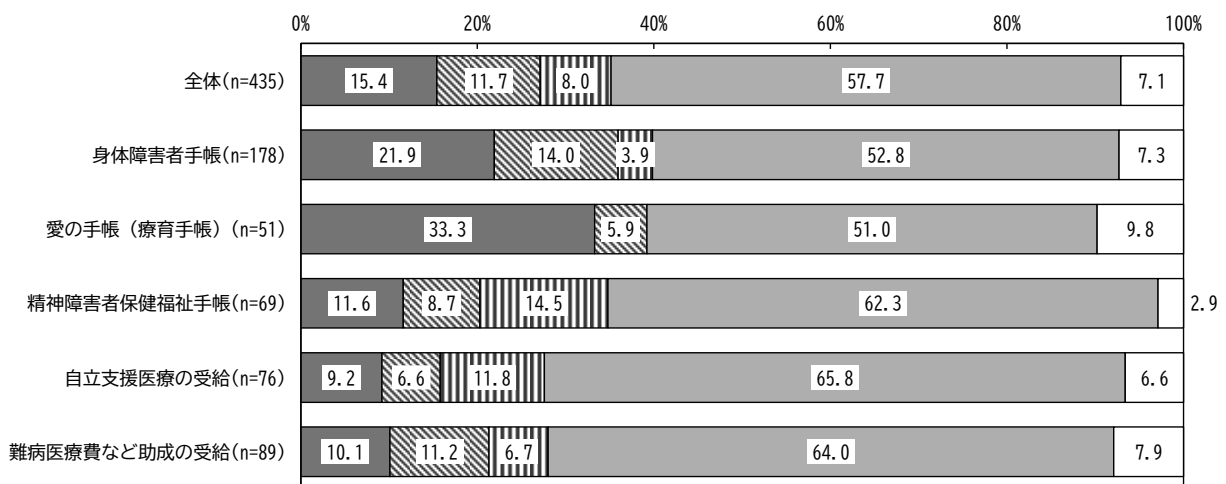


問4 1 あなたは、避難行動要支援者名簿の関係機関への情報提供に同意をしていますか。(1つに○)

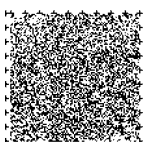
避難行動要支援者名簿について関係機関への情報提供に「同意している」人は、全体では15.4%、「同意していないが、今後、同意したい」は11.7%、「同意したいと思わない」は8.0%、「わからない」は57.7%となっています。

なお、「同意している」人については、愛の手帳(療育手帳)所持者で33.3%と障害種別の中で最も多く、次いで、身体障害者手帳所持者で21.9%となっています。

一方で、「同意したいと思わない」人は、精神障害者保健福祉手帳所持者で14.5%と障害種別の中で最も多く、次いで、自立支援医療の受給者で11.8%となっています。

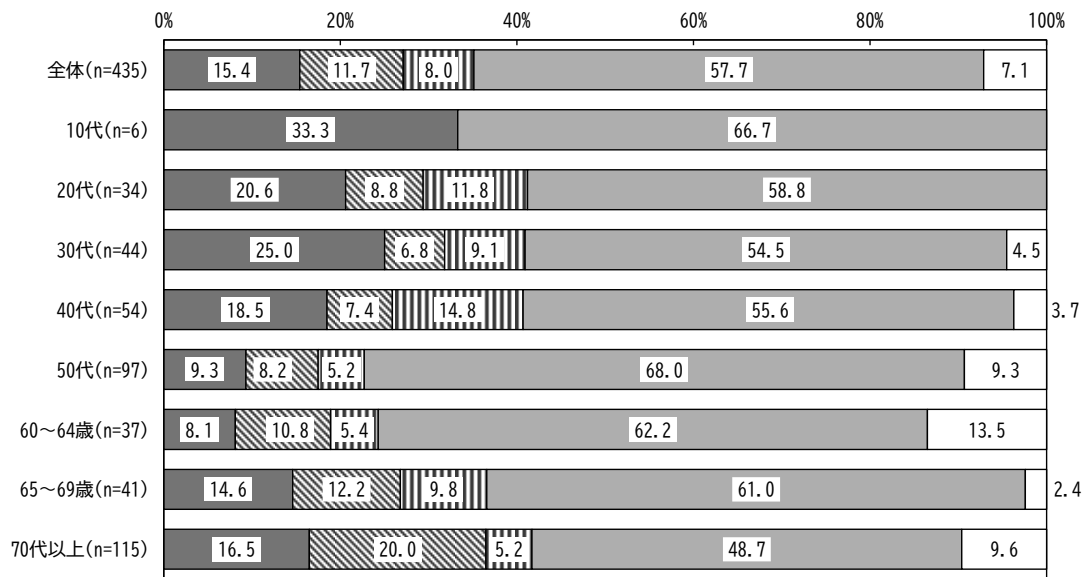


■ 同意している    ▨ 同意していないが、今後、同意したい    ▩ 同意したいと思わない    ■ わからない    □ 無回答

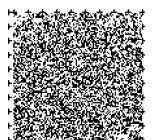


年代別では、避難行動要支援者名簿について関係機関への情報提供に「同意している」人は、10代で33.3%と最も多く、次いで、30代で25.0%となっています。

一方で、「同意したいと思わない」人は、40代で14.8%と最も多く、次いで、20代で11.8%となっています。



■ 同意している    ▨ 同意していないが、今後、同意したい    ▩ 同意したいと思わない    ■ わからない    □ 無回答



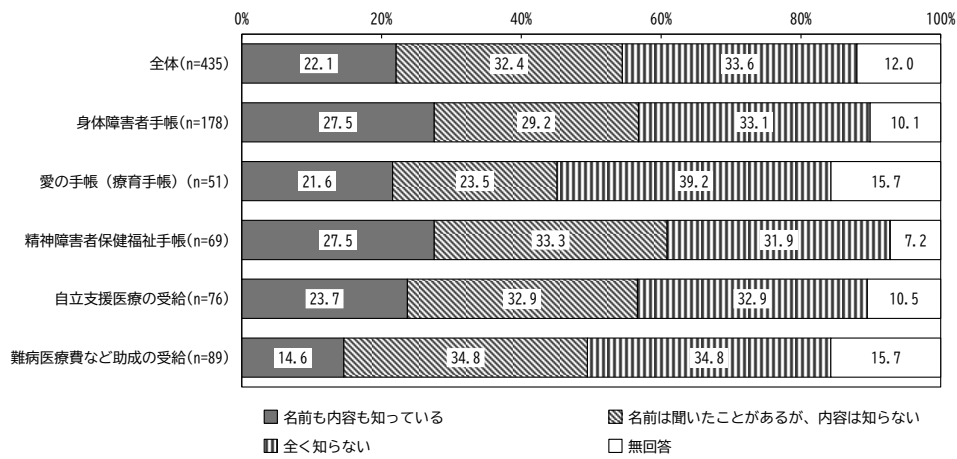
## 10 障害のある方の権利擁護について

問42 あなたは次の制度について、どの程度知っていますか。(それぞれ1つに○)

### ①成年後見制度

成年後見制度の認知度については、全体では「全く知らない」が33.6%と最も多く、次いで、「名前は聞いたことがあるが、内容は知らない」が32.4%、「名前も内容も知っている」が22.1%となっています。

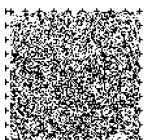
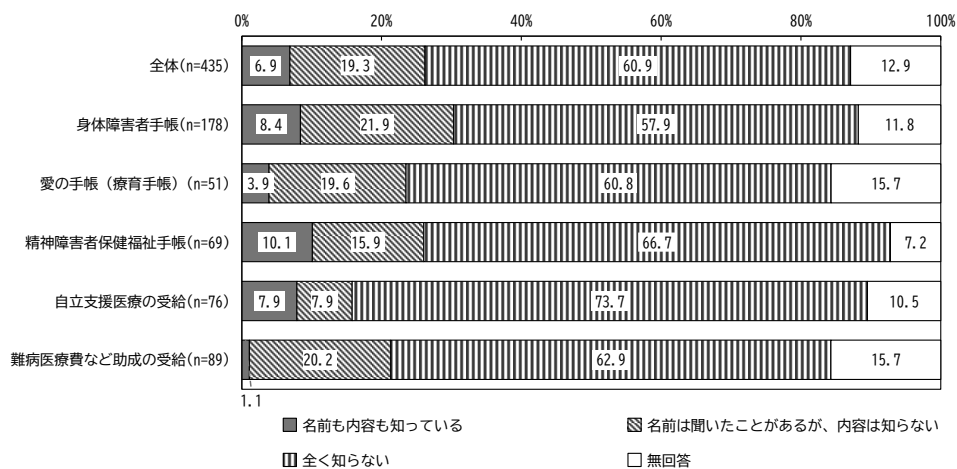
なお、「名前も内容も知っている」は、身体障害者手帳所持者及び精神障害者保健福祉手帳所持者で27.5%と障害種別の中で最も多く、次いで、自立支援医療の受給者で23.7%、愛の手帳（療育手帳）所持者が21.6%、難病医療費など助成の受給者が14.6%となっています。



### ②障害者差別解消法

障害者差別解消法の認知度については、全体では「全く知らない」が60.9%と最も多く、次いで、「名前は聞いたことがあるが、内容は知らない」が19.3%、「名前も内容も知っている」が6.9%となっています。

なお、身体障害者手帳所持者以外の障害種別では「全く知らない」は、60%以上となっています。

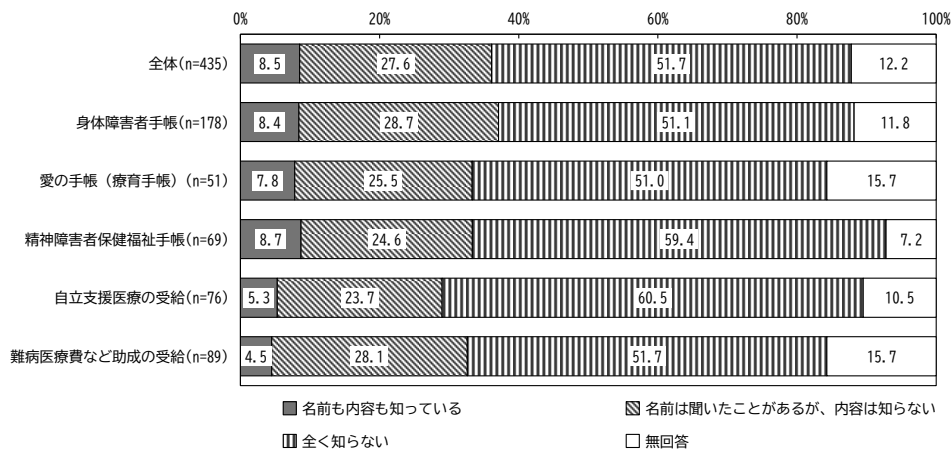


問43 あなたは次の障害者虐待防止に関する制度・相談窓口について、どの程度知っていますか。  
(それぞれ1つに○)

①障害者虐待防止法

障害者虐待防止法の認知度については、全体では「全く知らない」が51.7%と最も多く、次いで、「名前は聞いたことがあるが、内容は知らない」が27.6%、「名前も内容も知っている」が8.5%となっています。

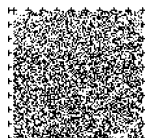
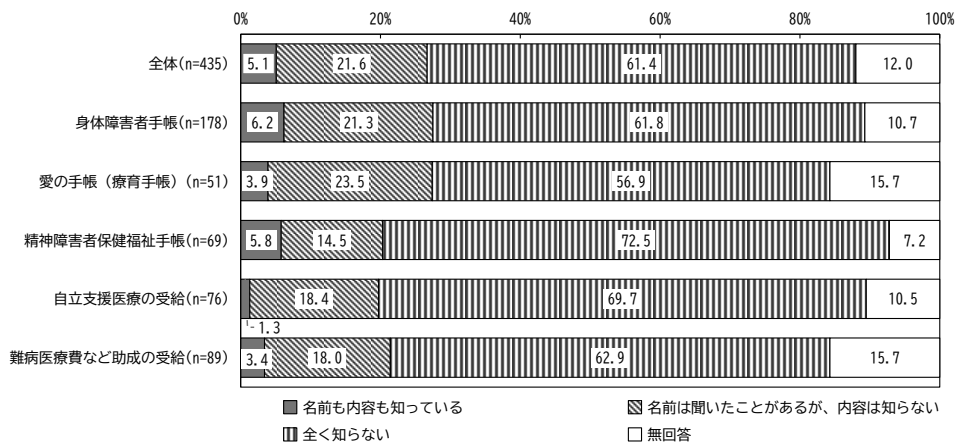
なお、「名前も内容も知っている」は、精神障害者保健福祉手帳所持者で8.7%と障害種別の中で最も多く、次いで、身体障害者手帳所持者で8.4%、愛の手帳（療育手帳）所持者が7.8%、自立支援医療の受給者で5.3%、難病医療費など助成の受給者が4.5%となっています。



②障害者虐待防止センター

障害者虐待防止センターの認知度については、全体では「全く知らない」が61.4%と最も多く、次いで、「名前は聞いたことがあるが、内容は知らない」が21.6%、「名前も内容も知っている」が5.1%となっています。

なお、「全く知らない」については、精神障害者保健福祉手帳所持者で72.5%と障害種別の中で最も多く、次いで、自立支援医療の受給者で69.7%となっています。

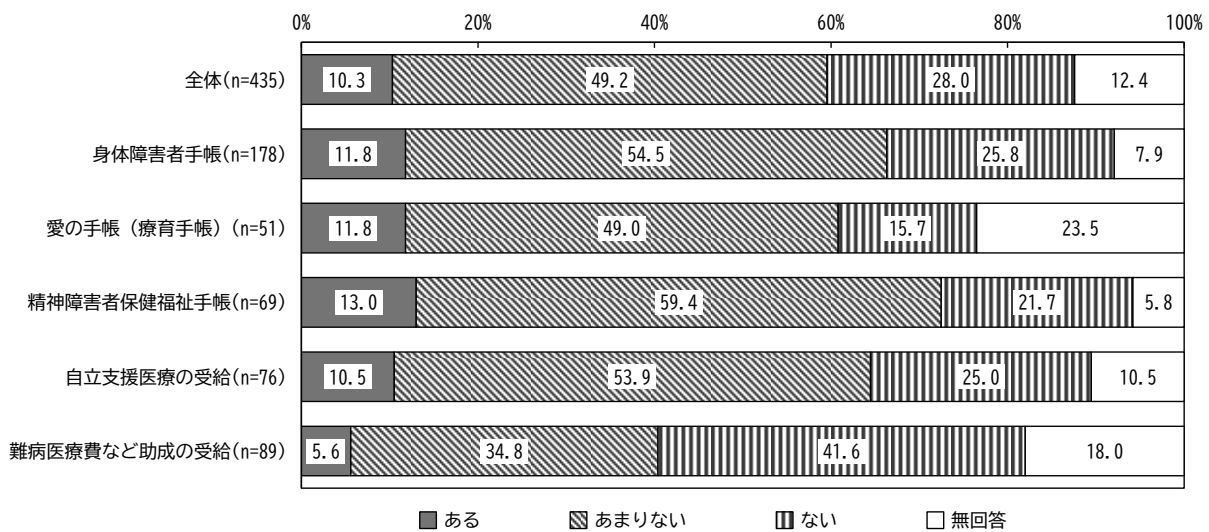


問44 日常生活において、あなたの障害について理解や配慮があり、よかったと感じたことはありますか。(1つに○)

日常生活において、障害について理解や配慮があり、よかったと感じることが「ある」と回答した人は、全体では10.3%で、「ない」(「あまりない」及び「ない」の合計。以下、同じ。)と回答した人の77.2%となっています。

障害種別では、「ある」と回答した人は、精神障害者保健福祉手帳所持者で13.0%と障害種別の中で最も多く、次いで、身体障害者手帳所持者及び愛の手帳(療育手帳)所持者でそれぞれ11.8%となっています。

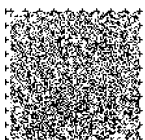
一方で、「ない」と回答した人は難病医療費など助成の受給者で41.6%と障害種別の中で最も多く、次いで、身体障害者手帳所持者で25.8%となっています。



以下では寄せられたご意見を分割せず、個人等が特定できる記載を除いて原文のまま一部掲載しています。

「1. ある」具体的な内容

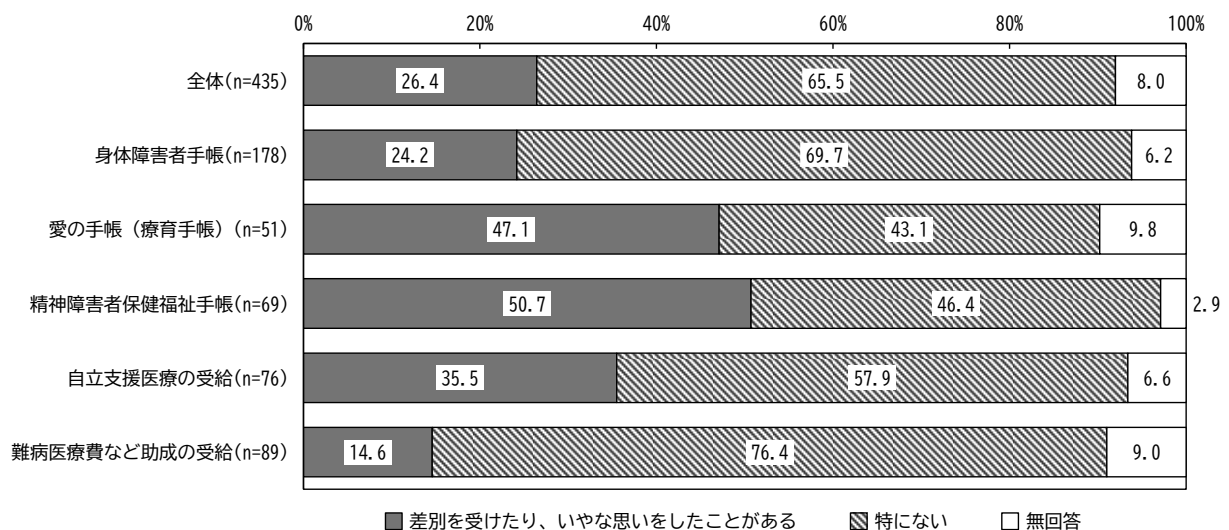
- ・ 道路などの段差やキケン箇所を言葉でおしえて頂いた。
- ・ 聞こえやすいように話してくれる人が多い。
- ・ 皆声かけをしてくれて、助けてくれたり、ゴミを持っていってくれたり。
- ・ 急なてんかん発作時も色々な利用先では家族でなくても対応して頂いている。
- ・ 電車に乗った時、席をゆずって下さる。
- ・ 聴覚障害があるので医療機関での筆談をして説明してくれる事
- ・ ヘルプマークカードを付けていると廻りの人が気づかってくれる。
- ・ (障)受給者証を頂いたり、自家用車の支援がある事
- ・ 仕事場で精神的な不調での休みが取れる。
- ・ 長い間立ってるのが辛く椅子が多く置いてあってよかった。



問45 あなたは、これまでに障害があるため、差別を受けたり、いやな思いをしたことがありますか。  
(あてはまるものすべてに○)

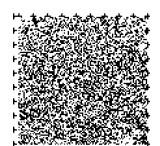
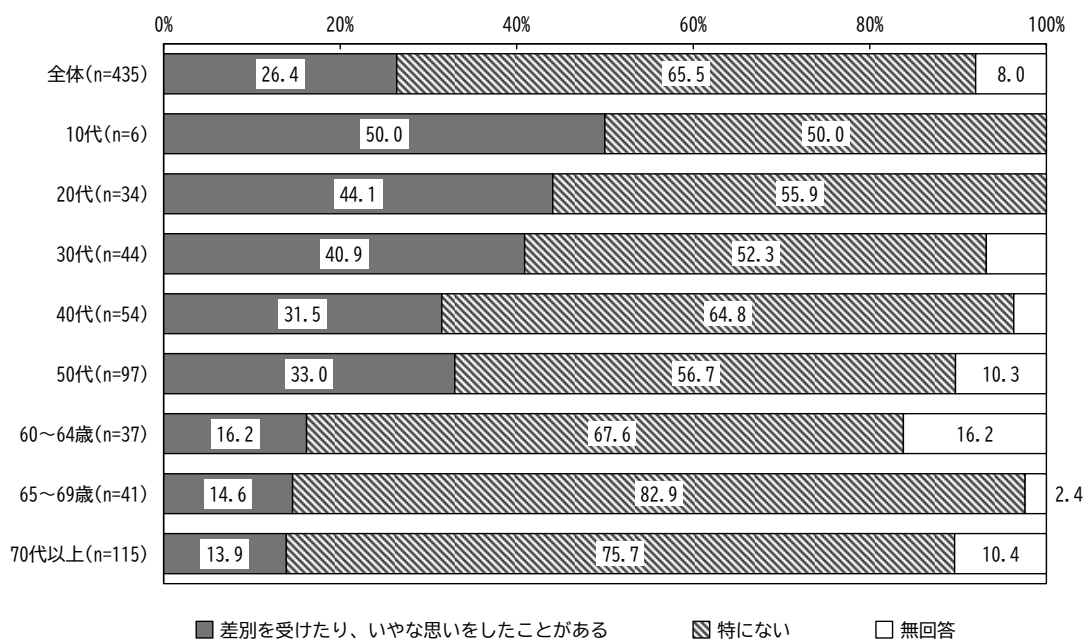
障害が原因で受けた「差別を受けたり、いやな思いをしたことがある」人は、全体では26.4%、「特にない」人が65.5%となっています。

障害種別ごとでは、「差別を受けたり、いやな思いをしたことがある」人は、精神障害者保健福祉手帳所持者で50.7%と障害種別の中で最も多く、次いで、愛の手帳（療育手帳）所持者で47.1%、自立支援医療の受給者で35.5%となっています。

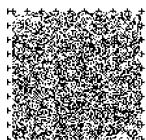
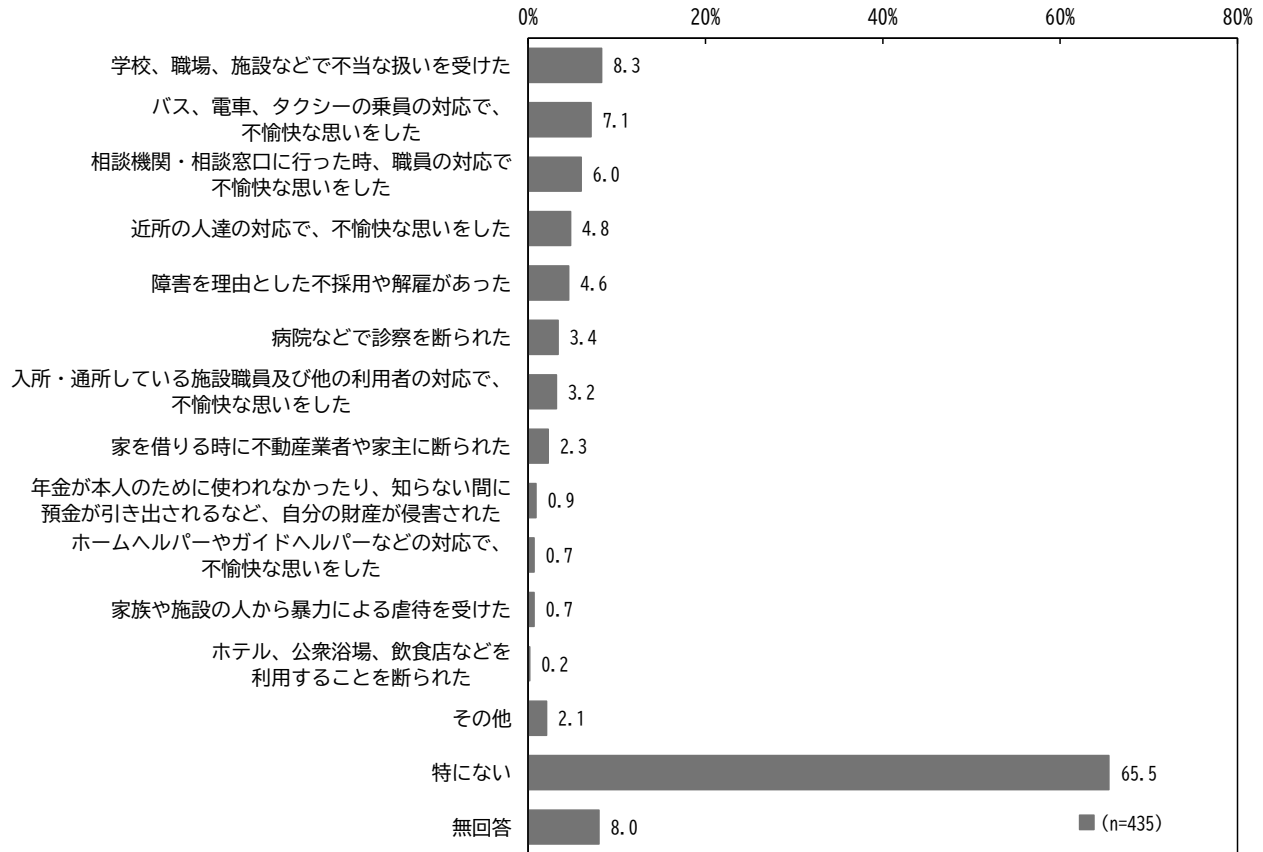


年代別では、「差別を受けたり、いやな思いをしたことがある」人は、10代で50.0%と最も多く、次いで、20代で44.1%となっています。

一方で、「特にない」人は、65～69歳で82.9%と最も多く、次いで、70代以上で75.7%となっています。



「特にない」を除いて、障害が原因で差別を受けたり、いやな思いをした内容を見ると、「学校、職場、施設などで不当な扱いを受けた」が8.3%と最も多く、次いで、「バス、電車、タクシーの乗員の対応で、不愉快な思いをした」が7.1%、「相談機関・相談窓口に行った時、職員の対応で不愉快な思いをした」が6.0%となっています。



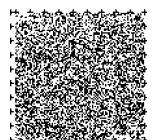
障害種別ごとでは、「特にない」を除いて、愛の手帳（療育手帳）所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者、自立支援医療の受給者及び難病医療費など助成の受給者では「学校、職場、施設などで不当な扱いを受けた」が最も多く、それぞれ21.6%、20.3%、13.2%、6.7%、身体障害者手帳所持者では「バス、電車、タクシーの乗員の対応で、不愉快な思いをした」が8.4%となっています。

(単位:%)

	学校、職場、施設などで不当な扱いを受けた	バス、電車、タクシーの乗員の対応で、不愉快な思いをした	相談機関・相談窓口に行った時、職員 の対応で不愉快な思いをした	近所の人達の対応で、不愉快な思いをした	障害を理由とした不採用や解雇があった	病院などで診察を断られた	入所・通所している施設職員及び他の 利用者の対応で、不愉快な思いをした	家を借りる時に不動産業者や家主に 断られた
全体 (n=435)	8.3	7.1	6.0	4.8	4.6	3.4	3.2	2.3
身体障害者手帳 (n=178)	5.1	8.4	6.2	5.6	3.9	2.2	2.2	2.8
愛の手帳（療育手帳）(n=51)	21.6	11.8	9.8	3.9	3.9	7.8	11.8	2.0
精神障害者保健福祉手帳 (n=69)	20.3	15.9	17.4	8.7	14.5	4.3	5.8	7.2
自立支援医療の受給 (n=76)	13.2	3.9	7.9	3.9	6.6	2.6	3.9	2.6
難病医療費など助成の受給 (n=89)	6.7	2.2	1.1	0.0	2.2	4.5	0.0	0.0

(単位:%)

	年金が本人のために使われなかったり、知らない間に預金が引き出される など、自分の財産が侵害された	ホームヘルパーやガイドヘルパーな どの対応で、不愉快な思いをした	家族や施設の人から暴力による虐待 を受けた	ホテル、公衆浴場、飲食店などを 利用することを断られた	その他	特にない	無回答
全体 (n=435)	0.9	0.7	0.7	0.2	2.1	65.5	8.0
身体障害者手帳 (n=178)	1.1	0.6	0.6	0.0	2.8	69.7	6.2
愛の手帳（療育手帳）(n=51)	0.0	3.9	2.0	2.0	0.0	43.1	9.8
精神障害者保健福祉手帳 (n=69)	1.4	0.0	1.4	0.0	2.9	46.4	2.9
自立支援医療の受給 (n=76)	1.3	1.3	1.3	0.0	2.6	57.9	6.6
難病医療費など助成の受給 (n=89)	0.0	0.0	0.0	0.0	2.2	76.4	9.0



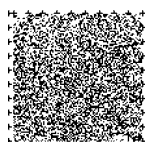
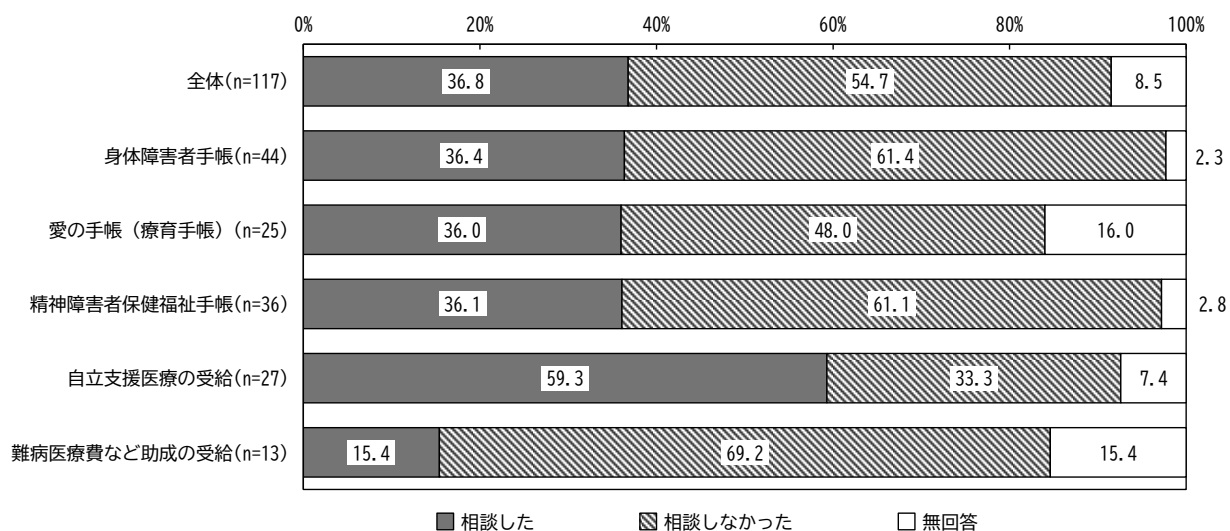
問45で「1」～「13」と答えた方におうかがいします。

問46 差別を受けたり、いやな思いをした経験について、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。(1つに○)

差別を受けたり、いやな思いをした経験について、誰かに打ち明けたり、相談したりしたことがある(「相談した」と回答した)人は、全体では36.8%で、「相談しなかった」人の54.7%を下回っています。

障害種別ごとでは、「相談した」人は自立支援医療の受給者で59.3%と障害種別の中で最も多く、次いで、身体障害者手帳所持者で36.4%となっています。

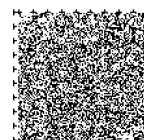
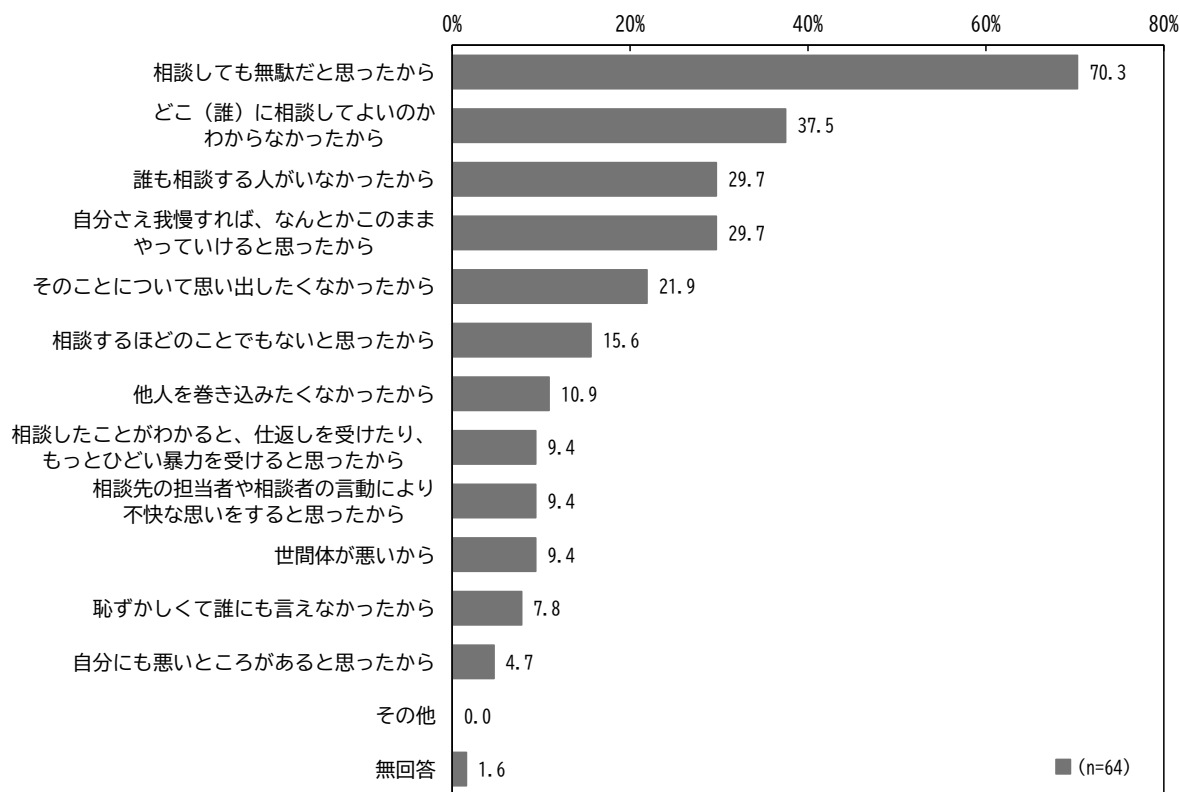
一方で、「相談しなかった」人は、難病医療費など助成の受給者で69.2%と障害種別の中で最も多く、次いで、身体障害者手帳所持者で61.4%となっています。



問46で「2. 相談しなかった」と答えた方におうかがいします。

問47 相談しなかったのは、なぜですか。(あてはまるものすべてに○)

差別を受けたことを相談しなかった理由については、全体では「相談しても無駄だと思ったから」が70.3%と最も多く、次いで、「どこ（誰）に相談してよいのかわからなかったから」が37.5%となっています。



障害種別ごとでは、全ての障害種別で「相談しても無駄だと思ったから」が最も多くなっています。

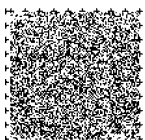
次いで、身体障害者手帳所持者、愛の手帳（療育手帳）所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者及び難病医療費など助成の受給者では「どこ（誰）に相談してよいのかわからなかったから」がそれぞれ22.2%、50.0%、50.0%、33.3%、自立支援医療の受給者では「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていると来たから」が44.4%となっています。

(単位:%)

	相談しても無駄だと思ったから	どこ(誰)に相談してよいのかわからなかったから	誰も相談する人がいなかったから	自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると来たから	そのことについて思い出しにくかったから	相談するほどのことでもないと思っただから	他人を巻き込みたくなかったから
全体 (n=64)	70.3	37.5	29.7	29.7	21.9	15.6	10.9
身体障害者手帳 (n=27)	63.0	22.2	18.5	14.8	7.4	14.8	3.7
愛の手帳 (療育手帳) (n=12)	83.3	50.0	33.3	33.3	25.0	16.7	0.0
精神障害者保健福祉手帳 (n=22)	72.7	50.0	45.5	50.0	36.4	9.1	27.3
自立支援医療の受給 (n=9)	77.8	33.3	0.0	44.4	22.2	11.1	11.1
難病医療費など助成の受給 (n=9)	66.7	33.3	33.3	11.1	33.3	33.3	11.1

(単位:%)

	相談したことがわかって、仕返しを受けたり、もつとひどい暴力を受けると来たから	相談先の担当者や相談者の言動により不快な思いをすると来たから	世間体が悪いから	恥ずかしくて誰にも言えなかったから	自分にも悪いところがあると思っただから	その他	無回答
全体 (n=64)	9.4	9.4	9.4	7.8	4.7	0.0	1.6
身体障害者手帳 (n=27)	11.1	3.7	0.0	0.0	0.0	0.0	3.7
愛の手帳 (療育手帳) (n=12)	8.3	33.3	0.0	8.3	0.0	0.0	0.0
精神障害者保健福祉手帳 (n=22)	9.1	9.1	27.3	18.2	13.6	0.0	0.0
自立支援医療の受給 (n=9)	11.1	0.0	11.1	11.1	0.0	0.0	0.0
難病医療費など助成の受給 (n=9)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0



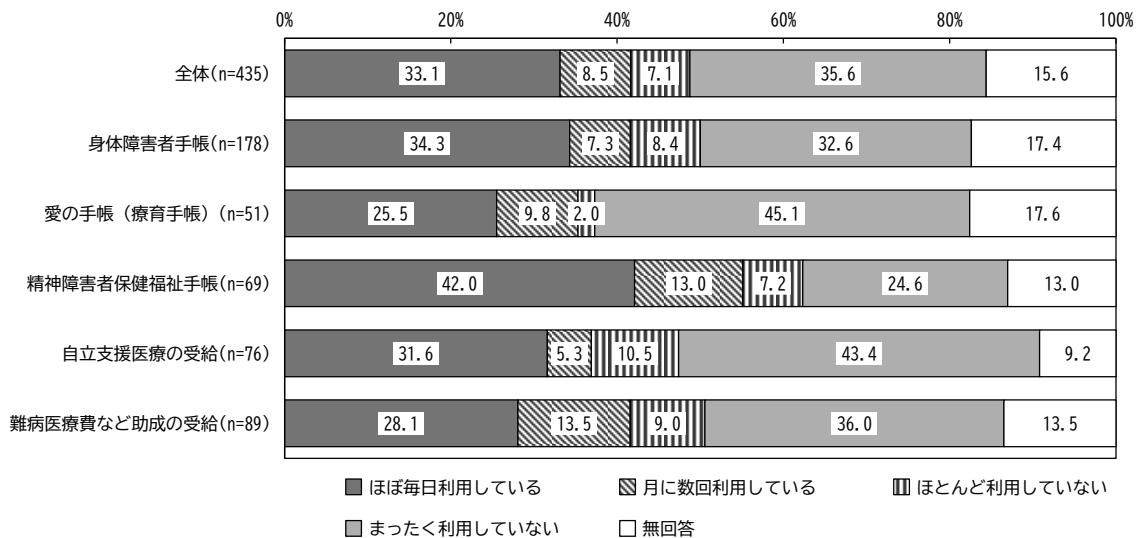
## 11 情報入手や普段の相談について

問48 あなたは現在、ICT機器（パソコンやスマートフォンなど）をどのくらい利用していますか。  
（それぞれ1つに○）

### (1) パソコン

パソコンを利用する頻度については、全体では、「まったく利用していない」が35.6%と最も多く、次いで、「ほぼ毎日利用している」が33.1%となっています。

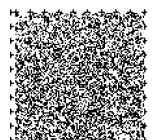
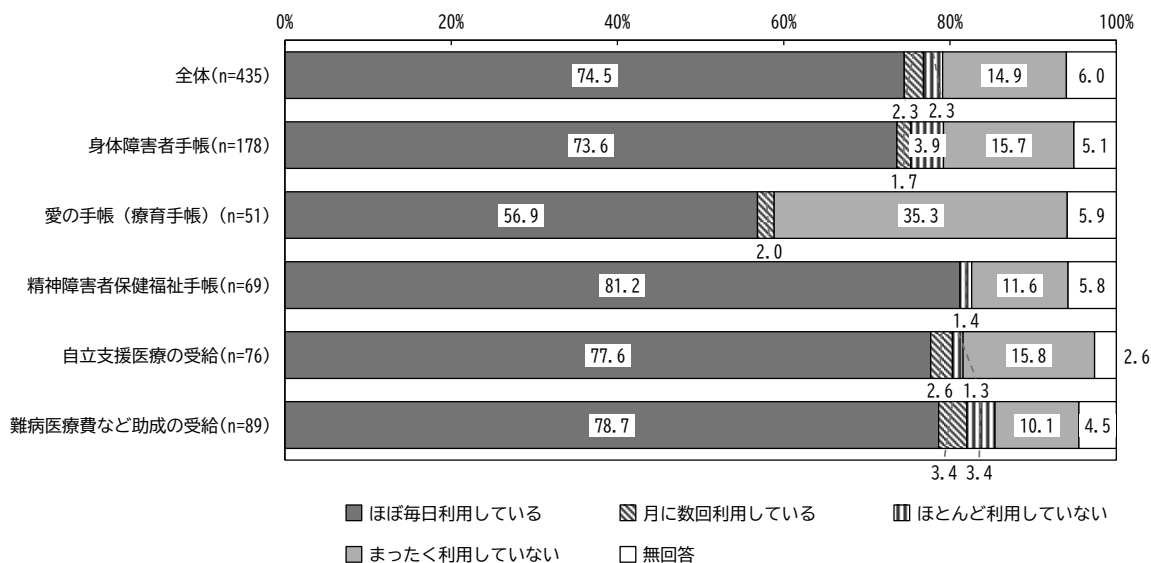
障害種別ごとでは、精神障害者保健福祉手帳所持者で「ほぼ毎日利用している」の割合が他の障害種別より多くなっています。



### (2) スマートフォン

スマートフォンを利用する頻度については、全体では、「ほぼ毎日利用している」が74.5%と最も多く、次いで、「まったく利用していない」が14.9%となっています。

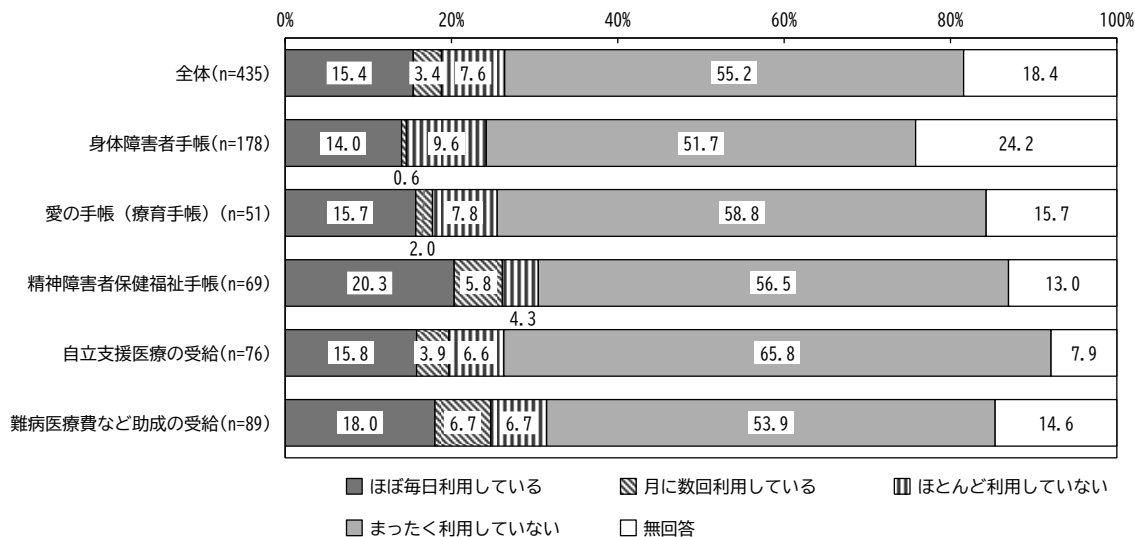
障害種別ごとでは、愛の手帳(療育手帳)所持者で「まったく利用していない」の割合が他の障害種別より多くなっています。



### (3) タブレット型端末

タブレット端末を利用する頻度については、全体では、「まったく利用していない」が55.2%と最も多く、次いで、「ほぼ毎日利用している」が15.4%となっています。

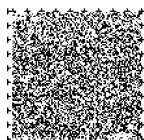
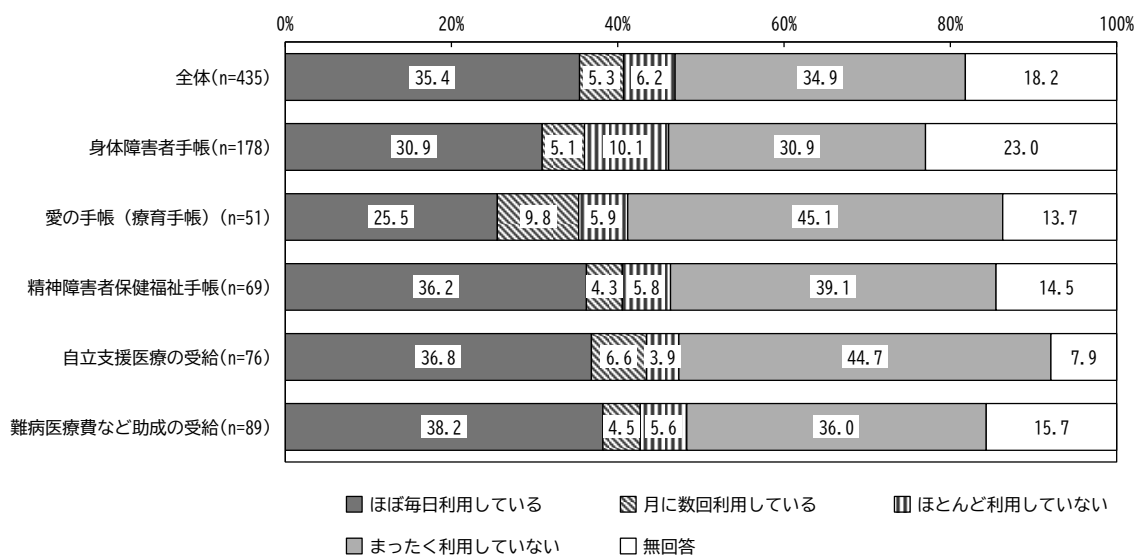
障害種別ごとでは、精神障害者保健福祉手帳所持者で「ほぼ毎日利用している」の割合が他の障害種別より多くなっています。



### (4) 携帯電話

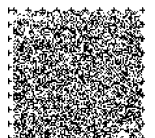
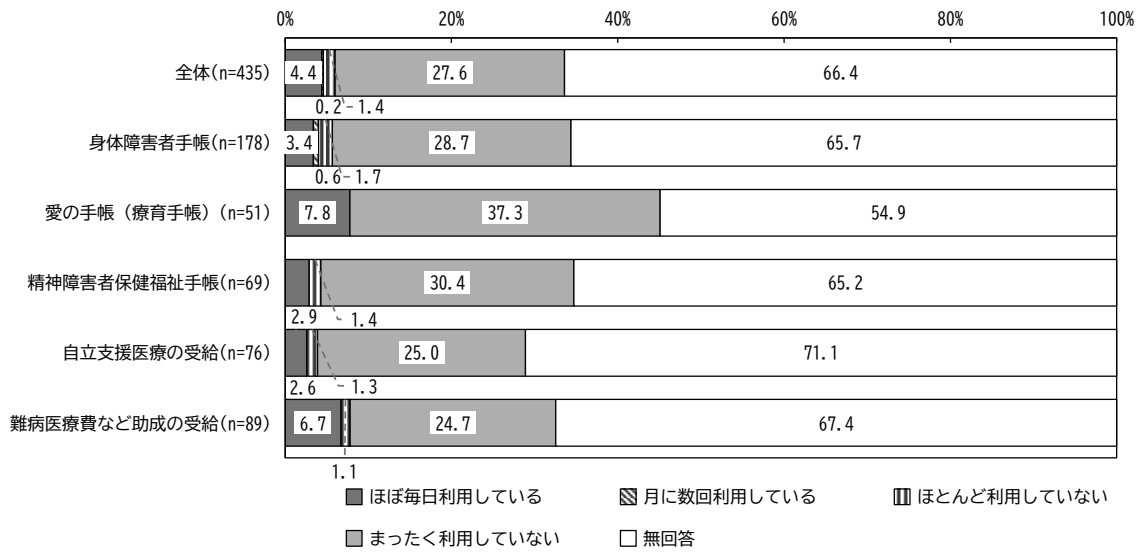
携帯電話を利用する頻度については、全体では、「ほぼ毎日利用している」が35.4%と最も多く、次いで、「まったく利用していない」が34.9%となっています。

障害種別ごとでは、難病医療費など助成の受給者で「ほぼ毎日利用している」の割合が他の障害種別より多くなっています。



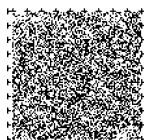
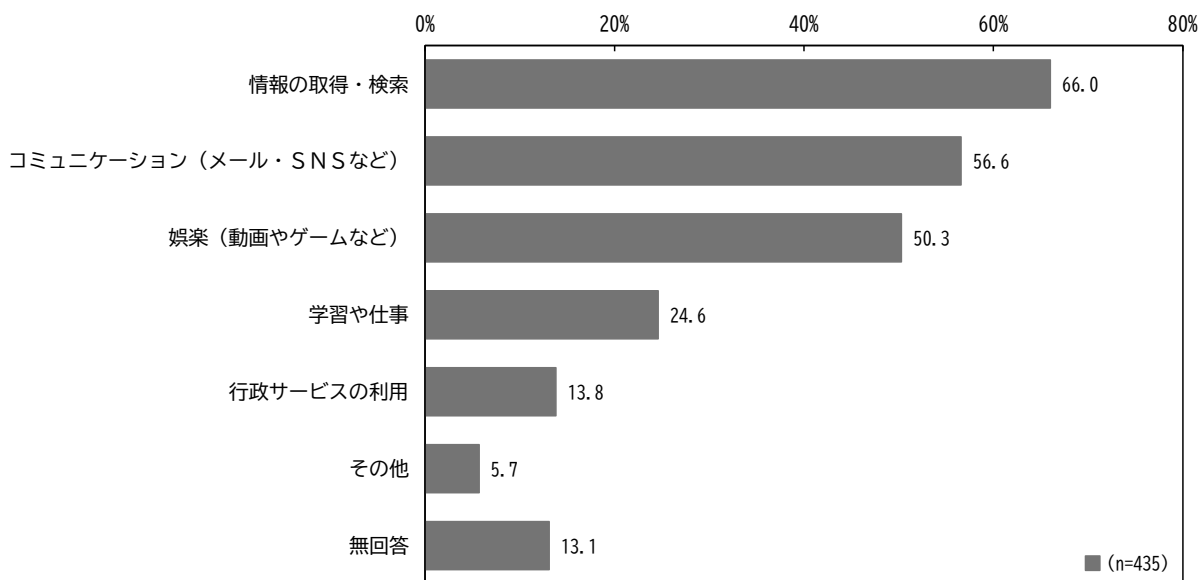
(5) その他

(1)～(4)以外のICT機器を利用する頻度については、全体ではおおよそ半数が無回答でしたが、「まったく利用していない」が27.6%と最も多く、次いで、「ほぼ毎日利用している」が4.4%となっています。



問49 あなたは普段どのような目的でICT機器を利用していますか。  
(あてはまるものすべてに○)

普段ICT機器を利用する目的については、全体では「情報の取得・検索」が66.0%と最も多く、次いで、「コミュニケーション（メール・SNSなど）」が56.6%、「娯楽（動画やゲームなど）」が50.3%となっています。

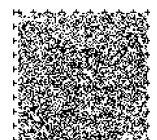


障害種別ごとでは、身体障害者手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者、自立支援医療の受給者及び難病医療費など助成の受給者では「情報の取得・検索」が最も多く、それぞれ62.9%、76.8%、69.7%、73.0%、愛の手帳（療育手帳）所持者では「娯楽（動画やゲームなど）」が56.9%となっています。

次いで、身体障害者手帳所持者、自立支援医療の受給者及び難病医療費など助成の受給者では「コミュニケーション（メール・SNSなど）」がそれぞれ53.4%、59.2%、71.9%、愛の手帳（療育手帳）所持者では「情報の取得・検索」が45.1%、精神障害者保健福祉手帳所持者では「娯楽（動画やゲームなど）」が62.3%となっています。

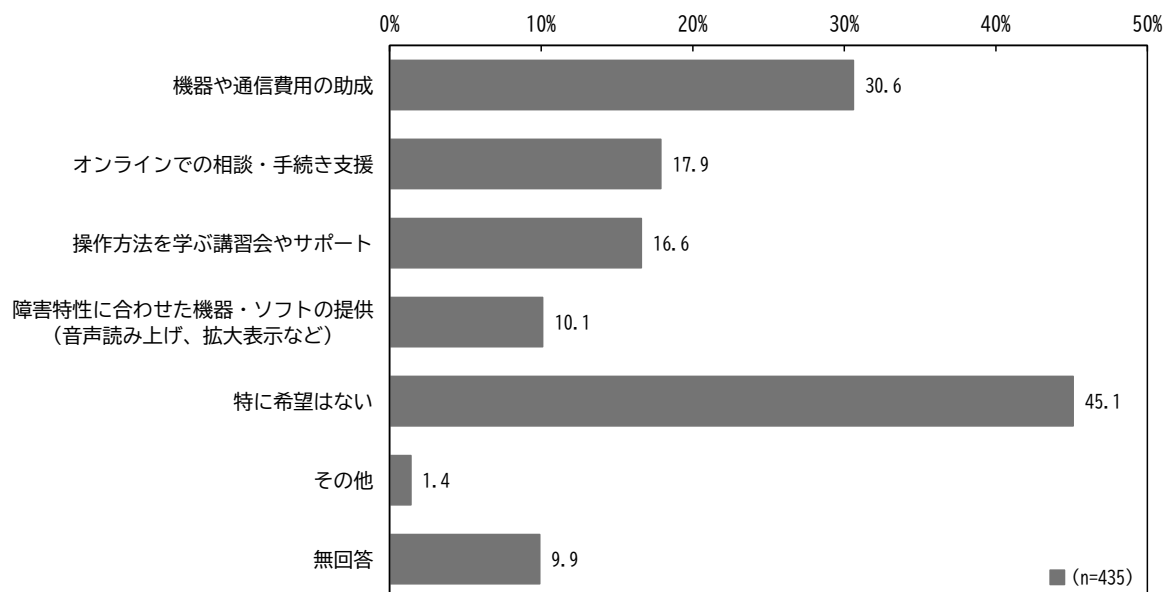
(単位:%)

	情報の取得・検索	コミュニケーション(メール・SNSなど)	娯楽(動画やゲームなど)	学習や仕事	行政サービスの利用	その他	無回答
全体 (n=435)	66.0	56.6	50.3	24.6	13.8	5.7	13.1
身体障害者手帳 (n=178)	62.9	53.4	49.4	22.5	11.2	5.1	14.0
愛の手帳(療育手帳) (n=51)	45.1	35.3	56.9	15.7	2.0	11.8	15.7
精神障害者保健福祉手帳 (n=69)	76.8	60.9	62.3	27.5	15.9	5.8	11.6
自立支援医療の受給 (n=76)	69.7	59.2	53.9	23.7	15.8	5.3	13.2
難病医療費など助成の受給 (n=89)	73.0	71.9	53.9	29.2	16.9	2.2	7.9



問50 今後、ICT機器を活用するうえで行政や地域にどのような支援を期待しますか。  
(あてはまるものすべてに○)

ICT機器を活用するうえで、今後行政や地域に期待する支援については、「特に希望はない」が45.1%と最も多く、次いで、「機器や通信費用の助成」が30.6%、「オンラインでの相談・手続き支援」が17.9%となっています。

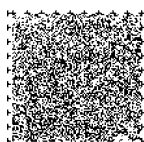


障害種別ごとでは、全ての障害種別で「特に希望はない」が最も多く、次いで、全ての障害種別で「機器や通信費用の助成」となっています。

なお、愛の手帳（療育手帳）所持者では「機器や通信費用の助成」が「オンラインでの相談・手続き支援」と同じ割合となっています。

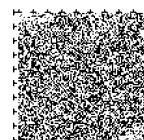
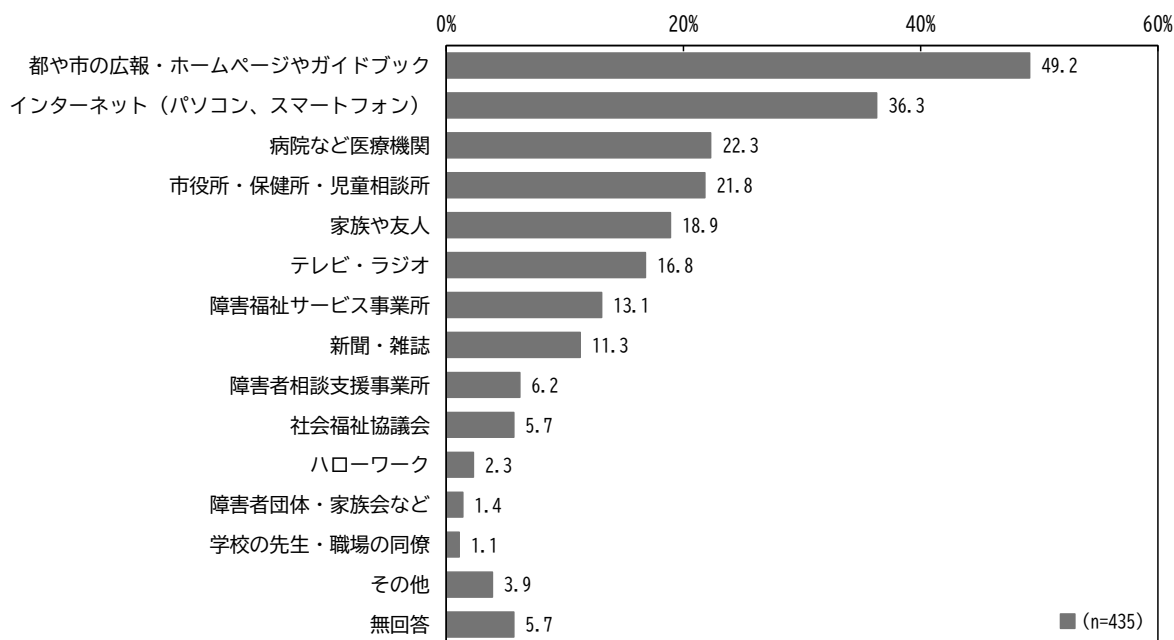
(単位:%)

	機器や通信費用の助成	オンラインでの相談・手続き支援	操作方法を学ぶ講習会やサポート	障害特性に合わせた機器・ソフトの提供 (音声読み上げ、拡大表示など)	特に希望はない	その他	無回答
全体 (n=435)	30.6	17.9	16.6	10.1	45.1	1.4	9.9
身体障害者手帳 (n=178)	30.3	15.2	19.7	10.1	42.7	1.1	10.1
愛の手帳（療育手帳） (n=51)	27.5	27.5	13.7	23.5	43.1	0.0	11.8
精神障害者保健福祉手帳 (n=69)	36.2	30.4	11.6	8.7	43.5	2.9	4.3
自立支援医療の受給 (n=76)	32.9	22.4	14.5	10.5	48.7	2.6	7.9
難病医療費など助成の受給 (n=89)	30.3	15.7	15.7	6.7	43.8	1.1	9.0



問5 1 福祉に関する情報は、どこから得ますか。(あてはまるものすべてに○)

福祉に関する情報を取得する場所については、全体では「都や市の広報・ホームページやガイドブック」が49.2%と最も多く、次いで、「インターネット(パソコン、スマートフォン)」が36.3%、「病院など医療機関」が22.3%となっています。



障害種別ごとでは、身体障害者手帳所持者、自立支援医療の受給者及び難病医療費など助成の受給者では「都や市の広報・ホームページやガイドブック」が最も多く、それぞれ50.0%、51.3%、57.3%、愛の手帳（療育手帳）所持者では「家族や友人」が37.3%、精神障害者保健福祉手帳所持者では「インターネット（パソコン、スマートフォン）」が46.4%となっています。

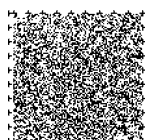
次いで、身体障害者手帳所持者、自立支援医療の受給者及び難病医療費など助成の受給者では「インターネット（パソコン、スマートフォン）」がそれぞれ34.8%、36.8%、41.6%、愛の手帳（療育手帳）所持者及び精神障害者保健福祉手帳所持者では「都や市の広報・ホームページやガイドブック」がそれぞれ31.4%、43.5%となっています。

(単位:%)

	都や市の広報・ホームページやガイドブック	インターネット（パソコン、スマートフォン）	病院など医療機関	市役所・保健所・児童相談所	家族や友人	テレビ・ラジオ	障害福祉サービス事業所	新聞・雑誌
全体 (n=435)	49.2	36.3	22.3	21.8	18.9	16.8	13.1	11.3
身体障害者手帳 (n=178)	50.0	34.8	19.1	28.1	18.5	21.9	12.4	12.4
愛の手帳（療育手帳）(n=51)	31.4	21.6	17.6	5.9	37.3	19.6	27.5	7.8
精神障害者保健福祉手帳 (n=69)	43.5	46.4	26.1	17.4	24.6	10.1	21.7	5.8
自立支援医療の受給 (n=76)	51.3	36.8	35.5	25.0	19.7	11.8	14.5	9.2
難病医療費など助成の受給 (n=89)	57.3	41.6	27.0	20.2	19.1	14.6	7.9	7.9

(単位:%)

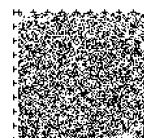
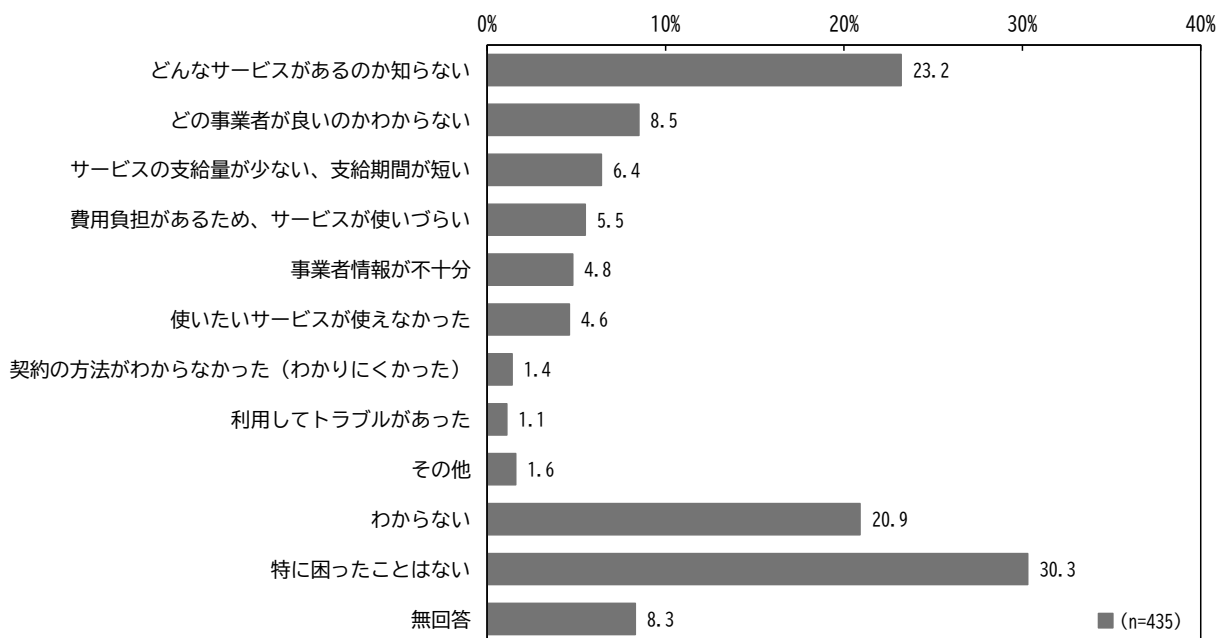
	障害者相談支援事業所	社会福祉協議会	ハローワーク	障害者団体・家族会など	学校の先生・職場の同僚	その他	無回答
全体 (n=435)	6.2	5.7	2.3	1.4	1.1	3.9	5.7
身体障害者手帳 (n=178)	3.4	6.2	1.7	1.1	0.6	3.9	6.2
愛の手帳（療育手帳）(n=51)	17.6	9.8	2.0	2.0	5.9	2.0	5.9
精神障害者保健福祉手帳 (n=69)	17.4	4.3	8.7	1.4	0.0	5.8	1.4
自立支援医療の受給 (n=76)	17.1	3.9	3.9	1.3	1.3	3.9	2.6
難病医療費など助成の受給 (n=89)	1.1	5.6	1.1	1.1	0.0	3.4	2.2



問5 2 福祉サービスを利用するときに何か困ること（困ったこと）がありますか。（2つまで○）

福祉サービスを利用するときに困ること（困ったこと）については、全体では「どんなサービスがあるのか知らない」が23.2%と最も多く、次いで、「どの事業者が良いのかわからない」が8.5%、「サービスの支給量が少ない、支給期間が短い」が6.4%、「費用負担があるため、サービスが使いづらい」が5.5%、「事業者情報が不十分」が4.8%、「使いたいサービスが使えなかった」が4.6%、「契約の方法がわからなかった（わかりにくかった）」が1.4%、「利用してトラブルがあった」が1.1%、「その他」が1.6%、「わからない」が20.9%、「特に困ったことはない」が30.3%、「無回答」が8.3%となっています。

なお、「特に困ったことはない」が30.3%、「わからない」が20.9%となっています。



障害種別ごとでは、身体障害者手帳所持者、自立支援医療の受給者及び難病医療費など助成の受給者では「特に困ったことは無い」が最も多く、それぞれ30.3%、35.5%、31.5%、精神障害者保健福祉手帳所持者では「どんなサービスがあるのか知らない」が26.1%、愛の手帳（療育手帳）所持者では「わからない」が23.5%となっています。

次いで、身体障害者手帳所持者及び難病医療費など助成の受給者では「どんなサービスがあるのか知らない」がそれぞれ24.2%、24.7%、愛の手帳（療育手帳）所持者では「どの事業者が良いのかわからない」が19.6%、精神障害者保健福祉手帳所持者及び自立支援医療の受給者では「わからない」がそれぞれ24.6%、23.7%となっています。

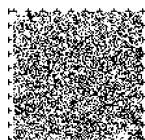
なお、愛の手帳（療育手帳）所持者では「どの事業者が良いのかわからない」が「特に困ったことは無い」と、難病医療費など助成の受給者では「どんなサービスがあるのか知らない」が「わからない」と同じ割合となっています。

(単位:%)

	い どんなサービスがあるのか知らない	どの事業者が良いのかわからない	サービス の支給量が 少ない、支給 期間が短い	費用負担があるため、サービスが 使いづらい	事業者情報が不十分	使いたいサービスが使えなかった	契約の方法がわからなかった（わ かりにくかった）	利用してトラブルがあった
全体 (n=435)	23.2	8.5	6.4	5.5	4.8	4.6	1.4	1.1
身体障害者手帳 (n=178)	24.2	7.9	9.0	5.1	6.2	5.6	1.1	1.7
愛の手帳（療育手帳）(n=51)	15.7	19.6	5.9	9.8	11.8	9.8	0.0	2.0
精神障害者保健福祉手帳 (n=69)	26.1	10.1	10.1	7.2	2.9	8.7	1.4	1.4
自立支援医療の受給 (n=76)	22.4	11.8	5.3	6.6	5.3	2.6	1.3	0.0
難病医療費など助成の受給 (n=89)	24.7	10.1	2.2	7.9	3.4	2.2	0.0	0.0

(単位:%)

	その他	わからない	特に困ったことはない	無回答
全体 (n=435)	1.6	20.9	30.3	8.3
身体障害者手帳 (n=178)	1.7	16.9	30.3	7.9
愛の手帳（療育手帳）(n=51)	2.0	23.5	19.6	5.9
精神障害者保健福祉手帳 (n=69)	4.3	24.6	18.8	5.8
自立支援医療の受給 (n=76)	1.3	23.7	35.5	6.6
難病医療費など助成の受給 (n=89)	0.0	24.7	31.5	9.0

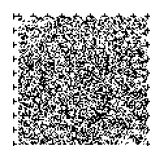
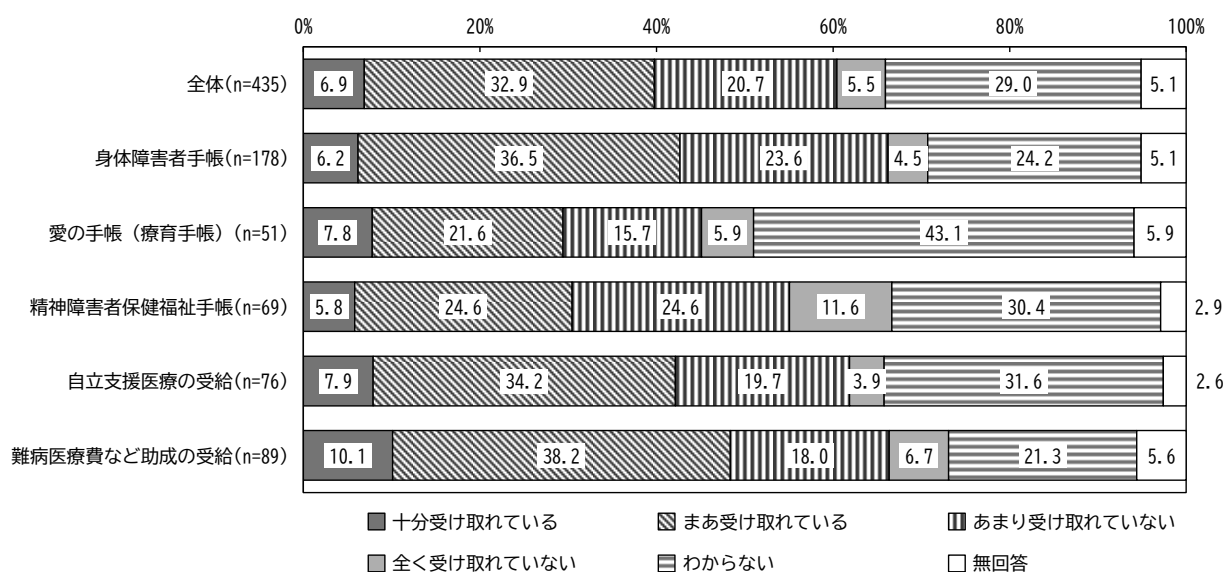


問53 市からの情報を受け取ることについて、あなたはどのように感じますか。(1つに○)

市からの情報を受け取ることについては、全体では「受け取れている」（「十分受け取れている」及び「まあ受け取れている」の合計。以下、同じ。）が39.8%で、「受け取れていない」（「あまり受け取れていない」及び「全く受け取れていない」の合計。以下、同じ。）の26.2%を上回っています。

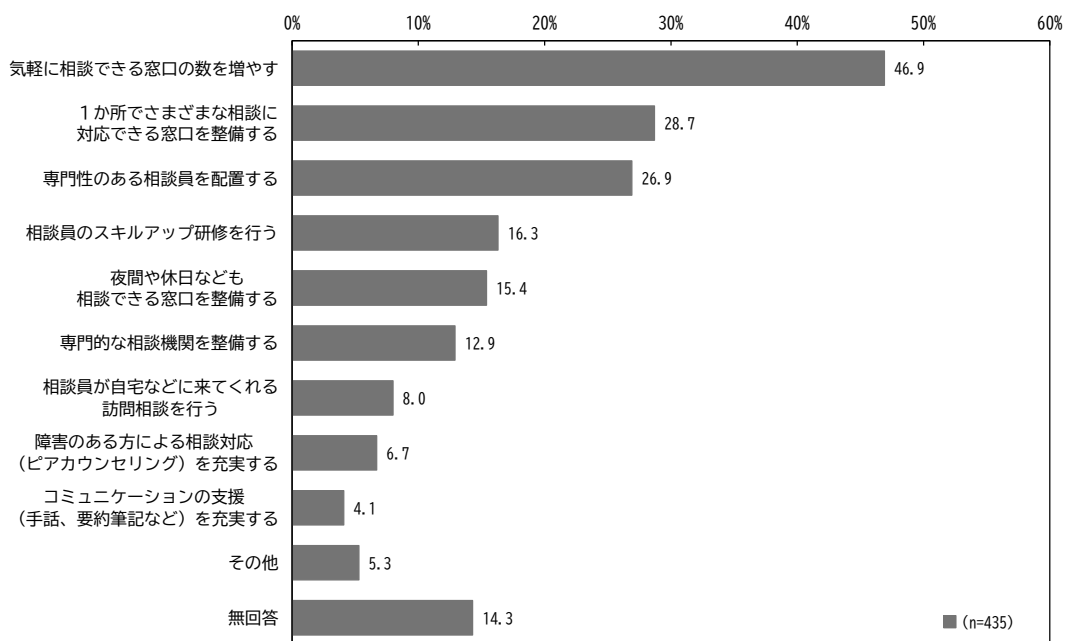
障害種別ごとでは、「受け取れている」と回答した人は、難病医療費など助成の受給者で48.3%と、障害種別の中で最も多く、次いで、身体障害者手帳所持者で42.7%となっています。

一方で、「受け取れていない」と回答した人は精神障害者保健福祉手帳所持者で36.2%と最も多く、次いで、身体障害者手帳所持者で28.1%となっています。



問5 4 相談事業を充実するために（相談したときに満足できるよう）特にどのようなことをすれば良いと思いますか。（3つまで○）

相談事業を充実するために必要なことについては、全体では「気軽に相談できる窓口の数を増やす」が46.9%と最も多く、次いで、「1か所でさまざまな相談に対応できる窓口を整備する」が28.7%、「専門性のある相談員を配置する」が26.9%となっています。



障害種別ごとでは、全ての障害種別で「気軽に相談できる窓口の数を増やす」が最も多くなっています。

次いで、身体障害者手帳所持者、自立支援医療の受給者及び難病医療費など助成の受給者では「1か所でさまざまな相談に対応できる窓口を整備する」がそれぞれ24.7%、30.3%、33.7%、愛の手帳（療育手帳）所持者及び精神障害者保健福祉手帳所持者では「専門性のある相談員を配置する」がそれぞれ33.3%、29.0%となっています。

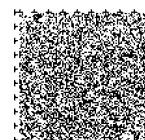
なお、愛の手帳（療育手帳）所持者では「専門性のある相談員を配置する」が「相談員のスキルアップ研修を行う」と同じ割合となっています。

(単位:%)

	気軽に相談できる窓口の数を増やす	1か所でさまざまな相談に対応できる窓口を整備する	専門性のある相談員を配置する	相談員のスキルアップ研修を行う	夜間や休日なども相談できる窓口を整備する	専門的な相談機関を整備する	相談員が自宅などに来てくれる訪問相談を行う	障害のある方による相談対応（ピアカウンセリング）を充実する
全体 (n=435)	46.9	28.7	26.9	16.3	15.4	12.9	8.0	6.7
身体障害者手帳 (n=178)	49.4	24.7	23.0	14.0	14.6	11.8	6.7	6.7
愛の手帳（療育手帳）(n=51)	52.9	31.4	33.3	33.3	13.7	13.7	2.0	15.7
精神障害者保健福祉手帳 (n=69)	50.7	23.2	29.0	15.9	20.3	8.7	8.7	14.5
自立支援医療の受給 (n=76)	51.3	30.3	27.6	21.1	19.7	15.8	9.2	6.6
難病医療費など助成の受給 (n=89)	40.4	33.7	28.1	13.5	12.4	12.4	12.4	3.4

(単位:%)

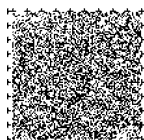
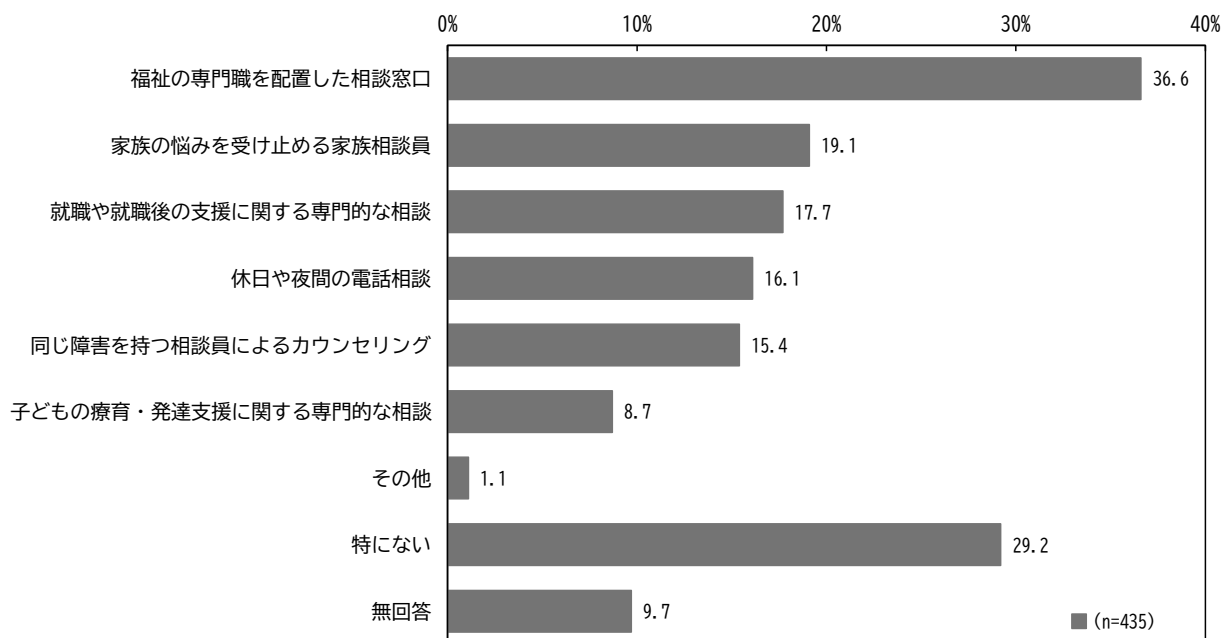
	コミュニケーションの支援（手話、要約筆記など）を充実する	その他	無回答
全体 (n=435)	4.1	5.3	14.3
身体障害者手帳 (n=178)	5.1	7.3	15.7
愛の手帳（療育手帳）(n=51)	3.9	2.0	7.8
精神障害者保健福祉手帳 (n=69)	7.2	2.9	8.7
自立支援医療の受給 (n=76)	1.3	5.3	11.8
難病医療費など助成の受給 (n=89)	3.4	4.5	11.2



問55 あなたは、相談支援体制について、どのようなことの充実を望みますか。

(あてはまるものすべてに○)

相談支援体制についてどのようなことの充実を望むかについては、全体では「福祉の専門職を配置した相談窓口」が36.6%と最も多く、次いで、「特にない」が29.2%、「家族の悩みを受け止める家族相談員」が19.1%となっています。

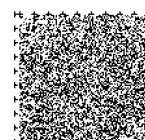


障害種別ごとでは、全ての障害種別で「福祉の専門職を配置した相談窓口」が最も多くなっています。

次いで、愛の手帳（療育手帳）所持者及び精神障害者保健福祉手帳所持者では「就職や就職後の支援に関する専門的な相談」がそれぞれ27.5%、34.8%、身体障害者手帳所持者、自立支援医療の受給者及び難病医療費など助成の受給者では「特になし」がそれぞれ32.0%、32.9%、31.5%となっています。

(単位:%)

	福祉の専門職を配置した相談窓口	家族の悩みを受け止める家族相談員	就職や就職後の支援に関する専門的な相談	休日や夜間の電話相談	同じ障害を持つ相談員によるカウンセリング	子どもの療育・発達支援に関する専門的な相談	その他	特になし	無回答
全体 (n=435)	36.6	19.1	17.7	16.1	15.4	8.7	1.1	29.2	9.7
身体障害者手帳 (n=178)	36.5	15.2	10.1	11.8	18.0	5.6	1.7	32.0	10.1
愛の手帳（療育手帳） (n=51)	47.1	25.5	27.5	17.6	9.8	9.8	0.0	19.6	7.8
精神障害者保健福祉手帳 (n=69)	39.1	29.0	34.8	23.2	26.1	8.7	0.0	23.2	4.3
自立支援医療の受給 (n=76)	40.8	22.4	28.9	25.0	17.1	10.5	1.3	32.9	7.9
難病医療費など助成の受給 (n=89)	34.8	14.6	16.9	14.6	10.1	10.1	0.0	31.5	6.7



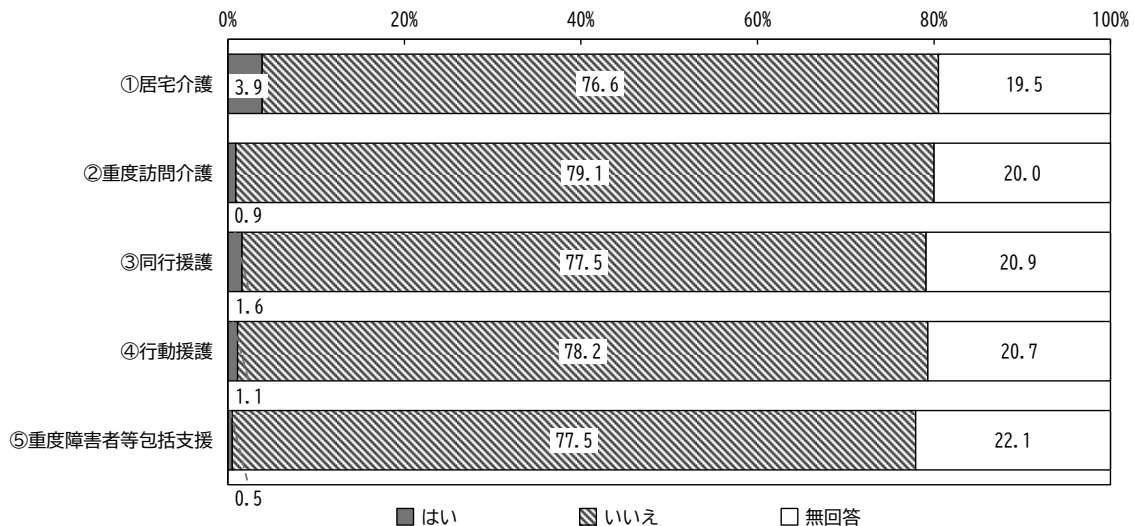
## 12 障害福祉サービスについて

問56 次のサービスについて、あなたの「(1) 利用状況」と「(2) 今後(2~3年以内)の利用希望」を選択肢から1つずつ選んでください。

### (1) 訪問系サービス

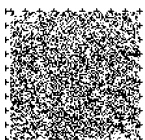
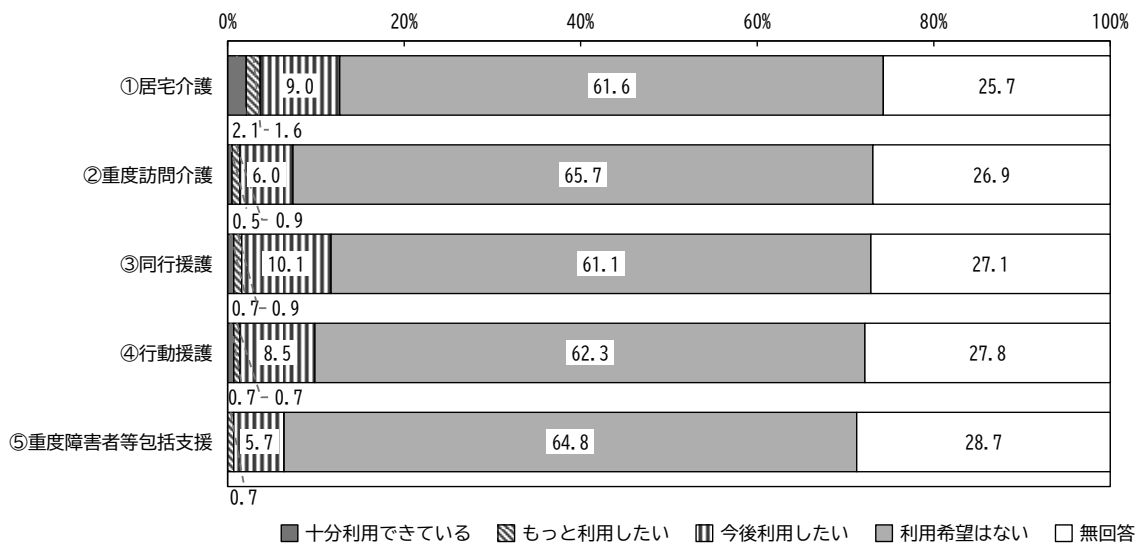
#### ■現在の利用状況(現在利用しているか)

武蔵村山市の訪問系サービスの利用状況について、「はい(利用している人)」は、①居宅介護で3.9%と最も多く、次いで、③同行援護が1.6%、④行動援護が1.1%となっています。



#### ■今後の利用希望

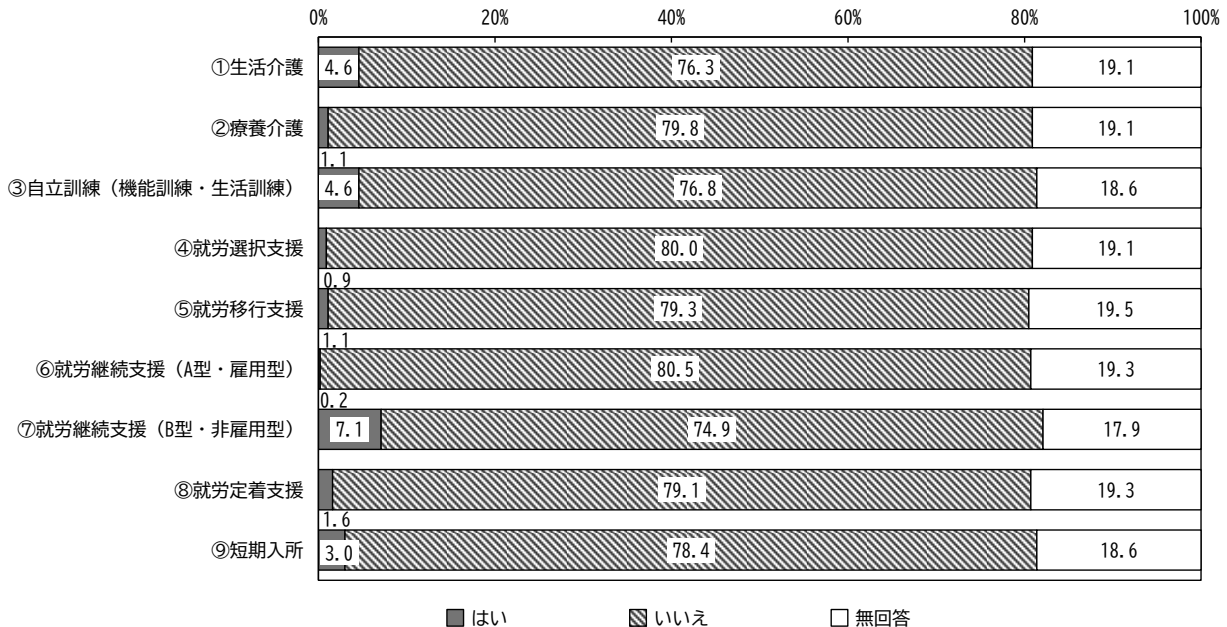
武蔵村山市の訪問系サービスの今後の利用希望について、いずれのサービスも「利用希望はない」が最も多くなっています。「今後利用したい」人は、③同行援護が10.1%と最も多く、次いで、①居宅介護が9.0%となっています。



## (2) 日中活動系サービス

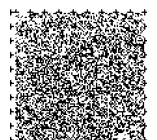
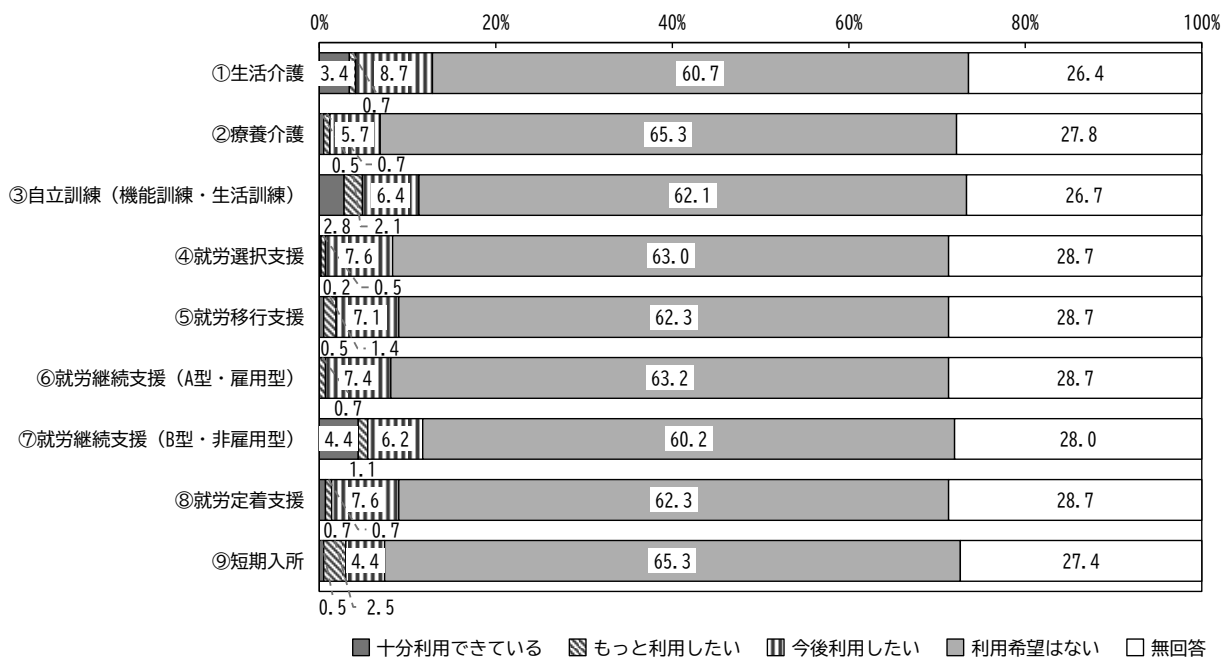
### ■現在の利用状況（現在利用しているか）

武蔵村山市の日中活動系サービスの利用状況について、「はい（利用している人）」は、⑦就労継続支援（B型・非雇用型）が7.1%と最も多く、次いで、①生活介護、③自立訓練（機能訓練・生活訓練）がともに4.6%となっています。



### ■今後の利用希望

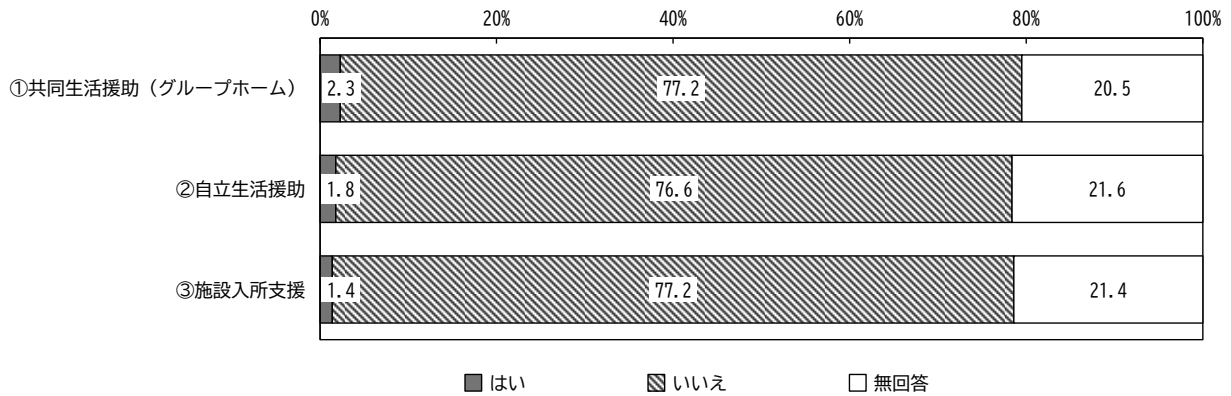
武蔵村山市の日中活動系サービスの今後の利用希望について、いずれのサービスも「利用希望はない」が最も多くなっています。「今後利用したい」人は、①生活介護が8.7%と最も多く、次いで、④就労選択支援、⑧就労定着支援がともに7.6%となっています。



### (3) 居住系サービス

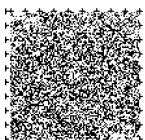
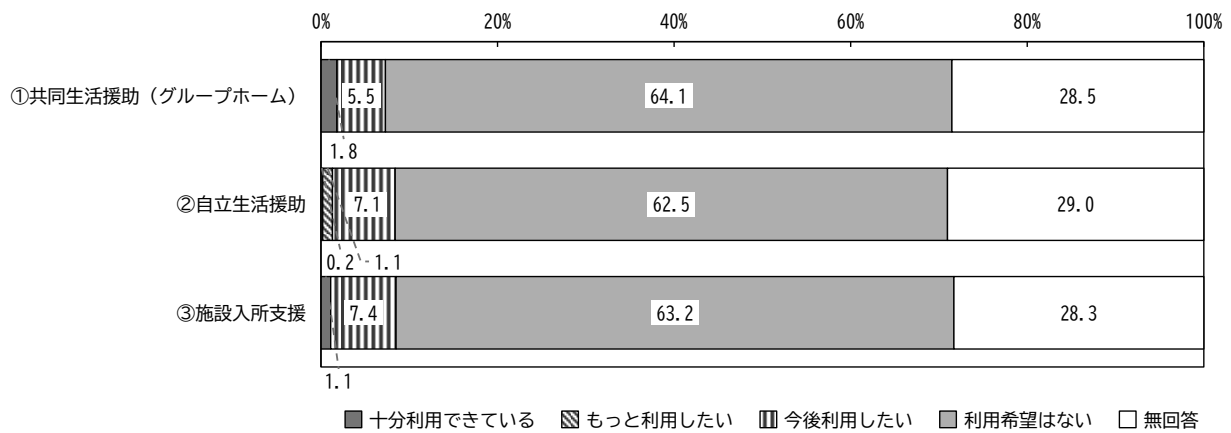
#### ■現在の利用状況（現在利用しているか）

武蔵村山市の居住系サービスの利用状況について、「はい（利用している人）」は、①共同生活援助（グループホーム）が2.3%と最も多く、次いで、②自立生活援助が1.8%、③施設入所支援が1.4%となっています。



#### ■今後の利用希望

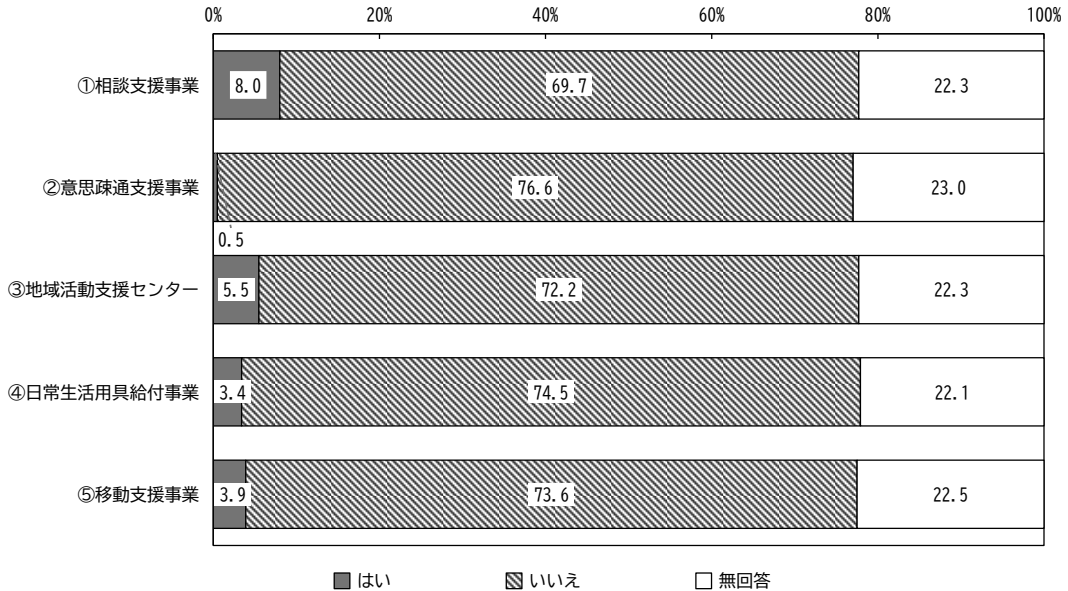
武蔵村山市の居住系サービスの今後の利用希望について、いずれのサービスも「利用希望はない」が最も多くなっています。「今後利用したい」人は、③施設入所支援が7.4%と最も多く、次いで、②自立生活援助が7.1%、①共同生活援助（グループホーム）が5.5%となっています。



#### (4) 地域生活支援事業系サービス

##### ■現在の利用状況（現在利用しているか）

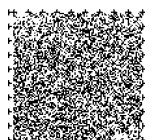
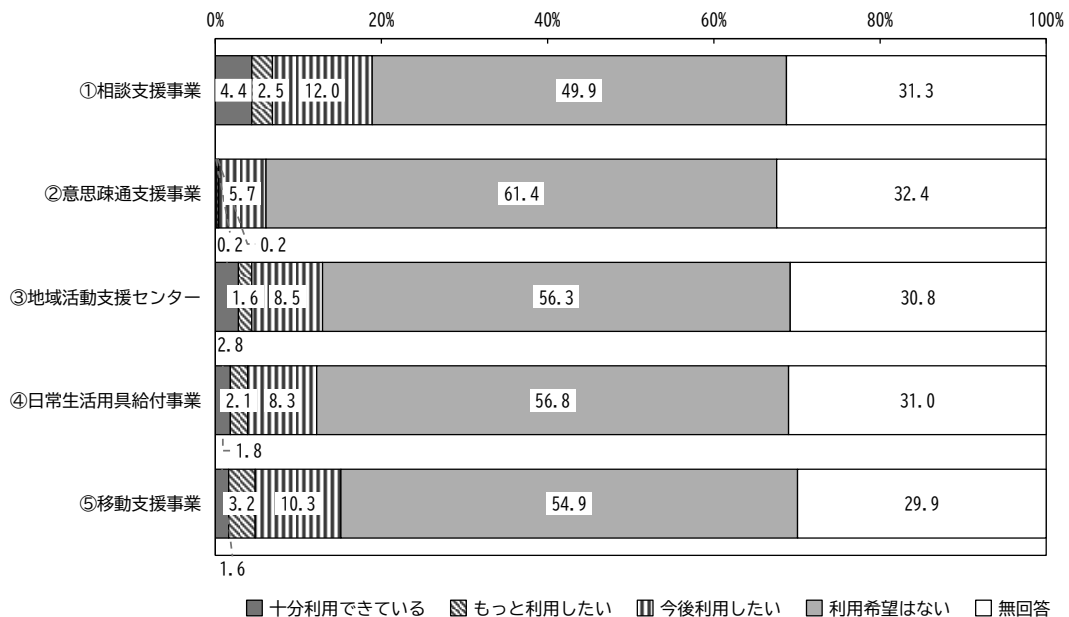
武蔵村山市の地域生活支援事業系サービスの利用状況について、「はい（利用している人）」は、①相談支援事業が8.0%と最も多く、次いで、③地域活動支援センターが5.5%、⑤移動支援事業が3.9%となっています。



##### ■今後の利用希望

武蔵村山市の地域生活支援事業系サービスの今後の利用希望について、「十分利用できている」人は、①相談支援事業が4.4%と最も多く、次いで、③地域活動支援センターが2.8%となっています。

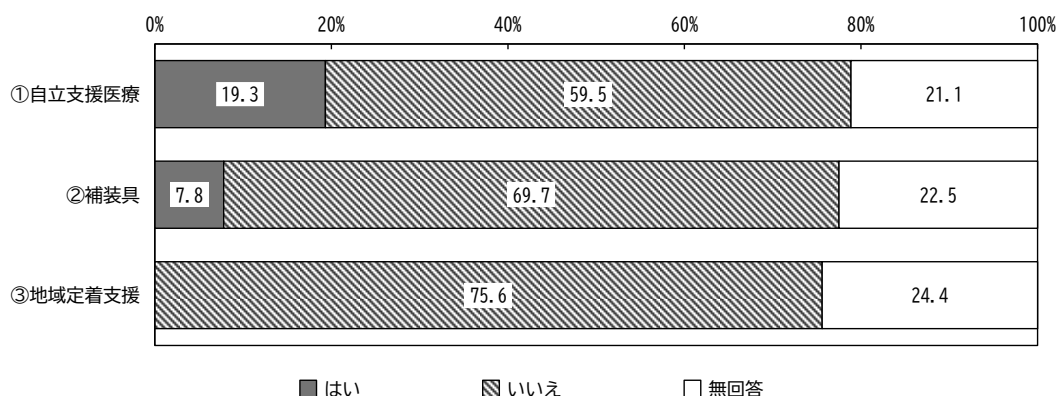
「今後利用したい」人は、①相談支援事業が12.0%と最も多く、次いで、⑤移動支援事業が10.3%となっています。



## (5) その他サービス

### ■現在の利用状況（現在利用しているか）

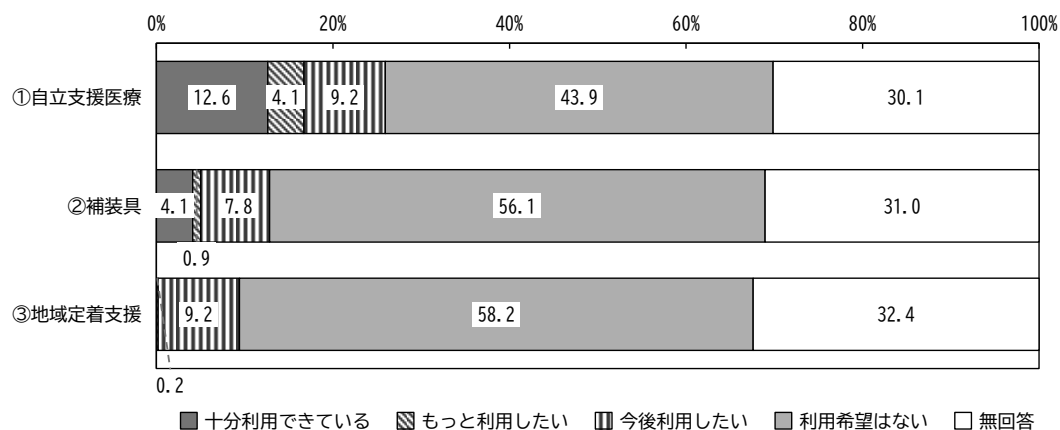
武蔵村山市の（１）～（４）以外の福祉サービスの利用状況について、「はい（利用している人）」は、①自立支援医療が19.3%と最も多く、次いで、②補装具が7.8%となっています。



### ■今後の利用希望

武蔵村山市の（１）～（４）以外の福祉サービスの今後の利用希望について、「十分利用できている」人は、①自立支援医療が12.6%と最も多く、次いで、②補装具が4.1%となっています。

「今後利用したい」人は、①自立支援医療、③地域定着支援がともに9.2%と最も多く、次いで、②補装具が7.8%となっています。



### 13 障害者・障害児施策全般について

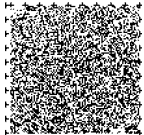
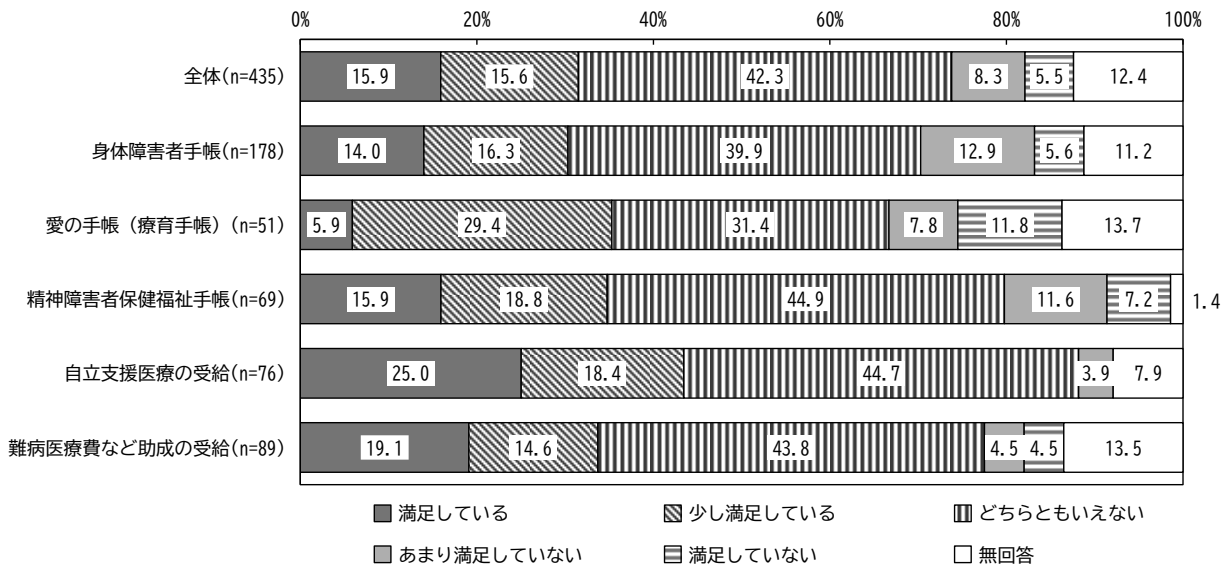
問57 武蔵村山市の福祉サービス全般について、満足していますか。(1つに○)

武蔵村山市の福祉サービス全般の満足度については、全体では「どちらともいえない」が42.3%と最も多くなっていますが、「満足している」（「満足している」及び「少し満足している」の合計。以下、同じ。）が31.5%で、「満足していない」（「あまり満足していない」及び「満足していない」の合計。以下、同じ。）の13.8%を上回っています。

障害種別ごとでは、「満足している」と回答した人は、自立支援医療の受給者で25.0%と、障害種別の中で最も多く、次いで、難病医療費など助成の受給者で19.1%となっています。

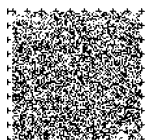
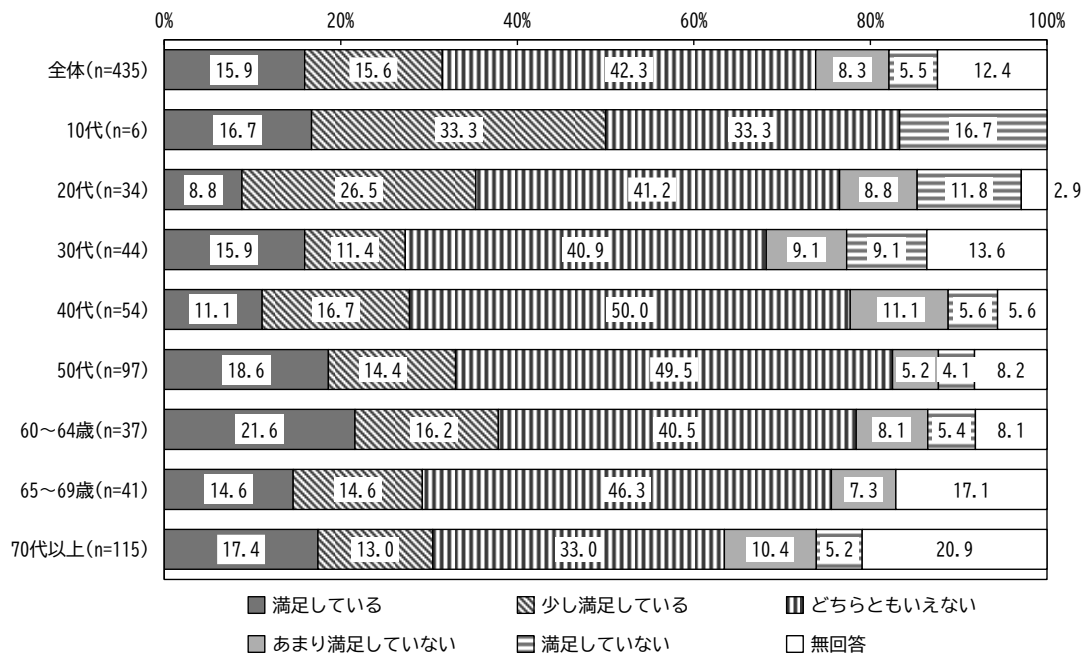
一方で、「満足していない」と回答した人は愛の手帳（療育手帳）所持者で11.8%と最も多く、次いで、精神障害者保健福祉手帳所持者で7.2%となっています。

なお、いずれの障害種別でも「どちらともいえない」が最も多く、精神障害者保健福祉手帳所持者で44.9%、自立支援医療の受給者で44.7%となっています。



年代別では、武蔵村山市のサービス全般について「満足している」と回答した人は、60～64歳で21.6%と最も多く、次いで、50代で18.6%となっています。

一方で、「満足していない」と回答した人は、10代で16.7%と最も多く、次いで、20代で11.8%となっています。

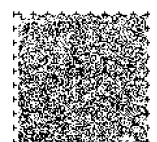
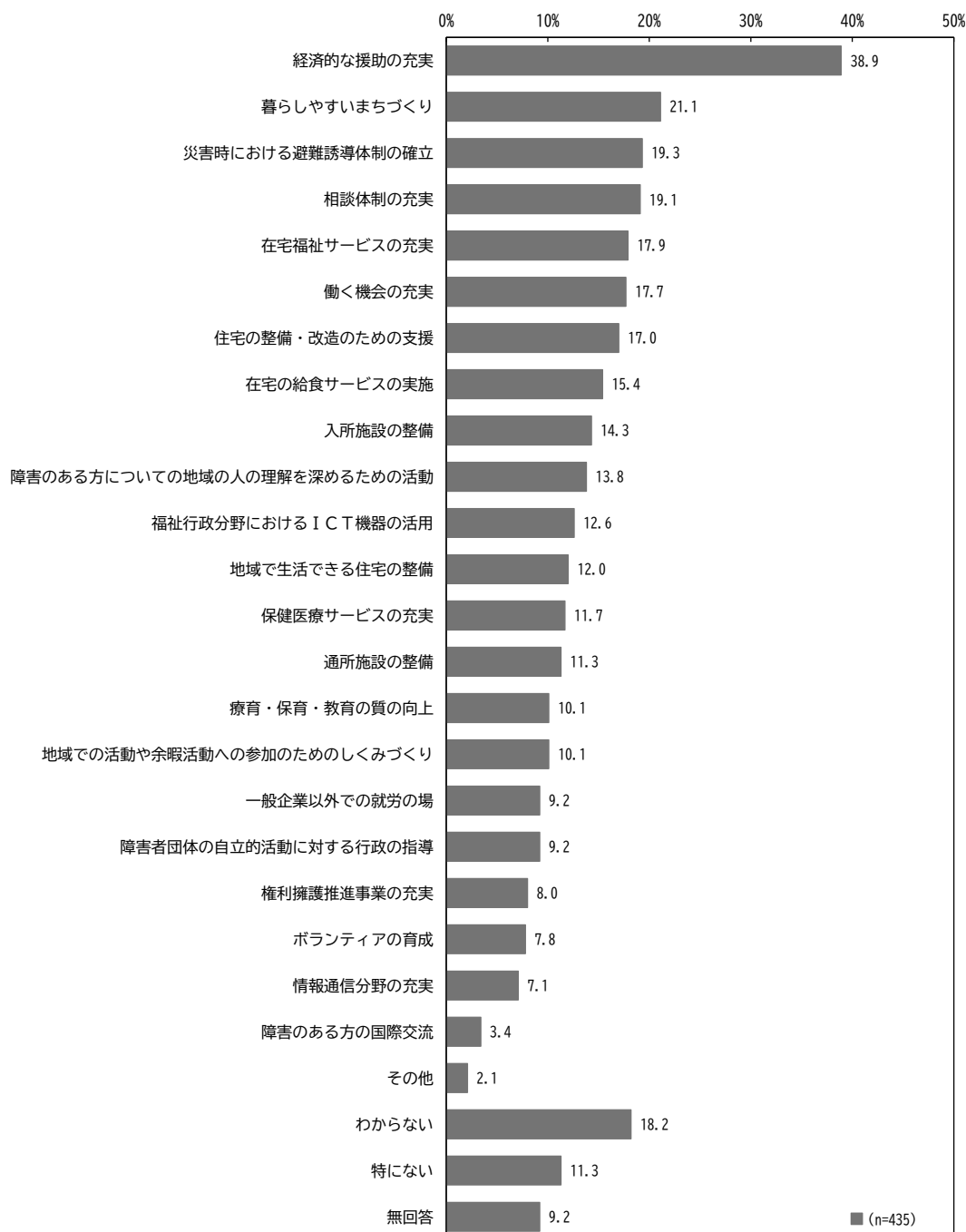


問58 今後どのようなことを特にしていく必要があると思われますか。(あてはまるものすべてに○)

今後の施策として必要なことについては、全体では「経済的な援助の充実」が38.9%と最も多く、次いで、「暮らしやすいまちづくり」が21.1%、「災害時における避難誘導體制の確立」が19.3%となっています。

障害種別ごとでは、全ての障害種別で「経済的な援助の充実」が最も多くなっています。

次いで、身体障害者手帳所持者では「暮らしやすいまちづくり」が27.5%、愛の手帳（療育手帳）所持者及び精神障害者保健福祉手帳所持者では「働く機会の充実」がそれぞれ31.4%、36.2%、自立支援医療の受給者では「相談体制の充実」が30.3%、難病医療費など助成の受給者では「在宅の給食サービスの実施」が21.3%となっています。



(単位:%)

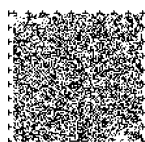
	経済的な援助の充実	暮らしやすいまちづくり	災害時における避難誘導体制の確立	相談体制の充実	在宅福祉サービスの充実	働く機会の充実	住宅の整備・改造のための支援	在宅の給食サービスの実施	入所施設の整備	障害のある方についての地域の人の理解を深めるための活動
全体 (n=435)	38.9	21.1	19.3	19.1	17.9	17.7	17.0	15.4	14.3	13.8
身体障害者手帳 (n=178)	37.6	27.5	21.9	16.3	17.4	12.9	22.5	14.6	11.2	12.9
愛の手帳 (療育手帳) (n=51)	33.3	13.7	17.6	29.4	19.6	31.4	5.9	5.9	23.5	29.4
精神障害者保健福祉手帳 (n=69)	50.7	14.5	18.8	30.4	21.7	36.2	17.4	20.3	18.8	21.7
自立支援医療の受給 (n=76)	44.7	27.6	22.4	30.3	19.7	23.7	13.2	15.8	14.5	17.1
難病医療費など助成の受給 (n=89)	40.4	16.9	18.0	11.2	19.1	9.0	16.9	21.3	14.6	9.0

(単位:%)

	福祉行政分野におけるICT機器の活用性向上、就業機会	地域で生活できる住宅の整備	保健医療サービスの充実	通所施設の整備	療育・保育・教育の質の向上	地域での活動や余暇活動への参加のためのしくみづくり	一般企業以外での就労の場	障害者団体の自立的活動に対する行政の指導	権利擁護推進事業の充実	ボランティアの育成
全体 (n=435)	12.6	12.0	11.7	11.3	10.1	10.1	9.2	9.2	8.0	7.8
身体障害者手帳 (n=178)	14.6	9.0	14.6	10.7	8.4	9.6	5.1	10.1	5.1	8.4
愛の手帳 (療育手帳) (n=51)	13.7	29.4	3.9	19.6	13.7	19.6	19.6	15.7	15.7	9.8
精神障害者保健福祉手帳 (n=69)	14.5	15.9	14.5	15.9	10.1	17.4	18.8	13.0	13.0	8.7
自立支援医療の受給 (n=76)	11.8	17.1	11.8	9.2	11.8	17.1	15.8	13.2	7.9	9.2
難病医療費など助成の受給 (n=89)	7.9	6.7	5.6	9.0	9.0	5.6	4.5	3.4	3.4	5.6

(単位:%)

	情報通信分野の充実	障害のある方の国際交流	その他	わからない	特になし	無回答
全体 (n=435)	7.1	3.4	2.1	18.2	11.3	9.2
身体障害者手帳 (n=178)	7.9	3.4	2.2	19.7	11.8	10.7
愛の手帳 (療育手帳) (n=51)	5.9	3.9	0.0	11.8	9.8	7.8
精神障害者保健福祉手帳 (n=69)	7.2	5.8	2.9	21.7	7.2	1.4
自立支援医療の受給 (n=76)	6.6	5.3	3.9	13.2	15.8	3.9
難病医療費など助成の受給 (n=89)	5.6	2.2	1.1	14.6	10.1	9.0

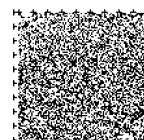
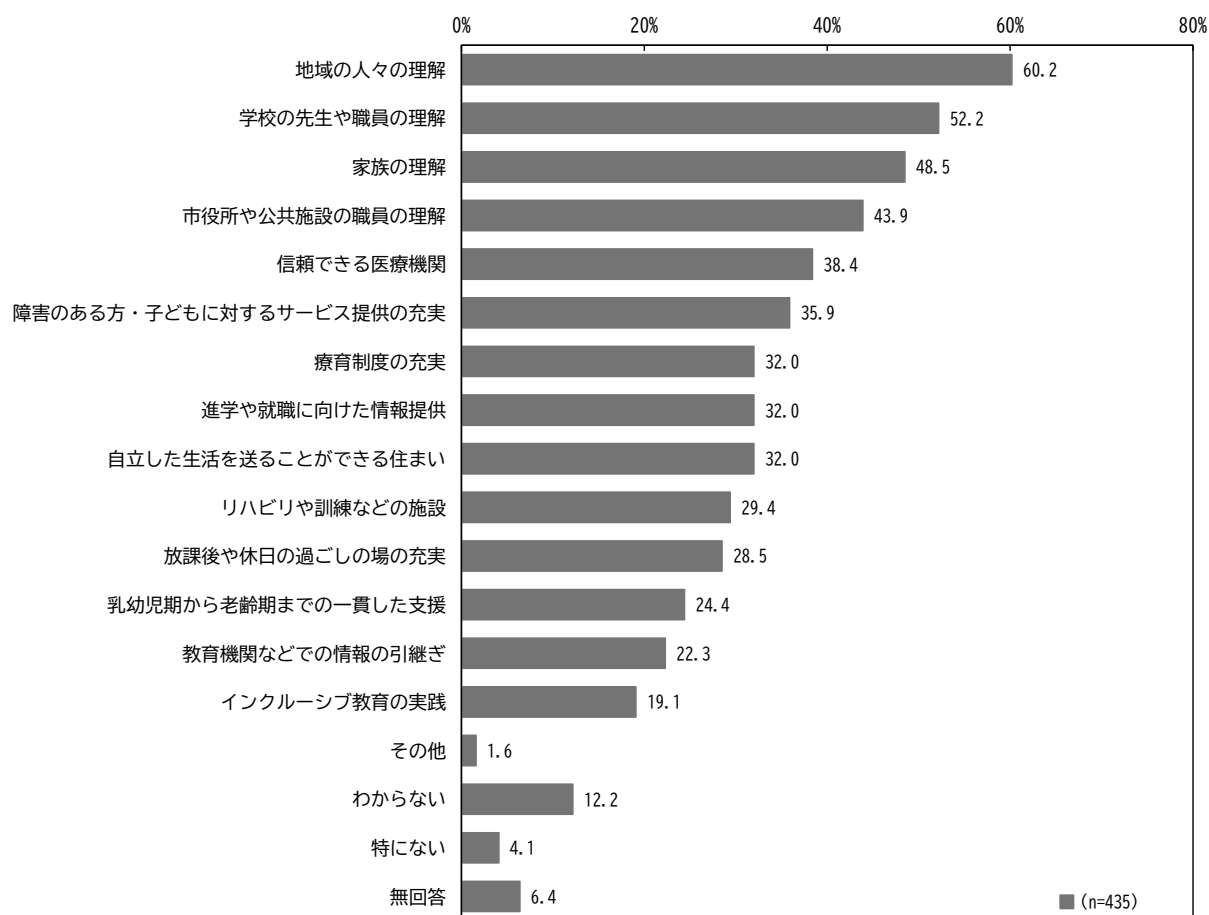


問59 障害のある子どもたちが武蔵村山市で成長するにあたってどのようなことが重要と思いますか。(あてはまるものすべてに○)

障害のある子どもたちが武蔵村山市で成長するために重要なことについては、全体では「地域の人々の理解」が60.2%と最も多く、次いで、「学校の先生や職員の理解」が52.2%、「家族の理解」が48.5%となっています。

また、いずれの障害種別でも「地域の人々の理解」が最も多くなっています。

次いで、身体障害者手帳所持者、愛の手帳（療育手帳）所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者及び難病医療費など助成の受給者では「学校の先生や職員の理解」がそれぞれ47.8%、54.9%、65.2%、51.7%、自立支援医療の受給者では「家族の理解」が63.2%となっています。

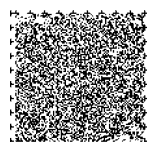


(単位:%)

	地域の 人々の理解	学校の 先生や 職員の 理解	家族の 理解	市役所 や公共 施設の 職員の 理解	信頼 できる 医療機 関	障害の ある方 々にと もに対 するサ ービス 提供の 充実	療育制 度の充 実	進学や 就職に 向けた 情報提 供	自立し た生活 を送る ことが できる 住まい
全体 (n=435)	60.2	52.2	48.5	43.9	38.4	35.9	32.0	32.0	32.0
身体障害者手帳 (n=178)	60.1	47.8	42.1	43.3	32.6	37.1	30.3	26.4	27.0
愛の手帳 (療育手帳) (n=51)	60.8	54.9	52.9	45.1	49.0	41.2	37.3	27.5	41.2
精神障害者保健福祉手帳 (n=69)	66.7	65.2	62.3	53.6	53.6	46.4	39.1	47.8	43.5
自立支援医療の受給 (n=76)	67.1	59.2	63.2	51.3	50.0	46.1	32.9	38.2	35.5
難病医療費など助成の受給 (n=89)	62.9	51.7	47.2	40.4	36.0	24.7	28.1	29.2	29.2

(単位:%)

	リハビ リや訓 練など の施設	放課後 や休日 の過ご し場の 充実	乳幼児 期から 老齡期 までの 一貫し た支援	教育機 関など での情 報の引 継ぎ	インク ルージ ブ教育 の実践	その他	わから ない	特にな い	無回答
全体 (n=435)	29.4	28.5	24.4	22.3	19.1	1.6	12.2	4.1	6.4
身体障害者手帳 (n=178)	29.8	25.3	23.6	18.5	18.0	1.7	12.4	5.1	5.6
愛の手帳 (療育手帳) (n=51)	29.4	31.4	23.5	27.5	19.6	0.0	5.9	5.9	5.9
精神障害者保健福祉手帳 (n=69)	33.3	37.7	26.1	30.4	23.2	1.4	15.9	2.9	2.9
自立支援医療の受給 (n=76)	30.3	36.8	28.9	28.9	23.7	2.6	14.5	1.3	1.3
難病医療費など助成の受給 (n=89)	23.6	25.8	24.7	19.1	13.5	1.1	9.0	2.2	9.0



## 14 自由意見

問60 福祉の各種制度の問題点、障害のある方・子どもを取り巻く環境の改善などについて、ご意見・ご要望がありましたら、自由にお書きください。

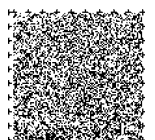
自由記述では、教育環境の整備、支援サービスの拡充や申請手続きの改善、障害者雇用・社会参加機会の拡大、理解・配慮の必要性などが多く指摘されています。自由記述を項目ごとに整理すると以下のとおりです。

項目	件数
教育について	13件
情報・行政について	11件
サービス・支援について	9件
就労・社会参加について	8件
アンケートについて	6件
理解・配慮について	5件
施設・職員について	4件
その他	23件
合計	79件

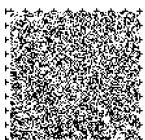
以下では、寄せられた多くのご意見を項目ごとに分類し、個人等が特定できる記載を除いて原文のまま、代表的な回答を抜粋し掲載しています。

### (1) 教育について

- ・今がどうなのかは分かりませんが、過去●●●●でいじめを受け、それが原因で現在まで悩みが続いています。心の病気や自死を選ぼうとした事もありました。今後同じ様な人を出さないためにいじめ防止を心からお願いします。学校は誰にとってもまず楽しい場であって欲しいと思います。
- ・施設や制度も大事だが教育が重要。
- ・障害について学ぶ授業を小学校でたくさん増やす。そもそも障害を持たないようにできること、知識等の共有、意識の向上。
- ・最近ではないが障がいを持ったお子さんにも普通の学校にも通うような事も見分けており(ネット上で)以前と比べて差別とかはなくなりましたが障がい者として意見と述べるとこういう障がい者がいるから大嫌いだから！な等いる方もいます。そのようなことにならないように障がい者に関する事を学校からも制度を入れて欲しいです。  
なぜなら始めて見る方に対して態度をとったりして自分自身も不安になったり嫌な思いをしてしまう人もいます。こんなふうにならない為に作業所等見学に行くなどにして受けて欲しいです。



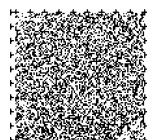
- ・武蔵村山の障がい児が羽村特別支援学校管轄なのが非常に不便である。専門的な知識を有する教員が増え、且つ特支学校が増えてくれると助かる。障がいを診断できるようになってきたため、今後障がい児、グレーゾーンの子供が増えることが容易に想像できる。市内各全学校に特別教室（グレーゾーンの子のため）を配置してほしい。
- ・知的障害のある方は、学校を卒業するとすぐに就労に進むケースが多いと思います。でも、「学校を卒業したら学ぶ時間は終わり」という今の流れが、本当に本人のためになっているのか疑問に感じています。就労の場では、同じ作業をくり返す仕事も多く、それだけで、コミュニケーション力、お金や生活の管理といった自立に必要な力が伸びていくかということ、正直むずかしい面もあると思います。私の家の場合、子どもは支援学校を卒業しましたが、会話のキャッチボールなどのコミュニケーション、お金の管理など、まだまだ課題があります。こういった生活スキルに必要な学習を、家族だけで補うには限界があります。家族も仕事や家事があり、専門的な知識や教え方を十分に持っているわけではないからです。もちろん、個人差があり「必ず伸びる」とは言い切れませんが、卒業後にも成長の余地はたくさんあると感じています。だからこそ、卒業後も「就労だけ」にしぼるのではなく、就労の時間と学びの時間を両立し、自立に向けた成長を支え続ける仕組みがあったらいいなと思います。
- ・保護者からの要望ですが、緘黙症への理解と支援制度を確立してほしいです。卒業してから小学校に情緒障害クラスが出来たり、中学校のサポート教室の設置が遅かったり、支援が必要なきに体制が整っておらず、大変な思いをたくさんしてきました。後手後手にならず、先を読んだ支援体制を望みます。年齢に沿って受けられる支援のチャートなどがあるとわかりやすいと思います。市内には自立訓練施設が少ないので増やしてほしいです。
- ・学習障害の子供への制度の取り組みの充実



- ・学校に入学する、または、在学中の保護者向けに、トイレ問題（洋式化率、車いすでも利用できる個室の数など）を知らせてくれるだけでもありがたいのではないかと思います。

## (2) 情報・行政について

- ・窓口で対応している人の知識が無さすぎる。他の自治体で導入されていても、同じ都内であるのに都からの支援申請もさせてもらえなかったことがある。異動ばかりしていたら理解している職員がおらず、毎回のように不愉快な思いをするため、できるだけ行きたくない、関わりたくないと思う課になっています。ぜひとも改善してもらいたいです。
- ・ひきこもりの児童にもっと理解を!!内部障がいについての問題にふれない。なぜか?市の職員が理解していないからです。
- ・利用の申請が毎年で、書類の記入も細かい。西部地区に受付窓口がないため、毎回市民総合センターまで出向くのも大変なので改善してほしい。
- ・都の制度を市の職員が知らなかったり、他の市村と比べて遅れている事が多い。他の市町村や都への勉強等を持って欲しい。
- ・気がるに相談できる場所をもっと増やし、対応がしっかりできると良い。(ただ、相談するだけではなく)最後までしっかり、見守ることが必要。
- ・息子が子供の頃にはなかったサービスや相談窓口が増えており、分かりやすく、利用させて頂いています。今後も増々利用しやすくなる事を願います。いつもありがとうございます。
- ・対応の迅速化。対応の細分化。
- ・毎年、東京都、武蔵村山市へ次年度難病治療補助金申請を行います。あれこれ10年間申請していますが担当者は非常に親切丁寧な対応やアドバイスを頂いております。
- ・バリアフリー化や移動支援の拡充。財政・人材不足への対応、災害時の福祉支援体制の整備を願います。

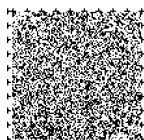


(3) サービス・支援について

- ・福祉装具を立替払いしても、市からの助成金の支払いが遅いこと。出来れば早い処置をのぞむ。
- ・階段昇降機の助成(下肢不自由者にとっては死活問題)
- ・障害者向けのおむつ代助成
- ・障害のある方の家族、特に兄弟や子供へ負担の軽減が望ましい。親の世話を期待され過ぎる、兄弟児と呼ばれる環境にある子どもなど、経済的、心身的に苦しむ人が減ればいいと思う。
- ・難病に対する支援を充実してほしいです。どうしても、障がい者支援と比べてしまいます。体のつらさはあるので・・・。私の場合は、配属者の支援がありますが、全くない方は大変だろうと思います。

(4) 就労・社会参加について

- ・18才以上の人、放課後デイを作ってほしい。障がいのある子をもつ親の交流の機会がほしいです。
- ・転職先を探しており、武蔵村山市内でも転職活動ができればいいなと思っています。
- ・障害があるため正社員で働くことが難しく、将来が不安です。市役所の障害者雇用を拡大してくれたらいいのにと家族や友人が言っていました。でも障害者であることが旧友にばれたくないので別の市で働くと思います。
- ・軽く交流出来る場を知らないなので、知れる環境や雑誌があればなあと思う。
- ・障害者のいる家庭でも、障害の違いからわからないことは、多いので重度障害の方の気持ちは、わからないことが多い。わかってもらえるように、するには、やはり社会へ、自然にとけ込むことと考える。健常者と同じことはできなくても、「あなたの近くにもいる、障害者」的に一緒に仕事や、交流を行う場を増やしていく事が大事だと思う。その際に強制的でなくいつも同じ人ばかりでなく、いろいろな所で、いろいろな人とふれあえるとよいのではないかな。理解というより、やさしい気持ちでの受け入れがいいのではと坎じる。障害者同志でもお互いたすけあえる忙しい健常者に心の余裕が生まれる社会作りを求める。



(5) アンケートについて

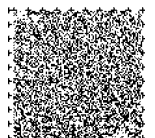
- ・障害手帳なし、医療費などの助成も受けてなく普通の生活を送っているため、このようなアンケートを送ってこないで下さい。
- ・このアンケートのように、市や国にお願いする医療費控除等の手続きをパソコンやスマートフォンを使い、オンラインで簡単にできると良いですね。
- ・アンケート調査の問いが多すぎる。これだけ問いが多いと、調査の精度が落ちるのではないか。自分が該当しないものが多く、回答に困った。

(6) 理解・配慮について

- ・障害の区分によるとは思いますが差別はやめて欲しいです。
- ・とにかく理解を深めること
- ・思いやりの目をむけてほしい。
- ・目に見えない障害を持っていて、上手に言葉に出来ない障害を持っている人に対しての理解と配慮があると良い。
- ・障害もひとつの個性と受け取ってもらえるような社会であれば、特別視されることもないかなでも特別視の意識があるから共生社会を実現という発想も出てくるのかな。

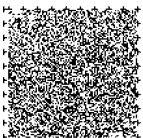
(7) 施設・職員について

- ・自分の子供に重度の障害があった場合に親が忙しい。介護鬱にあった時に変わりに見てくれるホームヘルパーを気軽に頼れて、貧しい方でも、対応してくれる施設がふえてくれると親は救われると思います。
- ・今現在●●●●●●●●●●に入所しているのですが本日が今生活している部屋に入れられない所1階のロビーしか入れない。「家族等面会」出来れば施設内に入れる様にして欲しい。
- ・障害者の行ける施設をふやしてほしい。
- ・障害者は外に出る機会が少なく、平均寿命が短いので、外に出るきっかけづくりや体力づくりの場が必要であると感じます。武蔵村山市は体育館のジムは有料で、移動手段が少ないので出かけるににくい。(福生市は障害者が無料で利用できる福祉バスが運行しており、運動施設利用料は無料。)

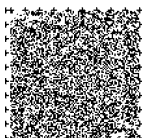


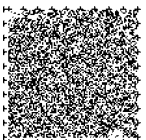
(8) その他

- ・障害のある子供には未来将来という時間がありますがムダに時間を使わずに有意義に使えるような人生を送って、後悔のないような幸福を少しでも望めるように
- ・病院へ、行くのに、つういんのしかた。
- ・この問題はやはり当事者の方々の声をきちんと聞く事だと思います。おかげ様で私は、あてはまらないので、残念ですがわかりません。
- ・私は、自分で何でもできます。障害の重い方を大切に、その方達との接し方など、教えて頂けたらと思います。お手つだいした方がよいのか、そのまま去った方がよいのかわかりません。



### Ⅲ 障害児（18歳未満）の調査結果



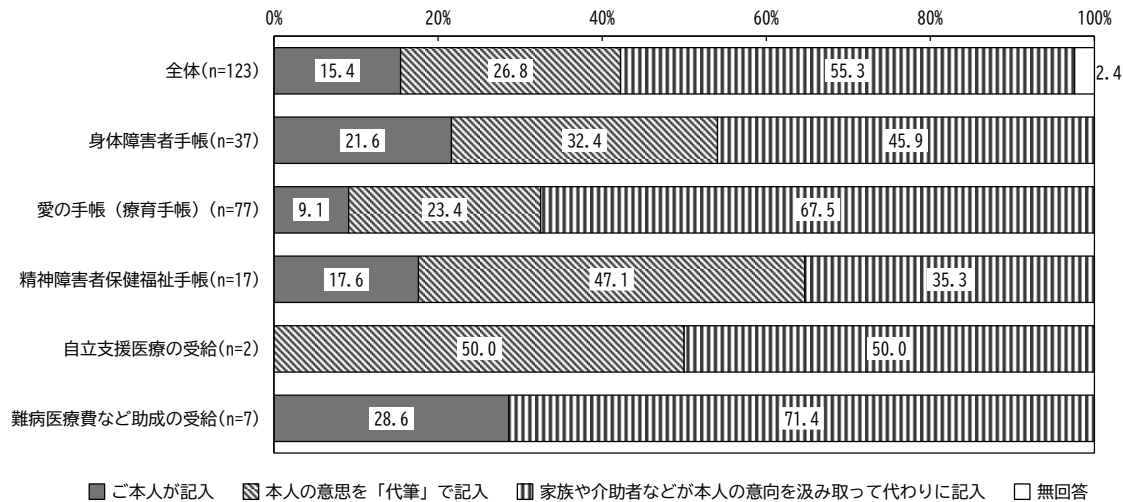


# 1 回答者の属性

問1 このアンケートにご記入いただく方はどなたですか。(1つに○)

アンケートの記入者は、全体では「ご本人が記入」が15.4%、「ご本人の意思を「代筆」で記入」が26.8%、「家族や介助者などが本人の意向を汲み取って代わりに記入」が55.3%となっています。

障害種別ごとでは、「家族や介助者などが本人の意向を汲み取って代わりに記入」は難病医療費など助成の受給者で71.4%、愛の手帳（療育手帳）所持者で67.5%と特に多くなっています。

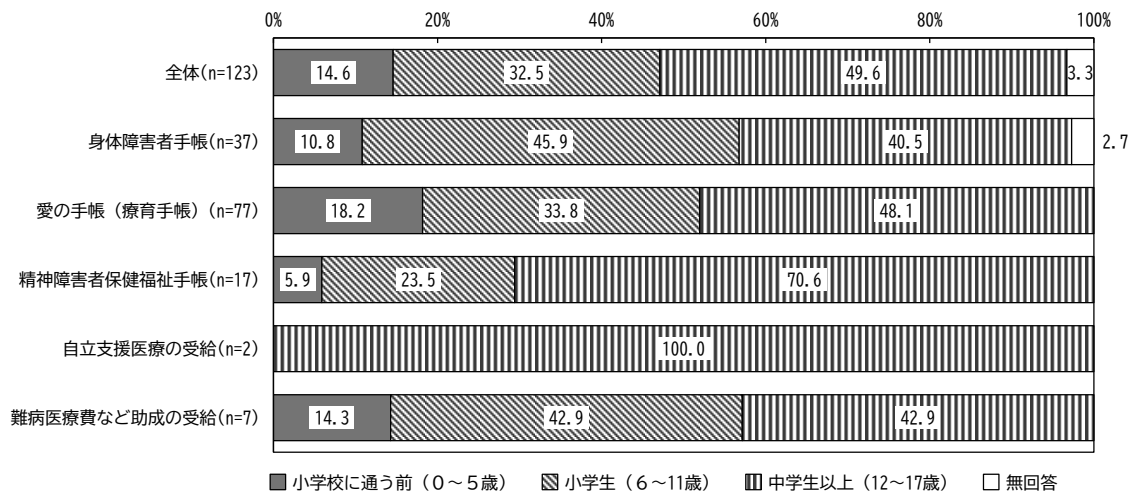


問2 あなたは、何歳ですか。(1つに○)【令和7年10月1日現在】

回答者の年齢は、全体では「小学校に通う前（0～5歳）」が14.6%、「小学生（6～11歳）」が32.5%、「中学生以上（12～17歳）」が49.6%となっています。

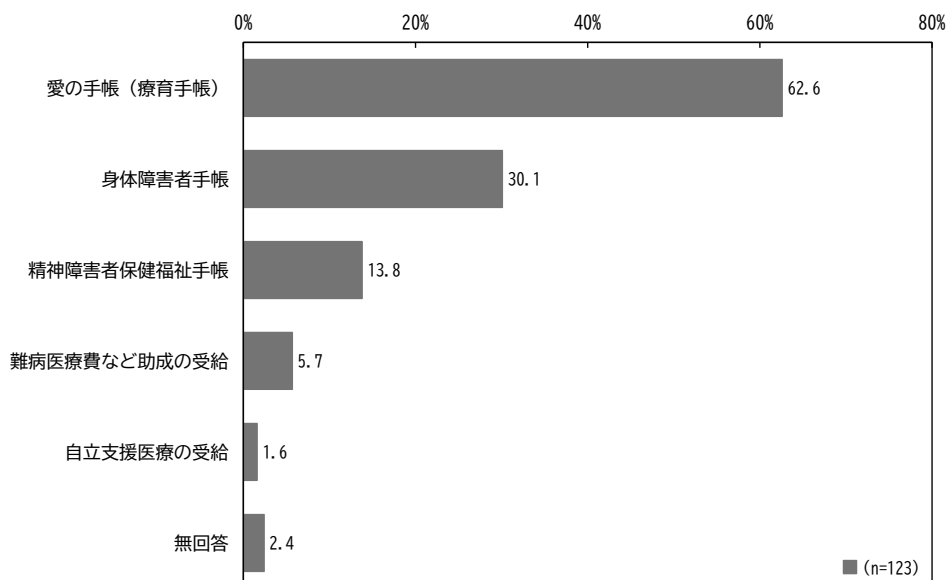
障害種別ごとでは、身体障害者手帳所持者では「小学生（6～11歳）」が、愛の手帳所持者及び精神障害者保健福祉手帳所持者では「中学生以上（12～17歳）」が、それぞれ最も多くなっています。

難病医療費など助成の受給者は「小学生（6～11歳）」、「中学生以上（12～17歳）」がともに42.9%、自立支援医療の受給者は「中学生以上（12～17歳）」が100.0%となっています。



問3 あなたはどの障害者手帳を持っていたり、医療費などの助成を受けていたりしますか。  
(あてはまるものすべてに○)

回答者の障害種別は、「愛の手帳（療育手帳）」が62.6%と最も多く、次いで、「身体障害者手帳」が30.1%、「精神障害者保健福祉手帳」が13.8%、「難病医療費など助成の受給」が5.7%、「自立支援医療の受給」が1.6%となっています。

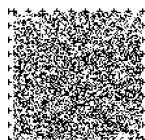


他の手帳の所持や受給の有無については、身体障害者手帳所持者では「愛の手帳（療育手帳）」が27.0%、「難病医療費など助成の受給」が8.1%、愛の手帳（療育手帳）所持者では「身体障害者手帳」が13.0%、「精神障害者保健福祉手帳」が5.2%となっています。

また、難病医療費など助成の受給者では「愛の手帳（療育手帳）」、「身体障害者手帳」がともに42.9%となっています。

(単位:%)

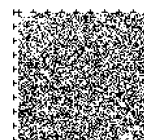
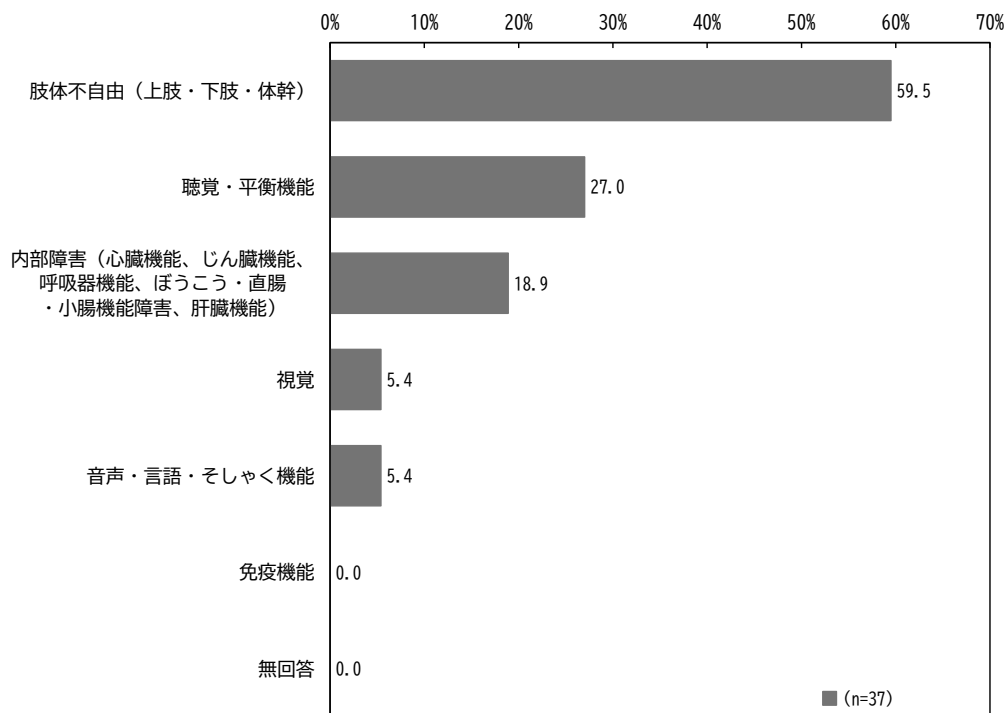
	愛の手帳 (療育手帳)	身体障害者手帳	精神障害者保健福祉手帳	難病医療費など助成の受給	自立支援医療の受給	無回答
全体(n=123)	62.6	30.1	13.8	5.7	1.6	2.4
身体障害者手帳(n=37)	27.0	100.0	0.0	8.1	0.0	0.0
愛の手帳 (療育手帳) (n=77)	100.0	13.0	5.2	3.9	1.3	0.0
精神障害者保健福祉手帳(n=17)	23.5	0.0	100.0	0.0	11.8	0.0
自立支援医療の受給(n=2)	50.0	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0
難病医療費など助成の受給(n=7)	42.9	42.9	0.0	100.0	0.0	0.0



問4は身体障害者手帳を所持していると答えた方におうかがいします。

問4 あなたが手帳を取るきっかけとなったのはどのような障害によるものですか。  
(あてはまるものすべてに○)

回答者が手帳を取るきっかけとなった障害は「肢体不自由（上肢・下肢・体幹）」が59.5%と最も多く、次いで、「聴覚・平衡機能」が27.0%、「内部障害（心臓機能、じん臓機能、呼吸器機能、ぼうこう・直腸・小腸機能障害、肝臓機能）」が18.9%となっています。

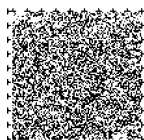
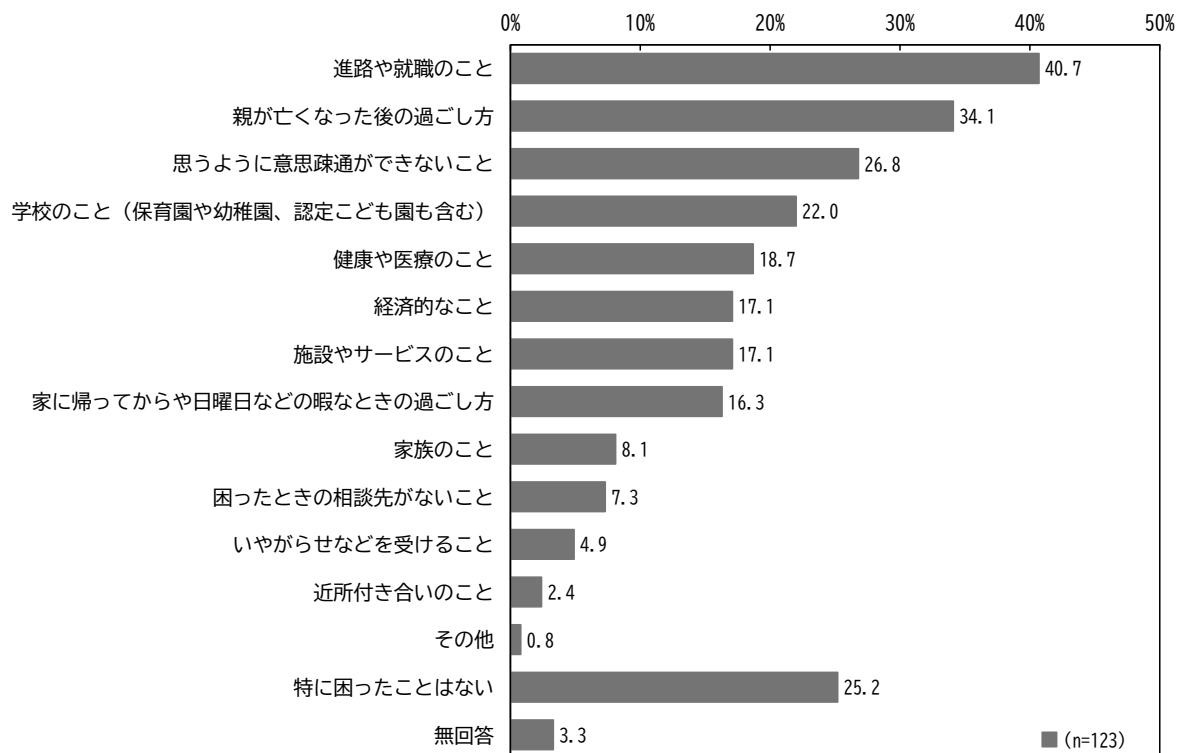


## 2 生活について

問5 あなたは、現在、生活で困っていることがありますか。(あてはまるものすべてに○)

生活で困っていることについては、全体では「進路や就職のこと」が40.7%と最も多く、次いで、「親が亡くなった後の過ごし方」が34.1%、「思うように意思疎通ができないこと」が26.8%となっています。

なお、「特に困ったことはない」は25.2%となっています。



障害種別ごとでは、身体障害者手帳所持者では「特に困ったことはない」が40.5%、愛の手帳（療育手帳）所持者では「進路や就職のこと」が50.6%、精神障害者保健福祉手帳所持者では「進路や就職のこと」、「学校のこと（保育園や幼稚園、認定こども園も含む）」、「特に困ったことはない」がともに35.3%、難病医療費など助成の受給者では「施設やサービスのこと」が57.1%となっています。

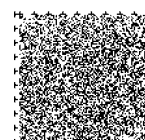
次いで、身体障害者手帳所持者では「健康や医療のこと」が27.0%、愛の手帳（療育手帳）所持者では「親が亡くなった後の過ごし方」が49.4%、精神障害者保健福祉手帳所持者では「親が亡くなった後の過ごし方」、「経済的なこと」がともに23.5%、難病医療費など助成の受給者では「進路や就職のこと」、「親が亡くなった後の過ごし方」がともに42.9%となっています。

(単位:%)

	進路や就職のこと	親が亡くなった後の過ごし方	思うように意思疎通ができないこと	学校のこと(保育園や幼稚園、認定こども園も含む)	健康や医療のこと	経済的なこと	施設やサービスのこと	家に帰ってからや日曜日などの暇なときの過ごし方
全体(n=123)	40.7	34.1	26.8	22.0	18.7	17.1	17.1	16.3
身体障害者手帳(n=37)	21.6	13.5	16.2	16.2	27.0	8.1	21.6	10.8
愛の手帳(療育手帳)(n=77)	50.6	49.4	36.4	20.8	23.4	23.4	22.1	22.1
精神障害者保健福祉手帳(n=17)	35.3	23.5	11.8	35.3	5.9	23.5	0.0	11.8
自立支援医療の受給(n=2)	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
難病医療費など助成の受給(n=7)	42.9	42.9	14.3	28.6	28.6	28.6	57.1	14.3

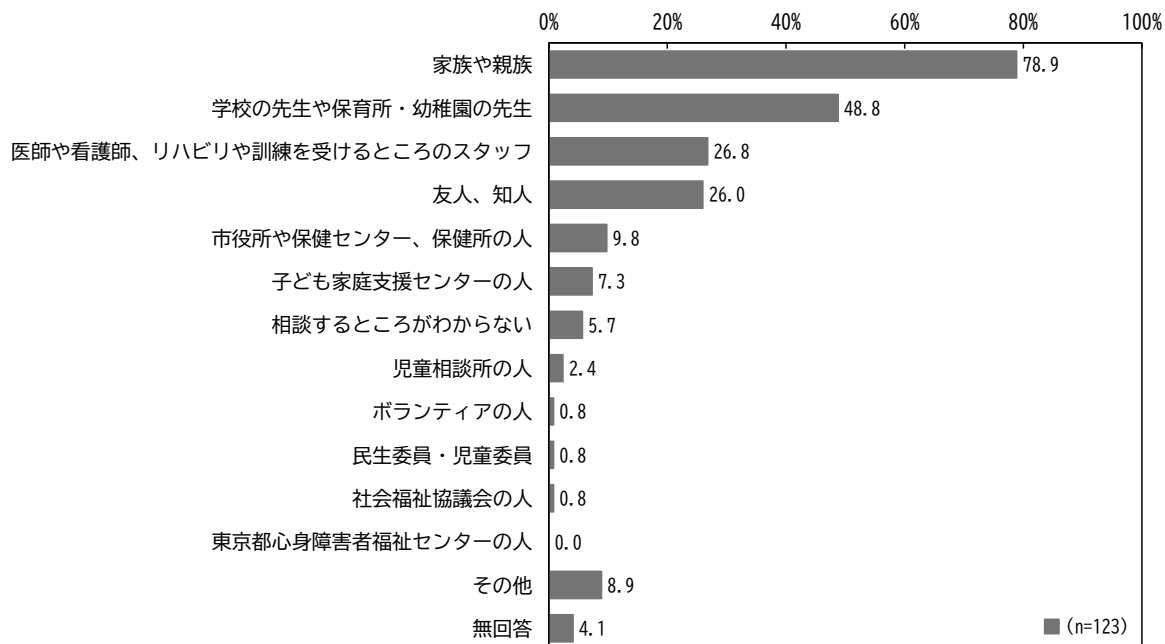
(単位:%)

	家族のこと	困ったときの相談先がないこと	いやがらせなどを受けること	近所付き合いのこと	その他	特に困ったことはない	無回答
全体(n=123)	8.1	7.3	4.9	2.4	0.8	25.2	3.3
身体障害者手帳(n=37)	5.4	5.4	0.0	0.0	2.7	40.5	2.7
愛の手帳(療育手帳)(n=77)	10.4	11.7	5.2	3.9	1.3	13.0	0.0
精神障害者保健福祉手帳(n=17)	17.6	0.0	11.8	0.0	0.0	35.3	0.0
自立支援医療の受給(n=2)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
難病医療費など助成の受給(n=7)	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0



問6 困っていることを相談する相手は次のうちどなたですか。(あてはまるものすべてに○)

困っていることを相談する相手については、全体では「家族や親族」が78.9%と最も多く、次いで、「学校の先生や保育所・幼稚園の先生」が48.8%、「医師や看護師、リハビリや訓練を受けるところのスタッフ」が26.8%となっています。



障害種別ごとでは、障害の種別に関係なく「家族や親族」が最も多く、自立支援医療の受給者では100.0%、精神障害者保健福祉手帳所持者では94.1%となっており、他の障害種別でも最も多い割合となっています。

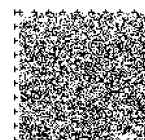
次いで、身体障害者手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者及び愛の手帳（療育手帳）所持者では、ともに「学校の先生や保育所・幼稚園の先生」が多くなっています。

(単位:%)

	家族や親族	学校の先生や保育所・幼稚園の先生	医師や、看護師、リハビリや訓練を受ける ところのスタッフ	友人、知人	市役所や保健センター、保健所の人	子ども家庭支援センターの人	相談するところがわからない	児童相談所の人
全体(n=123)	78.9	48.8	26.8	26.0	9.8	7.3	5.7	2.4
身体障害者手帳(n=37)	81.1	40.5	35.1	37.8	10.8	5.4	0.0	0.0
愛の手帳（療育手帳）(n=77)	79.2	53.2	26.0	22.1	10.4	11.7	7.8	3.9
精神障害者保健福祉手帳(n=17)	94.1	58.8	29.4	23.5	11.8	11.8	0.0	0.0
自立支援医療の受給(n=2)	100.0	0.0	50.0	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0
難病医療費など助成の受給(n=7)	42.9	0.0	28.6	14.3	14.3	14.3	14.3	0.0

(単位:%)

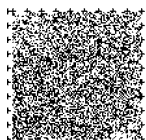
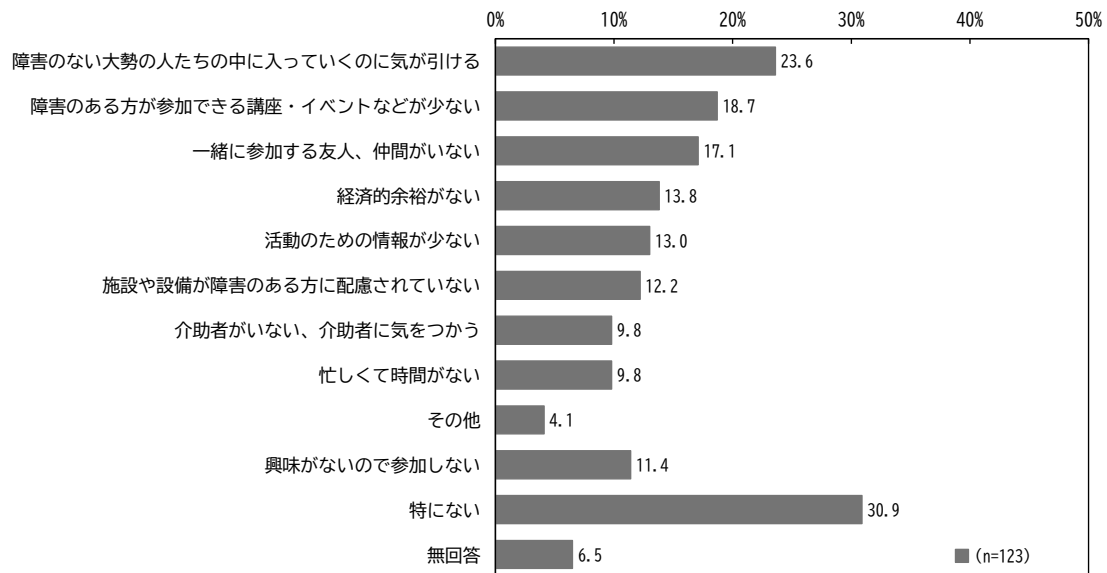
	ボランティアの人	民生委員・児童委員	社会福祉協議会の人	東京都心身障害者福祉センターの人	その他	無回答
全体(n=123)	0.8	0.8	0.8	0.0	8.9	4.1
身体障害者手帳(n=37)	0.0	0.0	2.7	0.0	10.8	5.4
愛の手帳（療育手帳）(n=77)	1.3	0.0	1.3	0.0	10.4	0.0
精神障害者保健福祉手帳(n=17)	0.0	0.0	0.0	0.0	5.9	0.0
自立支援医療の受給(n=2)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
難病医療費など助成の受給(n=7)	0.0	14.3	14.3	0.0	14.3	0.0



問7 あなたが、趣味や学習、スポーツなど余暇活動をするときに困ること、または活動を行っていない理由はどのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)

余暇活動をするときに困っていることについては、全体では「障害のない大勢の人たちの中に入っていくのに気が引ける」が23.6%と最も多く、次いで、「障害のある方が参加できる講座・イベントなどが少ない」が18.7%、「一緒に参加する友人、仲間がいない」が17.1%となっています。

なお、「特にない」は30.9%となっています。



障害種別ごとでは、身体障害者手帳所持者及び精神障害者保健福祉手帳所持者では「特にない」が最も多く、それぞれ43.2%、41.2%、愛の手帳（療育手帳）所持者では「障害のない大勢の人たちの中に入って行くのに気が引ける」が33.8%、難病医療費など助成の受給者では「興味がないので参加しない」が57.1%となっています。

次いで、身体障害者手帳所持者では「一緒に参加する友人、仲間がいない」が18.9%、愛の手帳（療育手帳）所持者では「障害のある方が参加できる講座・イベントなどが少ない」が27.3%、難病医療費など助成の受給者では「経済的余裕がない」が42.9%、精神障害者保健福祉手帳所持者では、7つの項目でそれぞれ11.8%となっています。

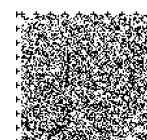
なお、自立支援医療の受給者では「障害のある方が参加できる講座・イベントなどが少ない」、「施設や設備が障がいのある方に配慮されていない」及び「特にない」がともに50.0%となっています。

(単位：%)

	障害のない大勢の人たちの中に入って行くのに気が引ける	障害のある方が参加できる講座・イベントなどが少ない	一緒に参加する友人、仲間がいない	経済的余裕がない	活動のための情報が少ない	施設や設備が障害のある方に配慮されていない	介助者がいない、介助者に気がつかう
全体(n=123)	23.6	18.7	17.1	13.8	13.0	12.2	9.8
身体障害者手帳(n=37)	16.2	13.5	18.9	8.1	8.1	13.5	10.8
愛の手帳（療育手帳）(n=77)	33.8	27.3	18.2	16.9	18.2	13.0	13.0
精神障害者保健福祉手帳(n=17)	5.9	11.8	11.8	11.8	11.8	11.8	0.0
自立支援医療の受給(n=2)	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
難病医療費など助成の受給(n=7)	14.3	14.3	0.0	42.9	0.0	0.0	0.0

(単位：%)

	忙しくて時間がない	その他	興味がないので参加しない	特にない	無回答
全体(n=123)	9.8	4.1	11.4	30.9	6.5
身体障害者手帳(n=37)	10.8	5.4	5.4	43.2	5.4
愛の手帳（療育手帳）(n=77)	7.8	5.2	11.7	26.0	1.3
精神障害者保健福祉手帳(n=17)	11.8	5.9	11.8	41.2	5.9
自立支援医療の受給(n=2)	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
難病医療費など助成の受給(n=7)	14.3	0.0	57.1	14.3	14.3

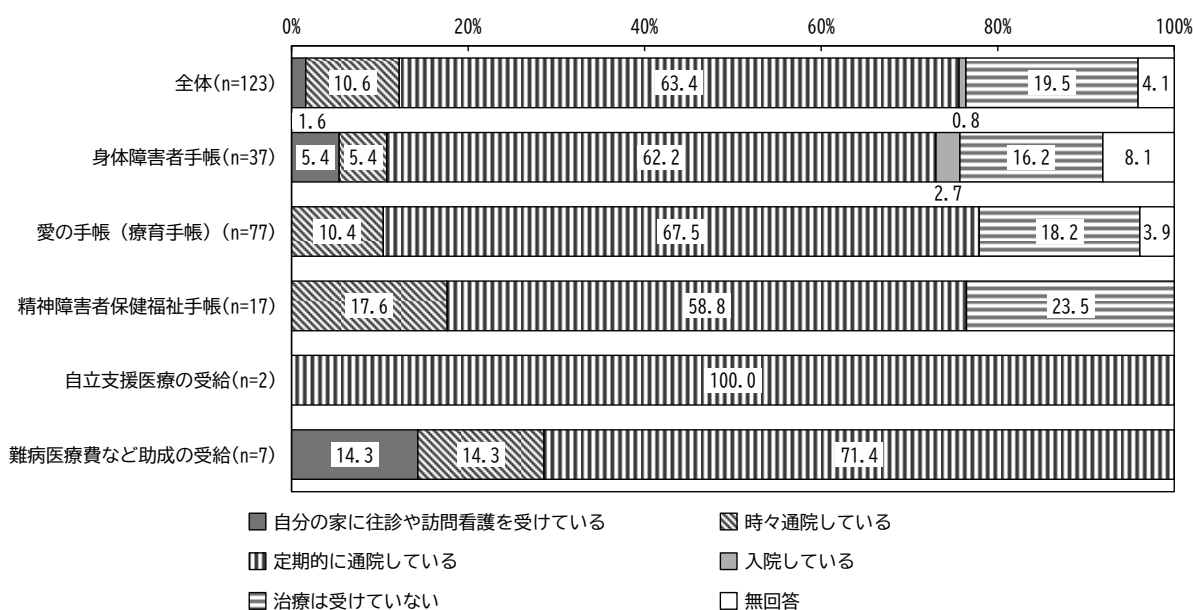


### 3 健康・医療・リハビリテーションについて

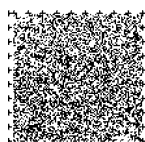
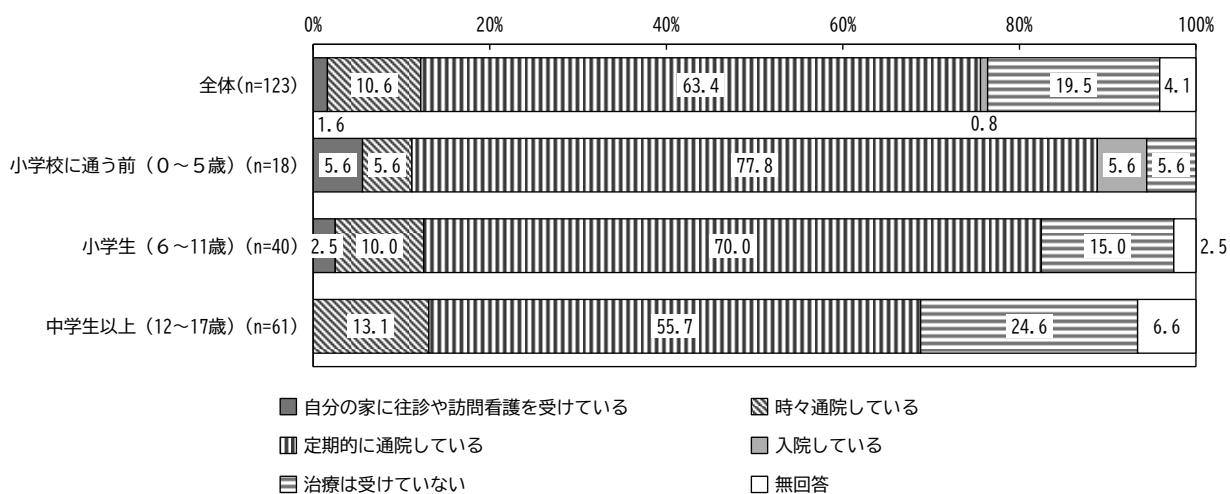
問8 現在、医師の治療を受けていますか。(1つに○)

現在、医師の治療を受けている人(「自分の家に往診や訪問看護を受けている」、「時々通院している」、「定期的に通院している」及び「入院している」の合計。以下、同じ。)は、全体では76.4%となっています。

障害種別ごとでは、身体障害者手帳所持者で75.7%、愛の手帳(療育手帳)所持者で77.9%、精神障害者保健福祉手帳所持者で76.4%、自立支援医療の受給者及び難病医療費など助成の受給者とともに100.0%となっています。



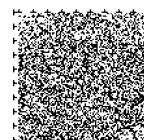
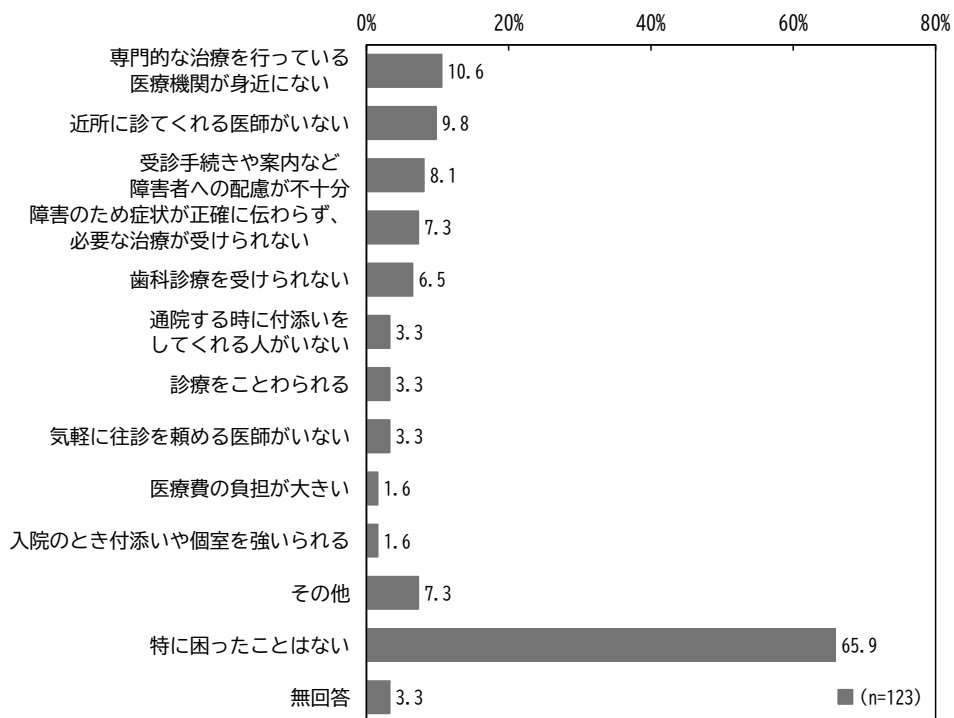
年代別では、現在、医師の治療を受けている人は、小学校に通う前(0~5歳)で94.6%、小学生(6~11歳)で82.5%、中学生以上(12~17歳)で68.8%となっています。



問9 健康管理や医療について困ったり不便に思ったことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

病院にかかるときに困っていることについては、全体では「専門的な治療を行っている医療機関が身近にない」が10.6%と最も多く、次いで、「近所に診てくれる病院がない」が9.8%、「受診手続きや案内など障害者への配慮が不十分」が8.1%となっています。

なお、「特に困ったことはない」は全体では65.9%となっています。



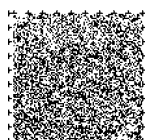
障害種別ごとでは「特に困ったことはない」を除いて、身体障害者手帳所持者及び難病医療費など助成の受給者では「近所に診てくれる医師がいない」が最も多く、それぞれ16.2%、42.9%、愛の手帳（療育手帳）所持者では「専門的な治療を行っている医療機関が身近にない」、「受診手続きや案内など障害のある方への配慮が不十分」がともに13.0%、精神障害者保健福祉手帳所持者では「専門的な治療を行っている病院が近くにない」が5.9%となっています。

(単位：%)

	専門的な治療を行っている医療機関が身近にない	近所に診てくれる医師がいない	受診手続きや案内など障害者への配慮が不十分	障害のため症状が正確に伝わらず、必要な治療が受けられない	歯科診療を受けられない	通院する時に付添いをしてくれる人がいない	診療をことわられる
全体(n=123)	10.6	9.8	8.1	7.3	6.5	3.3	3.3
身体障害者手帳(n=37)	8.1	16.2	5.4	5.4	2.7	8.1	5.4
愛の手帳（療育手帳）(n=77)	13.0	11.7	13.0	10.4	9.1	5.2	5.2
精神障害者保健福祉手帳(n=17)	5.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
自立支援医療の受給(n=2)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
難病医療費など助成の受給(n=7)	28.6	42.9	0.0	0.0	0.0	14.3	14.3

(単位：%)

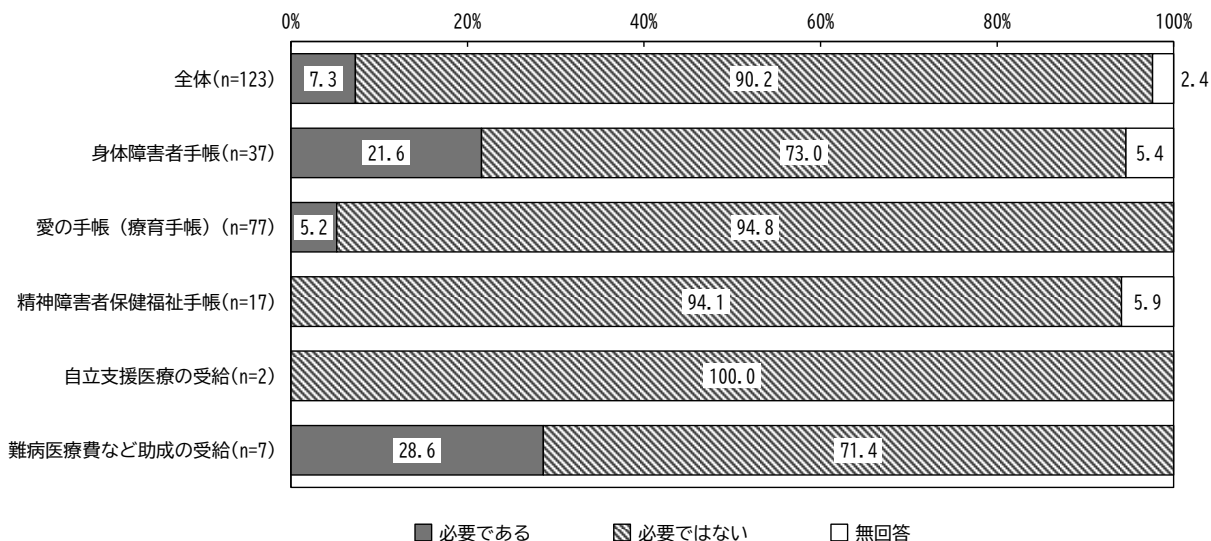
	気軽に往診を頼める医師がいない	医療費の負担が大きい	入院のとき付添いや個室を強いられる	その他	特に困ったことはない	無回答
全体(n=123)	3.3	1.6	1.6	7.3	65.9	3.3
身体障害者手帳(n=37)	5.4	5.4	2.7	10.8	56.8	10.8
愛の手帳（療育手帳）(n=77)	5.2	2.6	2.6	9.1	61.0	0.0
精神障害者保健福祉手帳(n=17)	0.0	0.0	0.0	0.0	94.1	0.0
自立支援医療の受給(n=2)	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
難病医療費など助成の受給(n=7)	14.3	28.6	0.0	0.0	57.1	0.0



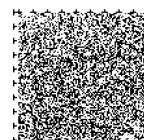
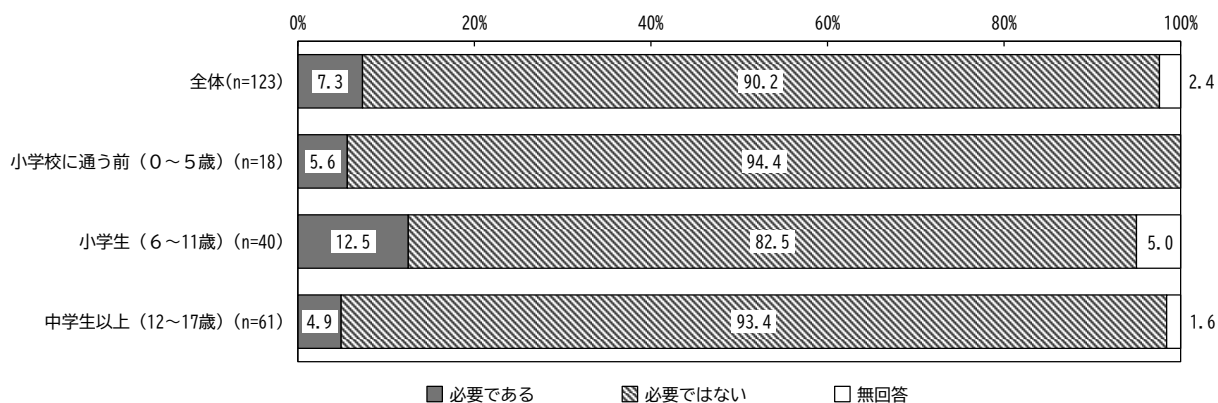
問10 あなたは、普段の生活で経管栄養、気管切開、人工呼吸器などの医療的ケアが必要ですか。  
(1つに○)

普段の生活で医療的ケアが「必要である」と回答した人は、全体では7.3%となっています。

障害種別ごとでは、身体障害者手帳所持者で21.6%、愛の手帳（療育手帳）所持者で5.2%、  
難病医療費など助成の受給者で28.6%となっています。



年代別では、「必要である」と回答した人は、小学校に通う前（0～5歳）で5.6%、小学生（6～11歳）で12.5%、中学生以上（12～17歳）で4.9%となっています。

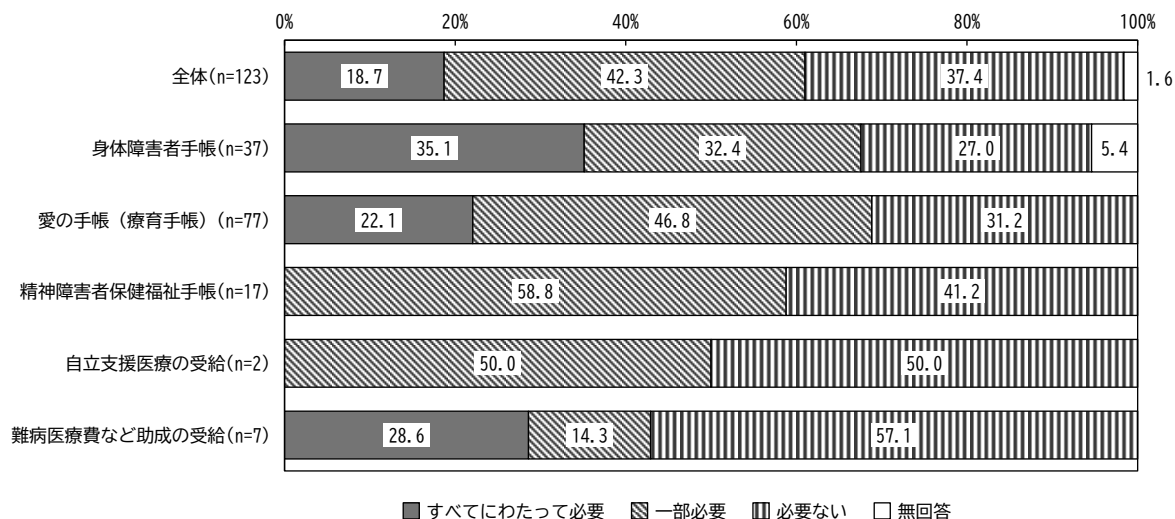


## 4 日常生活の状況について

問11 現在、あなたは介助（支援）が必要ですか。（1つに○）

現在、介助が必要な人（「すべてにわたって必要」及び「一部必要」の合計。以下、同じ。）は、全体では61.0%となっています。

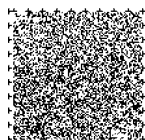
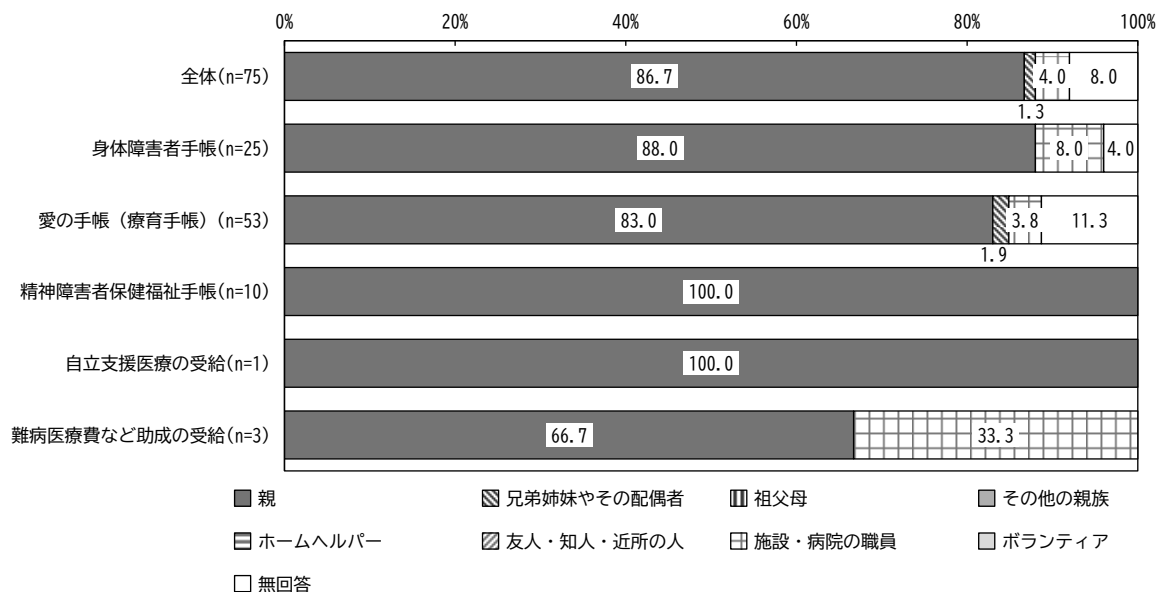
障害種別ごとでは、身体障害者手帳所持者で67.5%、愛の手帳（療育手帳）所持者で68.9%、精神障害者保健福祉手帳所持者で58.8%、自立支援医療費の受給者で50.0%、難病医療費など助成の受給者で42.9%となっています。



問11で「1」～「2」と答えた方におうかがいします。

問12 普段、あなたを主に介助・支援しているのはどなたですか。（1つに○）

介助が必要な人の介助（支援）者は、障害種別に関係なく「親」が最も多く、次いで、「施設・病院の職員」となっています。



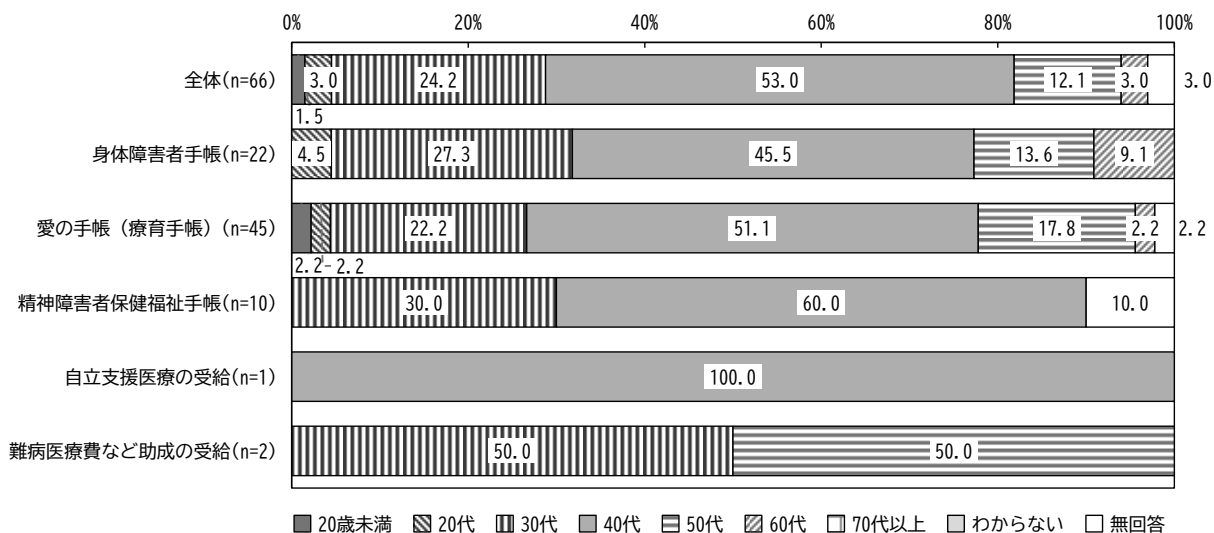
問12で「1」～「4」と答えた方におうかがいします。

**問13 その方の年齢についてお教えてください。（1つに○）**

介助者（支援者）の年齢は、全体では、「40代」が53.0%と最も多く、次いで、「30代」が24.2%となっています。

障害種別ごとでは、難病医療費など助成の受給者を除いたすべての種別で「40代」が最も多くなっています。

また、愛の手帳（療育手帳）所持者では「20歳未満」が2.2%となっています。

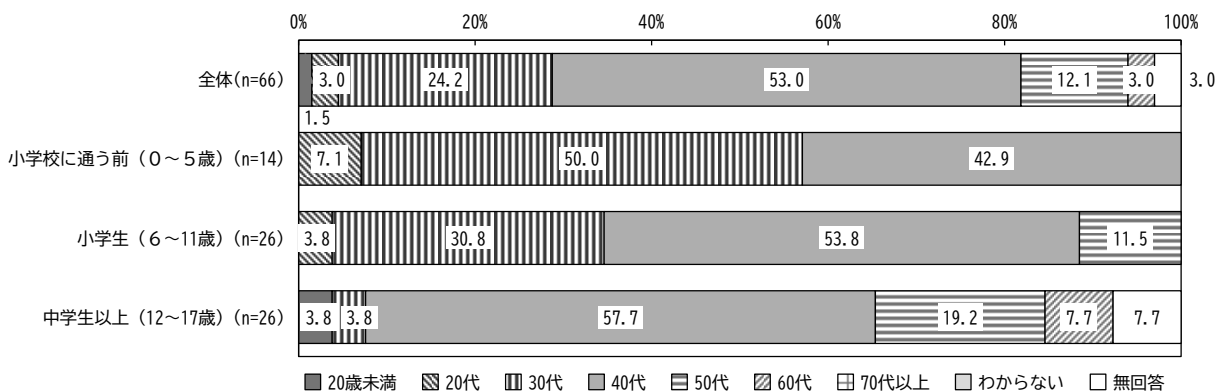


**障害者の年齢（問2）×介助者（支援者の年齢）（問13）**

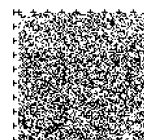
障害者の年齢が小学校に通う前（0～5歳）では、介助者（支援者）の年齢は「30代」が50.0%と最も多く、小学生（6～11歳）及び中学生以上（12～17歳）では「40代」が最も多く、それぞれ53.8%、57.7%となっています。

障害者の年代が上がるにつれて介助者（支援者）の年齢も高くなっていき、中学生以上（12～17歳）では「60代」が7.7%となっています。

**【障害者の年齢】**



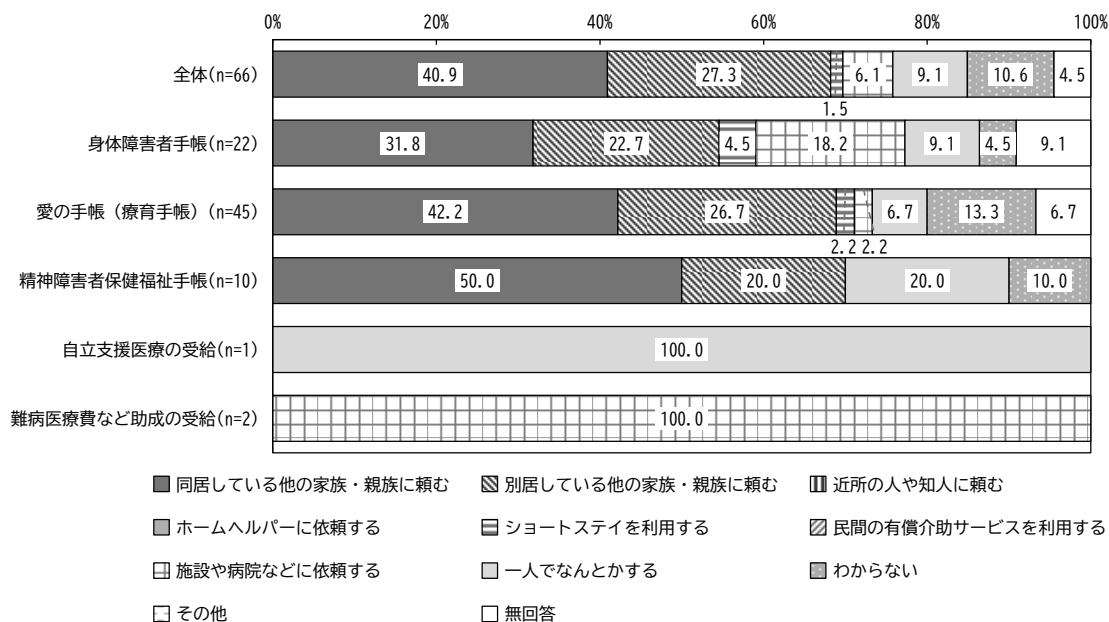
**【介助者（支援者）の年齢】**



問14 主な介助者（支援者）が介助（支援）できないときはどうしますか。（1つに○）

介助者（支援者）が介助（支援）できないときは、全体では、「同居している他の家族・親族に頼む」が40.9%と最も多く、次いで、「別居している他の家族・親族に頼む」が27.3%となっています。

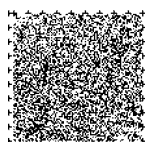
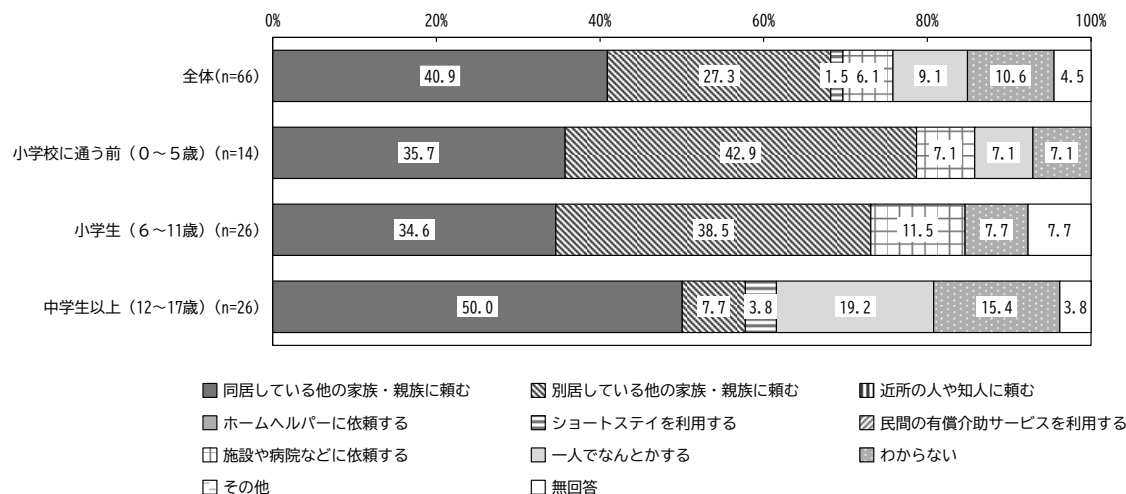
障害種別ごとでは、身体障害者手帳所持者、愛の手帳（療育手帳）所持者及び精神障害者保健福祉手帳所持者では「同居している他の家族・親族に頼む」が最も多く、次いで、「別居している他の家族・親族に頼む」となっています。



年代別では、小学校に通う前（0～5歳）及び小学生（6～11歳）では「別居している他の家族・親族に頼む」が最も多く、それぞれ42.9%、38.5%となっています。

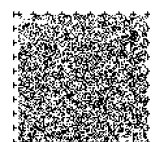
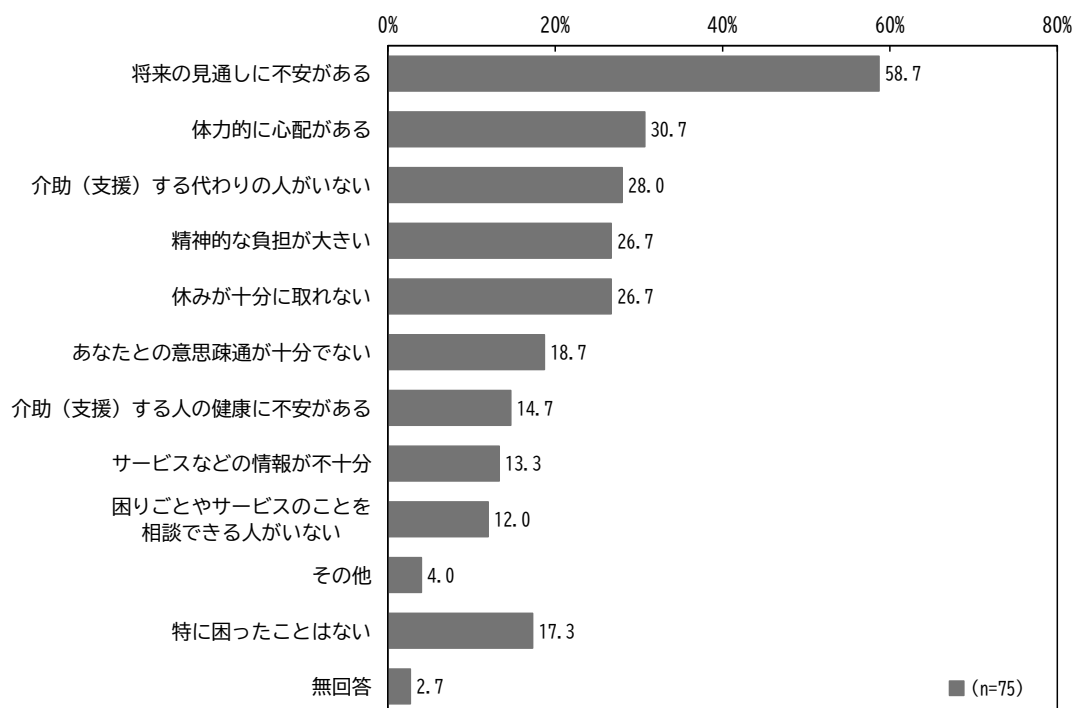
一方で、中学生以上（12～17歳）では「同居している他の家族・親族に頼む」が最も多く、50.0%となっています。

次いで、小学校に通う前（0～5歳）及び小学生（6～11歳）では「同居している他の家族・親族に頼む」がそれぞれ35.7%、34.6%、中学生以上（12～17歳）では「一人でなんとかする」が19.2%となっています。



問15 あなたを介助（支援）している人が、あなたを介助（支援）する上で、何か困っていることはありますか。わかる範囲でお答えください。（あてはまるものすべてに○）

介助（支援）者が困っていることについては、全体では、「将来の見通しに不安がある」が58.7%と最も多く、次いで、「体力的に心配がある」が30.7%、「介助（支援）する代わりに人がいない」が28.0%となっています。



障害種別ごとでは、身体障害者手帳所持者では「休みが十分に取れない」が40.0%と最も多く、愛の手帳（療育手帳）所持者及び精神障害者保健福祉手帳所持者では「将来の見通しに不安がある」が、それぞれ67.9%、50.0%となっています。

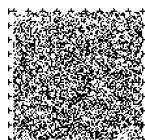
次いで、身体障害者手帳所持者及び愛の手帳（療育手帳）所持者では「体力的に心配がある」がそれぞれ36.0%、39.6%となっています。

(単位:%)

	将来の見通しに不安がある	体力的に心配がある	介助（支援）する代わりに人がいない	精神的な負担が大きい	休みが十分に取れない	あなたとの意思疎通が十分でない	介助（支援）する人の健康に不安がある
全体(n=75)	58.7	30.7	28.0	26.7	26.7	18.7	14.7
身体障害者手帳(n=25)	11.0	36.0	24.0	20.0	40.0	20.0	20.0
愛の手帳（療育手帳）(n=53)	67.9	39.6	34.0	34.0	24.5	20.8	17.0
精神障害者保健福祉手帳(n=10)	50.0	20.0	10.0	20.0	20.0	0.0	20.0
自立支援医療の受給(n=1)	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
難病医療費など助成の受給(n=3)	66.7	66.7	66.7	66.7	100.0	33.3	33.3

(単位:%)

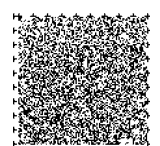
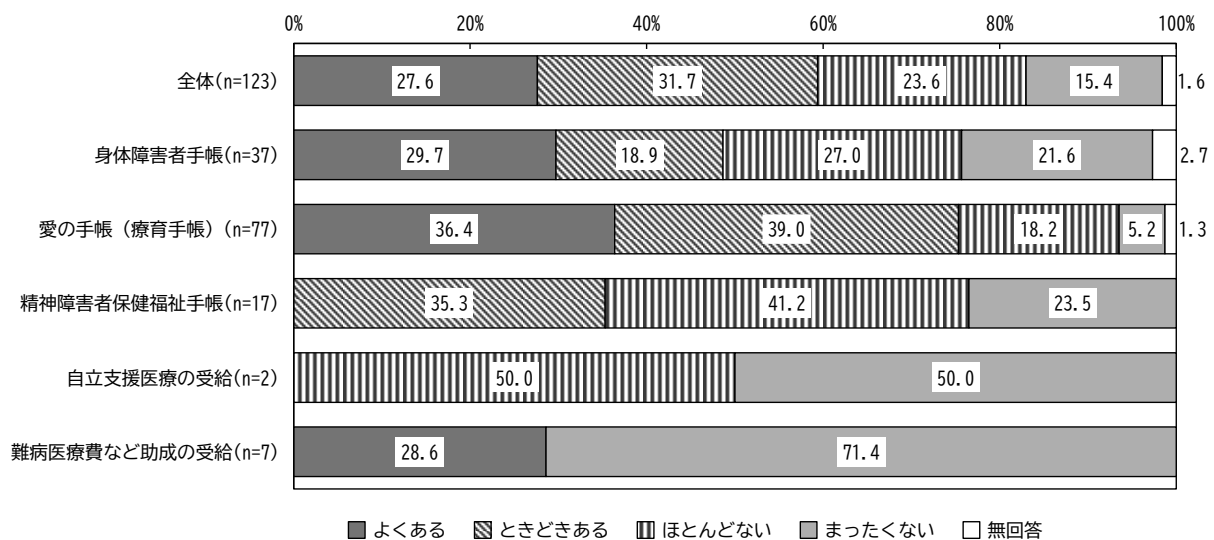
	サービスなどの情報が不十分	困りごとやサービスのことを相談できる人がいない	その他	特に困ったことはない	無回答
全体(n=75)	13.3	12.0	4.0	17.3	2.7
身体障害者手帳(n=25)	12.0	8.0	12.0	16.0	8.0
愛の手帳（療育手帳）(n=53)	17.0	17.0	1.9	13.2	1.9
精神障害者保健福祉手帳(n=10)	10.0	0.0	0.0	30.0	0.0
自立支援医療の受給(n=1)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
難病医療費など助成の受給(n=3)	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0



問16 あなたは日常生活の中で、他の人と意思疎通（話す、聞く、読む、書く、コミュニケーション機器の利用など）に困ることはありますか。（1つに○）

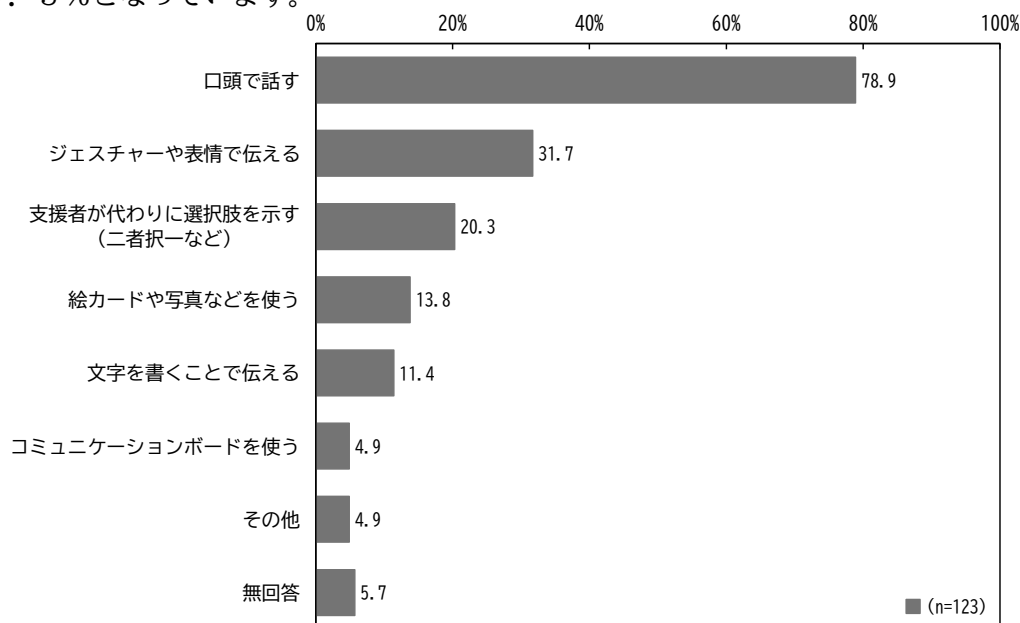
日常生活での意思疎通で困っている人（「よくある」及び「ときどきある」の合計。以下、同じ。）は、59.3%となっています。

障害種別ごとでは、身体障害者手帳所持者で48.6%、愛の手帳（療育手帳）所持者で75.4%、精神障害者保健福祉手帳所持者で35.3%、難病医療費など助成の受給者で28.6%となっています。



問17 あなたは、日常生活において自分の意思を伝えるためにどのような方法を使っていますか。  
(あてはまるものすべてに○)

日常生活での意思を伝える方法については、全体では「口頭で話す」が78.9%と最も多く、次いで「ジェスチャーや表情で伝える」が31.7%、「支援者が代わりに選択肢を示す（二者択一など）」が20.3%となっています。

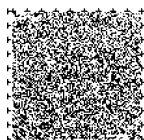


障害種別ごとでは、いずれの障害種別でも「口頭で話す」が最も多く、精神障害者保健福祉手帳所持者及び自立支援医療の受給者では、ともに100.0%となっています。

次いで、身体障害者手帳所持者、愛の手帳（療育手帳）所持者及び難病医療費など助成の受給者では「ジェスチャーや表情で伝える」が、それぞれ24.3%、40.3%、42.9%、精神障害者保健福祉手帳所持者では「文字を書くことで伝える」が17.6%となっています。

(単位: %)

	口頭で話す	ジェスチャーや表情で伝える	支援者が代わりに選択肢を示す (二者択一など)	絵カードや写真などを使う	文字を書くことで伝える	コミュニケーションボードを使う	その他	無回答
全体(n=123)	78.9	31.7	20.3	13.8	11.4	4.9	4.9	5.7
身体障害者手帳(n=37)	59.5	24.3	16.2	8.1	8.1	8.1	5.4	16.2
愛の手帳（療育手帳）(n=77)	80.5	40.3	27.3	18.2	10.4	5.2	6.5	1.3
精神障害者保健福祉手帳(n=17)	100.0	11.8	0.0	5.9	17.6	0.0	0.0	0.0
自立支援医療の受給(n=2)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
難病医療費など助成の受給(n=7)	71.4	42.9	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

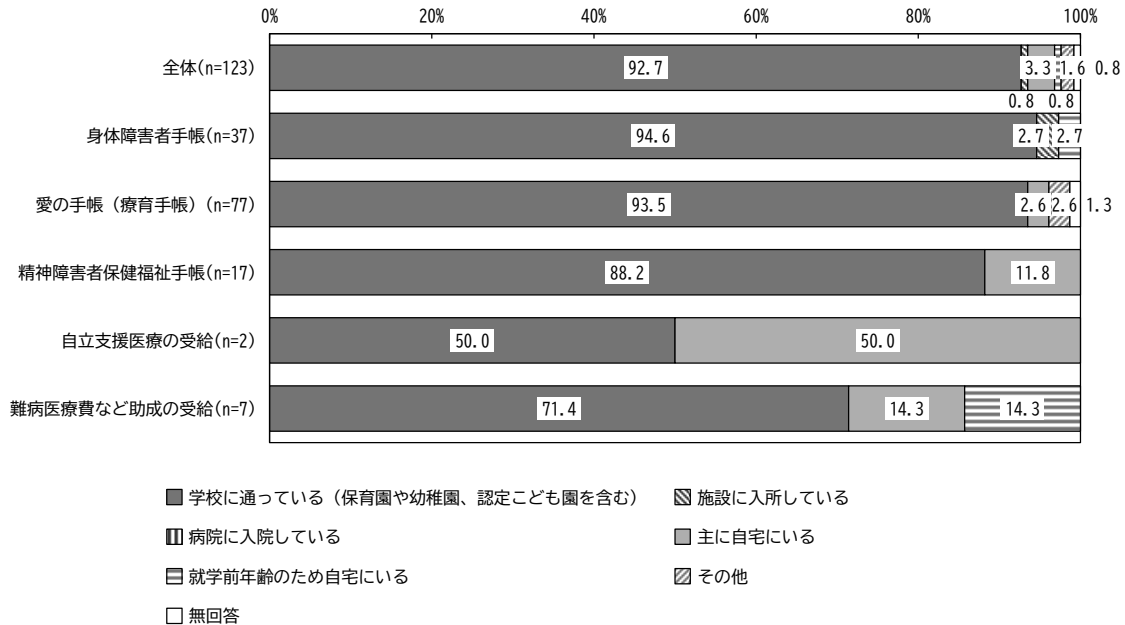


## 5 日中の過ごし方について

問18 あなたは、平日の昼間は、主にどこで（何をして）過ごしていますか。（1つに○）

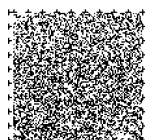
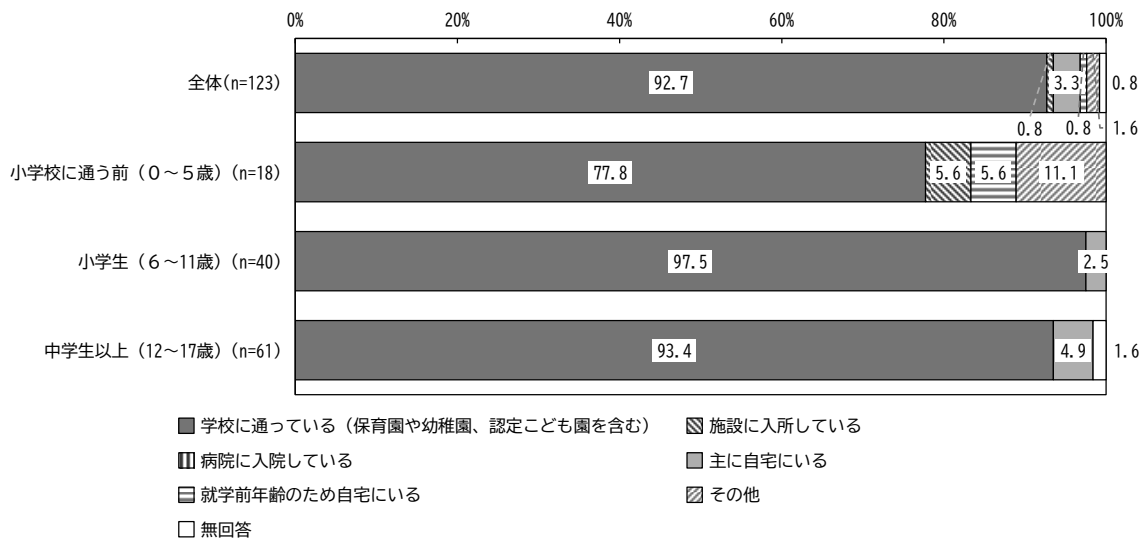
平日の昼間の暮らし方については、全体では「学校に通っている（保育園や幼稚園、認定こども園を含む）」が92.7%と最も多く、次いで、「主に自宅にいる」が3.3%となっています。

障害種別ごとでは、いずれの障害種別でも「学校に通っている」が最も多く、特に、身体障害者手帳所持者では94.6%、愛の手帳（療育手帳）所持者では93.5%となっています。



年代別では、全ての年代で「学校に通っている（保育園や幼稚園、認定こども園を含む）」が最も多く、小学校に通う前（0～5歳）では77.8%、小学生（6～11歳）では97.5%、中学生以上（12～17歳）では93.4%となっています。

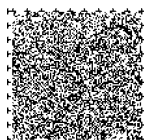
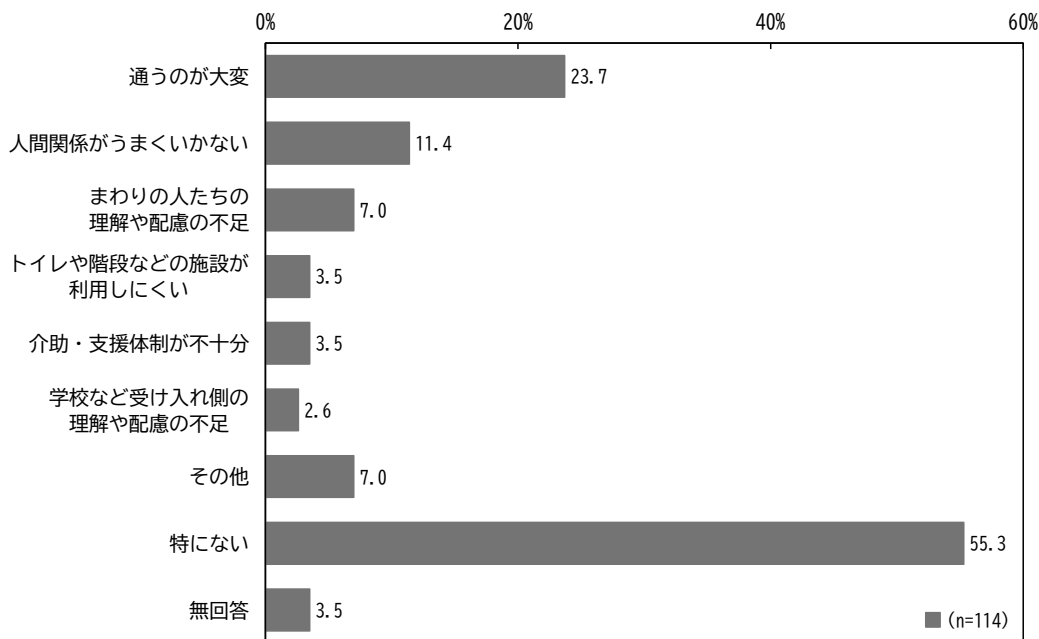
次いで、中学生以上（12～17歳）及び小学生（6～11歳）では「主に自宅にいる」がそれぞれ4.9%、2.5%、小学校に通う前（0～5歳）では「その他」が11.1%となっています。



問18で「1. 学校に通っている」と答えた方におうかがいします。

問19 あなたは、通園や通学で困っていることがありますか。(あてはまるものすべてに○)

通園や通学で困っていることについては、全体では、「特にない」が55.3%と最も多く、次いで、「通うのが大変」が23.7%、「人間関係がうまくいかない」が11.4%となっています。



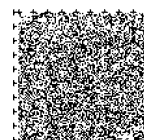
障害種別ごとでは、「特にない」を除くと、身体障害者手帳所持者及び愛の手帳（療育手帳）所持者及び難病医療費など助成の受給者では「通うのが大変」が最も多く、それぞれ25.7%、18.1%、40.0%、精神障害者保健福祉手帳所持者では「人間関係がうまくいかない」が40.0%となっています。

(単位:%)

	通うのが大変	人間関係がうまくいかない	まわりの人たちの理解や配慮の不足	トイレや階段などの施設が利用しにくい	介助・支援体制が不十分	学校など受け入れ側の理解や配慮の不足
全体(n=114)	23.7	11.4	7.0	3.5	3.5	2.6
身体障害者手帳(n=35)	25.7	2.9	8.6	5.7	2.9	2.9
愛の手帳（療育手帳）(n=72)	18.1	8.3	6.9	1.4	5.6	4.2
精神障害者保健福祉手帳(n=15)	33.3	40.0	0.0	6.7	0.0	0.0
自立支援医療の受給(n=1)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
難病医療費など助成の受給(n=5)	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(単位:%)

	その他	特にない	無回答
全体(n=114)	7.0	55.3	3.5
身体障害者手帳(n=35)	5.7	60.0	0.0
愛の手帳（療育手帳）(n=72)	9.7	58.3	5.6
精神障害者保健福祉手帳(n=15)	0.0	40.0	0.0
自立支援医療の受給(n=1)	0.0	100.0	0.0
難病医療費など助成の受給(n=5)	0.0	60.0	0.0



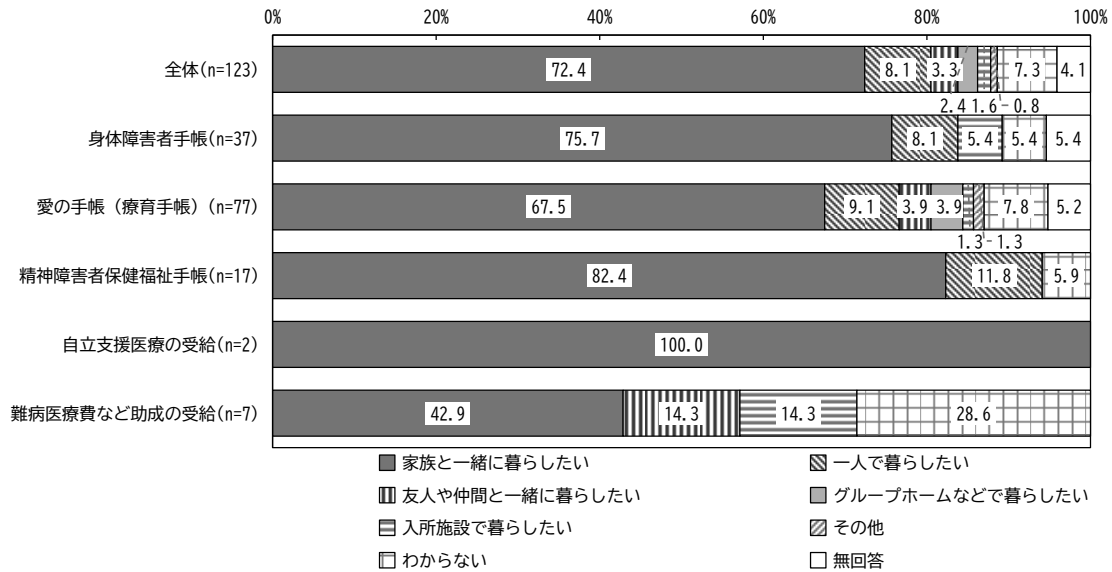
## 6 将来の過ごし方について

問20 あなたは、将来（おおよそ5年後）どのように暮らしたいですか。（1つに○）

将来（おおよそ5年後）の暮らし方については、全体では「家族と一緒に暮らしたい」が72.4%と最も多く、次いで、「一人で暮らしたい」が8.1%となっています。

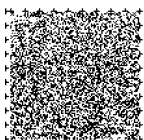
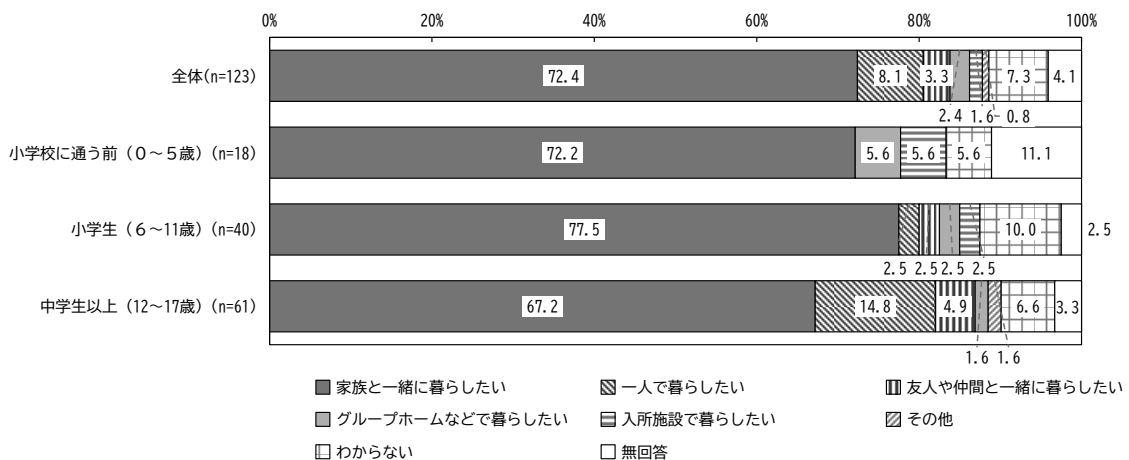
障害種別ごとでは、いずれの障害種別でも「家族と一緒に暮らしたい」が最も多く、特に精神障害者保健福祉手帳所持者で82.4%、身体障害者手帳所持者で75.7%となっています。

なお、難病医療費など助成の受給者では「わからない」が28.6%と、他の種別と比べて多くなっています。



年代別では、全ての年代で「家族と一緒に暮らしたい」が最も多く、小学校に通う前（0～5歳）では72.2%、小学生（6～11歳）では77.5%、中学生以上（12～17歳）では67.2%となっています。

次いで、中学生以上（12～17歳）では「一人で暮らしたい」が14.8%、小学生（6～11歳）では「わからない」が10.0%、小学校に通う前（0～5歳）では「グループホームなどで暮らしたい」、「入所施設で暮らしたい」、「わからない」がともに5.6%となっています。

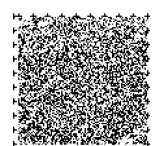
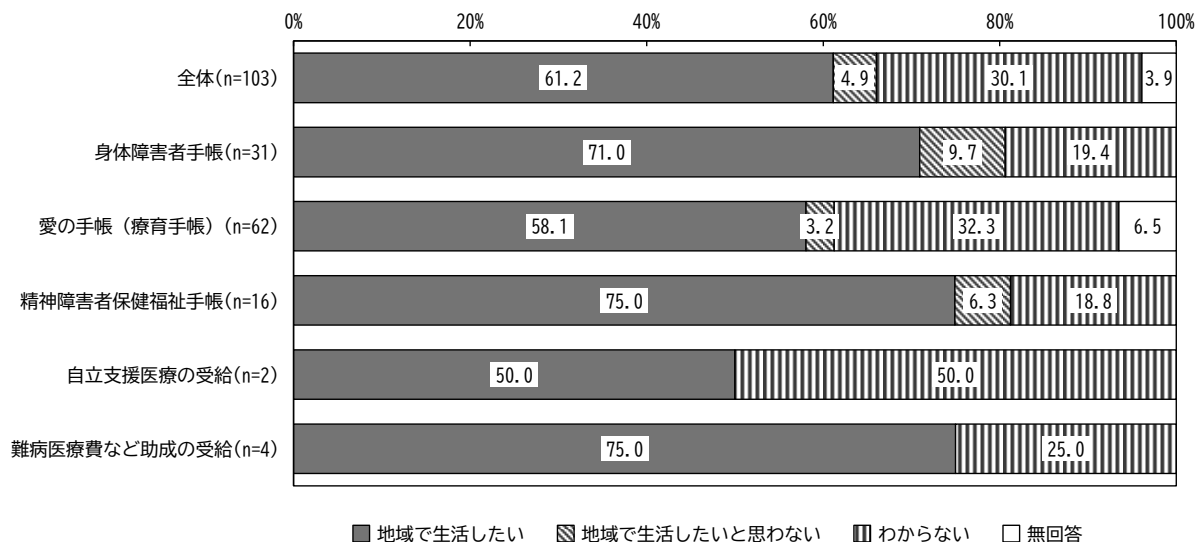


問20で「1」～「3」と答えた方におうかがいします。

問21 あなたは将来、地域（武蔵村山市）で生活したいと思いますか。（1つに○）

将来の生活については、全体では「地域で生活したい」が61.2%、「地域で生活したくない」と思わない」が4.9%、「わからない」が30.1%、「無回答」が3.9%となっています。

障害種別ごとでは、身体障害者手帳所持者及び精神障害者手帳所持者の受給者では「地域で生活したいと思わない」がそれぞれ9.7%、6.3%で、他の障害種別より多くなっています。

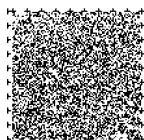
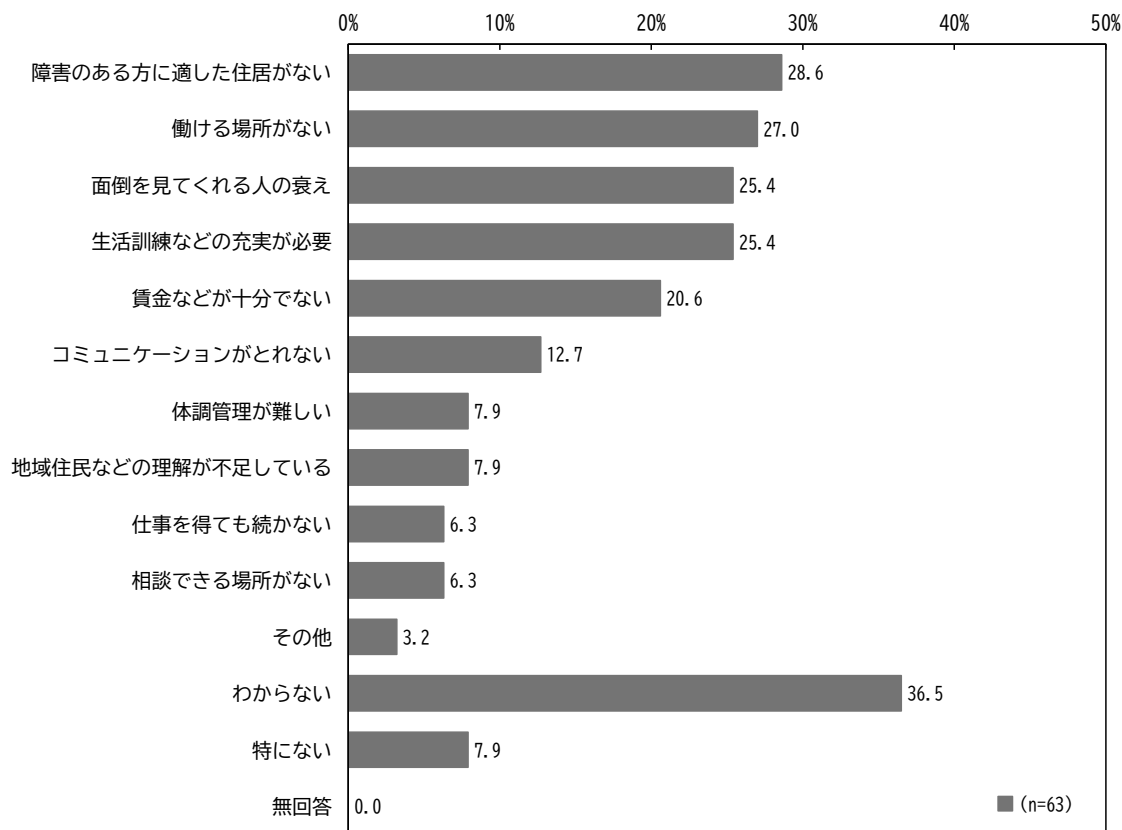


問21で「1. 地域で生活したい」と答えた方におうかがいします。

問22 地域で生活するためにどのようなことが課題と感じますか。(あてはまるものすべてに○)

地域で生活するにあたっての課題と感じていることは、全体では「障害のある方に適した住居がない」が28.6%と最も多く、次いで、「働ける場所がない」が27.0%、「面倒を見てくれる人の衰え」、「生活訓練などの充実が必要」がともに25.4%となっています。

なお、「わからない」が36.5%、「特にない」は7.9%となっています。



障害種別ごとでは、身体障害者手帳所持者及び精神障害者手帳所持者では「わからない」がそれぞれ45.5%、41.7%と最も多く、愛の手帳（療育手帳）所持者では「生活訓練などの充実が必要」が41.7%、自立支援医療の受給者では「障害のある方に適した住居がない」、「体調管理が難しい」がともに100.0%、難病医療費など助成の受給者では「障害のある方に適した住居がない」、「面倒を見てくれる人の衰え」、「体調管理が難しい」、「相談できる場所がない」がともに66.7%となっています。

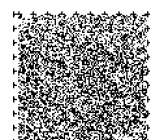
次いで、身体障害者手帳所持者では「面倒を見てくれる人の衰え」が31.8%、愛の手帳（療育手帳）所持者では「障害のある方に適した住居がない」が38.9%、精神障害者手帳所持者では「障害のある方に適した住居がない」、「体調管理が難しい」がともに25.0%となっています。

(単位:%)

	障害のある方に適した住居がない	働ける場所がない	面倒を見てくれる人の衰え	生活訓練などの充実が必要	賃金などが十分でない	コミュニケーションがとれない	体調管理が難しい	地域住民などの理解が不足している
全体(n=63)	28.6	27.0	25.4	25.4	20.6	12.7	7.9	7.9
身体障害者手帳(n=22)	27.3	18.2	31.8	18.2	22.7	9.1	4.5	4.5
愛の手帳（療育手帳）(n=36)	38.9	36.1	33.3	41.7	25.0	22.2	8.3	13.9
精神障害者保健福祉手帳(n=12)	25.0	16.7	16.7	16.7	8.3	0.0	25.0	0.0
自立支援医療の受給(n=1)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
難病医療費など助成の受給(n=3)	66.7	33.3	66.7	33.3	33.3	0.0	66.7	0.0

(単位:%)

	仕事を得ても続かない	相談できる場所がない	その他	わからない	特になし	無回答
全体(n=63)	6.3	6.3	3.2	36.5	7.9	0.0
身体障害者手帳(n=22)	9.1	4.5	0.0	45.5	9.1	0.0
愛の手帳（療育手帳）(n=36)	8.3	8.3	5.6	27.8	2.8	0.0
精神障害者保健福祉手帳(n=12)	8.3	0.0	0.0	41.7	16.7	0.0
自立支援医療の受給(n=1)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
難病医療費など助成の受給(n=3)	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0



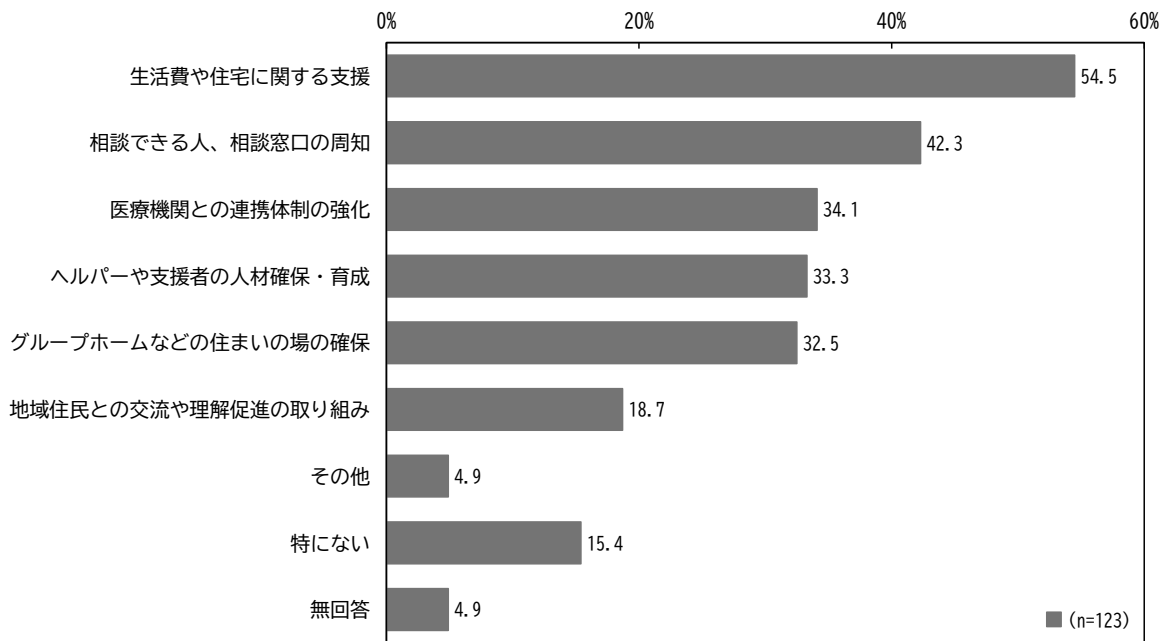
問23 地域生活への移行を進めるために、行政や地域にどのような支援を期待しますか。

(あてはまるものすべてに○)

地域移行で行政や地域に期待する支援については、全体では「生活費や住宅に関する支援」が54.5%と最も多く、次いで、「相談できる人、相談窓口の周知」が42.3%となっています。

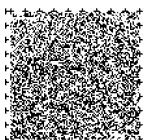
障害種別では、いずれの障害種別でも「生活費や住宅に関する支援」が最も多く、身体障害者手帳所持者が51.4%、愛の手帳（療育手帳）所持者が57.1%、精神障害者保健福祉手帳所持者が47.1%、自立支援医療の受給者が50.0%、難病医療費など助成の受給者が71.4%となっています。

また、愛の手帳（療育手帳）所持者及び難病医療費など助成の受給者では「グループホームなどの住まいの場の確保」が、他の障害種別より多くなっています。



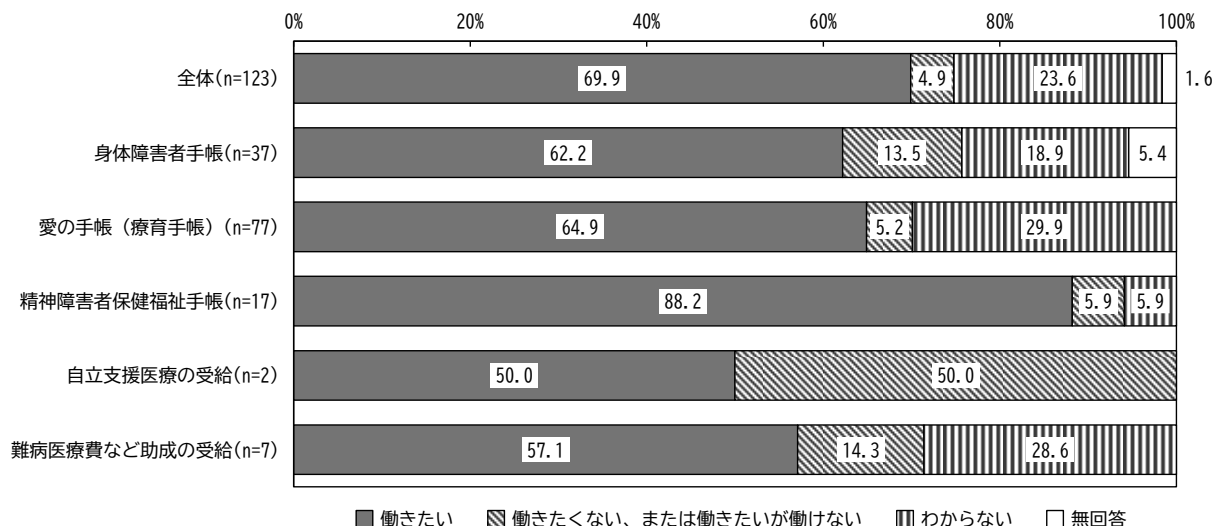
(単位:%)

	生活費や住宅に関する支援	知 相談できる人、相談窓口の周	化 医療機関との連携体制の強	保・育成 ヘルパーや支援者の人材確	いの場の確保 グループホームなどの住ま	進の取り組み 地域住民との交流や理解促	その他	特にない	無回答
全体(n=123)	54.5	42.3	34.1	33.3	32.5	18.7	4.9	15.4	4.9
身体障害者手帳(n=37)	51.4	37.8	48.6	35.1	24.3	16.2	8.1	16.2	5.4
愛の手帳（療育手帳）(n=77)	57.1	49.4	33.8	44.2	46.8	22.1	3.9	13.0	5.2
精神障害者保健福祉手帳(n=17)	47.1	29.4	23.5	11.8	5.9	11.8	5.9	23.5	0.0
自立支援医療の受給(n=2)	50.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
難病医療費など助成の受給(n=7)	71.4	28.6	57.1	28.6	42.9	0.0	14.3	0.0	0.0



問24 あなたは今後（将来）働くことを希望しますか。（1つに○）

将来、働くことを希望するかについては、いずれの障害種別でも「働きたい」が最も多く、精神障害者保健福祉手帳所持者が88.2%、愛の手帳（療育手帳）所持者が64.9%、身体障害者手帳所持者が62.2%となっています。

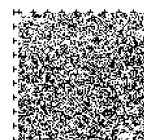
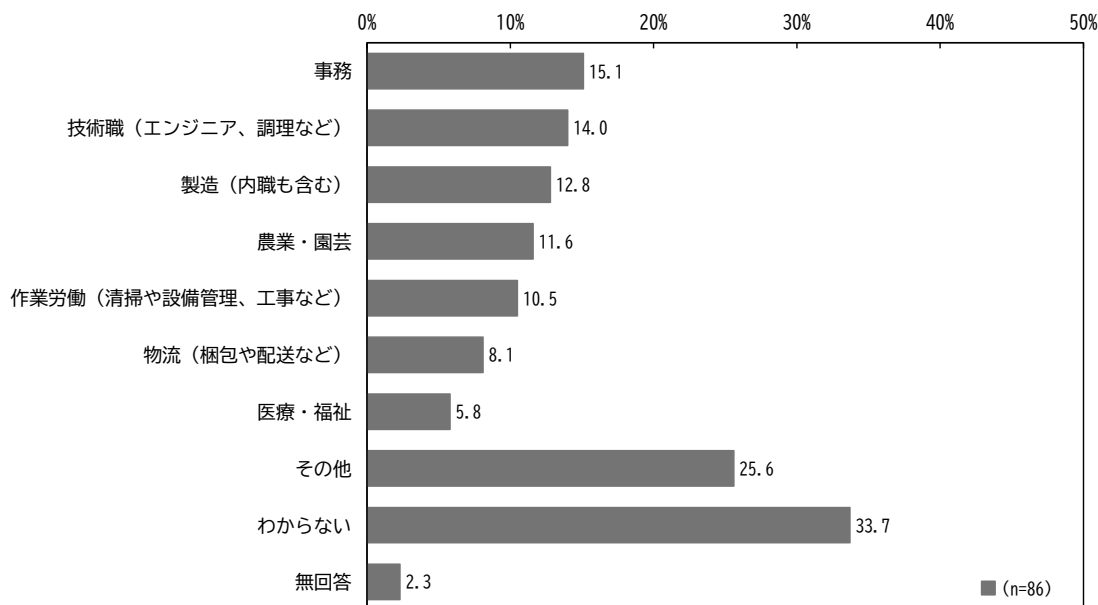


問24で「1. 働きたい」と答えた方におうかがいします。

問25 あなたが今後（将来）希望する仕事内容は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

今後希望する仕事の内容については、全体では「事務」が15.1%と最も多く、次いで、「技術職（エンジニア、調理など）」が14.0%となっています。

また、「わからない」が33.7%、「その他」は25.6%となっています。



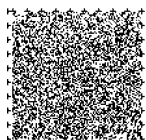
障害種別ごとでは、「わからない」を除くと、身体障害者手帳所持者では「事務」が30.4%で最も多く、愛の手帳（療育手帳）所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者及び難病医療費など助成受給者では「その他」が、それぞれ22.0%、40.0%、25.0%、自立支援医療の受給者では「農業・園芸」が100.0%となっています。

(単位:%)

	事務	技術職(エンジニア、調理など)	製造(内職も含む)	農業・園芸	作業労働(清掃や設備管理、工事など)	物流(梱包や配送など)	医療・福祉
全体(n=86)	15.1	14.0	12.8	11.6	10.5	8.1	5.8
身体障害者手帳(n=23)	30.4	4.3	13.0	0.0	0.0	0.0	8.7
愛の手帳(療育手帳)(n=50)	10.0	14.0	12.0	16.0	18.0	12.0	4.0
精神障害者保健福祉手帳(n=15)	6.7	26.7	6.7	20.0	6.7	6.7	6.7
自立支援医療の受給(n=1)	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
難病医療費など助成の受給(n=4)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(単位:%)

	その他	わからない	無回答
全体(n=86)	25.6	33.7	2.3
身体障害者手帳(n=23)	21.7	47.8	0.0
愛の手帳(療育手帳)(n=50)	22.0	34.0	2.0
精神障害者保健福祉手帳(n=15)	40.0	13.3	6.7
自立支援医療の受給(n=1)	0.0	0.0	0.0
難病医療費など助成の受給(n=4)	25.0	75.0	0.0

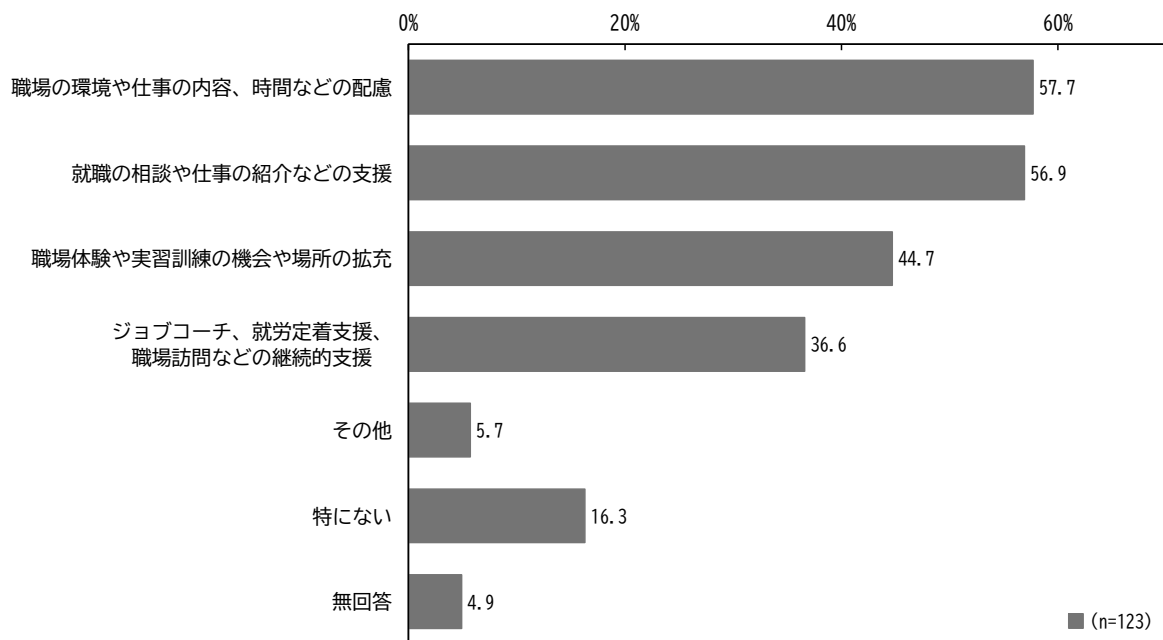


問26 どのような支援があれば企業などでの一般就労に移行できると思いますか。

(あてはまるものすべてに○)

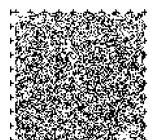
一般就労に移行するために必要な支援については、全体では「職場の環境や仕事の内容、時間などの配慮」が57.7%と最も多く、次いで、「就職の相談や仕事の紹介などの支援」が56.9%となっています。

障害種別ごとでは、身体障害者手帳所持者及び精神障害者保健福祉手帳所持者では「職場の環境や仕事の内容、時間などの配慮」が、それぞれ40.5%、52.9%、愛の手帳（療育手帳）所持者及び難病医療費など助成受給者では「就職の相談や仕事の紹介などの支援」が、それぞれ68.8%、57.1%と最も多くなっています。



(単位:%)

	職場の環境や仕事の内容、時間などの配慮	就職の相談や仕事の紹介などの支援	職場体験や実習訓練の機会や場所の拡充	ジョブコーチ、就労定着支援、職場訪問などの継続的支援	その他	特にない	無回答
全体(n=123)	57.7	56.9	44.7	36.6	5.7	16.3	4.9
身体障害者手帳(n=37)	40.5	32.4	24.3	18.9	8.1	32.4	10.8
愛の手帳（療育手帳）(n=77)	67.5	68.8	54.5	45.5	7.8	7.8	2.6
精神障害者保健福祉手帳(n=17)	52.9	41.2	41.2	17.6	5.9	23.5	0.0
自立支援医療の受給(n=2)	100.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
難病医療費など助成の受給(n=7)	14.3	57.1	14.3	28.6	0.0	42.9	0.0



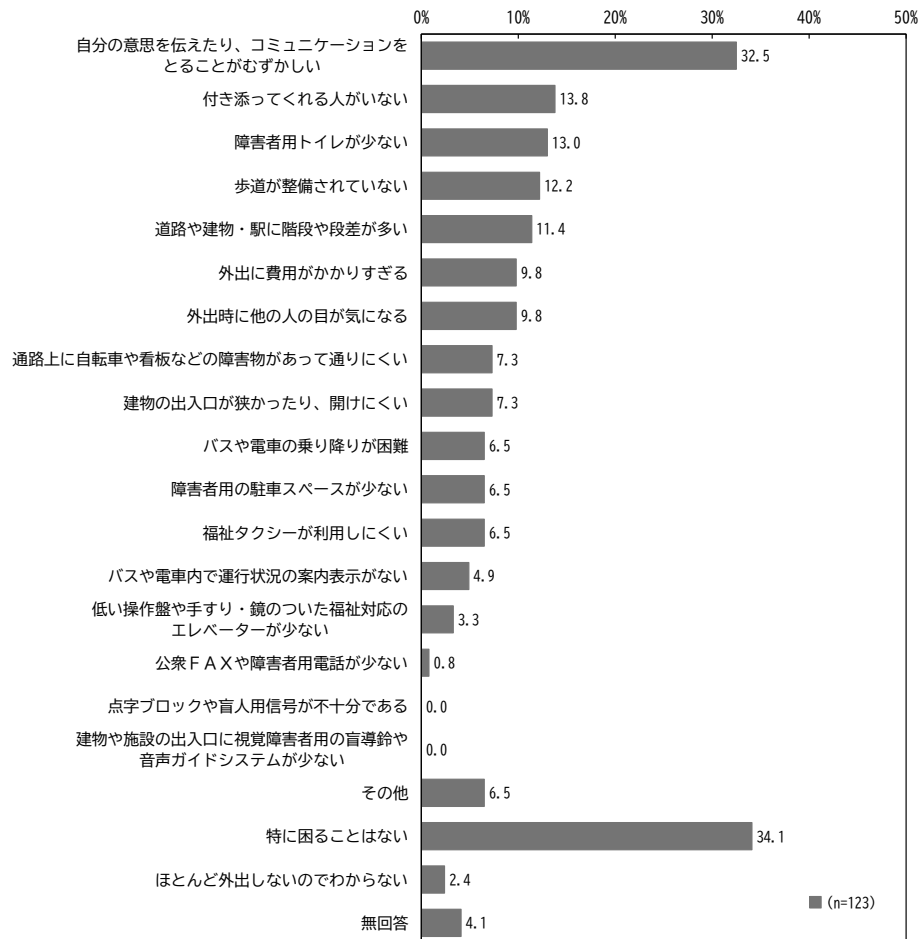
## 7 外出や活動などについて

問27 外出するとき、不便に感じることや困っていることはありますか。

(あてはまるものすべてに○)

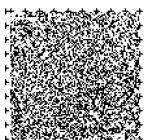
外出するとき不便に感じることや困っていることは、全体では「自分の意思を伝えたり、コミュニケーションをとることがむずかしい」が32.5%と最も多く、次いで、「付き添ってくれる人がいない」が13.8%、「障害者用トイレが少ない」が13.0%となっています。

なお、「特に困ることはない」が34.1%となっています。



以下では寄せられたご意見を分割せず、個人等が特定できる記載を除いて原文のまま掲載しています。

「4. 歩道が整備されていない」具体的な場所	「5. 障害者用の駐車スペースが少ない」具体的な場所
<ul style="list-style-type: none"> <li>・旧青梅街道一小付近の道</li> <li>・青梅街道</li> <li>・江戸街道の歩道が狭い。勾配が多い。雷塚公園内歩道の凹凸が酷い。</li> <li>・旧青梅街道第一小学校の交差点を神社方向へ曲がった道。車がすごいスピードで通って来てあぶない。</li> <li>・市内たくさんあり過ぎますが、どこの道路も歩道が途中で狭くなったり、無くなったりするのがとても怖い。</li> <li>・住宅地内での道路の舗装されていない凸凹があるところ、本町</li> <li>・市役所周辺すら整備が足りない、歩道が無い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市役所</li> <li>・大南公園</li> <li>・公園</li> <li>・スーパー</li> <li>・病院 薬局等</li> <li>・雷塚図書館</li> </ul>



障害種別ごとでは、身体障害者手帳所持者では「道路や建物・駅に階段や段差が多い」が29.7%、愛の手帳（療育手帳）所持者では「自分の意思を伝えたり、コミュニケーションをとることがむずかしい」が42.9%、精神障害者保健福祉手帳所持者では、「特に困ることはない」が64.7%、難病医療費など助成の受給者では「障害者用トイレが少ない」、「外出時に他の人の目が気になる」、「建物の出入口が狭かったり、開けにくい」がともに28.6%で、それぞれ最も多くなっています。

(単位:%)

	自分の意思を伝えたり、コミュニケーションをとることがむずかしい	付き添ってくれる人がいない	障害者用トイレが少ない	歩道が整備されていない	道路や建物・駅に階段や段差が多い	外出に費用がかかりすぎる	外出時に他の人の目が気になる	通路上に自転車や看板などの障害物がある通りにくい	建物の出入口が狭かったり、開けにくい	バスや電車の乗り降りが困難	障害者用の駐車スペースが少ない
全体(n=123)	32.5	13.8	13.0	12.2	11.4	9.8	9.8	7.3	7.3	6.5	6.5
身体障害者手帳(n=37)	27.0	10.8	24.3	10.8	29.7	8.1	10.8	2.7	18.9	8.1	16.2
愛の手帳（療育手帳）(n=77)	42.9	20.8	14.3	14.3	9.1	13.0	11.7	7.8	7.8	7.8	5.2
精神障害者保健福祉手帳(n=17)	11.8	0.0	0.0	5.9	0.0	11.8	0.0	5.9	0.0	0.0	0.0
自立支援医療の受給(n=2)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
難病医療費など助成の受給(n=7)	0.0	14.3	28.6	14.3	14.3	14.3	28.6	14.3	28.6	0.0	14.3

(単位:%)

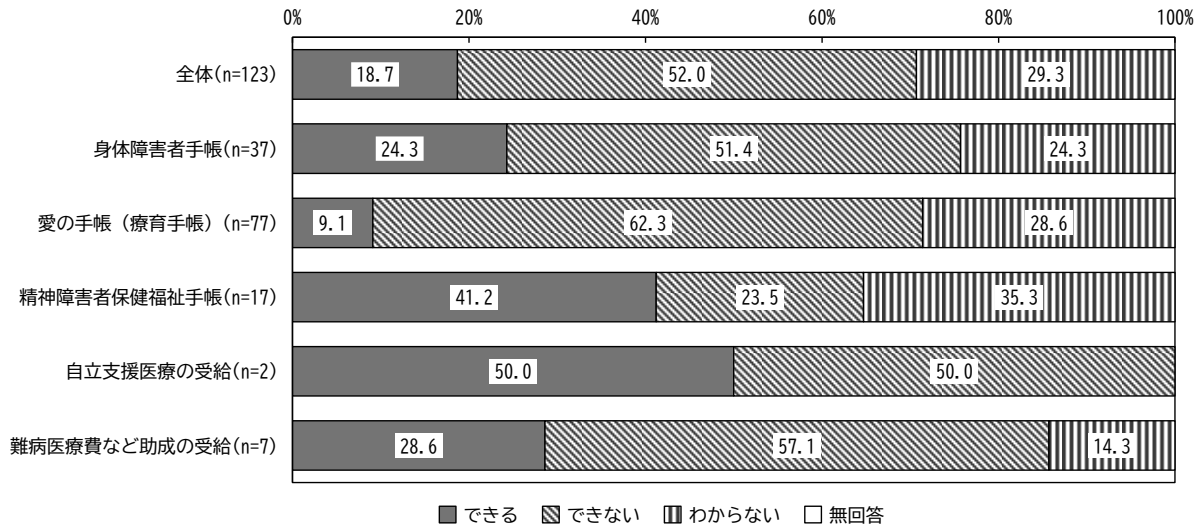
	福祉タクシーが利用しにくい	バスや電車内で運行状況の案内表示がない	低い操作盤や手すり・鏡のついた福祉対応のエレベーターが少ない	公衆FAXや障害者用電話が少ない	点字ブロッックや盲人用信号が不十分である	導鈴や音声ガイドシステムが少ない	建物や施設の出入口に視覚障害者用の盲導鈴や音声ガイドシステムが少ない	その他	特に困ることはない	ほとんど外出しないのでわからない	無回答
全体(n=123)	6.5	4.9	3.3	0.8	0.0	0.0	6.5	34.1	2.4	4.1	
身体障害者手帳(n=37)	16.2	8.1	10.8	2.7	0.0	0.0	10.8	27.0	2.7	5.4	
愛の手帳（療育手帳）(n=77)	6.5	6.5	1.3	0.0	0.0	0.0	6.5	27.3	2.6	2.6	
精神障害者保健福祉手帳(n=17)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	64.7	0.0	5.9	
自立支援医療の受給(n=2)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	
難病医療費など助成の受給(n=7)	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	14.3	0.0	0.0	



## 8 防災対策について

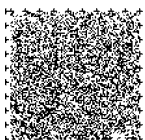
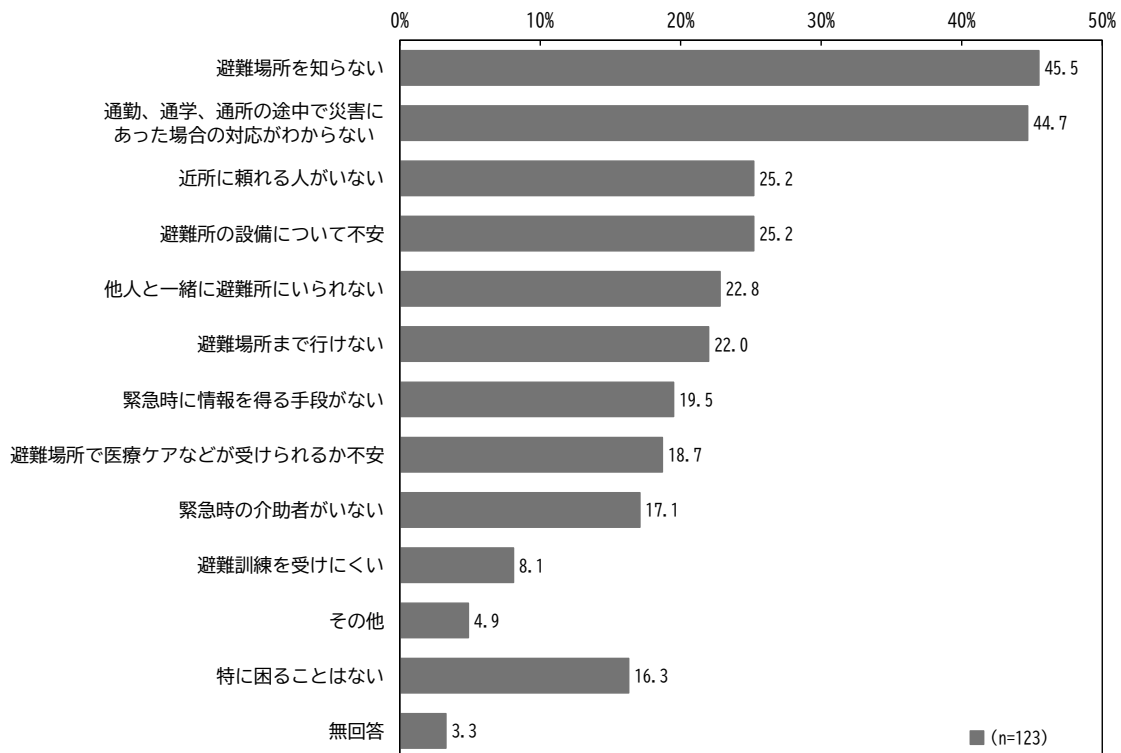
問28 あなたは、地震などの災害時に一人で避難できますか。(1つに○)

災害時に一人で避難できるかについては、全体では、「できる」が18.7%、「できない」が52.0%、「わからない」が29.3%、「わからない」が29.3%、「わからない」が29.3%となっています。



問29 あなたが地震など災害時に困ることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

災害時に困ることについては、全体では、「避難場所を知らない」が45.5%と最も多く、次いで、「通勤、通学、通所の途中で災害にあった場合の対応がわからない」が44.7%、「近所に頼れる人がいない」、「避難所の設備について不安」がともに25.2%となっています。



障害種別ごとでは、身体障害者手帳所持者では「避難場所で医療ケアなどが受けられるか不安」が40.5%、愛の手帳（療育手帳）所持者及び精神障害者保健福祉手帳所持者では「通勤、通学、通所の途中で災害にあった場合の対応がわからない」が、それぞれ53.2%、52.9%と最も多くなっています。

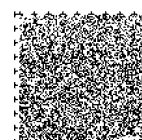
また、難病医療費など助成の受給者では「避難所の設備について不安」、「避難場所まで行けない」がともに42.9%と最も多くなっています。

(単位:%)

	避難場所を知らない	通勤、通学、通所の途中で災害にあった場合の対応がわからない	近所に頼れる人がいない	避難所の設備について不安	他人と一緒に避難所にいられない	避難場所まで行けない	緊急時に情報を得る手段がない	避難場所で医療ケアなどが受けられるか不安
全体(n=123)	45.5	44.7	25.2	25.2	22.8	22.0	19.5	18.7
身体障害者手帳(n=37)	32.4	29.7	21.6	29.7	10.8	27.0	10.8	40.5
愛の手帳（療育手帳）(n=77)	51.9	53.2	28.6	26.0	28.6	27.3	24.7	11.7
精神障害者保健福祉手帳(n=17)	47.1	52.9	11.8	17.6	11.8	0.0	17.6	17.6
自立支援医療の受給(n=2)	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
難病医療費など助成の受給(n=7)	14.3	28.6	28.6	42.9	28.6	42.9	28.6	42.9

(単位:%)

	緊急時の介助者がいない	避難訓練を受けにくい	その他	特に困ることはない	無回答
全体(n=123)	17.1	8.1	4.9	16.3	3.3
身体障害者手帳(n=37)	24.3	5.4	2.7	21.6	5.4
愛の手帳（療育手帳）(n=77)	19.5	10.4	6.5	7.8	2.6
精神障害者保健福祉手帳(n=17)	0.0	5.9	5.9	29.4	0.0
自立支援医療の受給(n=2)	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
難病医療費など助成の受給(n=7)	14.3	0.0	0.0	28.6	0.0

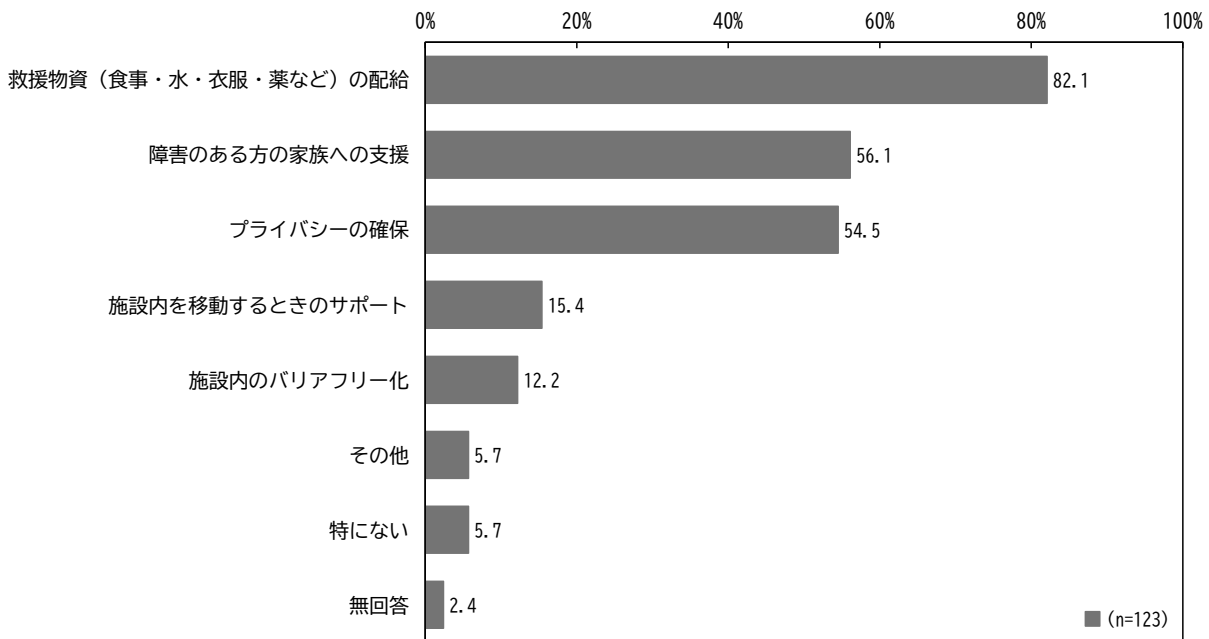


問30 あなたが、災害の際に避難所で生活するために必要とする支援は何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

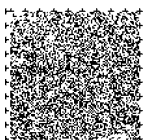
災害時に避難所で生活する際に必要な支援については、全体では、「救援物資（食事・水・衣服・薬など）の配給」が82.1%と最も多く、次いで、「障害のある方の家族への支援」が56.1%、「プライバシーの確保」が54.5%となっています。

障害種別ごとでは、いずれの障害種別でも「救援物資（食事・水・衣服・薬など）の配給」が最も多く、次いで、身体障害者手帳所持者、愛の手帳（療育手帳）所持者及び精神障害者保健福祉手帳所持者では、「障害のある方の家族への支援」が51.4%、66.2%、41.2%、自立支援医療の受給者では「障害のある方の家族への支援」、「プライバシーの確保」がともに50.0%となっています。



(単位:%)

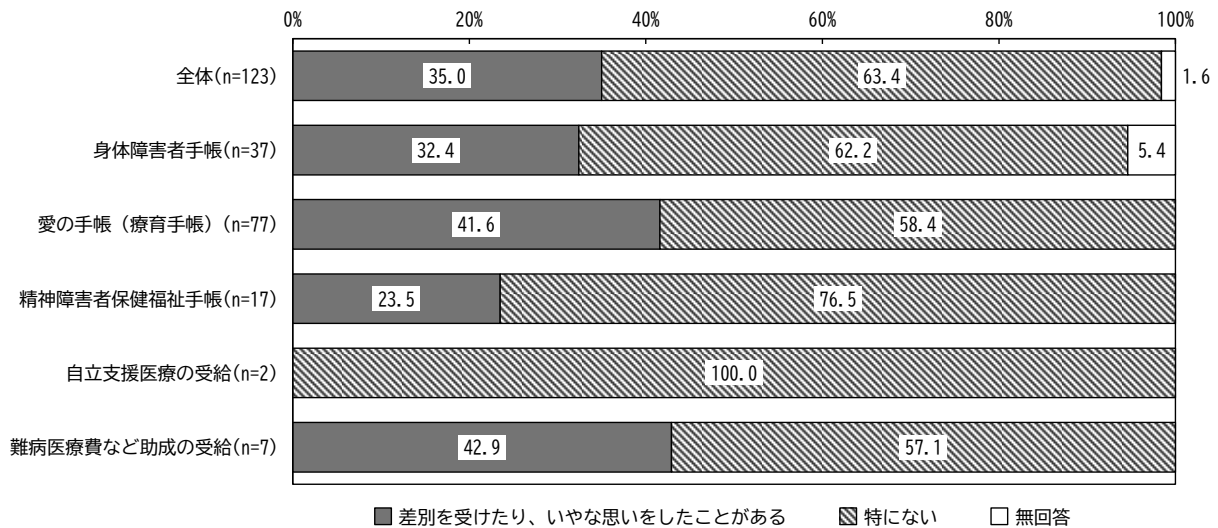
	救援物資（食事・水・衣服・薬など）の配給	障害のある方の家族への支援	プライバシーの確保	施設内を移動するときのサポート	施設内のバリアフリー化	その他	特にない	無回答
全体(n=123)	82.1	56.1	54.5	15.4	12.2	5.7	5.7	2.4
身体障害者手帳(n=37)	70.3	51.4	37.8	24.3	29.7	10.8	10.8	5.4
愛の手帳（療育手帳）(n=77)	84.4	66.2	59.7	14.3	7.8	6.5	2.6	1.3
精神障害者保健福祉手帳(n=17)	88.2	41.2	23.5	11.8	11.8	0.0	5.9	0.0
自立支援医療の受給(n=2)	100.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
難病医療費など助成の受給(n=7)	71.4	57.1	71.4	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0



## 9 障害のある方の権利擁護について

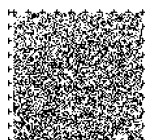
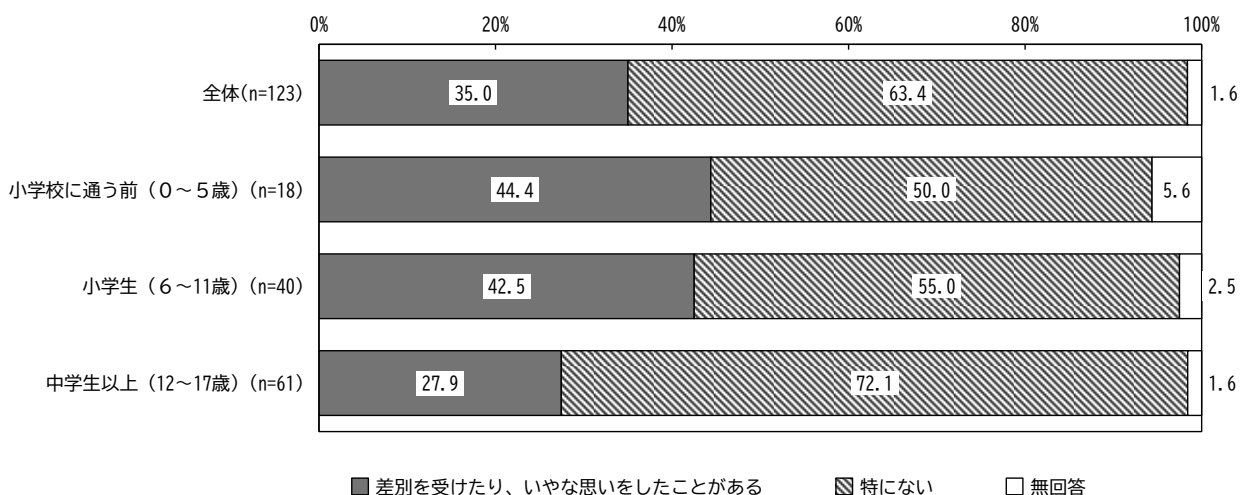
問31 あなたは、これまでに障害があるため、差別を受けたり、いやな思いをしたことがありますか。  
(あてはまるものすべてに○)

障害が原因で受けた差別やいやな思いの内容は、全体では、「差別を受けたり、いやな思いをしたことがある」が35.0%、「特にない」が63.4%となっています。

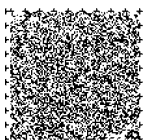
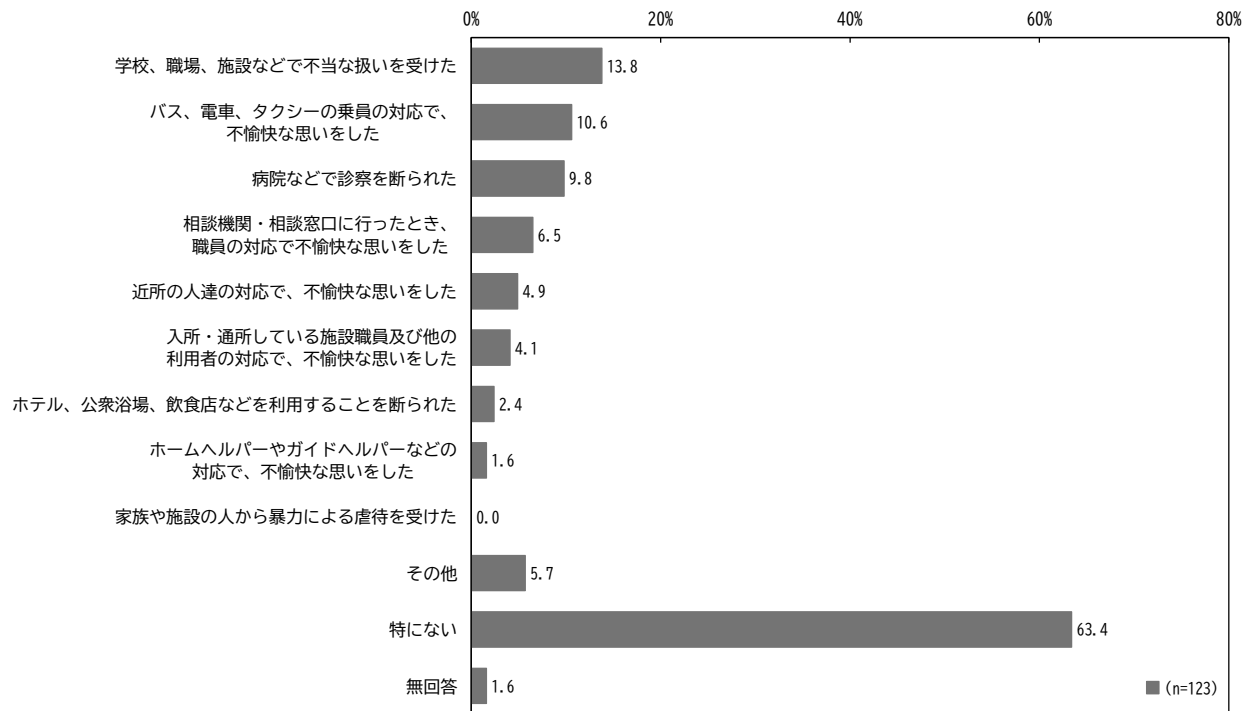


年代別では、「差別を受けたり、いやな思いをしたことがある」人は、小学校に通う前 (0~5歳) で44.4%、小学生 (6~11歳) で42.5%、中学生以上 (12~17歳) で27.9%となっています。

いずれの年代も、「特にない」の割合の方が多くなっています。



「特にない」を除いて、障害が原因で差別を受けたり、いやな思いをした内容を見ると、「学校、職場、施設などで不当な扱いを受けた」が13.8%と最も多く、次いで、「バス、電車、タクシーの乗員の対応で、不愉快な思いをした」が10.6%、「病院などで診察を断られた」が9.8%となっています。



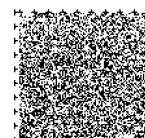
障害種別ごとでは、「特にない」を除くと、身体障害者手帳所持者では「バス、電車、タクシーの乗務員の対応で、不愉快な思いをした」が10.8%、愛の手帳（療育手帳）所持者及び精神障害者保健福祉手帳所持者では「学校、職場、施設などで不当な扱いを受けた」がそれぞれ15.6%、17.6%、難病医療費など助成受給者では、「入所・通所している施設職員及び他の利用者の対応で、不愉快な思いをした」が28.6%と、最も多くなっています。

(単位:%)

	学校、職場、施設などで不当な扱いを受けた	バス、電車、タクシーの乗員の対応で、不愉快な思いをした	病院などで診察を断られた	相談機関・相談窓口に行ったとき、職員の対応で不愉快な思いをした	近所の人達の対応で、不愉快な思いをした	入所・通所している施設職員及び他の利用者の対応で、不愉快な思いをした	ホテル、公衆浴場、飲食店などを利用することを断られた
全体(n=123)	13.8	10.6	9.8	6.5	4.9	4.1	2.4
身体障害者手帳(n=37)	5.4	10.8	8.1	5.4	2.7	8.1	2.7
愛の手帳（療育手帳）(n=77)	15.6	13.0	13.0	10.4	6.5	6.5	2.6
精神障害者保健福祉手帳(n=17)	17.6	5.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
自立支援医療の受給(n=2)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
難病医療費など助成の受給(n=7)	14.3	0.0	14.3	14.3	14.3	28.6	0.0

(単位:%)

	ホームヘルパーやガイドヘルパーなどの対応で、不愉快な思いをした	家族や施設の人から暴力による虐待を受けた	その他	特にない	無回答
全体(n=123)	1.6	0.0	5.7	63.4	1.6
身体障害者手帳(n=37)	2.7	0.0	8.1	62.2	5.4
愛の手帳（療育手帳）(n=77)	2.6	0.0	7.8	58.4	0.0
精神障害者保健福祉手帳(n=17)	0.0	0.0	0.0	76.5	0.0
自立支援医療の受給(n=2)	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
難病医療費など助成の受給(n=7)	0.0	0.0	0.0	57.1	0.0



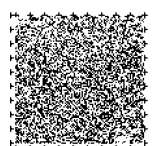
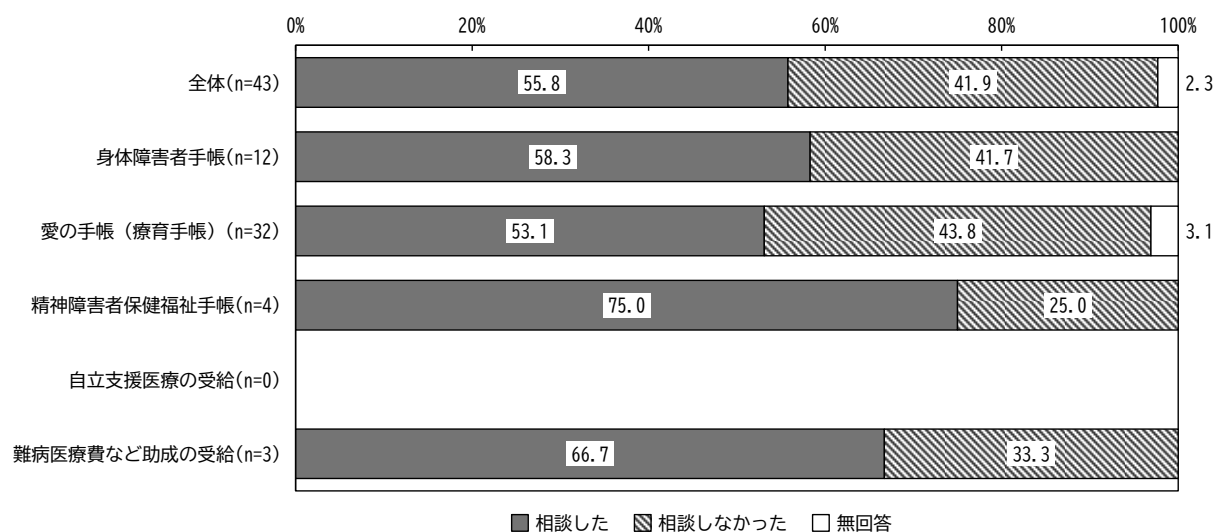
問31で「1」～「10」と答えた方におうかがいします。

問32 差別を受けたり、いやな思いをした経験について、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。(1つに○)

差別を受けたり、いやな思いをした経験について、誰かに打ち明けたり、相談したりしたことがある(「相談した」と回答した)人は、全体では55.8%で、「相談しなかった」人の41.9%を上回っています。

障害種別ごとでは、「相談した」人は精神障害者保健福祉手帳所持者が75.0%と障害種別の中で最も多く、次いで、難病医療費など助成の受給者で66.7%となっています。

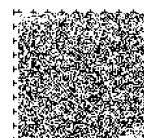
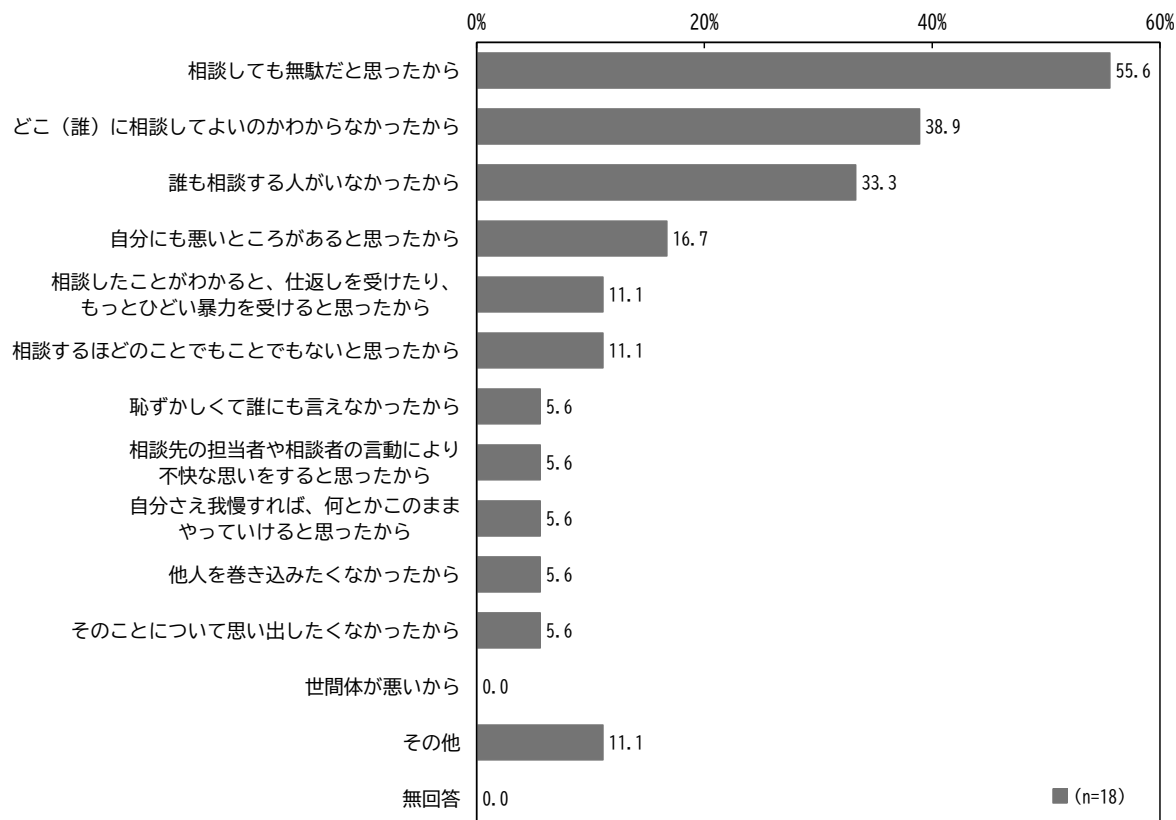
一方で、「相談しなかった」人は、愛の手帳(療育手帳)所持者が43.8%と障害種別の中で最も多く、次いで、身体障害者手帳所持者が41.7%となっています。



問32で「2. 相談しなかった」と答えた方におうかがいします。

問33 相談しなかったのは、なぜですか。(あてはまるものすべてに○)

差別を受けたことを相談しなかった理由については、全体では「相談しても無駄だと思ったから」が55.6%と最も多く、次いで、「どこ(誰)に相談してよいのかわからなかったから」が38.9%、「誰も相談する人がいなかったから」が33.3%となっています。



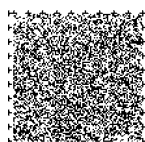
障害種別ごとでは、身体障害者手帳所持者、愛の手帳（療育手帳）所持者及び難病医療費など助成の受給者では「相談しても無駄だと思ったから」がそれぞれ80.0%、57.1%、100.0%、精神障害者保健福祉手帳所持者では「誰も相談する人がいなかったから」、「相談するほどのことでもないと思ったから」がともに100.0%と、最も多くなっています。

(単位:%)

	相談しても無駄だと思ったから	どこ(誰)に相談してよいかわからなかったから	誰も相談する人がいなかったから	自分にも悪いところがあると思ったから	相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思ったから	相談するほどのことでもないと思ったから	恥ずかしくて誰にも言えなかったから	相談先の担当者や相談者の言動により不快な思いをすと思ったから
全体(n=18)	55.6	38.9	33.3	16.7	11.1	11.1	5.6	5.6
身体障害者手帳(n=5)	80.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	20.0
愛の手帳（療育手帳）(n=14)	57.1	42.9	35.7	21.4	14.3	0.0	7.1	0.0
精神障害者保健福祉手帳(n=1)	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
自立支援医療の受給(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
難病医療費など助成の受給(n=1)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(単位:%)

	自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思ったから	他人を巻き込みたくなかったから	そのことについて思い出したくなかったから	世間体が悪いから	その他	無回答
全体(n=18)	5.6	5.6	5.6	0.0	11.1	0.0
身体障害者手帳(n=5)	0.0	0.0	20.0	0.0	20.0	0.0
愛の手帳（療育手帳）(n=14)	0.0	7.1	7.1	0.0	14.3	0.0
精神障害者保健福祉手帳(n=1)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
自立支援医療の受給(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
難病医療費など助成の受給(n=1)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0



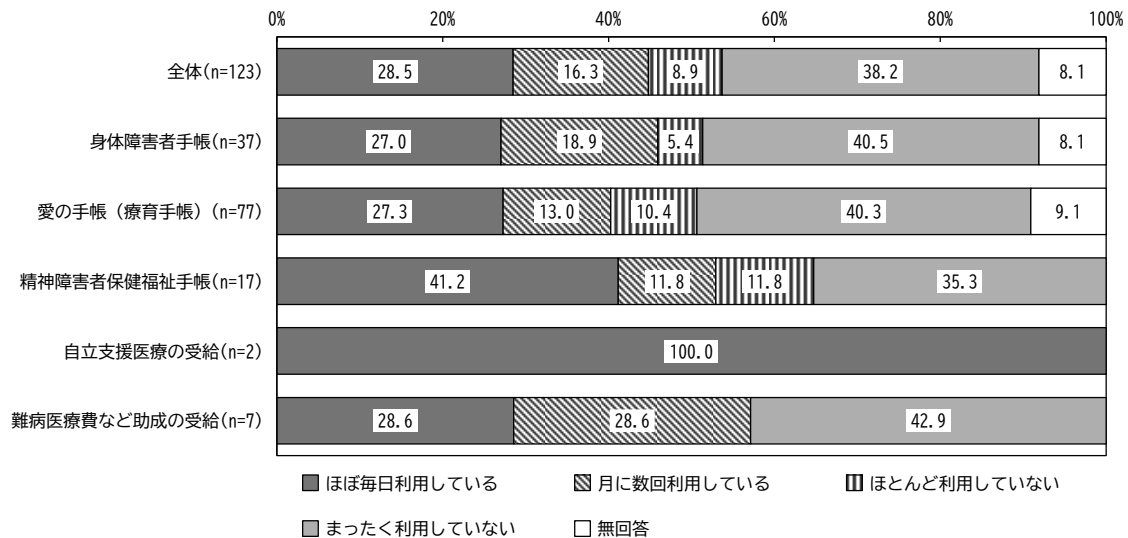
## 10 情報入手や普段の相談について

問34 あなたは現在、ICT機器（パソコンやスマートフォンなど）をどのくらい利用していますか。  
（それぞれ1つに○）

### (1) パソコン

パソコンを利用する頻度については、全体では、「まったく利用していない」が38.2%と最も多く、次いで、「ほぼ毎日利用している」が28.5%となっています。

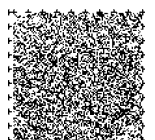
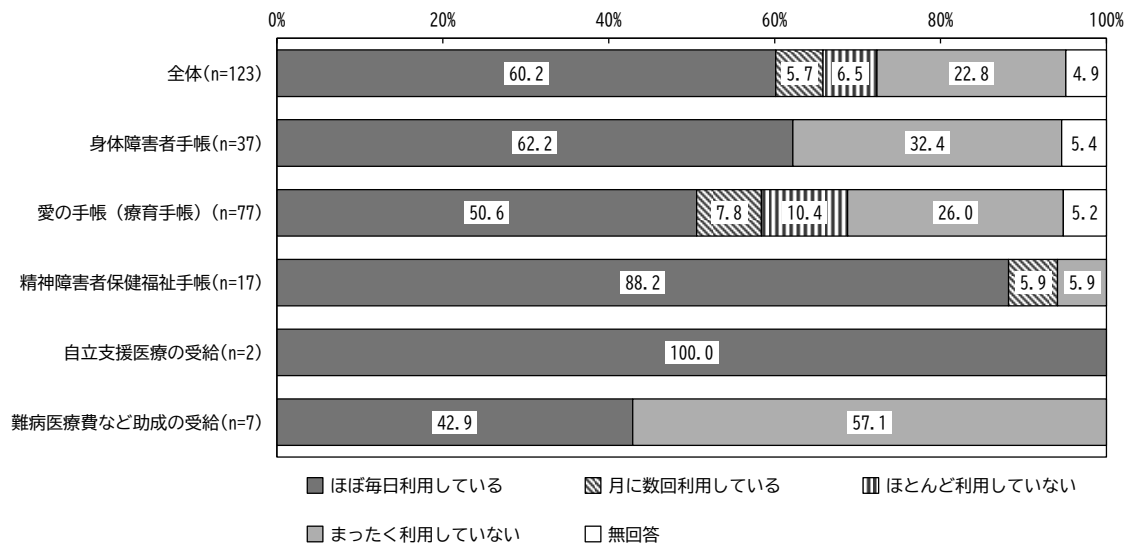
障害種別ごとでは、精神障害者保健福祉手帳所持者で「ほぼ毎日利用している」の割合が自立支援医療の受給者を除く他の障害種別より多くなっています。



### (2) スマートフォン

スマートフォンを利用する頻度については、全体では、「ほぼ毎日利用している」が60.2%と最も多く、次いで、「まったく利用していない」が22.8%となっています。

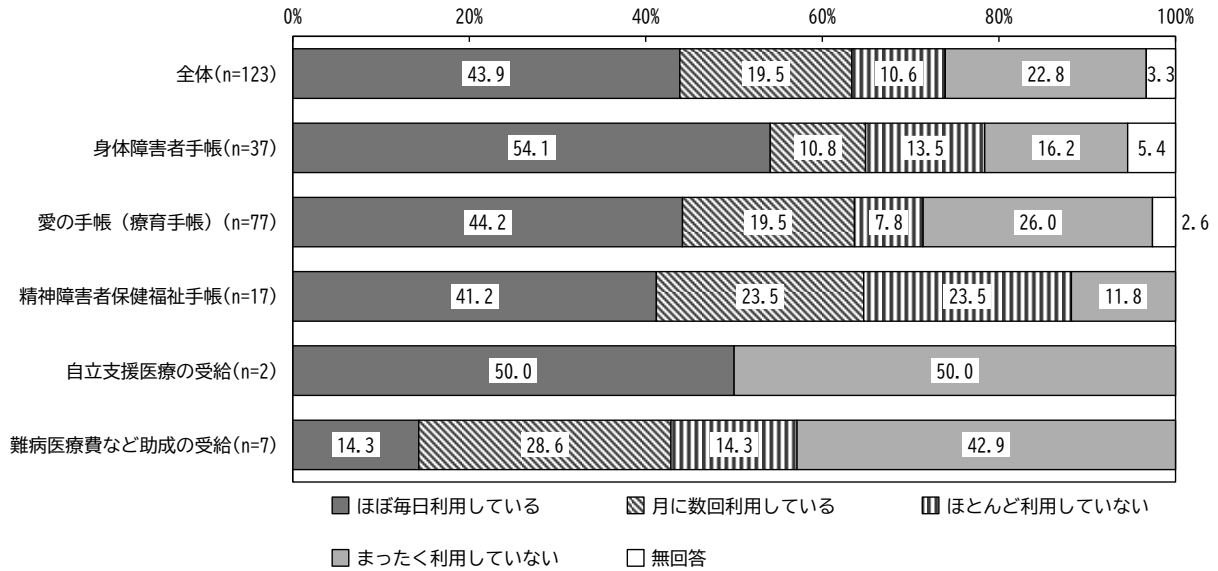
障害種別ごとでは、難病医療費など助成の受給者で「まったく利用していない」の割合が他の障害種別より多くなっています。



### (3) タブレット型端末

タブレット端末を利用する頻度については、全体では、「ほぼ毎日利用している」が43.9%と最も多く、次いで、「まったく利用していない」が22.8%となっています。

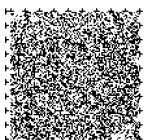
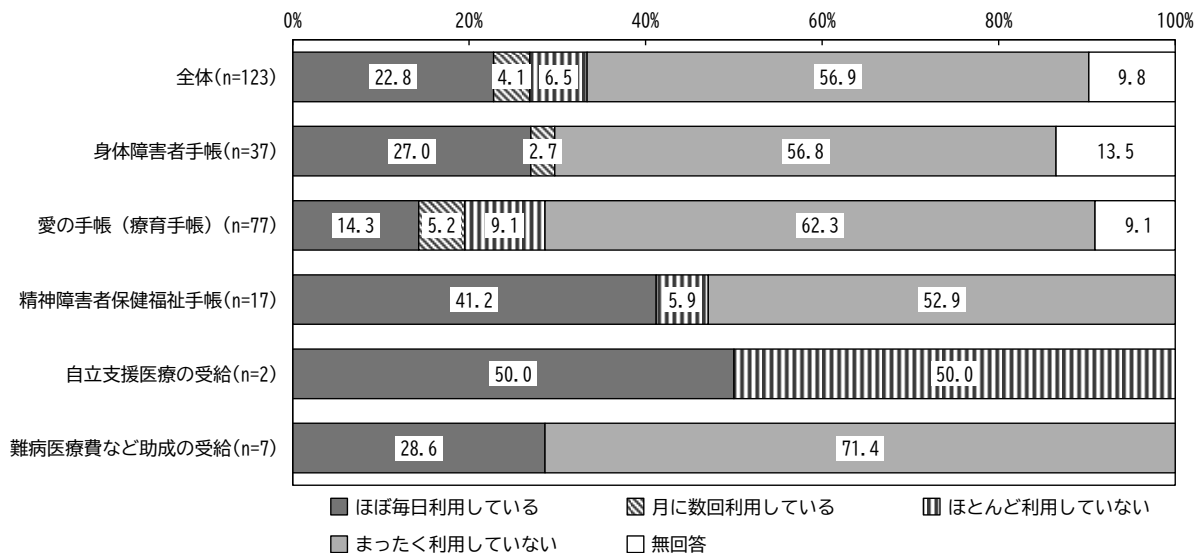
障害種別ごとでは、身体障害者手帳所持者では「ほぼ毎日利用している」の割合が他の障害種別より多くなっています。



### (4) 携帯電話

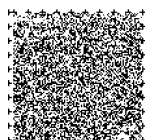
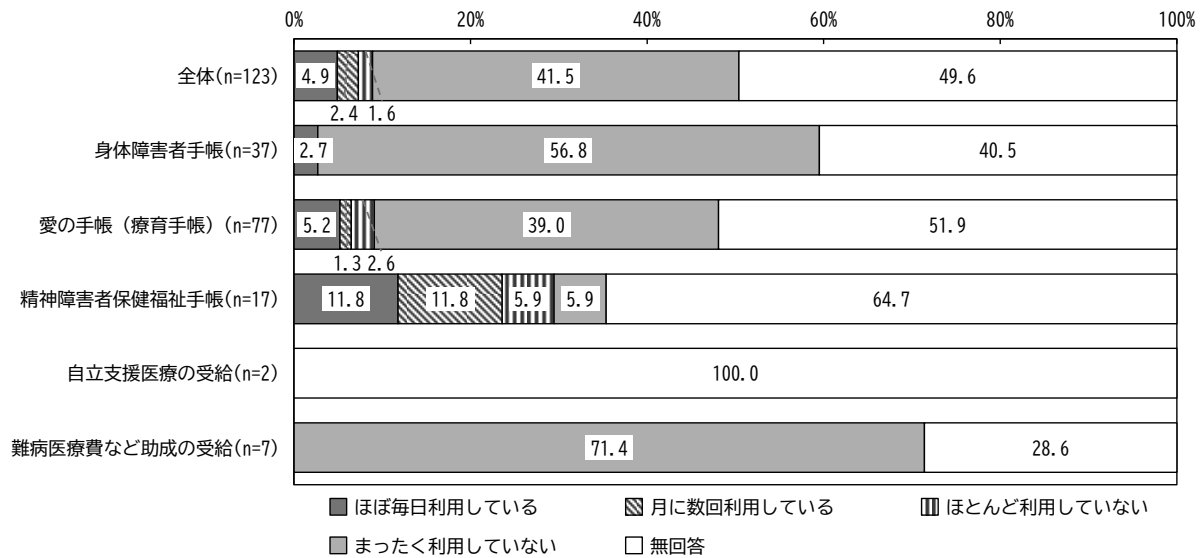
携帯電話を利用する頻度については、全体では、「まったく利用していない」が56.9%と最も多く、次いで、「ほぼ毎日利用している」が22.8%となっています。

障害種別ごとでは、自立支援医療の受給者では「ほぼ毎日利用している」の割合が他の障害種別より多くなっています。



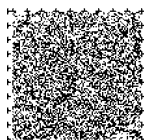
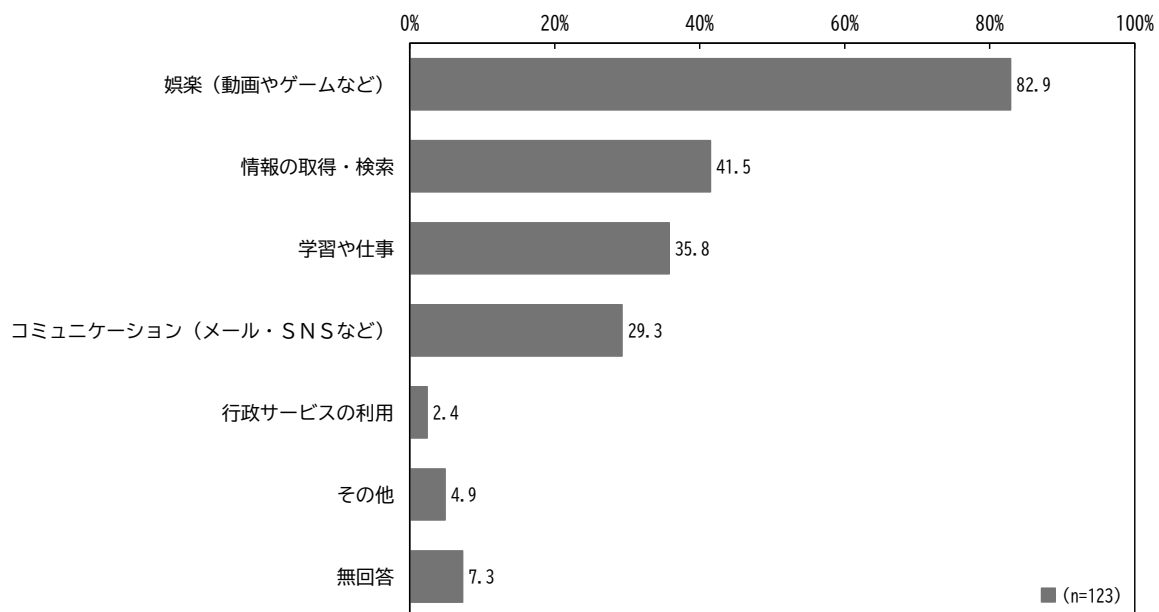
(5) その他

(1)～(4)以外のICT機器を利用する頻度については、全体ではおおよそ半数が無回答でしたが、「まったく利用していない」が41.5%と最も多く、次いで、「ほぼ毎日利用している」が4.9%となっています。



問35 あなたは普段どのような目的でICT機器を利用していますか。(あてはまるものすべてに○)

普段ICT機器を利用する目的については、全体では、「娯楽（動画やゲームなど）」が82.9%と最も多く、次いで、「情報の取得・検索」が41.5%、「学習や仕事」が35.8%となっています。



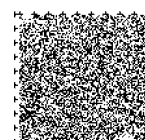
障害種別ごとでは、いずれの障害種別でも「娯楽（動画やゲームなど）」が最も多くなっています。

次いで、身体障害者手帳所持者及び難病医療費など助成の受給者では「学習や仕事」がそれぞれ51.4%、42.9%、愛の手帳（療育手帳）所持者及び精神障害者保健福祉手帳所持者では「情報の取得・検索」がそれぞれ29.9%、58.8%となっています。

また、精神障害者保健福祉手帳所持者では「行政サービスの利用」の割合が他の障害種別より多くなっています。

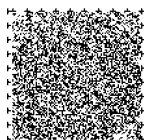
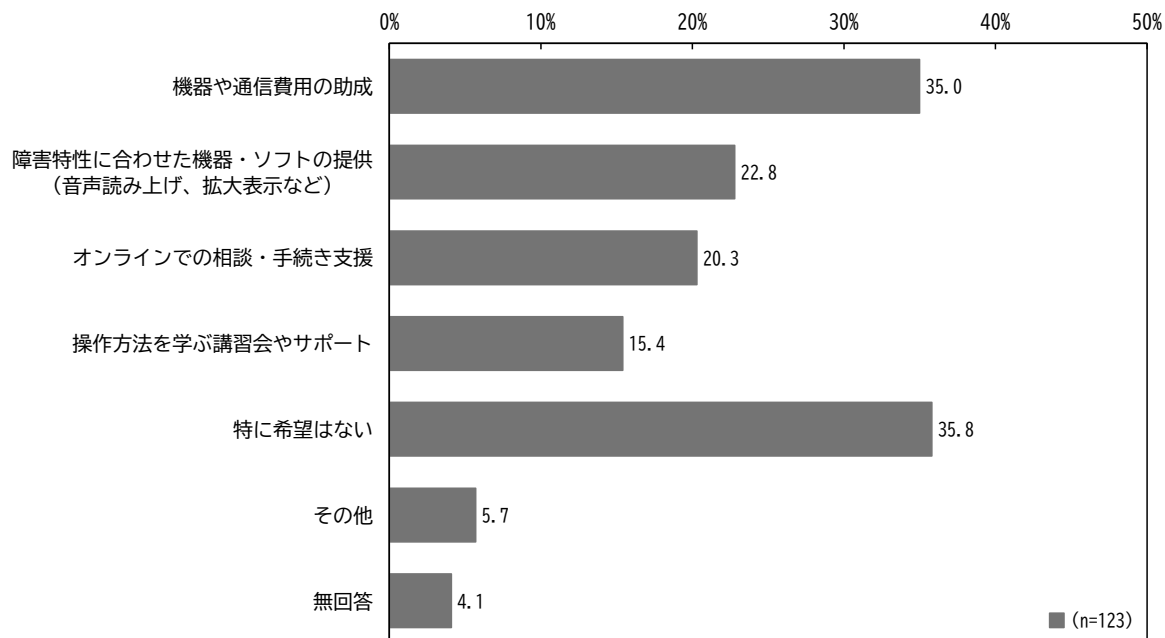
(単位:%)

	娯楽 (動画やゲームなど)	情報の取得・ 検索	学習や仕事	コミュニケーション (メール・SNSなど)	行政サービスの利用	その他	無回答
全体(n=123)	82.9	41.5	35.8	29.3	2.4	4.9	7.3
身体障害者手帳(n=37)	64.9	43.2	51.4	35.1	2.7	13.5	10.8
愛の手帳（療育手帳）(n=77)	89.6	29.9	24.7	19.5	1.3	5.2	5.2
精神障害者保健福祉手帳(n=17)	82.4	58.8	35.3	41.2	11.8	0.0	11.8
自立支援医療の受給(n=2)	100.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
難病医療費など助成の受給(n=7)	57.1	28.6	42.9	28.6	0.0	14.3	28.6



問36 今後、ICT機器を活用するうえで行政や地域にどのような支援を期待しますか。  
(あてはまるものすべてに○)

ICT機器を活用するうえで、今後、行政や地域に期待する支援については、全体では、「特に希望はない」が35.8%と最も多く、次いで、「機器や通信費用の助成」が35.0%、「障害特性に合わせた機器・ソフトの提供（音声読み上げ、拡大表示など）」が22.8%となっています。

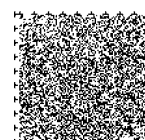


障害種別ごとでは、「特に希望はない」を除くと、愛の手帳（療育手帳）所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者及び難病医療費など助成の受給者では、「機器や通信費用の助成」がそれぞれ40.3%、29.4%、42.9%、身体障害者手帳所持者では「オンラインでの相談・手続き支援」が27.0%と、それぞれ最も多くなっています。

次いで、身体障害者手帳所持者では「機器や通信費用の助成」が24.3%、愛の手帳（療育手帳）所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者及び難病医療費など助成の受給者では「障害特性に合わせた機器・ソフトの提供（音声読み上げ、拡大表示など）」がそれぞれ32.5%、17.6%、28.6%となっています。

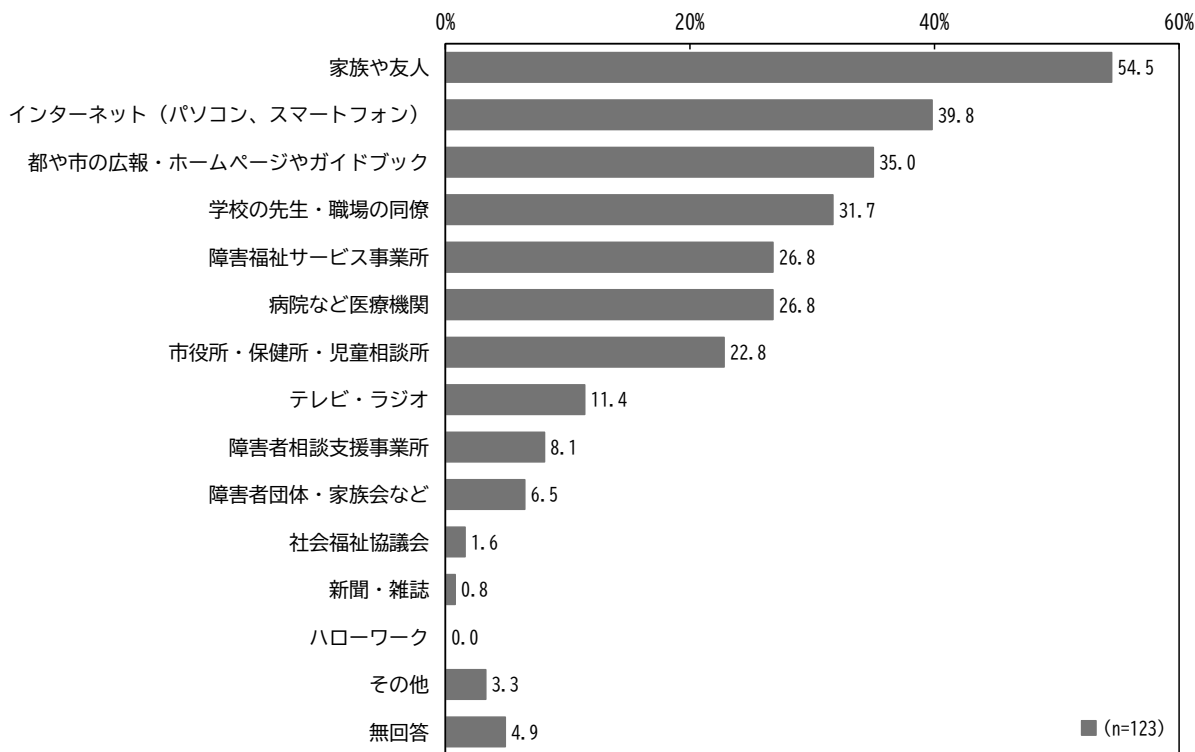
(単位:%)

	機器や通信費用の助成	障害特性に合わせた機器・ソフトの提供（音声読み上げ、拡大表示など）	オンラインでの相談・手続き支援	操作方法を学ぶ講習会やサポート	特に希望はない	その他	無回答
全体(n=123)	35.0	22.8	20.3	15.4	35.8	5.7	4.1
身体障害者手帳(n=37)	24.3	10.8	27.0	10.8	32.4	10.8	10.8
愛の手帳（療育手帳）(n=77)	40.3	32.5	19.5	18.2	32.5	5.2	2.6
精神障害者保健福祉手帳(n=17)	29.4	17.6	11.8	11.8	47.1	11.8	0.0
自立支援医療の受給(n=2)	50.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
難病医療費など助成の受給(n=7)	42.9	28.6	14.3	0.0	28.6	0.0	14.3



問37 福祉に関する情報は、どこから得ますか。(あてはまるものすべてに○)

福祉に関する情報をどこから得るかについては、全体では、「家族や友人」が54.5%と最も多く、次いで、「インターネット（パソコン、スマートフォン）」が39.8%、「都や市の広報・ホームページやガイドブック」が35.0%となっています。



障害種別ごとでは、いずれの障害種別でも「家族や友人」が最も多く、身体障害者手帳所持者では48.6%、愛の手帳（療育手帳）所持者では53.2%、精神障害者保健福祉手帳所持者では70.6%、自立支援医療の受給者では100.0%、難病医療費など助成の受給者では「インターネット（パソコン、スマートフォン）」とともに57.1%となっています。

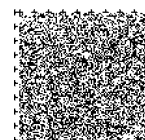
次いで、身体障害者手帳所持者及び精神障害者保健福祉手帳所持者では「インターネット（パソコン、スマートフォン）」がそれぞれ43.2%、35.3%、愛の手帳（療育手帳）所持者では「都や市の広報・ホームページやガイドブック」が40.3%となっています。

(単位:%)

	家族や友人	インターネット（パソコン、スマートフォン）	都や市の広報・ホームページやガイドブック	学校の先生・職場の同僚	障害福祉サービス事業所	病院など医療機関	市役所・保健所・児童相談所	テレビ・ラジオ
全体(n=123)	54.5	39.8	35.0	31.7	26.8	26.8	22.8	11.4
身体障害者手帳(n=37)	48.6	43.2	35.1	24.3	21.6	37.8	16.2	8.1
愛の手帳（療育手帳）(n=77)	53.2	39.0	40.3	33.8	36.4	27.3	27.3	11.7
精神障害者保健福祉手帳(n=17)	70.6	35.3	17.6	17.6	11.8	17.6	17.6	11.8
自立支援医療の受給(n=2)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
難病医療費など助成の受給(n=7)	57.1	57.1	14.3	14.3	14.3	0.0	0.0	14.3

(単位:%)

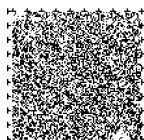
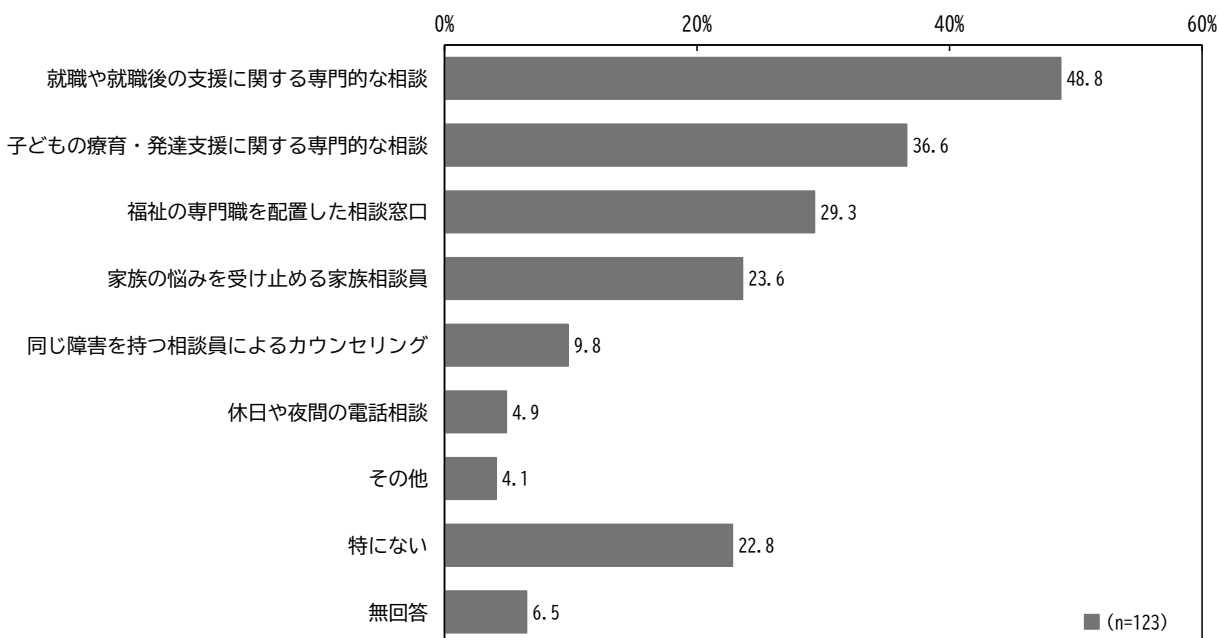
	障害者相談支援事業所	障害者団体・家族会など	社会福祉協議会	新聞・雑誌	ハローワーク	その他	無回答
全体(n=123)	8.1	6.5	1.6	0.8	0.0	3.3	4.9
身体障害者手帳(n=37)	8.1	16.2	0.0	0.0	0.0	0.0	10.8
愛の手帳（療育手帳）(n=77)	10.4	6.5	2.6	1.3	0.0	3.9	2.6
精神障害者保健福祉手帳(n=17)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.9	0.0
自立支援医療の受給(n=2)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
難病医療費など助成の受給(n=7)	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0



問38 あなたは、相談支援体制について、どのようなことの充実を望みますか。

(あてはまるものすべてに○)

相談支援体制についてどのようなことの充実を望むかについては、全体では、「就職や就職後の支援に関する専門的な相談」が48.8%と最も多く、次いで、「子どもの療育・発達支援に関する専門的な相談」が36.6%、「福祉の専門職を配置した相談窓口」が29.3%となっています。



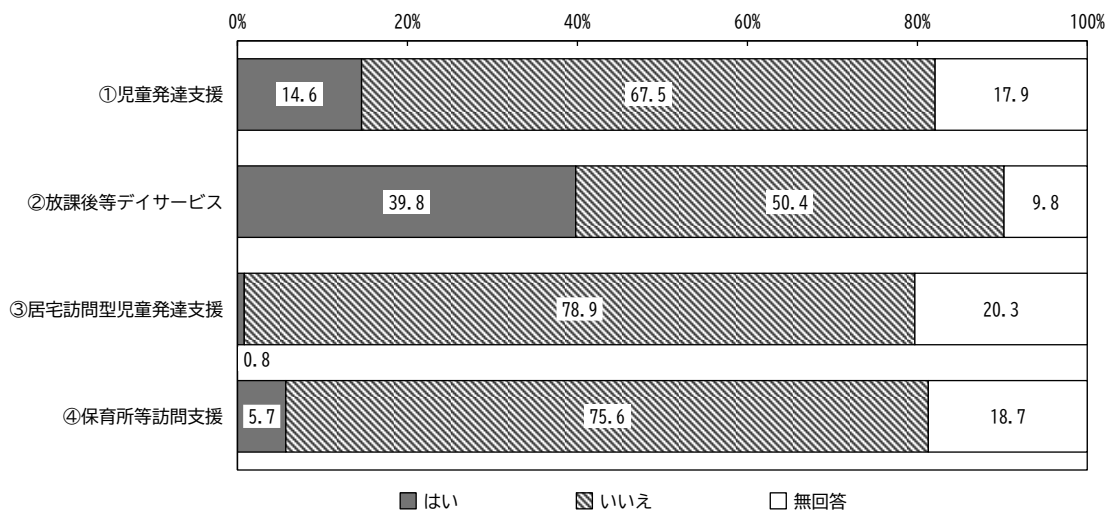
## 11 障害福祉サービスについて

問39 次のサービスについて、あなたの「(1) 利用状況」と「(2) 今後(2～3年以内)の利用希望」を選択肢から1つずつ選んでください。

### (1) 障害児通所支援サービス

#### ■現在の利用状況(現在利用しているか)

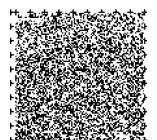
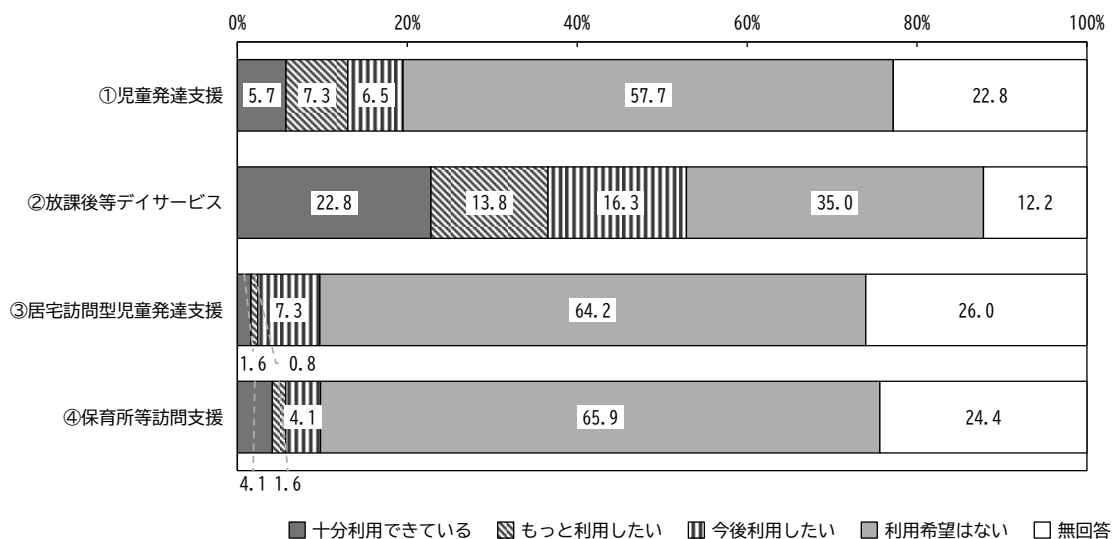
武蔵村山市の障害児通所支援サービスの利用状況について、「はい(利用している人)」は、②放課後等デイサービスで39.8%と最も多く、次いで、①児童発達支援が14.6%、④保育所等訪問支援が5.7%となっています。



#### ■今後の利用希望

武蔵村山市の障害児通所支援サービスの今後の利用希望について、「十分利用できている」人は、②放課後等デイサービスが22.8%と最も多く、次いで、①児童発達支援が5.7%となっています。

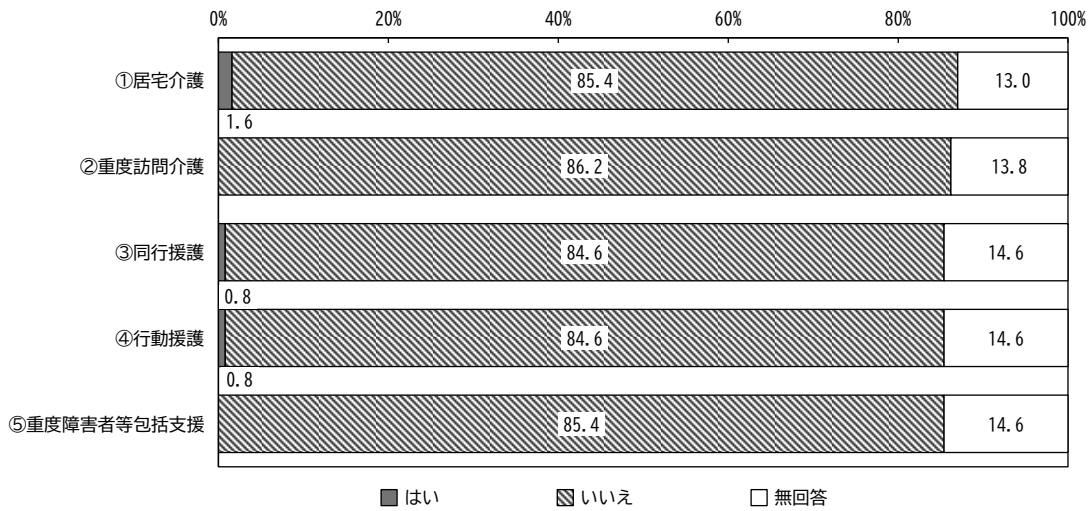
また、②放課後等デイサービスでは、「もっと利用したい」人が13.8%、「今後利用したい」人は16.3%と、それぞれ他のサービスよりも多くなっています。



## (2) 訪問系サービス

### ■現在の利用状況（現在利用しているか）

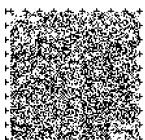
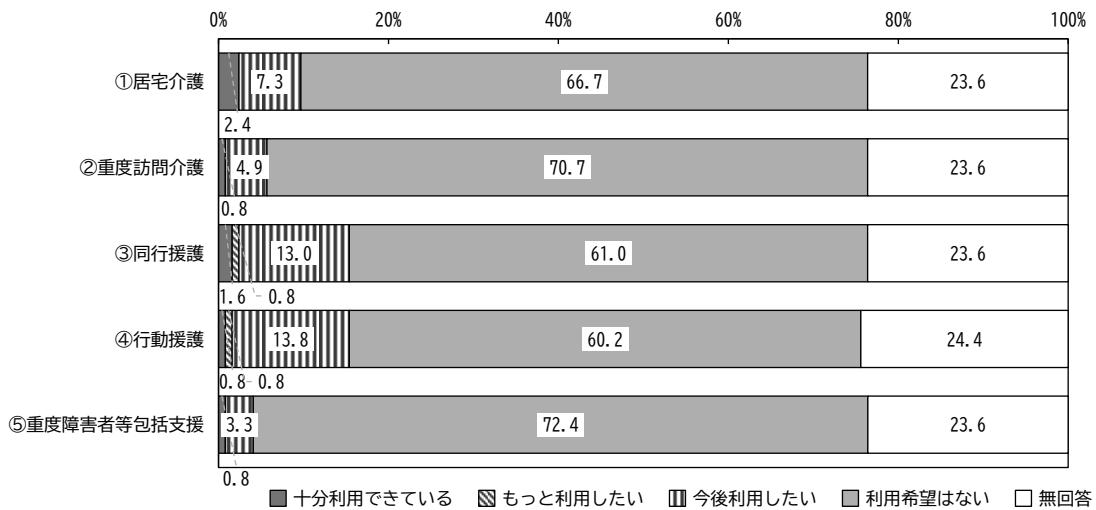
武蔵村山市の訪問系サービスの利用状況について、「はい（利用している人）」は、①居宅介護が1.6%と最も多く、次いで、③同行援護、④行動援護がともに0.8%となっています。



### ■今後の利用希望

武蔵村山市の訪問系サービスの今後の利用希望について、いずれのサービスも「利用希望はない」人が最も多くなっています。

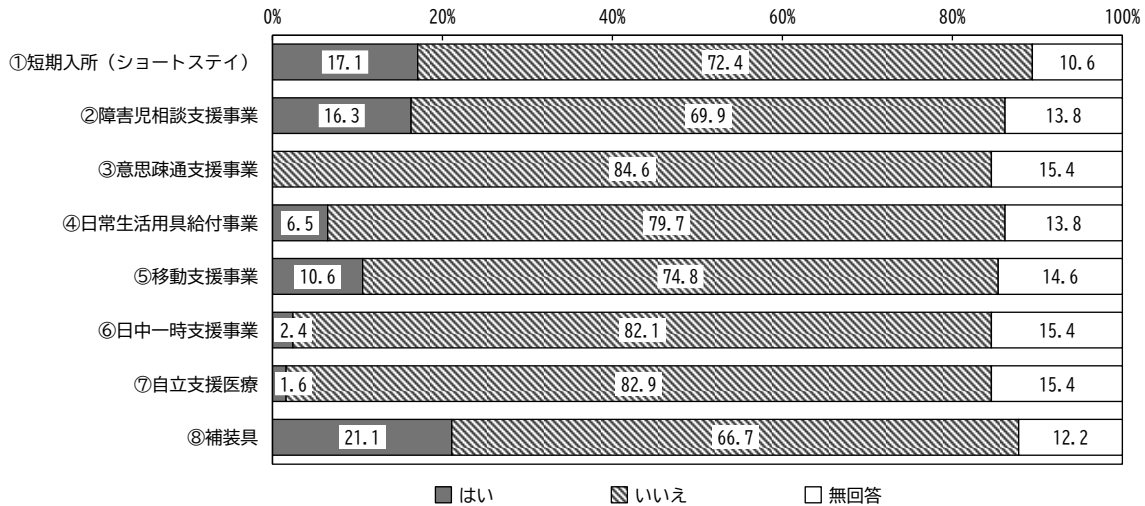
「今後利用したい」人は、④行動援護が13.8%と最も多く、次いで、③同行援護が13.0%となっています。



### (3) その他サービス

#### ■現在の利用状況（現在利用しているか）

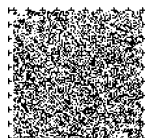
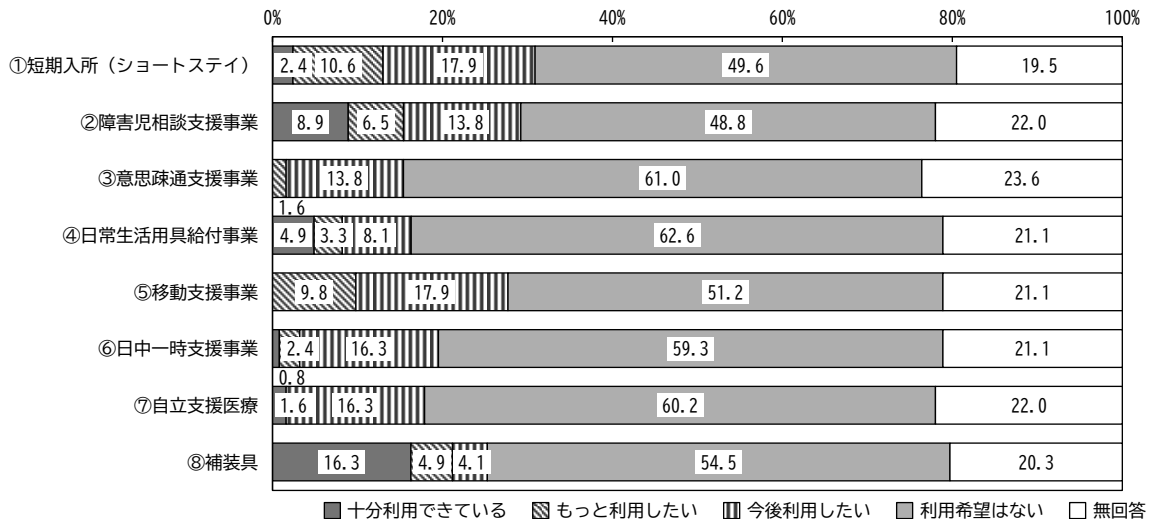
武蔵村山市の（１）・（２）以外の福祉サービスの利用状況について、「はい（利用している人）」は、⑧補装具が21.1%と最も多く、次いで、①短期入所（ショートステイ）が17.1%、②障害児相談支援事業が16.3%となっています。



#### ■今後の利用希望

武蔵村山市の（１）・（２）以外の福祉サービスの今後の利用希望について、「十分利用できている」人は、⑧補装具が16.3%と最も多く、次いで、②障害児相談支援事業が8.9%となっています。

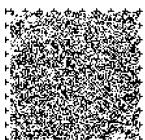
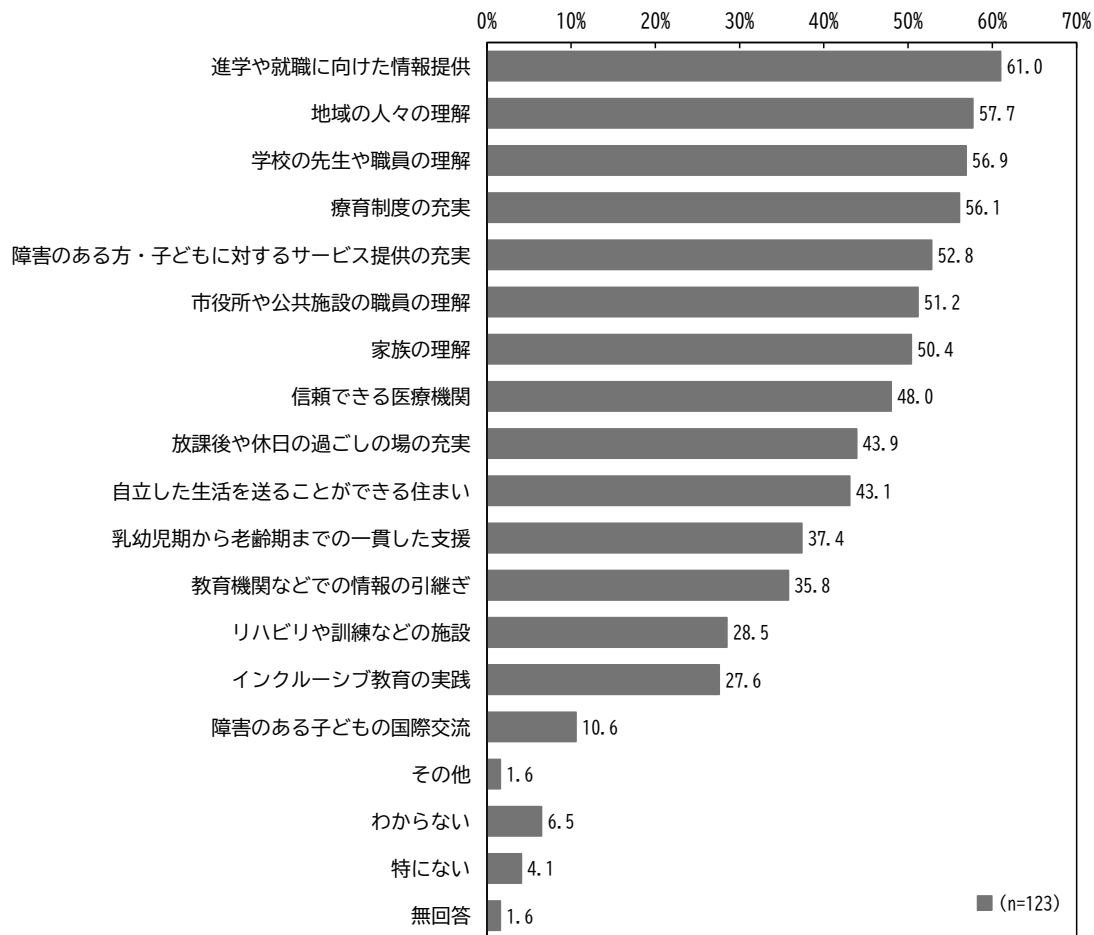
「今後利用したい」人は、①短期入所（ショートステイ）、⑤移動支援事業がともに17.9%と最も多く、次いで、⑥日中一時支援、⑦自立支援医療がともに16.3%となっています。



## 12 障害者・障害児施策全般について

問40 障害のある子どもたちが武蔵村山市で成長するにあたってどのようなことが重要と思いますか。(あてはまるものすべてに○)

障害のある子どもたちが武蔵村山市で成長するために重要なことについては、全体では、「進学や就職に向けた情報提供」が61.0%と最も多く、次いで、「地域の人々の理解」が57.7%、「学校の先生や職員の理解」が56.9%となっています。



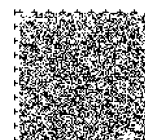
障害種別ごとでは、「地域の人々の理解」が、精神障害者保健福祉手帳所持者及び難病医療費など助成の受給者でそれぞれ58.8%、71.4%、身体障害者手帳所持者でも「障害のある方・子どもに対するサービス提供の充実」とともに48.6%と、最も多くなっています。

(単位:%)

	進学や就職に向けた情報提供	地域の人々の理解	学校の先生や職員への理解	療育制度の充実	障害のある方・子どもに対するサービス提供の充実	市役所や公共施設の職員の理解	家族の理解	信頼できる医療機関	放課後や休日の過ごし場の充実	自立した生活を送ることができる住まい
全体(n=123)	61.0	57.7	56.9	56.1	52.8	51.2	50.4	48.0	43.9	43.1
身体障害者手帳(n=37)	43.2	48.6	43.2	40.5	48.6	43.2	43.2	40.5	37.8	29.7
愛の手帳(療育手帳)(n=77)	70.1	63.6	59.7	68.8	58.4	61.0	55.8	50.6	54.5	53.2
精神障害者保健福祉手帳(n=17)	47.1	58.8	52.9	41.2	29.4	47.1	35.3	35.3	17.6	35.3
自立支援医療の受給(n=2)	50.0	100.0	50.0	50.0	0.0	100.0	50.0	50.0	0.0	50.0
難病医療費など助成の受給(n=7)	14.3	71.4	28.6	42.9	42.9	57.1	28.6	42.9	28.6	14.3

(単位:%)

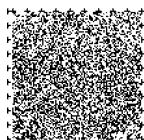
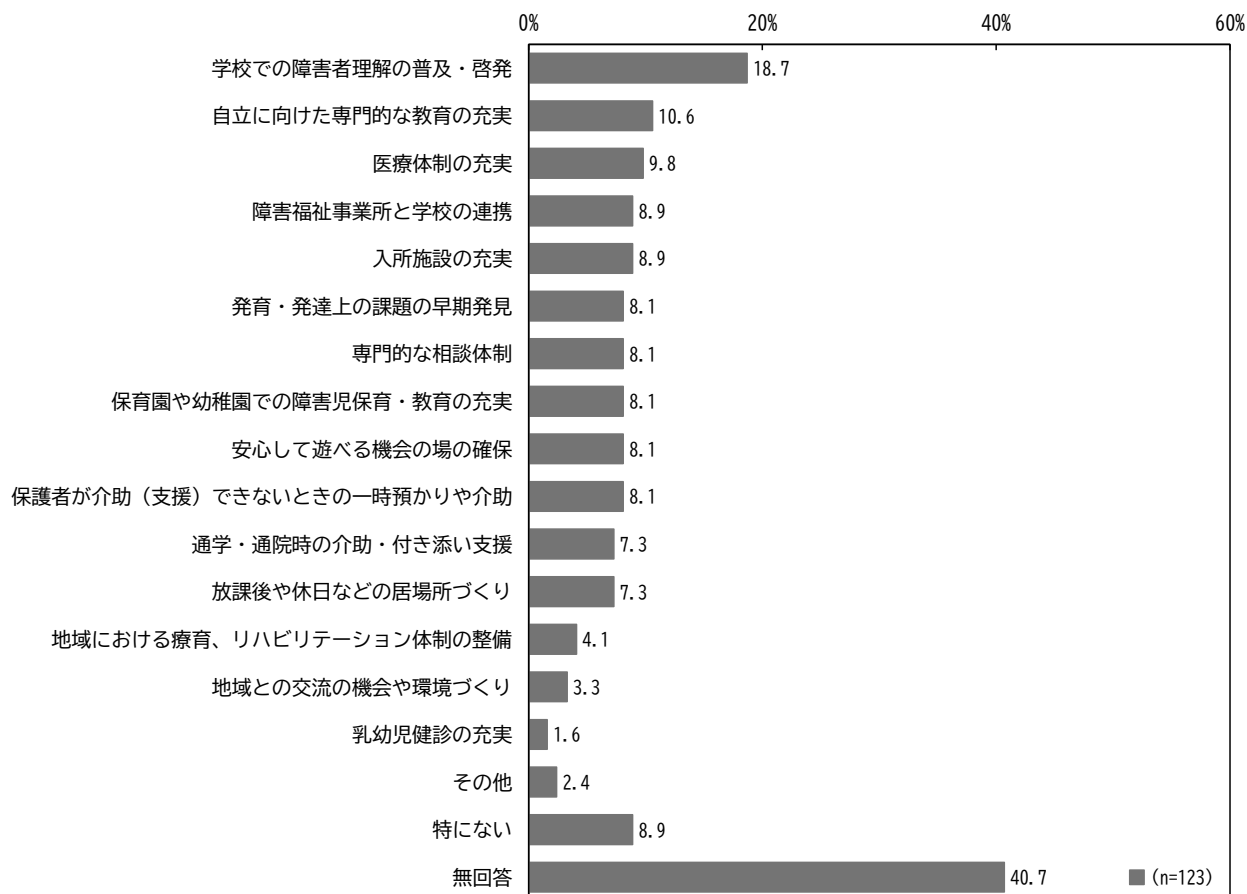
	乳幼児期から高齢期までの一貫した支援	教育機関などでの情報の引継ぎ	リハビリや訓練などの施設	インクルーシブ教育の実践	障害のある子どもとの国際交流	その他	わからない	特になし	無回答
全体(n=123)	37.4	35.8	28.5	27.6	10.6	1.6	6.5	4.1	1.6
身体障害者手帳(n=37)	32.4	32.4	27.0	29.7	10.8	2.7	13.5	5.4	2.7
愛の手帳(療育手帳)(n=77)	44.2	41.6	28.6	32.5	9.1	2.6	3.9	1.3	0.0
精神障害者保健福祉手帳(n=17)	29.4	23.5	17.6	11.8	5.9	0.0	11.8	5.9	5.9
自立支援医療の受給(n=2)	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
難病医療費など助成の受給(n=7)	14.3	28.6	28.6	28.6	0.0	0.0	14.3	14.3	0.0



問41 療育や支援で、さらに充実させるべきだと思うことはありますか。(3つまで○)

療育や支援でさらに充実させるべきと思うことについては、全体では、「学校での障害者理解の普及・啓発」が18.7%と最も多く、次いで、「自立に向けた専門的な教育の充実」が10.6%、「医療体制の充実」が9.8%となっています。

障害種別ごとでは、身体障害者手帳所持者及び愛の手帳（療育手帳）所持者では「学校での障害者理解の普及・啓発」がそれぞれ16.2%、19.5%、精神障害者保健福祉手帳所持者及び自立支援医療の受給者では「発育・発達上の課題の早期発見」がそれぞれ17.6%、100.0%、難病医療費など助成の受給者では「医療体制の充実」が28.6%と最も多くなっています。



(単位:%)

	学校での障害者理解の普及・啓発	自立に向けた専門的な教育の充実	医療体制の充実	障害福祉事業所と学校の連携	入所施設の充実	発育・発達上の課題の早期発見	専門的な相談体制	保育園や幼稚園での障害児保育・教育の充実	安心して遊べる機会の場の確保
全体(n=123)	18.7	10.6	9.8	8.9	8.9	8.1	8.1	8.1	8.1
身体障害者手帳(n=37)	16.2	5.4	13.5	8.1	13.5	5.4	5.4	2.7	5.4
愛の手帳(療育手帳)(n=77)	19.5	10.4	6.5	7.8	9.1	6.5	9.1	9.1	7.8
精神障害者保健福祉手帳(n=17)	11.8	5.9	11.8	5.9	5.9	17.6	11.8	5.9	11.8
自立支援医療の受給(n=2)	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	100.0	50.0	0.0	50.0
難病医療費など助成の受給(n=7)	0.0	14.3	28.6	0.0	14.3	14.3	0.0	14.3	14.3

(単位:%)

	保護者が介助(支援)できないときの一時預かりや介助	通学・通院時の介助・付き添い支援	放課後や休日などの居場所づくり	地域における療育、リハビリテーション体制の整備	地域との交流の機会や環境づくり	乳幼児健診の充実	その他	特になし	無回答
全体(n=123)	8.1	7.3	7.3	4.1	3.3	1.6	2.4	8.9	40.7
身体障害者手帳(n=37)	10.8	8.1	8.1	8.1	0.0	0.0	2.7	8.1	43.2
愛の手帳(療育手帳)(n=77)	9.1	7.8	7.8	3.9	5.2	1.3	1.3	6.5	45.5
精神障害者保健福祉手帳(n=17)	0.0	5.9	0.0	0.0	5.9	5.9	11.8	11.8	35.3
自立支援医療の受給(n=2)	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
難病医療費など助成の受給(n=7)	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	28.6



### 13 自由意見

問42 福祉の各種制度の問題点、障害のある方・子どもを取り巻く環境の改善などについて、ご意見・ご要望がありましたら、自由にお書きください。

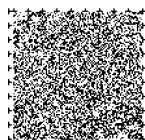
自由記述では、教育環境の整備、支援サービスの拡充や利用しやすさ、情報提供・手続きの改善などが多く指摘されています。自由記述を項目ごとに整理すると以下の通りです。

項目	件数
サービス・支援について	16件
教育について	9件
情報・行政について	3件
アンケートについて	1件
就労・社会参加について	1件
その他	1件
合計	31件

以下では、寄せられた多くのご意見を項目ごとに分類し、個人等が特定できる記載を除いて原文のまま、代表的な回答を抜粋し掲載しています。

#### (1) サービス・支援について

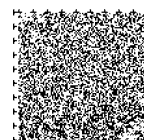
- ・児童発達支援や放課後等デイサービスを利用しやすい環境(施設数、スタッフ数、利用時間の拡大など)を作してほしい。
- ・子ども支援に対応している計画相談の事業所が少ないと感じる。児発、放デイが増えている中、計画を立てられる所がないのでアポイントを取るのも、計画書ができるのも時間がかかるのでセルフプランの方が楽になってしまっている。
- ・国は施設をへらし地域で生活を!としています、重度知的や行動障害の子の居場所がなくなっています。放デイ、グループホーム、生活介護、施設等においても重い子への差別があり、受け入れ拒否をされている現状です。(有料の)療育に通い、少しでも支援が受けやすくなるようにしていますが、重い子の居場所がないです。
- ・障害区分について、重度の幅が広すぎて、軽い重度でも最重度でも、同じ金額のため、差をつけるべき。同じ重度でも軽い子が、得をしている。放デイや施設でも楽で高い金額になる子を入れています。大変な子は同じ金額なので断られてしまう現状です。障害区分にかんしてしっかり対応していただきたいと切に願います。最後に、いつも支えて頂き大変感謝しております。今後ともどうぞよろしくお願い致します。



- ・放課後等デイサービスが不足しているため、待機が多い。そのため改善希望、保育園や幼稚園などで、見発にかよってる子はことわられることが多いため、うけいれ可能なところを増やして欲しい。
- ・放課後デイサービスの長期休み期間の利用時間が短すぎて、仕事の調整をしなければならないのが現状です。仕事の始業時間～放課後デイが始まる間に預かってもらうところがないので困っています。  
朝早くから安心して預けられる施設や、障がいのある子が行く学童のような場所があってもいいとおもいます。
- ・ショートステイ・放課後等デイサービスの終了時刻もなかなか仕事が見つからず、周りの協力もない環境で安定した生計を立てるのが苦しいです。もうどうしたらいいか、心の中は絶望だらけなので、このアンケートが反映されることを願います。
- ・補装具として靴に病院で作ってもらってるインソールを入れています。  
両足で4万円近くします。市や健康保険の方から全額戻ってきますが、毎回先に立て替えて払うのが厳しいです。子供のうちは足が大きくなるのも早いのですぐに作り替えなければならないので…  
出産の時のように病院に直接払ってもらったり出来たらすごく助かります。

## (2) 教育について

- ・市で無料で心理のけんさ(wisc ウイスク?)、できるようにしてほしい。ふつう級で苦しい思いをしている子供がたくさんいると思う。親が子供をみとめる、サポート必要。まわりの目、とくべつしえんクラスだと気にする人もいる。子供も大人もちいきで、ふつうにサポートクラスも一緒に理解ある、差別ないのがあたりまえ交流(クラスで)ふやしていくとよい。通院で病院へ何回も行ったりするが親の収入でほじょおりないのは(ガソリンとか)かなしい
- ・特にありません。長女は、ろう学校、●●●●●●に通ってますので大丈夫かな。

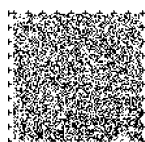


- ・小学校に就学にあたり、放課後や長期休みの過ごし方が悩みです。共働きのため学童通いが必要ですが、通常の学童の中で健常児の児童と一緒に過ごすことに不安を感じます。小学生になると粗暴な子や言葉遣いが荒い子が増えている印象もあり、うちの子のように知的に遅れがあり言葉もちゃんと出せない子はいじめの対象になりかねません。放課後デイを利用したくても送迎問題や、利用可能時間も短く、そもそも事業所はどこも満席で預け先に苦戦します。奇跡的に空いていても、その事業所が得意とするカリキュラムが子どもには合っていないなど感じると安心して預けることはできません。

保育園にお願いできている間は、先生のサポートもあり、お友達の理解がある中で保育時間終わるまで預かっていただけますが、就学すると親が働くことが難しいです。将来この子が働けるかもわかりません。そのためお金を残さなければいけないのに、働きにも行けなくなるとすると負の連鎖ばかりです。もっと保育園のように過ごせる場所が増えてほしいと願います。

また、通常の学童の中でも支援級に行く子達には加配のように先生がついてくださると安心なのだと思います。

- ・我が家は知的障害児を育てていますが、年齢が上がってもずっと(一生涯)保育園児や小学校低学年児童と同じ生活だと思えますので、制度やサービスなど学童期で止まってしまうのが非常に残念です。単純に保育園に通うお子さんと同様の支援が年齢関係なく一生必要なのではないかと思います。
- ・学校への信用がまったくない。よい先生もいれば、●●みたいな先生もいます。しっかり、信頼できる、先生を育ててほしいです。一部の学校では、暴言や言葉の暴力があり、障害で、うまく伝えられない、子どもに、先生が、支援学級の、資格があるのに、おかしいと思います。より、伝えられないのが、分かってるはずです。改善をお願いします。



(3) 情報・行政について

- ・療育事業所が少ないと思います。現在、他の市の利用も多く、他の市なので、優ぐうされなかったり、送迎は自主で行ってます。保健師さんの対応もよくないです。前に住んでいた区では、色々あった時に相談にのって頂いたり。心理カウンセラーさんと呼んで対応して頂たり、親身になって対応してもらいました。こちら(村山)に来て区の保健師が村山の保健師さんに引き継ぎをお願いしましたと連絡があったのに、あまり連絡ありませんでした。療育病院があるのでそれは助かってます。不満は総合センターに障害福祉課があって手続きに市役所に行ったり来たりが大変なことです。。
- ・各種支援の更新作業や書類の提出・・・マイナンバーカードが活やくする日は来るのでしょうか？手当てなど時期もバラバラ・・・手続きが複雑です。
- ・市の窓口の人の知識や情報提供が不足している。自ら情報を集めないとまったく情報が入ってこないのが困る。

(4) アンケートについて

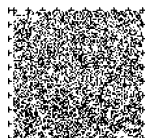
- ・ICT機器の問題が分かりにくい。問題数が多いと思いました。

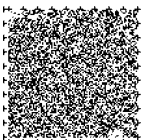
(5) 就労・社会参加について

- ・障害のある子も参加しやすいクラブ活動があると良いと思う。音楽、野球、サッカー、スイミングなど。

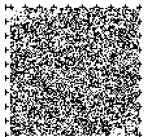
(6) その他

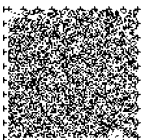
- ・町に1人で出かけさせる不安がある。近年、障害者の理解がない警察官からの不当な扱いで亡くなった方がいる話を聞いた事があります。意思をうまく言葉にできない子を一人でだす心配はあります。





## IV 事業所の調査結果

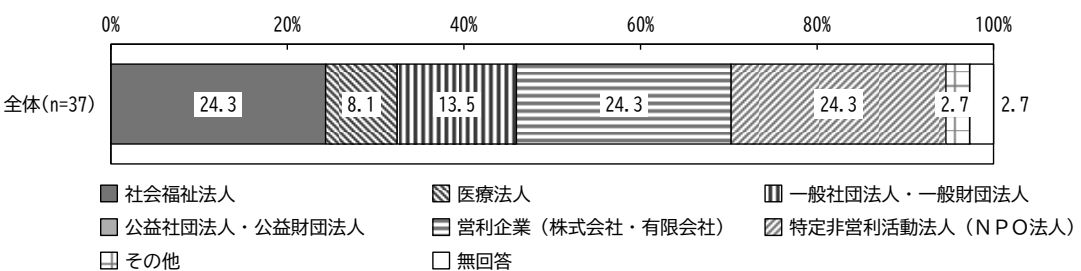




# 1 事業所の概要について

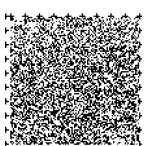
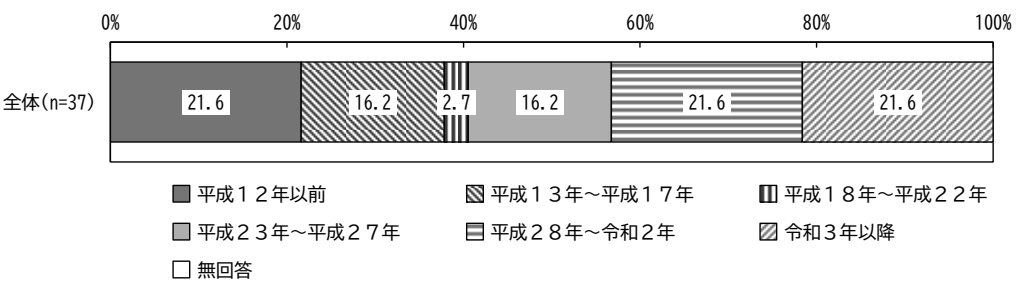
問1 貴事業所の運営主体の種別はどれにあたりますか。(1つに○)

事業所の運営主体の種別については、全体では、「社会福祉法人」、「営利企業（株式会社・有限会社）」「特定非営利活動法人（NPO法人）」がともに24.3%と最も多く、次いで、「一般社団法人・一般財団法人」が13.5%、「医療法人」が8.1%となっています。



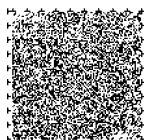
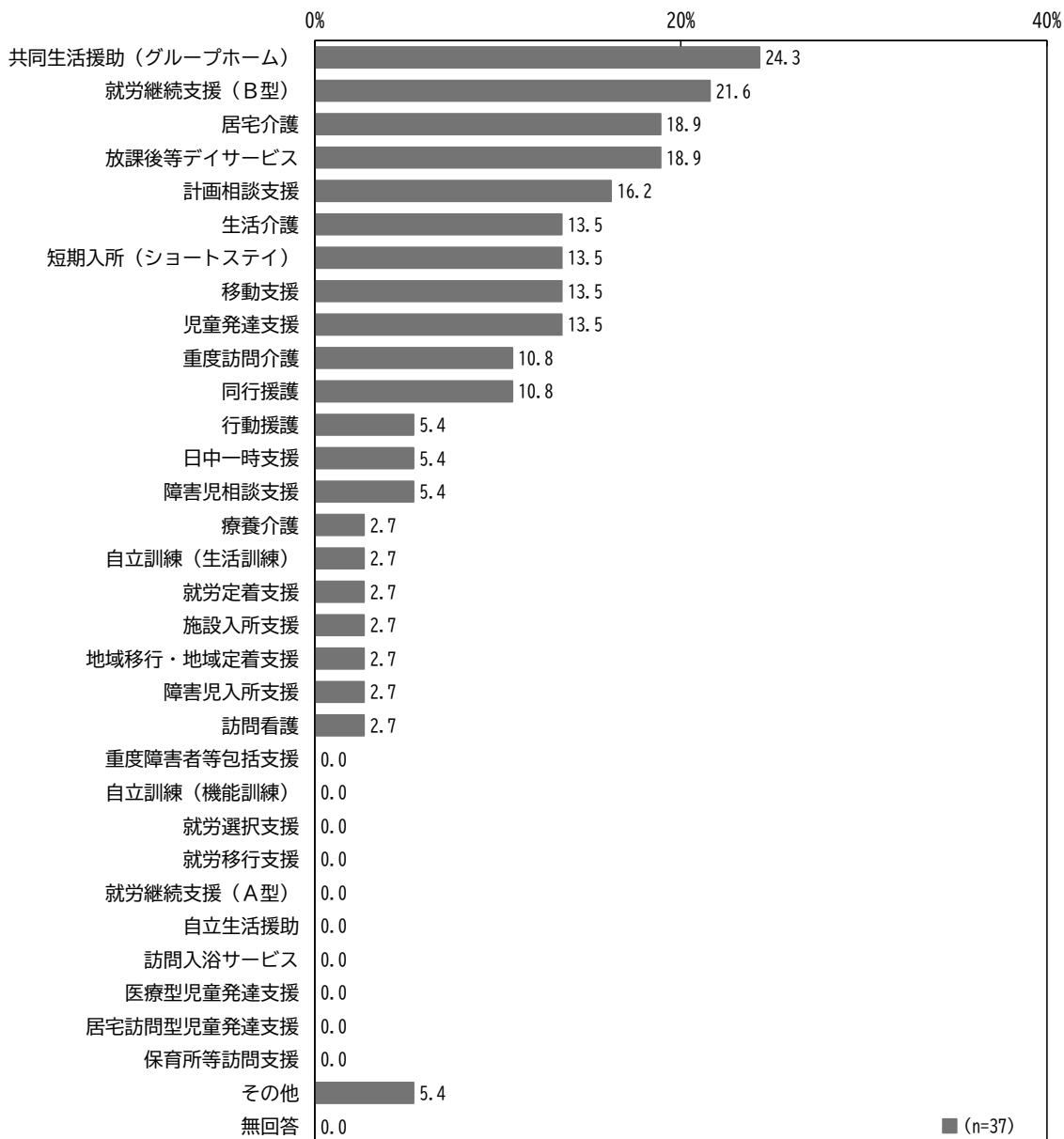
問2 貴事業所の開業年はいつですか。(1つに○)

事業所の開業年については、全体では、「平成12年以前」、「平成28年～令和2年」、「令和3年以降」がともに21.6%と最も多く、次いで、「平成13年～平成17年」、「平成23年～平成27年」がともに16.2%、「平成18年～平成22年」が2.7%となっています。



問3 貴事業所で提供している障害福祉サービス、児童福祉法に基づく障害児サービスはどれにあたり  
ますか。(あてはまるものすべてに○)

事業所で提供しているサービスについては、全体では、「共同生活援助（グループホーム）」が24.3%と最も多く、次いで、「就労継続支援（B型）」が21.6%、「居宅介護」、「放課後等デイサービス」がともに18.9%となっています。

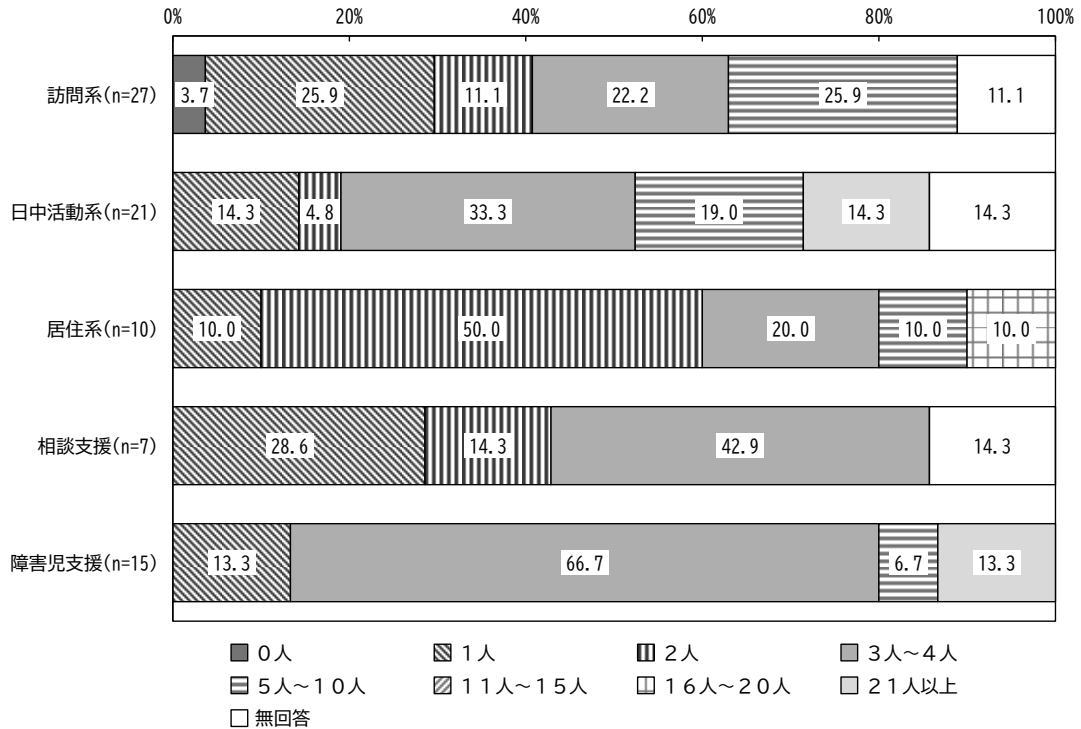


問4 令和7年10月1日時点の、貴事業所の従業員数をサービス種類ごとにご記入ください。

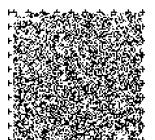
■正規職員

事業所のサービス種類（5区分）ごとの従業員数（正規職員）については、『相談支援』で「1人」の割合が、『障害児支援』で「3人～4人」の割合が高くなっています。

また、『訪問系』で「5人～10人」の割合が高くなっています。

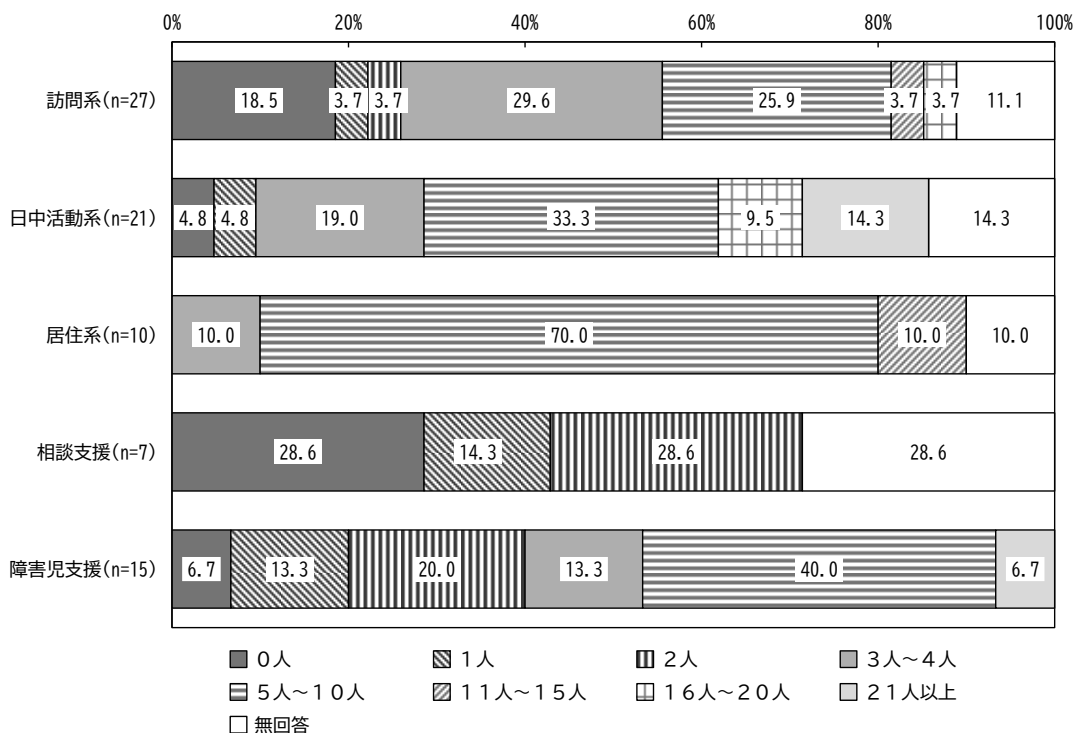


サービス種類（5区分）	分類内訳
訪問系	居宅介護、重度訪問介護、同行援護、行動援護、重度障害者等包括支援、訪問入浴サービス、日中一時支援、移動支援、訪問看護、その他
日中活動系	療養介護、生活介護、自立訓練（機能訓練）、自立訓練（生活訓練）、就労選択支援、就労移行支援、就労継続支援（A型）、就労継続支援（B型）、就労定着支援、短期入所（ショートステイ）
居住系	施設入所支援、共同生活援助（グループホーム）、自立生活援助
相談支援	計画相談支援、地域移行・地域定着支援
障害児支援	児童発達支援、医療型児童発達支援、放課後等デイサービス、居宅訪問型児童発達支援、保育所等訪問支援、障害児相談支援、障害児入所支援

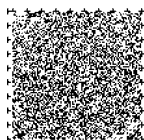


■非正規職員（嘱託・契約・臨時・パート等）

事業所のサービス種類（5区分）ごとの従業員数（非正規職員（嘱託・契約・臨時・パート等））については、『相談支援』で「0人」の割合が、『訪問系』で「3人～4人」の割合が高くなっています。また、『居住系』で「5人～10人」の割合が高くなっています。

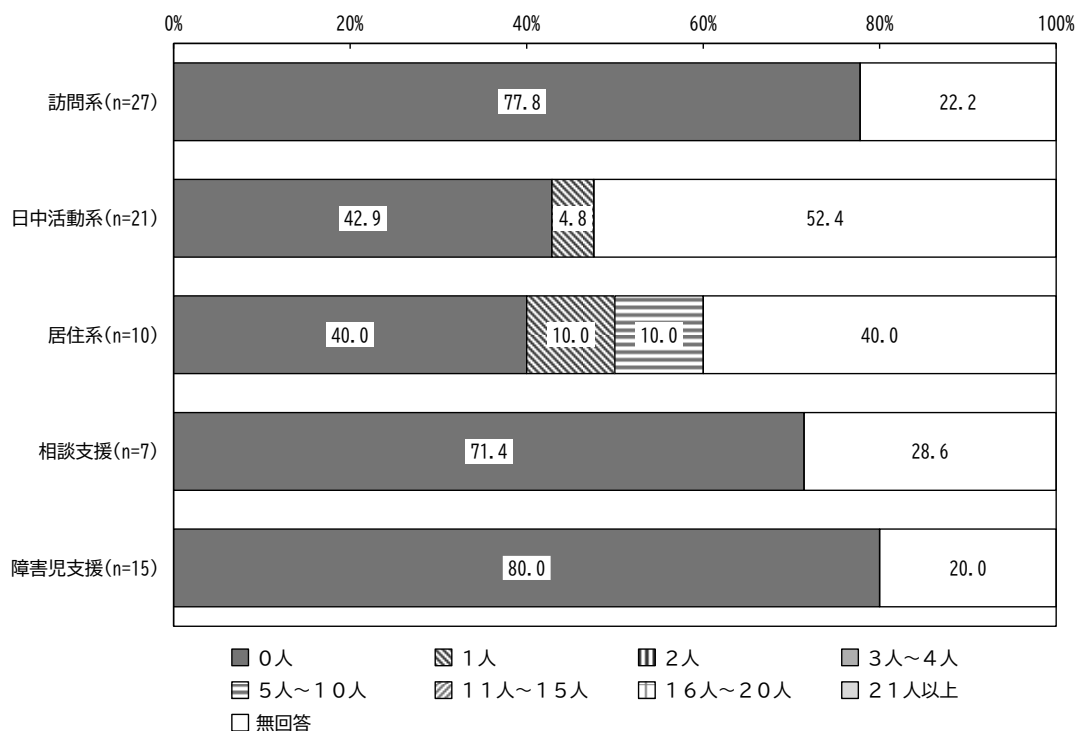


サービス種類（5区分）	分類内訳
訪問系	居宅介護、重度訪問介護、同行援護、行動援護、重度障害者等包括支援、訪問入浴サービス、日中一時支援、移動支援、訪問看護、その他
日中活動系	療養介護、生活介護、自立訓練（機能訓練）、自立訓練（生活訓練）、就労選択支援、就労移行支援、就労継続支援（A型）、就労継続支援（B型）、就労定着支援、短期入所（ショートステイ）
居住系	施設入所支援、共同生活援助（グループホーム）、自立生活援助
相談支援	計画相談支援、地域移行・地域定着支援
障害児支援	児童発達支援、医療型児童発達支援、放課後等デイサービス、居宅訪問型児童発達支援、保育所等訪問支援、障害児相談支援、障害児入所支援

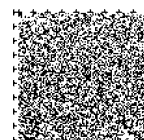


■非正規職員（派遣職員）

事業所のサービス種類（5区分）ごとの従業員数（非正規職員（派遣職員））については、『障害児支援』で「0人」の割合が、『居住系』で「1人」、「5人～10人」の割合が高くなっています。



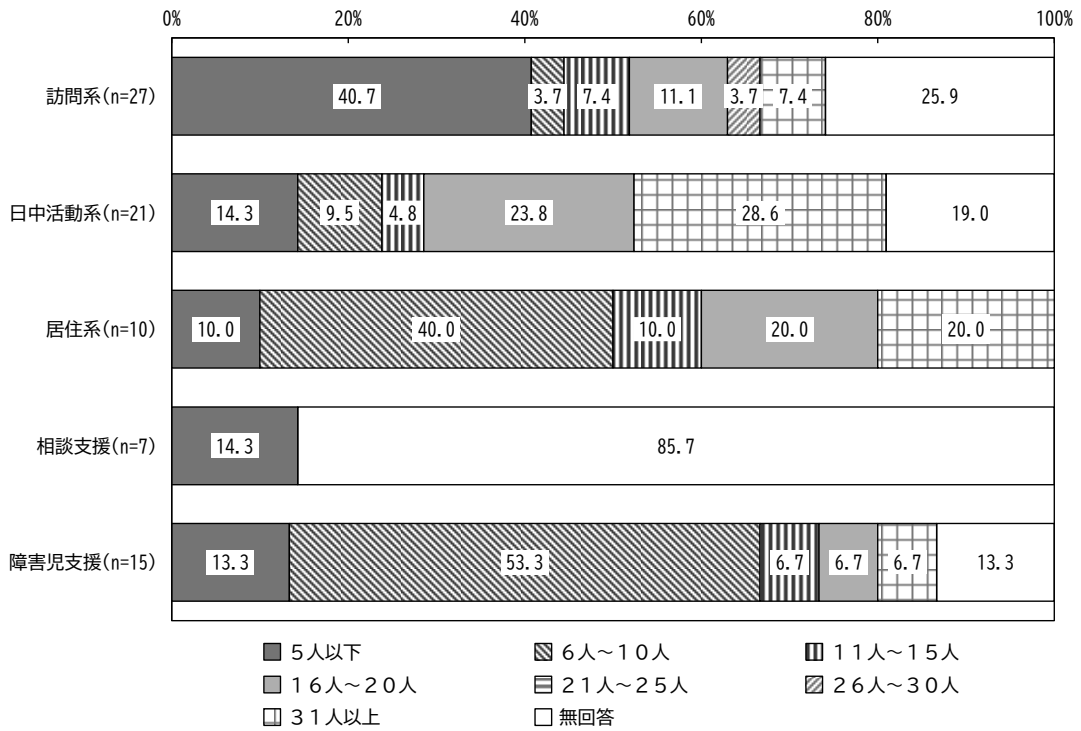
サービス種類（5区分）	分類内訳
訪問系	居宅介護、重度訪問介護、同行援護、行動援護、重度障害者等包括支援、訪問入浴サービス、日中一時支援、移動支援、訪問看護、その他
日中活動系	療養介護、生活介護、自立訓練（機能訓練）、自立訓練（生活訓練）、就労選択支援、就労移行支援、就労継続支援（A型）、就労継続支援（B型）、就労定着支援、短期入所（ショートステイ）
居住系	施設入所支援、共同生活援助（グループホーム）、自立生活援助
相談支援	計画相談支援、地域移行・地域定着支援
障害児支援	児童発達支援、医療型児童発達支援、放課後等デイサービス、居宅訪問型児童発達支援、保育所等訪問支援、障害児相談支援、障害児入所支援



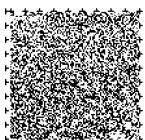
問5 貴事業所が提供している障害のある人（障害児）に対するサービス種類名、サービス種類ごとの令和7年10月1日～令和7年10月31日における利用者（うち武蔵村山市民の人数）を実人数でご記入ください。なお、重複障害は主たる障害で計上してください。

■定員

事業所のサービス種類（5区分）ごとの利用者（定員）については、『訪問系』で「5人以下」の割合が、『障害児支援』で「6人～10人」の割合が、『日中活動系』で「31人以上」の割合が高くなっています。

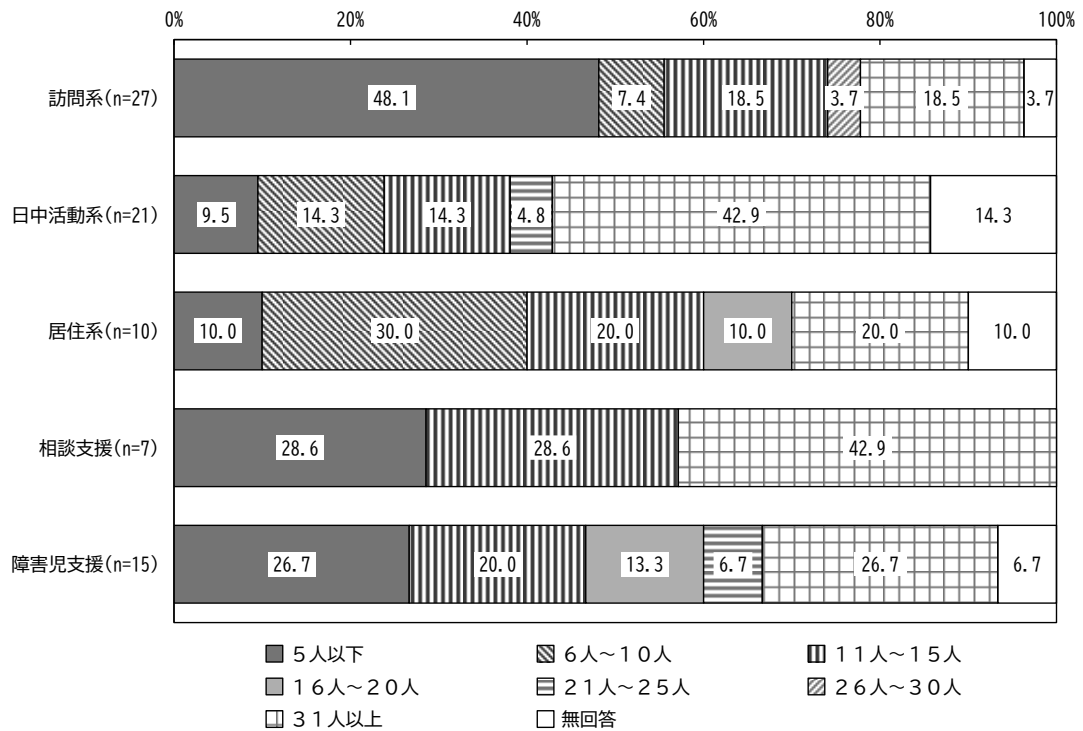


サービス種類（5区分）	分類内訳
訪問系	居宅介護、重度訪問介護、同行援護、行動援護、重度障害者等包括支援、訪問入浴サービス、日中一時支援、移動支援、訪問看護、その他
日中活動系	療養介護、生活介護、自立訓練（機能訓練）、自立訓練（生活訓練）、就労選択支援、就労移行支援、就労継続支援（A型）、就労継続支援（B型）、就労定着支援、短期入所（ショートステイ）
居住系	施設入所支援、共同生活援助（グループホーム）、自立生活援助
相談支援	計画相談支援、地域移行・地域定着支援
障害児支援	児童発達支援、医療型児童発達支援、放課後等デイサービス、居宅訪問型児童発達支援、保育所等訪問支援、障害児相談支援、障害児入所支援

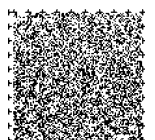


## ■利用者数

事業所のサービス種類（5区分）ごとの利用者（利用者数）については、『居住系』で「6人～10人」の割合が、『日中活動系』、『相談支援』で「31人以上」の割合が高くなっています。

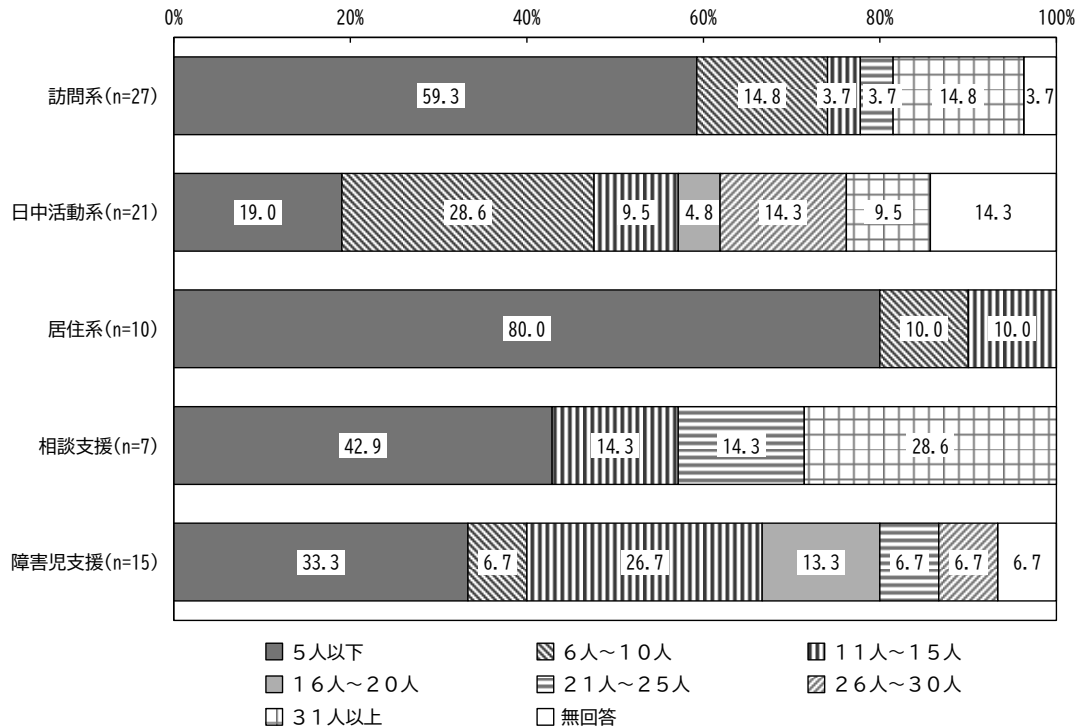


サービス種類（5区分）	分類内訳
訪問系	居宅介護、重度訪問介護、同行援護、行動援護、重度障害者等包括支援、訪問入浴サービス、日中一時支援、移動支援、訪問看護、その他
日中活動系	療養介護、生活介護、自立訓練（機能訓練）、自立訓練（生活訓練）、就労選択支援、就労移行支援、就労継続支援（A型）、就労継続支援（B型）、就労定着支援、短期入所（ショートステイ）
居住系	施設入所支援、共同生活援助（グループホーム）、自立生活援助
相談支援	計画相談支援、地域移行・地域定着支援
障害児支援	児童発達支援、医療型児童発達支援、放課後等デイサービス、居宅訪問型児童発達支援、保育所等訪問支援、障害児相談支援、障害児入所支援

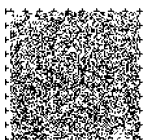


■武蔵村山市民の人数

事業所のサービス種類（5区分）ごとの利用者（武蔵村山市民の人数）については、『居住系』で「5人以下」の割合が、『日中活動系』で「6人～10人」の割合が、『相談支援』で「31人以上」の割合が高くなっています。



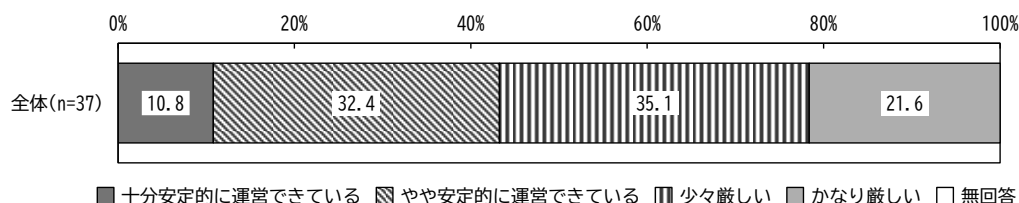
サービス種類（5区分）	分類内訳
訪問系	居宅介護、重度訪問介護、同行援護、行動援護、重度障害者等包括支援、訪問入浴サービス、日中一時支援、移動支援、訪問看護、その他
日中活動系	療養介護、生活介護、自立訓練（機能訓練）、自立訓練（生活訓練）、就労選択支援、就労移行支援、就労継続支援（A型）、就労継続支援（B型）、就労定着支援、短期入所（ショートステイ）
居住系	施設入所支援、共同生活援助（グループホーム）、自立生活援助
相談支援	計画相談支援、地域移行・地域定着支援
障害児支援	児童発達支援、医療型児童発達支援、放課後等デイサービス、居宅訪問型児童発達支援、保育所等訪問支援、障害児相談支援、障害児入所支援



## 2 事業所の運営状況等について

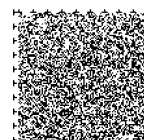
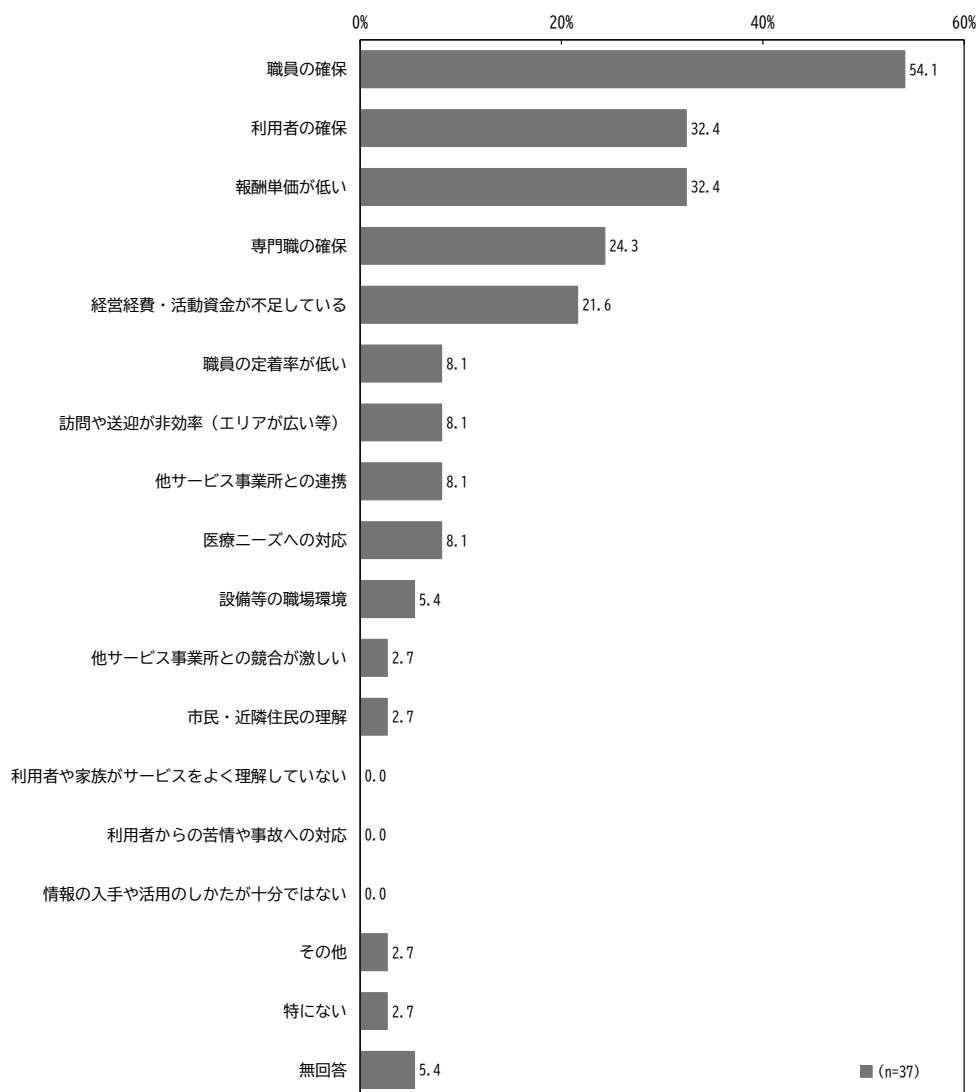
### 問6 貴事業所の、運営状況はいかがですか。(1つに○)

事業所の運営状況については、全体では、「安定的に運営できている」（「十分安定的に運営できている」及び「やや安定的に運営できている」の合計。）が43.2%、「運営が厳しい」（「少々厳しい」及び「かなり厳しい」の合計。）が56.7%となっています。



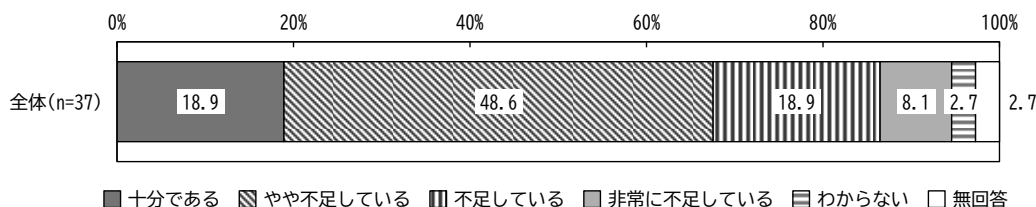
### 問7 貴事業所において、運営上の課題はどのようなことですか。(あてはまるもの3つまでに○)

事業所の運営上の課題については、全体では、「職員の確保」が54.1%と最も多く、次いで、「利用者の確保」、「報酬単価が低い」がともに32.4%、「専門職の確保」が24.3%となっています。



問8 貴事業所では、業務に対する職員（人手）の充足具合はいかがですか。（1つに○）

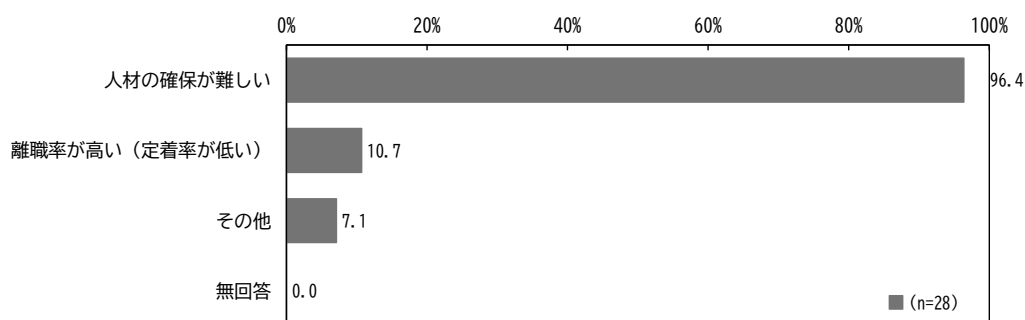
事業所の業務に対する職員（人手）の充足具合については、全体では、「やや不足している」が48.6%と最も多く、次いで、「十分である」、「不足している」がともに18.9%、「非常に不足している」が8.1%となっています。



問8で「2」～「4」と回答した事業所におうかがいします。

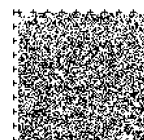
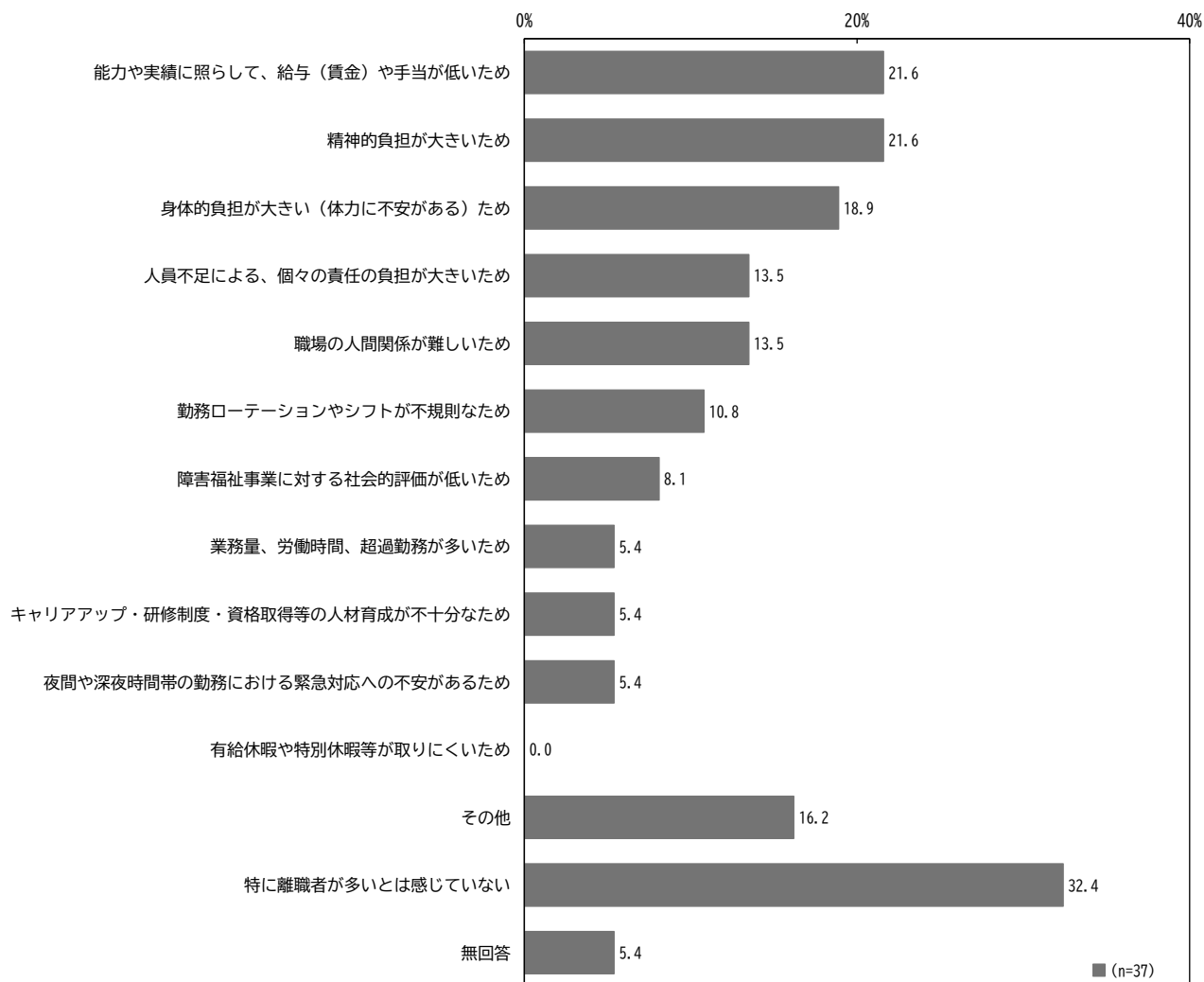
問9 不足と感じる理由について教えてください。（あてはまるものすべてに○）

職員（人手）が不足と感じる理由については、全体では、「人材の確保が難しい」が96.4%、次いで、「離職率が高い（定着率が低い）」が10.7%となっています。



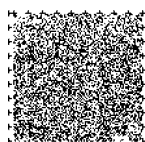
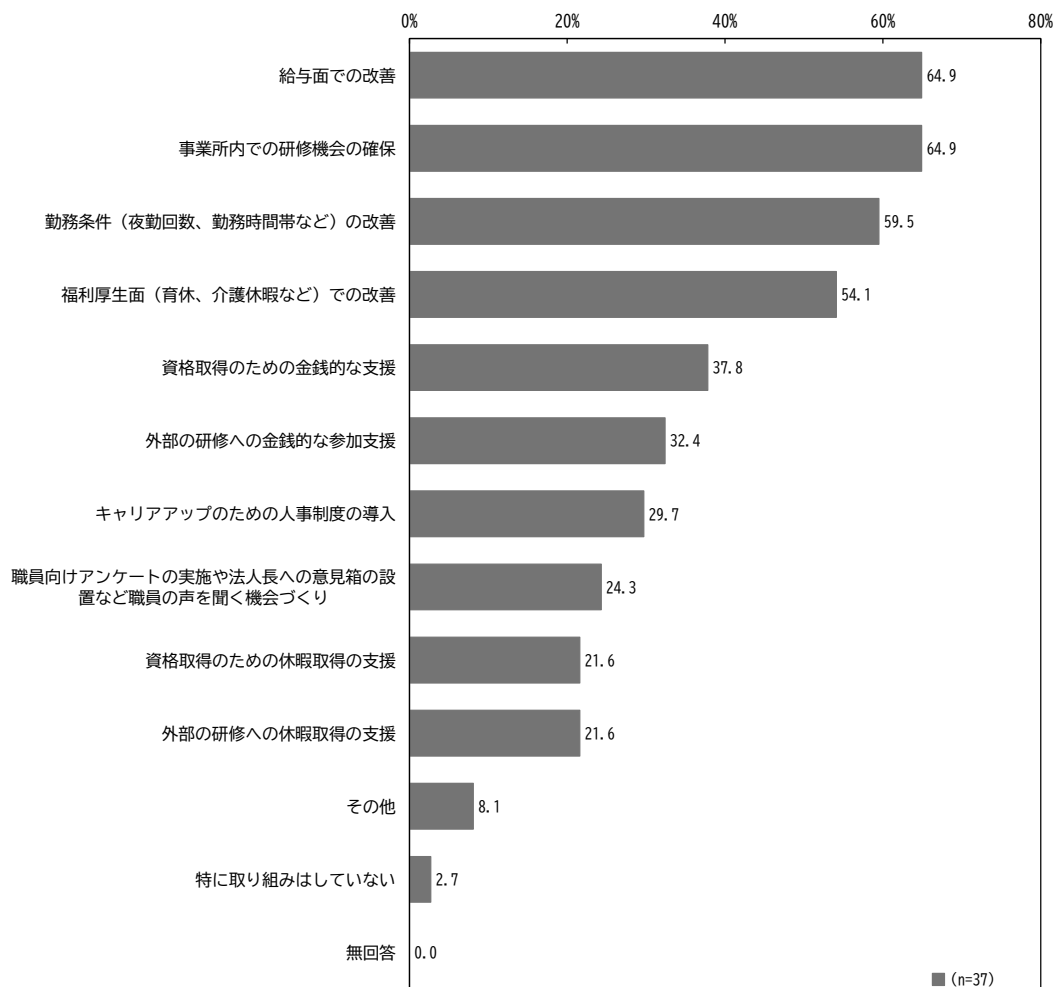
問10 貴事業所から離職する理由のうち、主な理由はどのようなことだと思われませんか。  
 (あてはまるものすべてに○)

離職する理由については、全体では、「能力や実績に照らして、給与（賃金）や手当が低いため」、「精神的負担が大きい」とともに21.6%と最も多く、次いで、「身体的負担が大きい（体力に不安がある）ため」が18.9%、「人員不足による、個々の責任の負担が大きい」、「職場の人間関係が難しい」とともに13.5%となっています。



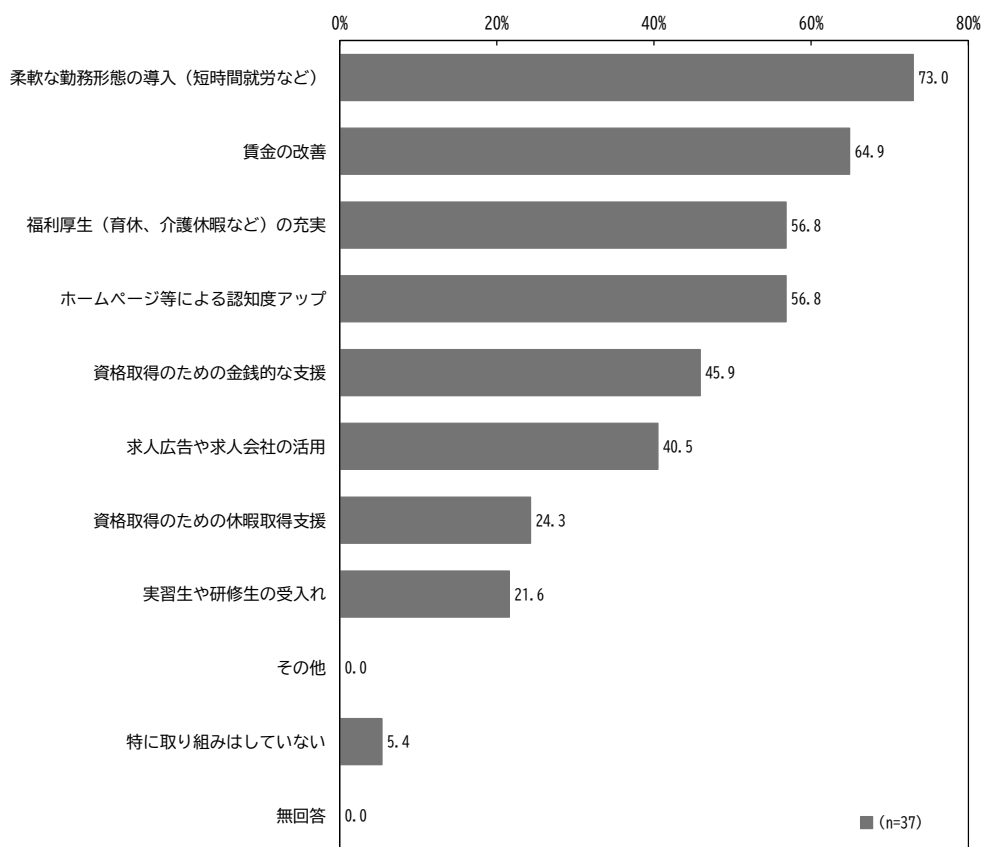
問11 貴事業所が職員定着のために取り組んでいることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

職員定着のための取組については、全体では、「給与面での改善」、「事業所内での研修機会の確保」がともに64.9%と最も多く、次いで、「勤務条件（夜勤回数、勤務時間帯など）の改善」が59.5%、「福利厚生面（育休、介護休暇など）での改善」が54.1%となっています。



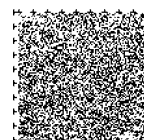
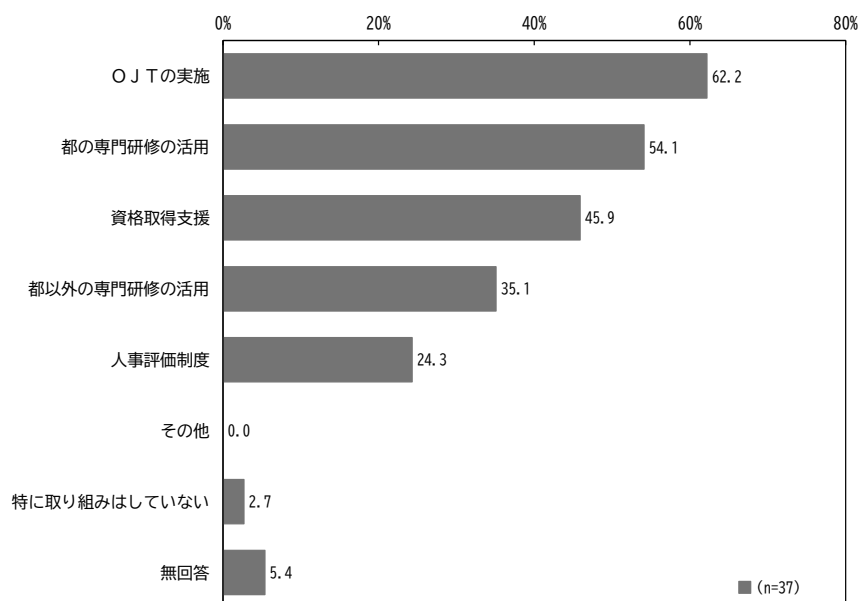
問12 貴事業所が人材確保のために取り組んでいることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

人材確保のための取組については、全体では、「柔軟な勤務形態の導入（短時間就労など）」が73.0%と最も多く、次いで、「賃金の改善」が64.9%、「福利厚生（育休、介護休暇など）の充実」、「ホームページ等による認知度アップ」がともに56.8%となっています。



問13 貴事業所が人材育成のために取り組んでいることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

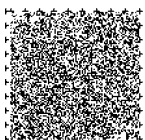
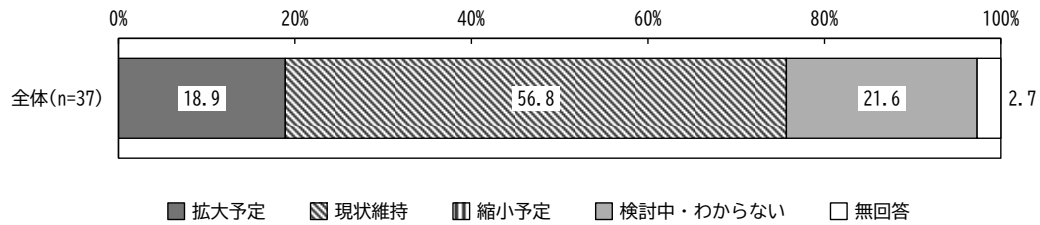
人材育成のための取組については、全体では、「OJTの実施」が62.2%と最も多く、次いで、「都の専門研修の活用」が54.1%、「資格取得支援」が45.9%となっています。



### 3 サービス提供について

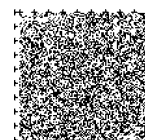
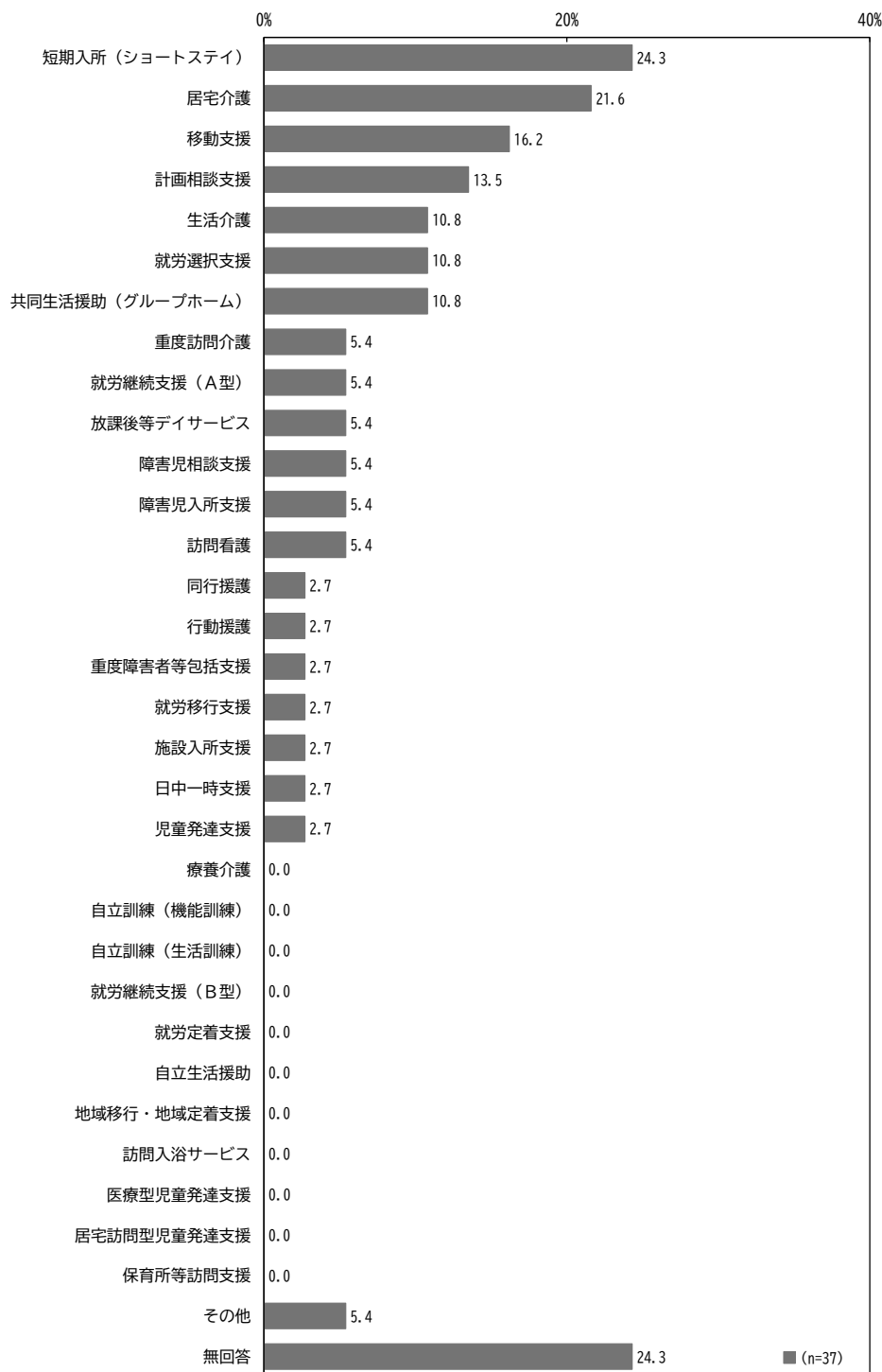
問14 今後3年間の事業の見通しについて、どのように検討されていますか。(1つに○)

今後3年間の事業の見通しについては、全体では、「現状維持」が56.8%と最も多く、次いで、「検討中・わからない」が21.6%、「拡大予定」が18.9%となっています。



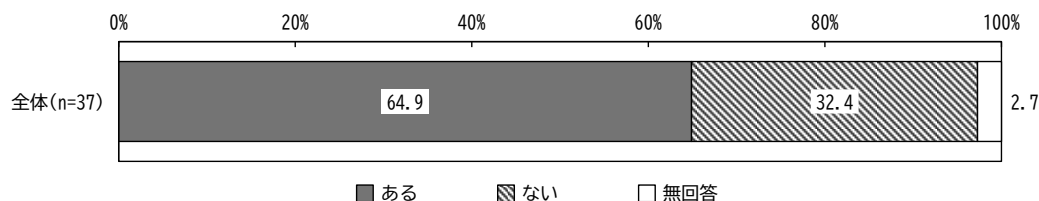
問15 武蔵村山市内全体の事業所で不足していると思うサービス種類は何だと思えますか。  
 (あてはまるもの3つまでに○)

市内全体の事業所で不足していると思うサービスについては、全体では、「短期入所（ショートステイ）」が24.3%と最も多く、次いで、「居宅介護」が21.6%、「移動支援」が16.2%となっています。



問16 過去1年間において、利用者からの依頼に対して、受け入れ（サービス提供）ができなかったことはありますか。（1つに○）

利用者からの依頼に対して、受け入れ（サービス提供）ができなかったことについては、全体では、「ある」が64.9%、「ない」が32.4%となっています。

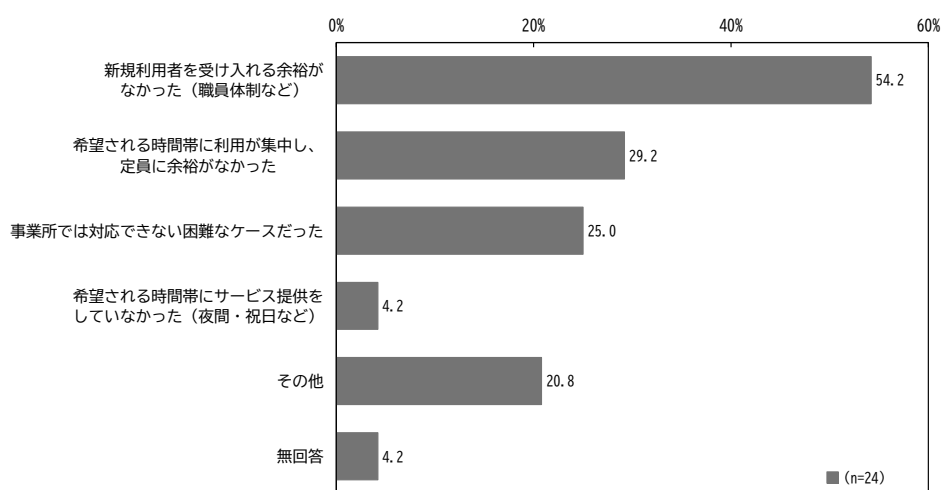


問16で「1. ある」と回答した事業所におうかがいします。

問17 その理由を下記の選択肢から選んでください。（あてはまるものすべてに○）

また、「3 事業所では対応できない困難なケースだった」を選択された場合は、具体的な内容を下記の記入欄にお書きください。

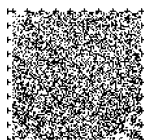
受け入れ（サービス提供）ができなかった理由については、全体では、「新規利用者を受け入れる余裕がなかった（職員体制など）」が54.2%と最も多く、次いで、「希望される時間帯に利用が集中し、定員に余裕がなかった」が29.2%、「事業所では対応できない困難なケースだった」が25.0%となっています。



以下では寄せられたご意見を分割せず、個人等が特定できる記載を除いて原文のまま掲載しています。

### 「3 事業所では対応できない困難なケースだった」具体的な内容

- ・ 計画相談において、既に多くのケースを抱えており、新規の受付は断っている状況。
- ・ 市外で距離があり、移動時間の確保が困難なため。
- ・ 足腰が悪いため1階の居住スペースを希望されましたが居住スペースが2階しかないため対応できませんでした。
- ・ 職員が休日である時の急な日中支援
- ・ 十分なサービスを提供できる保証がなかったため（人員不足と人件費確保ができない）。

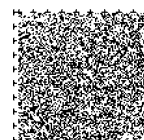
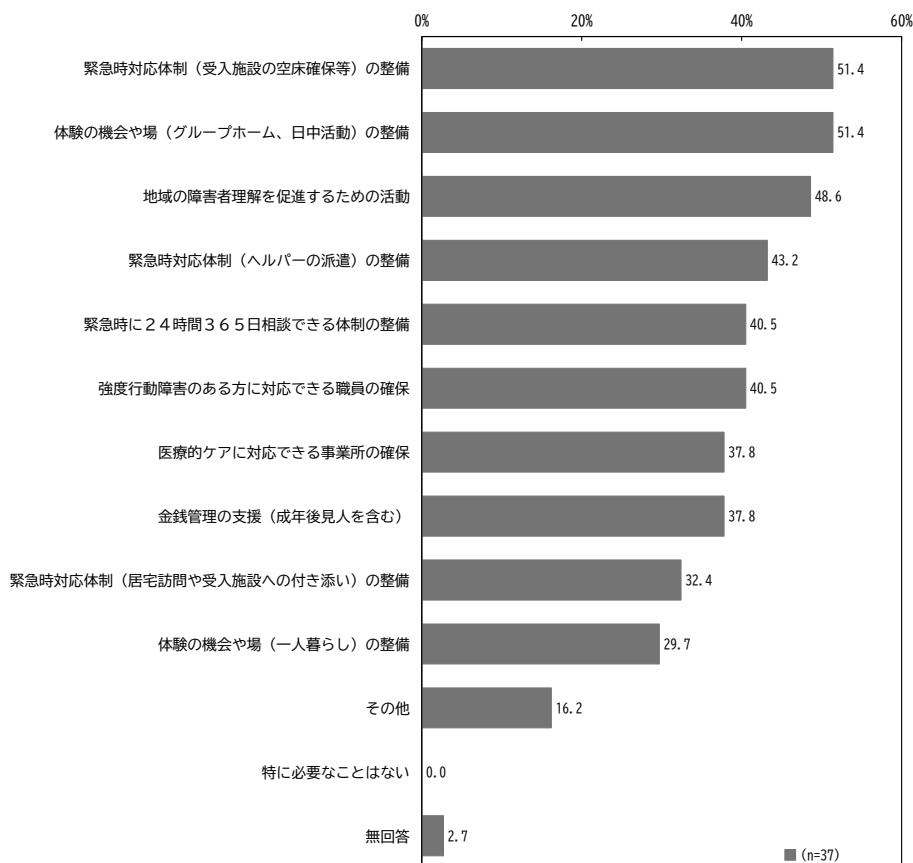


## 4 地域生活支援への取組について

問18 障害者（児）が地域で安心して暮らすために必要なことは、何だと思えますか。

（あてはまるものすべてに○）

障害者（児）が地域で安心して暮らすために必要なことについては、全体では、「緊急時対応体制（受入施設の空床確保等）の整備」、「体験の機会や場（グループホーム、日中活動）の整備」がともに51.4%と最も多く、次いで、「地域の障害者理解を促進するための活動」が48.6%、「緊急時対応体制（ヘルパーの派遣）の整備」が43.2%、「緊急時に24時間365日相談できる体制の整備」が40.5%、「強度行動障害のある方に対応できる職員の確保」が40.5%、「医療的ケアに対応できる事業所の確保」が37.8%、「金銭管理の支援（成年後見人を含む）」が37.8%、「緊急時対応体制（居宅訪問や受入施設への付き添い）の整備」が32.4%、「体験の機会や場（一人暮らし）の整備」が29.7%、「その他」が16.2%、「特に必要なことはない」が0.0%、「無回答」が2.7%となっています。

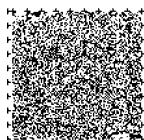
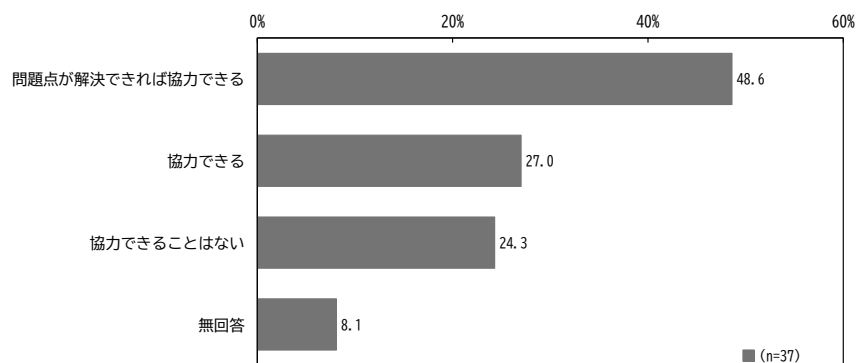


問19 問18の回答項目の中で、貴事業所が協力できることはありますか。

(あてはまるものすべてに○)

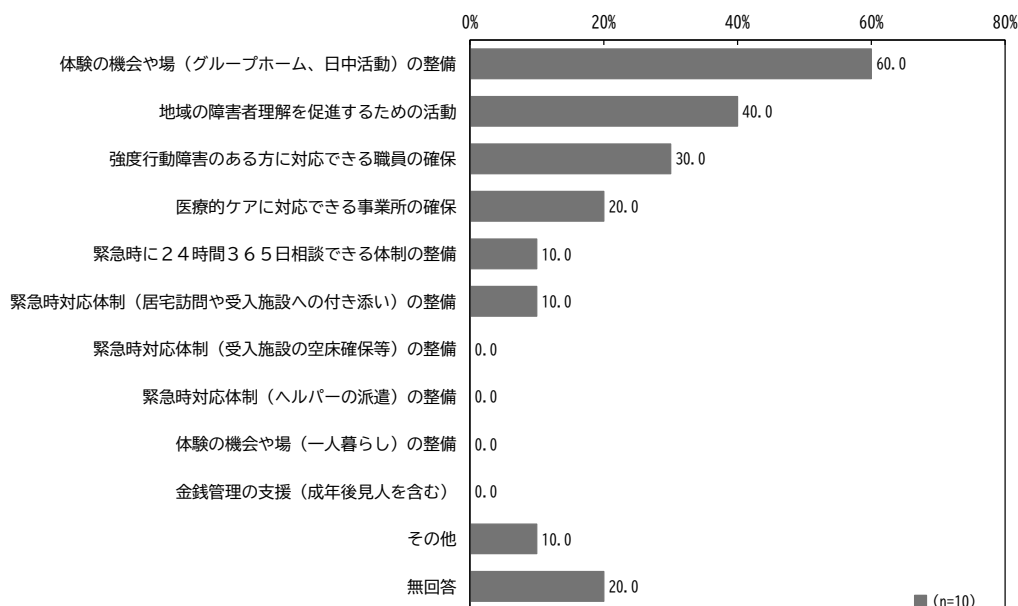
また、「1」「2」を選択された場合は、問18の回答項目から番号をご記入ください。

障害者(児)が地域で安心して暮らすために必要なことのうち、事業所が協力できることについては、全体では、「問題点が解決できれば協力できる」が48.6%と最も多く、次いで、「協力できる」が27.0%、「協力できることはない」が24.3%となっています。



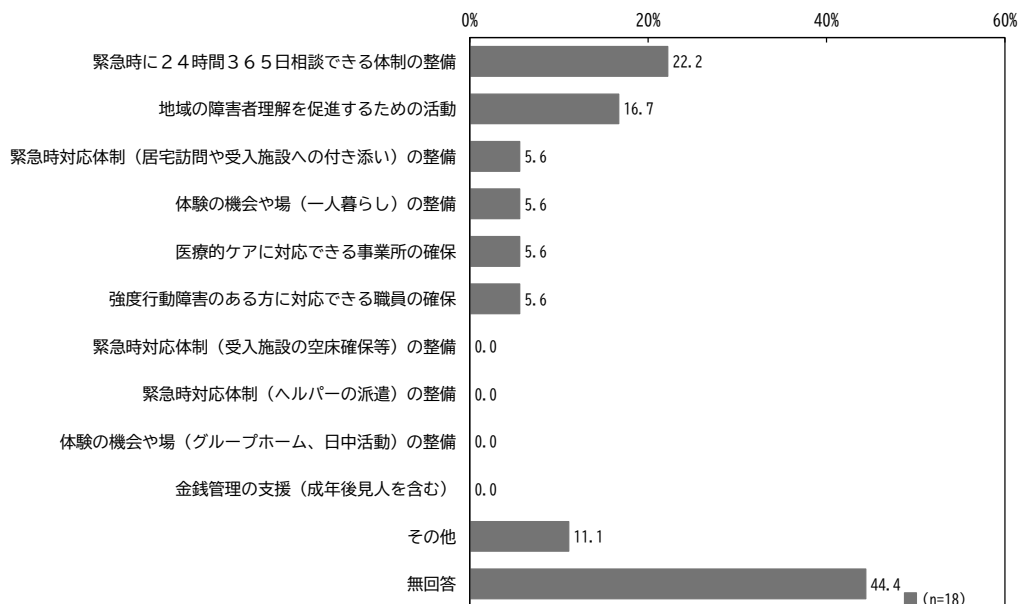
## ■協力できる項目

協力できることについては、全体では、「体験の機会や場（グループホーム、日中活動）の整備」が60.0%と最も多く、次いで、「地域の障害者理解を促進するための活動」が40.0%、「強度行動障害のある方に対応できる職員の確保」が30.0%となっています。



## ■問題点が解決できれば協力できる項目

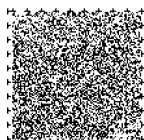
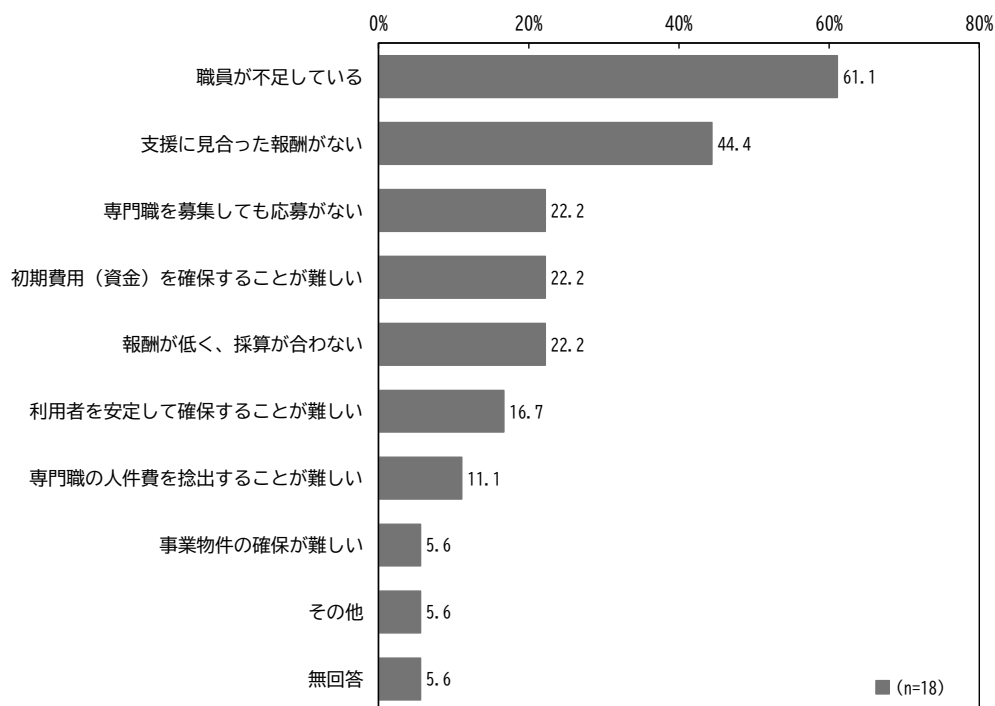
問題点が解決できれば協力できることについては、全体では、「緊急時に24時間365日相談できる体制の整備」が22.2%と最も多く、次いで、「地域の障害者理解を促進するための活動」が16.7%となっています。



問19で、「2」と回答した事業所におうかがいします

問20 具体的な問題点は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

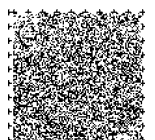
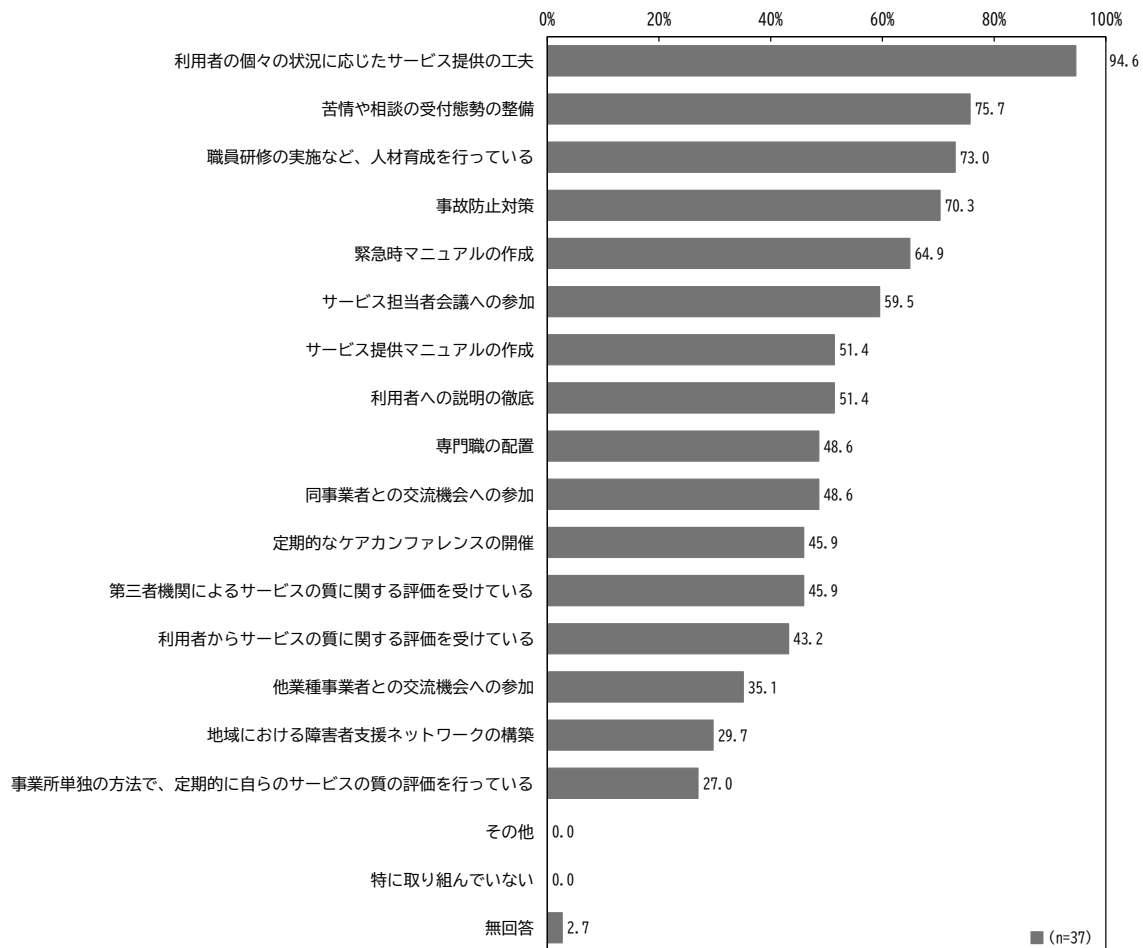
問題点が解決できれば協力できると回答した事業所の具体的な問題点については、全体では、「職員が不足している」が61.1%と最も多く、次いで、「支援に見合った報酬がない」が44.4%、「専門職を募集しても応募がない」、「初期費用（資金）を確保することが難しい」、「報酬が低く、採算が合わない」がともに22.2%となっています。



## 5 サービスの質の向上について

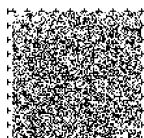
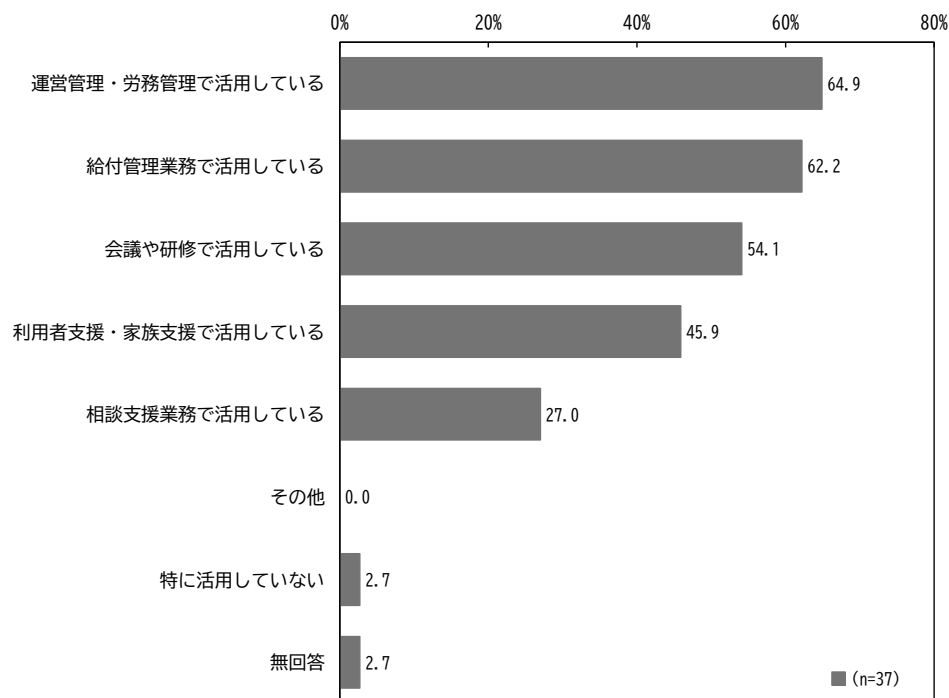
問21 貴事業所では、サービスの質の向上のためにどのようなことに取り組んでいますか。  
(あてはまるものすべてに○)

サービスの質の向上のための取組については、全体では、「利用者の個々の状況に応じたサービス提供の工夫」が94.6%と最も多く、次いで、「苦情や相談の受付態勢の整備」が75.7%、「職員研修の実施など、人材育成を行っている」が73.0%、「事故防止対策」が70.3%、「緊急時マニュアルの作成」が64.9%、「サービス担当者会議への参加」が59.5%、「サービス提供マニュアルの作成」が51.4%、「利用者への説明の徹底」が51.4%、「専門職の配置」が48.6%、「同事業者との交流機会への参加」が48.6%、「定期的なケアカンファレンスの開催」が45.9%、「第三者機関によるサービスの質に関する評価を受けている」が45.9%、「利用者からサービスの質に関する評価を受けている」が43.2%、「他業種事業者との交流機会への参加」が35.1%、「地域における障害者支援ネットワークの構築」が29.7%、「事業所単独の方法で、定期的に自らのサービスの質の評価を行っている」が27.0%、「その他」が0.0%、「特に取り組んでいない」が0.0%、「無回答」が2.7%となっています。



問22 貴事業所では、どのような業務でICTを活用していますか。(あてはまるものすべてに○)

ICTの活用については、全体では、「運営管理・労務管理で活用している」が64.9%と最も多く、次いで、「給付管理業務で活用している」が62.2%、「会議や研修で活用している」が54.1%となっています。

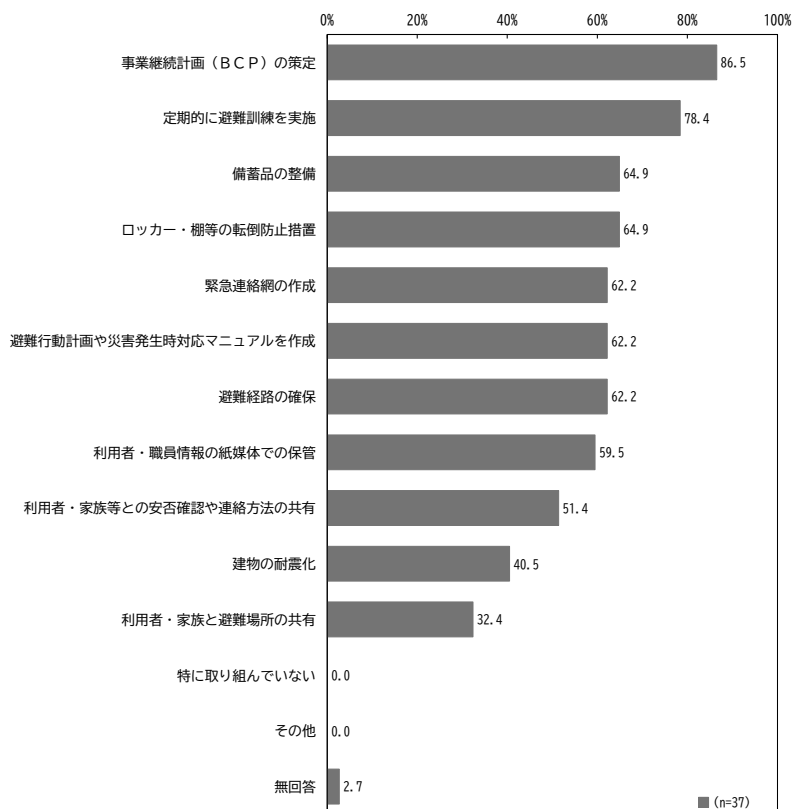


## 6 災害や虐待防止の取組について

問23 貴事業所で、災害時の対策として取り組んでいることは何ですか。

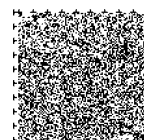
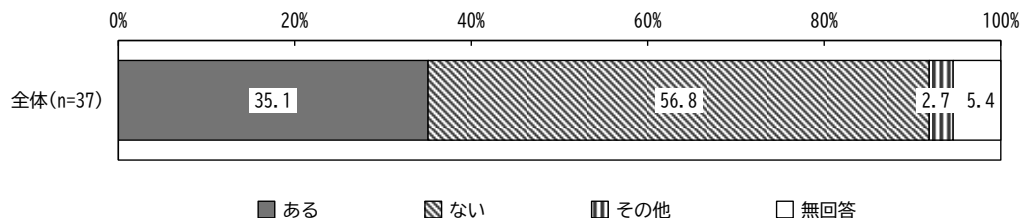
(あてはまるものすべてに○)

災害時の対策として取り組んでいることについては、全体では、「事業継続計画（BCP）の策定」が86.5%と最も多く、次いで、「定期的に避難訓練を実施」が78.4%、「備蓄品の整備」、「ロッカー・棚等の転倒防止措置」がともに64.9%となっています。



問24 貴事業所では、これまでに虐待事案に対応されたことはありましたか。（1つに○）

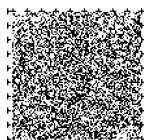
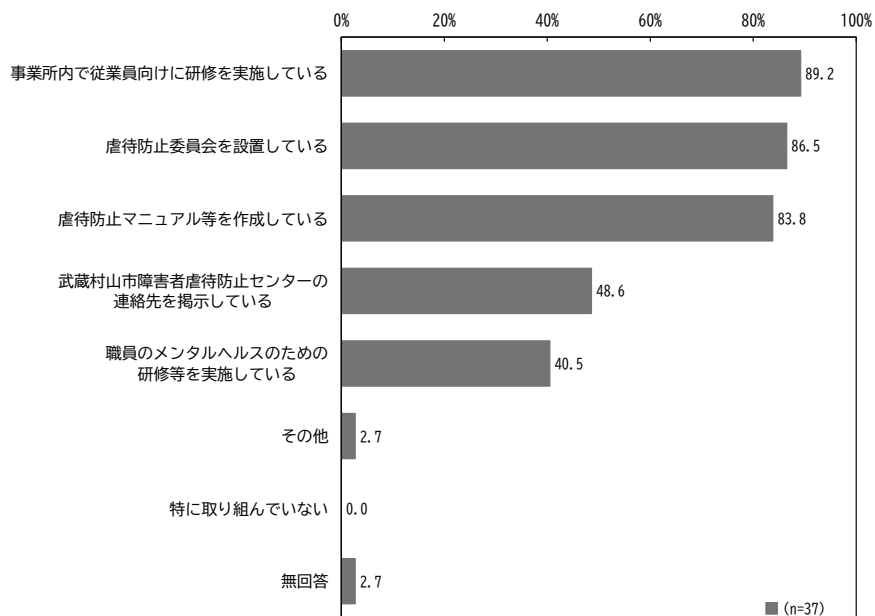
虐待事案に対応されたことについては、全体では、「ある」が35.1%、「ない」が56.8%となっています。



問25 貴事業所では、どのようにして虐待防止に取り組まれていますか。

(あてはまるものすべてに○)

虐待防止の取組については、全体では、「事業所内で従業員向けに研修を実施している」が89.2%と最も多く、次いで、「虐待防止委員会を設置している」が86.5%、「虐待防止マニュアル等を作成している」が83.8%となっています。



## 7 自由意見

問26 障害者施策や障害者福祉サービス全般について、ご意見などあれば、ご自由にお書きください。

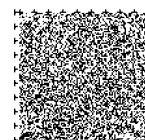
自由記述では、障害福祉サービスの体制や人材確保の課題、事業運営や財政面での厳しさ、関係機関連携や行政による情報提供のあり方などについての意見が多く寄せられています。自由記述を項目ごとに整理すると以下の通りです。

項目	件数
サービスの充実について	5件
人材育成・確保について	5件
事業の運営について	4件
財政的な支援について	4件
行政への謝意について	2件
関係機関との連携について	2件
情報提供について	1件
災害時への備えについて	1件
合計	24件

以下では、寄せられた多くのご意見を項目ごとに分類し、個人等が特定できる記載を除いて原文のまま、代表的な回答を抜粋し掲載しています。

### (1) サービスの充実について

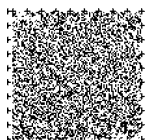
- ・障害者福祉サービスにおいて居宅介護のヘルパー派遣は独居の方や同居家族の介護負担軽減のために必要不可欠であるが、サービスの種類による単価に差があり派遣する見返りが少ないとヘルパー1人1人に対する賃金にも影響が出てしまい、利用を必要とする方に申し訳ないがお受けすることを選別してしまいかねない。本当に必要とする方にサービスを提供できるようにすることと、それにあたるヘルパーに対する賃金が見合ったかたちに単価が変化していく検討をしていてもらいたい。
- ・障害の特に精神疾患の利用者様はキャンセルが多かったり、サービスに関係のない内容の電話を事業所にかけてくる。毎日、しかも一日に何度もかかってきて電話対応で業務が圧迫されることもある。気軽に利用できる無料の傾聴サービスがあるといいのではと思う。もし既に存在するとしたら周知の必要があると考える。
- ・移動支援の依頼が多くあります。(武蔵村山市が特に) 受けてくれる事業所が少ないことが現状です。報酬単価も原因の1つかもしれません。人手不足もあります。事業所としては、移動支援だけで運営は難しいので、どうかならないものかと思います。断る側も、申し訳ない気持ちでいっぱいです。



- ・私ども施設は、これまで本市の福祉サービスの枠組みの中で、自立訓練による訪問サービスで、多くの利用者の生活を支える役割を担ってまいりました。月に一度の訪問であっても、利用者にとっては大きな安心につながり、生活の質を維持するための重要な支えとなっております。例えば、エアコンのリモコンが動かずに夏の暑さの中で不便な思いをされていた方が、訪問時に職員の対応によって快適な生活を取り戻すことができたという事例がございます。こうした「ちょっとした困りごと」に寄り添い、生活を支えることこそが、福祉サービスの真価であると実感しております。これまでの武蔵村山市の継続的なご支援に対し、施設として心より感謝申し上げます。しかしながら、今後サービスが停止されることは、利用者の生活に深刻な影響を及ぼすことが懸念されます。特に本地域では訪問系のサービスが十分に整備されているとは言えず、代替手段が限られているため、サービス停止は孤立や健康状態の悪化を招き、家族の負担を急増させる恐れがございます。私ども施設としては、これまでのご尽力に敬意を表しつつ、今後も住民が安心して暮らせるよう、代替策や支援体制の整備についてご検討いただきたく、ここにお願い申し上げます。
- ・他市では、一人一人決まったケースワーカーが付いて、サービス担当者会議などに出席しているが、武蔵村山市は居ない？ので誰も武蔵村山市内の個々の障害児のことを把握している人がいない。

## (2) 人材育成・確保について

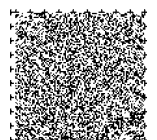
- ・武蔵村山市には様々な種類の事業所があることや顔のみえるネットワークがあることが強みだと思います。ただ特にヘルパー事業所などは少ないため、利用を希望する方にすぐサービスを使ってもらえない状況があります。市内に事業所やヘルパーさんが増える手だてがあればよいなと思っております。
- ・人材の不足で事業運営が厳しい状況となっております。(特に生活保護)
- ・ヘルパー不足で、利用者の要望にお応えできないことがあります。
- ・人材確保が難しく、人手が足りない。



- ・子ども家庭支援センターの方が保護者の困りごとを聞き、事業所に児童の様子を見に来ることがあるが、保護者の困りごとによいように答えていか分らず、こちらに助言を貰って帰っていくことがある。もちろん、こちらで答えられることは協力してお話ししますし、それが大変というわけではないのですが、子ども家庭支援センターには障害児支援を理解されている人がいないのか？と疑問に思います。障害児をもった家族は子どもと家庭のことを相談する先は子ども家庭支援センターしかないというのに、このままではセンター職員も保護者も困るのではないかと感じます。障害児に特化した相談先を設置するか、子ども家庭支援センターに専門職を複数配置し障害児を持った家族への相談を聞くだけでなく解決することが出来る環境作りが必要ではないかと思えます。

### (3) 事業運営について

- ・令和7年●月に開業し、現在まで他市からの相談が非常に多いのですが、武蔵村山市からの相談があまりありません。私は以前●●●●●●で責任者として勤めていた際、“当市には生活介護事業所が少なく、他市の事業所が遠方より送迎を行い、なんとか賄っている状況で、厳しい”という話を伺った事が当市で生活介護を開業するきっかけの一つなのですが、実態は異なっているのでしょうか？
- ・利用者の地域移行は必要なことだと理解していますが、障害の重い方等、入所支援が必要な方も多くいらっしゃると思いますので、そういった方達が、地域社会とのつながりを感じながら、安心した生活が送れる様、事業者も努力はしますが、行政との連携、事業が持続可能な財源確保のための支援も必要だと考えます。
- ・介護保険と比べ基本報酬が低く、事業所の運営を考えると障害福祉サービスへの人員配置の比重を低くせざるを得ない。処遇改善加算が高くても人件費として払い出さないといけない為、事務所の運営にまわせない。
- ・特に施設では、地域移行支援や地域連携推進会議の開催等、求められる事が増えております。(時間や人員の配置、順備など)



(4) 財政的な支援について

- ・介護報酬の改定で事業運営が厳しい状況となっております。(特に生活保護)
- ・利用者の地域移行は必要なことだと理解していますが、移行していく事で、利用者の減少につながり、収入も減っています。(意思決定支援は重要ですが、運営はきびしくなります) 事業者も努力はしますが、行政との連携、事業が持続可能な財源確保のための支援も必要だと考えます。
- ・第三者評価を利用したいのですが、費用負担がかなりあり、躊躇しております。武蔵村山市の補助金の拡大をお願いしたいです。
- ・武蔵村山市の地域区分が近隣市よりも低く報酬単価に格差が生じている。東京都の最賃が毎年大幅に上がっている一方、最賃額は東京都一律での基準となっており、報酬格差は事業所運営に影響し、ひいては利用者支援の質にも影響が出てくるため改善を願う。

(5) 行政への謝意について

- ・他市に比べ柔軟に対応をしていただいております。本市には感謝しております。今後ともよろしく願います。
- ・これからも地域の障害者福祉サービス事業所と緊密に連携しながら一緒に障害者福祉の向上のためにご尽力をお願いします。

(6) 関係機関との連携について

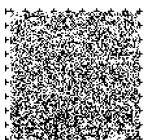
- ・また事業所間のつながりが無く、相互の情報共有など協力関係が構築出来ないのも、そういったネットワーク構築が出来ればと思います。
- ・障がい者福祉に関しての多摩地区市町村での連携協力体制の構築による総合的な障がい者福祉の施策の立案、実施。

(7) 情報提供について

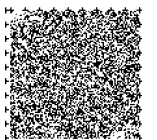
- ・市が主催の勉強会などあれば、アナウンスしていただければ助かります。

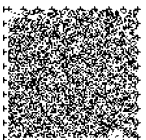
(8) 災害時への備えについて

- ・福祉ひなん所をもっと多く、障がい者の方が安心できる暮らしを・・・



## V 資料編





# 1 市民生活ニーズ把握のためのアンケート調査票（18歳以上の方）

## 市民生活ニーズ把握のためのアンケート調査票

皆様から市役所の職員へご質問、ご意見をいただき、厚くお礼申し上げます。  
 新潟県新潟市では、本市における「障害のある方の暮らしをよりよいものとする」ことをめざし、「障害者計画」、「障害福祉計画」、「障害児福祉計画」を策定し、各種障害福祉施策を推進しております。  
 このたび、「新潟県新潟市障害者計画・障害児福祉計画・障害福祉計画・障害児福祉計画」を策定し、新しい計画を策定するための基礎となる資料として、福祉サービスなどを利用している方を対象に1,000名を無作為に抽出し、アンケート調査を実施することにいたしました。  
 お寄せいただいた内容は、アンケートの目的にのみ使い、個人のプライバシーが公表されることはありません。ご記入にあたり、負担が大きいなどの場合は記入を控えていただいて構いません。お手紙をおかけいたしますが、ご協力くださいますようお願い申し上げます。  
 新潟7年11月

新潟県庁

### 【ご記入にあたってのお願い】

回答方法は「①アンケート用紙で回答」と「②WEBで回答」があります。  
**いずれか一方の方法でお答えください。**

1 質問にはできる限りご本人がお答えください。ただし、書くことがむずかしい場合は、ご家族などがご本人のお考えをお書きのうえ、代筆でご記入ください。  
 また、わからない場合はご家族、相談支援員、ケアマネ、通所施設職員の方などに相談してください。

【① アンケート用紙で回答】  
 1 このアンケート用紙には、お名前・ご住所の記入は必要ありません。  
 2 お答えは、おてはまるものに○をつけてください。また、記号欄には、具体的にその内容を記入ください。  
 3 調査票は、郵便メールまたは郵送でご記入ください。  
 4 ご記入いただきました調査票は、同封の返封用の封筒（必ず封を切らず）に入れて、**11月11日（月）までにポストに投函してください。**

【② WEBで回答】  
 1 パソコン、タブレット、スマートフォンで可能のURLから、三次元コードから  
 回答画面にアクセスいただき、IDを本人の方のうえ顔認証の画面に当てて回答してください。  
 ■URL : [http://www15.webca.net/form/idx/eqsqr/masah/mas2\\_01](http://www15.webca.net/form/idx/eqsqr/masah/mas2_01)

■ID : 新潟県新潟市障害者計画の番号となり、個人を特定するものではありません。

■三次元コード



この調査についてのご質問などは、下記までお問い合わせください。  
 新潟県庁 福祉部 障害福祉課 電話：042-850-1185  
 FAX：042-562-2966

## 1 あなた（あて名の方ご本人）のことがいします。

問1 このアンケートにご記入いただく方はどなたですか。（1つに○）

1. ご本人ご本人	3. 家族や介護者などの本人の意向を あみ取って長わりに記入
2. 本人の意思を「代筆」で記入	

問2 あなたは、年齢ですか。（1つに○）【新潟7年10月1日現在】

1. 10代	3. 30代	5. 50代	7. 65～の歳
2. 20代	4. 40代	6. 49～44歳	8. 70代以上

問3 あなたはどの障害者手帳を持っていたり、医療費などの給付を受けていたりしますか。  
 （おてはまるものすべてに○）

1. 身体障害者手帳	→欄4へ	4. 自立支援医療の受給	→欄5へ
2. 知的障害者手帳		5. 障害児医療費など給付の受給	

問4 は身体障害者手帳を所持していると答えた方におうかがいします。  
 問4 あなたが字種を取るきっかけとなったのはどのような障害によるものですか。  
 （おてはまるものすべてに○）

1. 転倒	5. 内服障害（心臓病、じん臓病、 呼吸器病、ぼうこう・直腸・ 腎臓病）
2. 脳震盪・脳損傷	6. 自立支援医療、障害給付
3. 音声・言語・そしゃく機能	
4. 認知症（うつ・不眠・不安）	7. 発達障害

問5 障害者手帳や医療費などの給付を受けるまでにどのような困難がありましたか。  
 （おてはまるものすべてに○）

1. 制度を知らなかった	
2. どこに相談していいかわからなかった	
3. 手続きは難しかったが、その原因が障害と分かるまで時間がかかった	
4. リハビリや療育を字分を受ける場や機会がなかった、または、知らなかった	
5. 障害との関わり方を相談する機会がなかった	
6. 障害を受けるまでに高い費用の負担があった	
7. 特に困難はなかった	
8. その他	



## 2 あなたの生活についておうかがいします。

問6 あなたの現在の住まい（生活の場）はどこですか。（1つに○）  
 質問に「大抵の」の方は、大抵の住所についてお答えください。

1. 自分・家族の持ち家（一戸建て）	5. 民間賃貸住宅（アパートやマンション、 一戸建てなど）
2. 自分・家族の持ち家（マンションなどの 集合住宅）	6. 社宅・公営賃貸住宅・福祉の貸 （ ）
3. 家族住宅（借家・借借・民間賃貸住宅 など）	7. その他（ ）
4. グループホームなど	

問7 あなたは、どなたと一緒にお住いでいますか。（おてはまるものすべてに○）

1. 配偶者	3. 子ども	5. 一人でお住いでいる
2. 親	4. 兄弟姉妹	6. その他（ ）

問8 あなたの家族の主な収入源はどれですか。（おてはまるものすべてに○）

1. あなたの勤労・賃金	4. 年金収入	7. 仕送り
2. ご家族の勤労・賃金	5. 雑益	8. 児童手当
3. 障害収入	6. 福祉手当	9. その他（ ）

問9 あなたは、現在、生活で困っていることがありますか。（おてはまるものすべてに○）

1. 教育や学習のこと	11. 住居のこと
2. リハビリのこと	12. 必要な情報を得ること
3. 経済的なこと	13. 見だしや相談相手を持つこと
4. 家族生活のこと	14. 地域の理解を得ること
5. 現在の福祉（介護・支援）のこと	15. 結婚のこと
6. 将来の福祉（介護・支援）のこと	16. 子どものこと
7. 就労のこと	17. 社会参加のこと
8. 趣味や生きがいを持つこと	18. その他（ ）
9. かかりつけの病院や療育施設がない こと	19. 特に困ったことはない
10. 交通機関のこと	



## 問10 困っていることを相談する相手は次のうちどなたですか。（おてはまるものすべてに○）

1. 家族や親類	10. 区民センター（夜間、急病時、リハビリスタッ フなど）
2. 友人、知人	11. 相談支援員（障害のある方の相談 支援、障害福祉サービスの利用計画作成 などを行う専門員）
3. 福祉の文、学校の先生	12. 相談するところがない
4. 同じ障害や障害のある仲間	13. 相談するところがわからない
5. ボランティア・NPOの職員	14. その他（ ）
6. 福祉施設や福祉団体の職員	
7. 親友、先輩、先輩	
8. 相談支援員	
9. 区民センターの職員（夜、緊急センター、 相談室など）	

## 3 健康・医療・リハビリテーションについておうかがいします。

問11 現在、医療の支援を受けていますか。（1つに○）

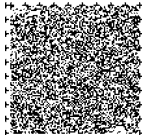
1. 自宅で医師や看護師の支援を受けている	4. 入院している
2. 専門施設に入院している	5. 医療は受けていない
3. 定期的に通院している	

問12 福祉施設や居場所について困ったり不便に感じたことがありますか。（おてはまるものすべてに○）

1. 24時間いつでも利用できる居場所がない	8. 障害者のための「夜」が正確に出ならず、 必要な支援を受けられない
2. 専門的な知識を持っている居場所が 少ない	9. 福祉施設や民間など障害者への 配慮の不足が大きい
3. 通院する際に付添いをしてもらえる人が いない	10. 居場所の数が少ない
4. 参加を促される	11. 欠席のとき付添いや配慮を求められる
5. 気軽に参加できる居場所がない	12. その他（ ）
6. 参加費を受けられない	13. 特に困ったことはない
7. 定期的に相談支援を受けられない	

問13 あなたは、普段の生活で健康管理、就労支援、大規模施設などの関係者から支援ですか。  
 （1つに○）

1. 必要である	2. 必要ではない
----------	-----------



4 日常生活の状況についてお聞きいたします。

問13 あなたを主に介助・支援しているのはどなたですか。(1つに○)

1. 同居している家族・親族	3. 地域の職員	→問15へ
2. 同居していない家族・親族	4. その他( )	
5. 介助や支援を受けていない		→問18へ

問14 「1」～「4」と答えた方にお聞きいたします。

問15 その方の年齢についてお聞きください。(1つに○)

1. 15歳未満	3. 30代	5. 50代	7. 70代以上
2. 10代	4. 40代	6. 60代	8. わからない

問16 主な介助(支援)か介護(支援)でできないことはありますか。(1つに○)

1. 同居している家族・親族に頼む	6. 民間の有償介護サービスを利用する
2. 同居している家族・親族に頼む	7. 施設や病院などに依頼する
3. 訪問のケアやケア人に頼む	8. 一人でなんとかする
4. ホームヘルパーに依頼する	9. わからない
5. ショートステイを利用する	10. その他( )

問17 あなたを介助(支援)しているケア、あなたを介助(支援)する上で、関が困っていることはありますか、わかる範囲でお答えください。(あてはまるものすべてに○)

1. 介助(支援)するケアの確保に不足がある	7. 困りごとやサービスのことを相談できるケアがない
2. ケア方針に違いがある	8. 介護(支援)する代わりにケアがない
3. 継続的なケアがない	9. 介護(支援)する代わりにケアがない
4. 費用が十分に取れない	10. 介護の提供に不安がある
5. あなたとの意思疎通がうまくない	11. その他( )
6. サービスなどの種類が不十分	12. 他に困ったことはない

問18 あなたは日常生活の中で、他のケアとの連携(話す、書く、読む、書く、コミュニケーション手段の利用など)に関することはありますか。(1つに○)

1. よくある	3. ほとんどない
2. ときどきある	4. まったくない

問19 あなたは、日常生活において自分の意思を伝えるためにどのような方法を使っていますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 口頭で話す
2. ジェスチャーや表情で伝える
3. 絵カードや写真などを使う
4. コミュニケーションボードを使う
5. 文字を書くことで伝える
6. 支援者が代わりに意思疎通をする(代替など)
7. その他( )

5 日中の過ごし方についてお聞きいたします。

問20 あなたは、平日の時間を、主にどこで(何をして)過ごしていますか。(1つに○)

1. 学校に通っている(大学や専門学校など)	→問21へ
2. 働いている(施設外就労の場合)	→問21へ
3. 施設などで、生活訓練や福祉訓練、就労訓練などを行っている	→問23へ
4. 日中一時支援・地域活動支援センターを利用している	
5. 施設に入院している	
6. 帰宅に入院している	
7. 主に自宅にいる(働いていない)	
8. その他( )	

問21 「2. 働いている(施設外就労の場合)」と答えた方にお聞きいたします。

問22 あなたは、どのような働き方をしていますか。(1つに○)

1. 正社員など	4. 契約(正社員)のアルバイト	7. その他( )
2. 自営業	5. 労働	
3. パート・アルバイト	6. 就労移行・就労支援・職業訓練など	

6 住環境についてお聞きいたします。

問23 住環境をよりよく感じたり、つらいことは主にどのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 足音が気取	7. 部屋の平均気温が低くない
2. 臭いが気取	8. コミュニケーションがとれない
3. 騒音が気取	9. 住環境が暗くない
4. 湿度が気取	10. 勤務時間や日数を調整できない
5. 部屋の又設備が	11. その他( )
6. 部屋の平均湿度が暗くない	12. 他にない

6 将来の過ごし方についてお聞きいたします。

問24 あなたは、将来(おおよそら)どのように暮らしたいですか。(1つに○)

1. 家族と一緒に暮らしたい	4. グループホームなどで暮らしたい	→問26へ
2. 一人で暮らしたい	5. 又施設で暮らしたい	
3. ケアや介護と一緒に暮らしたい	6. その他( )	→問26へ
7. わからない		

問25 「1」～「3」と答えた方にお聞きいたします。

問26 あなたは将来、地域(お住まいの市)で生活したいと思いませんか。(1つに○)

1. 地域で生活したい	→問28へ	2. 地域で生活したいと思わない	→問28へ
3. わからない			

問27 「1. 地域で生活したい」と答えた方にお聞きいたします。

問28 地域で生活するためにどのようなことが困難に感じますが、(あてはまるものすべてに○)

1. 障害のある方に適した住居がない	6. 生活訓練などの充実が足りない
2. 働く場所がない	7. 地域住民との関係が良好ではない
3. 仕事を休んでも困らない	8. 相談できる場所がない
4. 費用などが不十分でない	9. その他( )
5. 設備を見てくれるケアの質が悪い	10. わからない
6. コミュニケーションがとれない	11. 他にない
7. 住環境が暗くない	

問29 地域生活への移行を促すために、行政や地域にどのような支援を期待しますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 相談できるケア、相談窓口の確保	5. 生活費や住居に関する支援
2. グループホームなどの住まいの確保	6. 地域住民との交流や理解促進の取り組み
3. ヘルパーや介護者の人材確保・育成	7. その他( )
4. 地域福祉と連携体制の強化	8. 他にない

問30 あなたは今後(将来)働くことを希望しますか。(1つに○)

1. 働きたい	→問31へ
2. 働きたくない、または働きたいが働けない	→問31へ
3. わからない	

問31 「1. 働きたい」と答えた方にお聞きいたします。

問32 どのように働きたいですか。(1つに○)

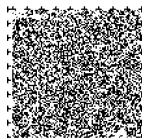
1. 企業などで正社員・正社員	5. 就労支援施設や就労移行支援を利用
2. 企業などで臨時、アルバイト、パート	6. 地域活動支援センターを利用
3. 自営業・フリーランス	7. その他( )
4. 在宅ワーク	8. わからない

問33 あなたが今後(将来)希望する住環境はありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 単身	6. 賃貸・借家
2. 賃貸(エンジニア、賃貸など)	7. 移住先(高齢者の介護施設、介護など)
3. 施設(介護施設など)	8. その他( )
4. 施設・福祉	9. わからない
5. 介護(福祉や相談など)	

問34 どのような支援があれば企業などでの一時的な移行できると思いませんか。(あてはまるものすべてに○)

1. 就業の補助や仕事の紹介などの支援
2. ジョブコーチ、就労支援、地域活動などの継続的支援
3. 地域福祉や就労訓練の充実や雇用の拡大
4. 地域の福祉や住居の改善、福祉などの連携
5. その他( )
6. 他にない



問31 障害のある方の就業を促進するために、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- |               |                |              |
|---------------|----------------|--------------|
| 1. 障害者の理解     | 5. 福祉的雇用等の制度   | 9. ジョブコーチの実質 |
| 2. 就業資力の理解    | 6. 障害あっせん窓口の充実 | 10. その他      |
| 3. 各企業の就業支援体制 | 7. 障害者就業窓口の充実  | 11. 特になし     |
| 4. 就業訓練施設等の設置 | 8. 就業支援の雇用開発   |              |

7 外出や活動などについておうかがいします。

問32 あなたの外出する頻度は、およそどのくらいですか。職場や学校への通勤・通学、買い物への頻度も併せて教えてください。(1つに○)

- |          |          |               |
|----------|----------|---------------|
| 1. ほぼ毎日  | 3. 週1~2回 | 5. 月に数回       |
| 2. 週3~5回 | 4. 月1~3回 | 6. 外出しない・できない |

問33 外出するとき、平後に感じることで困っていることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 障害者用トイレが少ない
2. 福祉や福祉・前に施設や商店が寒い
3. バスや電車の乗り降りの困難
4. 歩道の舗装されていない(段差がある)
5. 障害者用の駐車スペースが少ない(障害者用マーク)
6. バスや電車で障害者マークの乗降客が少ない
7. 道路沿いに歩道や自転車などの障害物があって通りにくい
8. 必ずプロテクターや乗降補助が必ず付いている
9. 福祉や福祉の出入口に福祉障害者用の乗降補助や乗降ガイドシステムが少ない
10. 高い乗降補助や手すり・壁のついた福祉対応のエレベーターが少ない
11. 福祉の出入口が狭かったり、奥行きが浅い
12. 公共バスや障害者用乗降が少ない
13. 乗降に補助が必要な
14. 向きあってくれる人がいない
15. 自分の乗降を促したり、コミュニケーションをとることがむずかしい
16. 福祉タクシーが利用しにくい
17. 乗降時に他の人の目が気になる
18. その他
19. 特になし
20. ほとんど外出しないのでわからない

問34 あなたが、趣味や学習、スポーツなど余暇活動をするときに困ること、または活動を行っていない理由はどのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)

- |                              |                     |
|------------------------------|---------------------|
| 1. 施設や設備が障害のある方に配慮されていない     | 5. 一緒に参加する友人、仲間がいない |
| 2. 障害のある方が参加できる趣味・イベントなどが少ない | 7. 定式化して参加できない      |
| 3. 障害のない大勢の友人たちと一緒にいくのが難しい   | 8. 費用が高額すぎる         |
| 4. 交通費が足りない、交通費に支えつかう        | 9. その他              |
|                              | 10. 施設がないので参加しない    |
|                              | 11. 特になし            |

8 コミュニティ(地域)についておうかがいします。

問35 あなたは、近所や職場の人との親睦のつきあいをしていますか。(1つに○)

1. 親しくつきあっている
2. 相手の言葉を聞き取れる人とつきあっている
3. 自分からあいさつする
4. はとんどつきあっていない
5. その他

問36 あなたは、地域の人が何かボランティア活動をしたと思っている場合、どのような支援・支援があったらいいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- |                        |                       |
|------------------------|-----------------------|
| 1. 簡単な身の回りの支援をする       | 6. 地域の行事やイベントに一緒に参加する |
| 2. 寄附金に付き合う            | 7. 趣味やスポーツ活動と一緒にする    |
| 3. 情報から定期的に呼びかけなどを(送付) | 8. その他                |
| 4. 活動相手になる             | 9. おかからない             |
| 5. 目標設定をして一緒に進める       |                       |

問37 障害のある方と障害のない方がお互いに理解しあい、共に生きる社会をつくっていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(3つまで○)

1. 障害のある方と障害のない方が交流する機会を設ける
2. 障害についての理解が深められるよう、情報提供を充実させる
3. 学校教育の中で、障害や福祉に関する学習を充実させる
4. 障害のある子どもと障害のない子どもの交流機会を充実させる
5. 障害のある方へのボランティア活動を充実させる
6. 障害のある方がさまざまな役割に参加できるよう周りの人が協力する
7. 障害のある方が自分から進んで行動できる環境(制度など)を整える
8. その他
9. わからない

9 防災対策についておうかがいします。

問38 あなたは、地震などの災害時に一人で避難できますか。(1つに○)

- |         |           |
|---------|-----------|
| 1. できる  | 3. おかからない |
| 2. できない |           |

問39 あなたが地震など災害時に困ることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

- |                                  |                         |
|----------------------------------|-------------------------|
| 1. 避難場所を知らない                     | 6. 避難場所での避難ケアなどが受けられるか  |
| 2. 避難場所まで行けない(経路や道がある、避難経路が狭いなど) | 7. 地震                   |
| 3. 避難経路を歩けない                     | 8. 地震と一緒には避難所にいられない     |
| 4. 避難時の不具合がない                    | 9. 地震と一緒には避難所について不安     |
| 5. 近所に避難する人がいない                  | 10. 避難所の設備(トイレなど)について不安 |
| 6. 避難時に被害を受ける可能性がある              | 11. その他                 |
| 7. 避難、通学、通院の途中で災害にあった場合の対応がわからない | 12. 特になし                |

問40 あなたが、災害の際に避難所で生活するために必要とする支援はありますか。(あてはまるものすべてに○)

- |                          |                   |
|--------------------------|-------------------|
| 1. 食糧物資(食料・水・衣類・寝具など)の配給 | 4. 施設内を移動する際のサポート |
| 2. プライバシーの確保             | 5. 障害のある方の家族への支援  |
| 3. 施設内のバリアフリー化           | 6. その他            |
|                          | 7. 特になし           |

問41 あなたは、福祉行政支援推進協議会の情報提供に何をしていますか。(1つに○)

- |                      |               |
|----------------------|---------------|
| 1. 同意している            | 3. 同意したいと思わない |
| 2. 同意していないが、今後、同意したい | 4. わからない      |

10 障害のある方の権利擁護についておうかがいします。

問42 あなたは次の権利について、どの程度知っていますか。(それぞれ1つに○)

	名前も内容も知っています	名前は聞いたことがあるが、内容は知らない	全く知らない
①成年後見制度	1	2	3
②障害者差別解消法	1	2	3

問43 あなたは次の障害者権利法に関する制度・制度窓口について、どの程度知っていますか。(それぞれ1つに○)

	名前も内容も知っています	名前は聞いたことがあるが、内容は知らない	全く知らない
①障害者権利法	1	2	3
②障害者権利法センター	1	2	3

問44 日常生活において、あなたの障害について理解や配慮があり、よかったと感じたことはありますか。(1つに○)

1. ある(具体的に)
2. あまりない
3. ない

問6 あなたは、これまでに補償があるため、賠償を受けたり、いやな思いをしたことがありますか。  
(あてはまるものすべてに○)

1. 病院などで診断をされた	→問6ハ
2. バス、電車、タクシーの乗員の対応で、不愉快な思いをした	
3. 車を乗りこわす時に自動車修理工や業者に雇われた	
4. ホテル、温泉宿等、飲食店などを利用することを断られた	
5. 被害を理由とした不案内や偏見があった	
6. 相談機関・相談窓口に行ったとき、被害の対応で不愉快な思いをした	
7. 学校、職場、施設などで不案内な思いを受けた	
8. ホームヘルパーやガイドヘルパーなどの対応で、不愉快な思いをした	
9. 火災・盗難している施設(被災者の住居)の被害者の対応で、不愉快な思いをした	
10. 被害が本人のために使われなかったり、知らない人に被害が引き継がれるなど、自分の被害が認識された	
11. 警察や検察の介入の仕方による被害を受けた	
12. 災害の支援の対応で、不愉快な思いをした	
13. その他( )	
14. 特になし	

問6で「1」～「13」と答えた方におうかがいします。

問6 賠償を受けたり、いやな思いをした経緯について、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。  
(1つに○)

1. 相談した →問6ハ 2. 相談しなかった →問6ハ

問6で「2. 相談しなかった」と答えた方におうかがいします。

問6 相談しなかったのは、なぜですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 誰も相談する人がいなかったから	}
2. どこ(誰)に相談していいかわからなかったから	
3. 恥ずかしくて誰にも言えなかったから	
4. 相談しても無駄だと感じたから	
5. 相談したことがあっても、対応を受けたり、もっとひどい被害を受けると思ったから	
6. 相談員の相談内容や相談者の言葉により不愉快な思いをすると感じたから	
7. 自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから	
8. 相談料が掛かるから	
9. 犯人を巻き込みたくなかったから	
10. そのことについて思い出しにくかったから	
11. 自分にも悪いところがあると思ったから	
12. 相談するほどのことでもないと思ったから	
13. その他( )	

12

11 情報入手や取扱の相談についておうかがいします。

問4 あなたは現在、ICT機器(パソコンやスマートフォンなど)をどのくらい利用していますか。  
(それぞれ1つに○)

	1 ほぼ毎日 利用している	2 月に数回 利用している	3 ほとんど 利用してない	4 まったく 利用してない
①パソコン	1	2	3	4
②スマートフォン	1	2	3	4
③タブレット型端末	1	2	3	4
④携帯電話	1	2	3	4
⑤その他( )	1	2	3	4

問4 あなたは普段どのような目的でICT機器を利用していますか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 情報の取得・発信	4. 学習や仕事
2. コミュニケーション(メール・SNSなど)	5. 行政サービスの利用
3. 娯楽(動画やゲームなど)	6. その他( )

問4 今後、ICT機器を活用するうえで行政や地域にどのような支援を期待しますか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 操作方法を学ぶ講習会やサポート	}
2. 機器や運用費の低減	
3. 障害者に合わせた機器・ソフトの提供(音声読み上げ、拡大表示など)	
4. オンラインでの相談・手続の支援	
5. 特になし	
6. その他( )	

13

問51 相談に関する情報は、どこから得ますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 市や市の広報・ホームページやガイドブック	7. 社会福祉協議会
2. 新聞・雑誌	8. 障害福祉サービス事業所
3. テレビ・ラジオ	9. 学校の先生・地域の関係者
4. インターネット(パソコン、スマートフォン)	10. 病院など医療機関
5. 警察や火災	11. 障害者団体・家族会など
6. 市役所・図書館・児童相談所	12. 障害者相談支援事業所
	13. ハローワーク
	14. その他( )

問52 福祉サービスを利用するときに困ること(困ったこと)がありますか。(2つまで○)

1. ほしいサービスがなかった	7. どんなサービスがあるのかわからない
2. サービスの量が少ない、対応時間が短い	8. 事業所や職員が丁寧
3. どの事業所が良いかわからない	9. その他( )
4. 利用の方法がわからなかった(わかりにくかった)	10. わからない
5. 利用してトラブルがあった	11. 特になし
6. 費用負担があるため、サービスが受けづらい	

問53 市からの補償を受け取ることについて、あなたはどのように感じますか。(1つに○)

1. 十分受け取れている	4. 全く受け取れていない
2. まあ受け取れている	5. わからない
3. あまり受け取れていない	

問54 相談機関を充実するために(相談したときに満足できるように)特になどのようなことをすれば良いと思いますか。(3つまで○)

1. 相談員のスキルアップ研修を行う	}
2. 専門員のある相談員と連携する	
3. 気軽に相談できる窓口の数を増やす	
4. 専門的な相談機関を設ける	
5. 1か所ですべての相談に対応できる窓口を設ける	
6. 夜間や休日などを相談できる窓口を設ける	
7. 相談員が自治体に来てくれる相談所を行う	
8. 被害のある方による相談対応(ピアカウンセリング)を充実する	
9. コミュニケーションの支援(手話、筆談など)を充実する	
10. その他( )	

14

問55 あなたは、相談支援体制について、どのようなことの実現を望みますか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 福祉の専門員と連携した相談窓口	}
2. 同じ被害を同一相談員によるカウンセリング	
3. 1日1つの相談の相談体制	
4. 緊急の場を受けとめる緊急相談員	
5. 子どもの被害・被害支援に関する専門的な相談	
6. 夜間や休日の支援に関する専門的な相談	
7. その他( )	
8. 特になし	

15

12 障害福祉サービスについてお聞きいたします。

問6 次のサービスについて、あなたの「(1) 利用状況」と「(2) 今後(2～3年以内)の利用希望」を調査表から1つずつ選んでください。

■日常生活サービス

サービス種別	(1) 利用状況		(2) 今後(2～3年以内)の利用希望			
	現在利用している		十分利用できている	もっと利用したい	今後利用したい	利用希望はない
①個別介護	1 はい	2 いいえ	1	2	3	4
②集団活動介護	1 はい	2 いいえ	1	2	3	4
③同行介護	1 はい	2 いいえ	1	2	3	4
④移動介護	1 はい	2 いいえ	1	2	3	4
⑤個別障害者福祉支援	1 はい	2 いいえ	1	2	3	4

■日常生活支援サービス

サービス種別	(1) 利用状況		(2) 今後(2～3年以内)の利用希望			
	現在利用している		十分利用できている	もっと利用したい	今後利用したい	利用希望はない
①生活介護	1 はい	2 いいえ	1	2	3	4
②療養介護	1 はい	2 いいえ	1	2	3	4
③自立訓練(職業訓練・生活訓練)	1 はい	2 いいえ	1	2	3	4
④自立支援支援	1 はい	2 いいえ	1	2	3	4
⑤就労移行支援	1 はい	2 いいえ	1	2	3	4
⑥就労継続支援(Ａ型・Ｂ型)	1 はい	2 いいえ	1	2	3	4
⑦就労継続支援(Ｂ型・Ｂ型併用)	1 はい	2 いいえ	1	2	3	4
⑧就労定着支援	1 はい	2 いいえ	1	2	3	4
⑨短期入所	1 はい	2 いいえ	1	2	3	4



■障害サービス

サービス種別	(1) 利用状況		(2) 今後(2～3年以内)の利用希望			
	現在利用している		十分利用できている	もっと利用したい	今後利用したい	利用希望はない
①発達障害者支援センター(グループホーム)	1 はい	2 いいえ	1	2	3	4
②自立生活援助	1 はい	2 いいえ	1	2	3	4
③施設入所支援	1 はい	2 いいえ	1	2	3	4

■地域生活支援事業

サービス種別	(1) 利用状況		(2) 今後(2～3年以内)の利用希望			
	現在利用している		十分利用できている	もっと利用したい	今後利用したい	利用希望はない
①相談支援事業	1 はい	2 いいえ	1	2	3	4
②地域生活支援事業	1 はい	2 いいえ	1	2	3	4
③地域活動支援センター	1 はい	2 いいえ	1	2	3	4
④日常生活相談支援事業	1 はい	2 いいえ	1	2	3	4
⑤移動支援事業	1 はい	2 いいえ	1	2	3	4

■その他サービス

サービス種別	(1) 利用状況		(2) 今後(2～3年以内)の利用希望			
	現在利用している		十分利用できている	もっと利用したい	今後利用したい	利用希望はない
①自立支援センター	1 はい	2 いいえ	1	2	3	4
②療育園	1 はい	2 いいえ	1	2	3	4
③地域定着支援	1 はい	2 いいえ	1	2	3	4

13 障害者・障害児施設全般についてお聞きいたします。

問7 近畿府山形市の福祉サービス全般について、満足していますか。(1つに○)

1. 満足している      3. どちらともいえない      5. 満足していない  
2. 少し満足している      4. あまり満足していない

問8 今後どのようなことを特にしていく必要があると置われますか。(当てはまるものすべてに○)

1. 障害福祉サービスの充実(ホームヘルプ、実習、外出支援など)
2. 在宅の障害サービスの充実(家事や洗濯まで届ける)
3. 入居施設の整備
4. 通所施設の整備
5. 相談支援サービスの充実(相談、専門的な相談支援機関、相談員など)
6. 在宅の整備・改善のための支援
7. 地域で生活できる住宅の整備(グループホームなど)
8. 暮らしやすいまちづくり(通所の発達支援、就労プログラムの整備、案内表示など)
9. 障害-教育-教育の質の向上
10. 働く機会の充実(働く場所の整備、働く場の確保など)
11. 二歳児健診以外の就労の場(就労継続支援事業など)
12. 地域での活動や通所施設への参加のためのしくみづくり
13. 相談支援の充実(生活相談、障害相談、福祉相談など)
14. 個別相談支援事業の充実(生活可能な方法に対する相談など)
15. 職業的な訓練の充実(職業訓練、研修、卒業後の支援など)
16. 障害支援分野の充実(情報ネットワークの整備、障害データベースなど)
17. 福祉行政分野におけるICT推進の活用(行政手続きの簡便化、相談・相談窓口の利便性向上、障害福祉支援など)
18. 障害のある方についての地域への理解を深めるための活動(福祉教育など)
19. ボランティアの育成
20. 災害時における避難支援事業の確立
21. 障害のある方の就業支援
22. 障害者団体の自立活動に対する行政の支援
23. その他( )
24. わからない
25. 特にない



問9 障害のある子どもたちが施設外活動で活躍するにあたってのことや希望と置いますか。(当てはまるものすべてに○)

1. 家族の理解
2. 地域の受け入れの理解
3. 市民や企業などの理解の促進
4. 学校の先生や職員との理解
5. 障害者制度の充実
6. インクルーシブ教育の促進
7. 就業訓練などの情報の提供
8. 障害のある方・子どもに対するサービス提供の充実
9. 教員や保護者の理解の促進
10. 通学や通勤に合わせた障害者支援
11. 活動できる居場所の確保
12. ラビリティや訓練などの施設
13. 自立した生活を営むことができる住まい
14. 施設外からの避難訓練などの一貫した支援
15. その他( )
16. わからない
17. 特にない

※1 就業支援と関係するため、各学校における活動の実践や連携を通じて、市民生活の理解を深めるための活動や心のケアプログラムを推進するために導入する教育システム。

問10 施設の各種利用の制限点、障害のある方・子どもと暮らす環境の改善などについて、ご意見・ご要望がありましたら、自由にお書きください。

---



---

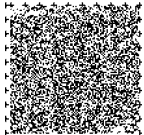


---

以上で、調査は終わります。ご協力ありがとうございました。

お書きいただきましたアンケート用紙は、お送りした封筒と一緒に  
入っていた返信用の封筒に入れて、**12月15日(月)**  
までにポストに投函してください。

切手は不要です。





4 日常生活の状況についておかがいします。

問1 現在、あなたは介護（支援）が必要ですか。（1つに○）

1. すべてにわたって必要 → 問2へ 2. 必要ない → 問6へ  
3. 必要あり

問2 介護、あなたも主に介護・支援しているのはどちらですか。（1つに○）

- |                |               |
|----------------|---------------|
| 1. 無           | 5. ホームヘルパー    |
| 2. 兄弟姉妹やその他の家族 | 6. 友人・知人・近所の人 |
| 3. 友人          | 7. 施設・福祉の職員   |
| 4. その他の家族      | 8. ボランティア     |
|                | 9. その他（ ）     |
- 問15へ

問3 その方の年齢についてお答えください。（1つに○）

1. 18歳未満 2. 19歳 3. 20歳 4. 21歳 5. 22歳 6. 23歳 7. 24歳以上 8. わからない

問4 主な介護（支援）が介護（支援）できないときはどうしますか。（1つに○）

- |                     |                     |
|---------------------|---------------------|
| 1. 同居している者の家族・近所に頼む | 6. 民間の有償介護サービスを利用する |
| 2. 同居している者の家族・近所に頼む | 7. 施設や福祉などに依頼する     |
| 3. 近所の人や知人に頼む       | 8. “”人でなんとかする       |
| 4. ホームヘルパーに依頼する     | 9. わからない            |
| 5. ショートステイを利用する     | 10. その他（ ）          |

問5 あなたを介護（支援）している人が、あなたを介護（支援）する上で、何が困っていることはありますか。わかる範囲でお答えください。（あてはまるものすべてに○）

- |                       |                            |
|-----------------------|----------------------------|
| 1. 介護（支援）する人の負担に不安がある | 7. 居りごとやサービスのことを理解できる人がいない |
| 2. 経済的に余裕がない          | 8. 介護（支援）する代わりの人がいない       |
| 3. 精神的な負担が大きい         | 9. 福祉の知識に不安がある             |
| 4. 暮らしが不安定でない         | 10. その他（ ）                 |
| 5. あなたの健康状態が不安定でない    | 11. 特に困ったことはない             |
| 6. サービスなどの種類が不安定      |                            |

問6 あなたは日常生活の中で、他の人との意思疎通（話す、書く、読む、書く、コミュニケーション機器の利用など）に困ることはありますか。（1つに○）

1. よくある 2. ときどきある 3. ほとんどない 4. まったくない

問7 あなたは、日常生活において自分の意思を伝えるためにどのような方法を使っていますか。（あてはまるものすべてに○）

- |                         |
|-------------------------|
| 1. 口頭で話す                |
| 2. ジェスチャーや“筆”で伝える       |
| 3. 絵カードや写真などを使う         |
| 4. コミュニケーションボードを使う      |
| 5. 文字を書くことで伝える          |
| 6. 支援者が代わりに意思疎通を済す（口頭で） |
| 7. その他（ ）               |

5 日中の過ごし方についておかがいします。

問8 あなたは、平日の昼間は、どこで（何を）過ごしていますか。（1つに○）

- |                               |        |
|-------------------------------|--------|
| 1. 学校に通っている（専攻科や専攻、認定こども園を含む） | → 問19へ |
| 2. 施設に通っている                   | → 問20へ |
| 3. 福祉に通っている                   |        |
| 4. 家にいる                       |        |
| 5. 近所や近隣の施設に通っている             |        |
| 6. その他（ ）                     |        |

問9 「1. 学校に通っている」と選んだ方におかがいします。

問10 あなたは、通学や通学で困っていることがありますか。（あてはまるものすべてに○）

- |                       |                     |
|-----------------------|---------------------|
| 1. 通学の欠かさず            | 5. まわりの人たちの理解や配慮の不足 |
| 2. トイレや施設などの施設の利用に困る  | 6. 交通機関がうまくいかない     |
| 3. 学費・生活費が不安定         | 7. その他（ ）           |
| 4. 学校など受け入れ側の理解や配慮の不足 | 8. 特にない             |

6 将来の過ごし方についておかがいします。

問11 あなたは、将来（おおむね5年後）どのように暮らしたいですか。（1つに○）

- |                   |                    |
|-------------------|--------------------|
| 1. 家族と一緒に暮らしたい    | 4. グループホームなどで暮らしたい |
| 2. “”で暮らしたい       | 5. 介護施設で暮らしたい      |
| 3. 友人や知人と一緒に暮らしたい | 6. その他（ ）          |
|                   | 7. わからない           |
- 問21へ

問12 「1. ～ 3」と選んだ方におかがいします。

問13 あなたは将来、施設（介護施設）で暮らしたいと思いませんか。（1つに○）

1. 施設で暮らしたい → 問22へ 2. 施設で暮らしたいと思わない → 問23へ 3. わからない

問14 「1. 施設で暮らしたい」と選んだ方におかがいします。

問15 施設で生活するためにどのようなことが困難に感じますか。（あてはまるものすべてに○）

- |                    |                        |
|--------------------|------------------------|
| 1. 障害のある方に適した設備がない | 8. 生活設備などの充実が不足        |
| 2. 費用が負担がない        | 9. 地域住民などの理解や配慮が不足している |
| 3. 介護を命じてほしくない     | 10. 施設で暮らす場所がない        |
| 4. 資金などが不安定でない     | 11. その他（ ）             |
| 5. 設備を点検する人の不足     | 12. わからない              |
| 6. コミュニケーションがとれない  | 13. 特にない               |
| 7. 住環境が整っていない      |                        |

問16 地域生活への移行を進めるために、行政や組織にどのような支援を期待しますか。（あてはまるものすべてに○）

- |                       |                       |
|-----------------------|-----------------------|
| 1. 施設で暮らす人、職員などの負担    | 5. 生活費や住宅に関する支援       |
| 2. グループホームなどの住まいの場の確保 | 6. 地域住民との交流や理解促進の取り組み |
| 3. ヘルパーや介護者の欠付削減・育成   | 7. その他（ ）             |
| 4. 設備整備などの設備改善の推進     | 8. 特にない               |

問17 あなたは今後（将来）書くことを希望しますか。（1つに○）

1. 書きたい → 問25へ 2. 書きたくない、または書きたいが書けない → 問26へ 3. わからない

問18 「1. 書きたい」と選んだ方におかがいします。

問19 あなたが今後（将来）希望する介護施設はありますか。（あてはまるものすべてに○）

- |                     |                        |
|---------------------|------------------------|
| 1. 専攻               | 8. 福祉・福祉               |
| 2. 介護施設（エンジニア、福祉など） | 7. 福祉施設（福祉や介護施設、児童などの） |
| 3. 施設（百歳も含む）        | 9. わからない               |
| 4. 福祉・福祉            |                        |
| 5. 福祉（福祉や福祉など）      |                        |

問20 どのような設備があれば介護などでの“”施設等に移行できると思いますか。（あてはまるものすべてに○）

- |                             |
|-----------------------------|
| 1. 介護の施設や仕事場の確保などの設備        |
| 2. ショールーム、見学や体験、施設見学などの施設見学 |
| 3. 福祉施設や介護施設の紹介や紹介の支援       |
| 4. 福祉の確保や生活の改善、福祉などの推進      |
| 5. その他（ ）                   |
| 6. 特にない                     |

**7 外出や活動などについておうかがいします。**

問27 外出するとき、午後に着ることも帰っていることがありますか。  
(全てはまるものすべてに○)

1. 障害者用トイレが少ない
2. 道路や駅前、駅に階段や段差が多い
3. バスや電車の乗り降りが困難
4. 歩道が整備されていない(高低差や段差)
5. 障害者用の駐車スペースが少ない(高低差や段差)
6. バスや電車で障害者用の乗降装置がない
7. 道路上に盲導犬や盲杖などの障害者があって通りにくい
8. 歩道ブロックや段差解消等の改修費がある
9. 駅前や施設の出入口に視覚障害者用の音響案内や音声ガイドシステムがない
10. 盲・視覚や手すり、盲のついでに聴覚のステレオマークが少ない
11. 駅前の出入口が混みあったり、曲げにくい
12. 駅構内やバスや電車の乗降場が少ない
13. 外出に費用がかかりすぎる
14. 行き先までくると疲れない
15. 盲導犬の乗車を控えたり、コミュニケーションをとることがむずかしい
16. 聴覚マークがわかりにくい
17. 外出時に盲の杖の色が変になる
18. その他( )
19. 特に困ることはない
20. ほとんど気にならないのでわからない

**8 防災対策についておうかがいします。**

問28 あなたは、地震などの災害時に一人で避難できますか。(1つに○)

1. できる
2. できない
3. わからない

問29 あなたが避難など災害時に困ることはありますか。(全てはまるものすべてに○)

1. 避難場所を知らない
2. 避難場所まで行けない(坂や階段がある、距離が遠いなど)
3. 避難訓練を受けていない
4. 防災意識の浸透が足りない
5. 近所に避難する人がいない
6. 防災用品に被害をみる手段がない
7. 避難、避難、避難の途中で災害にあった場合の対応がわからない
8. 避難場所が狭くアスファルトなどが受けられるか不安
9. 近くより遠く避難所にいられない
10. 避難所の設備(トイレなど)について不安
11. その他( )
12. 特に困ることはない

問30 あなたが、災害時に避難所で生活するために必要なものはありますか。(全てはまるものすべてに○)

1. 食糧物資(食料・水・衣類・薬など)の配給
2. プライバシーの確保
3. 施設内のバリアフリー化
4. 避難所を稼働する際のサポート
5. 障害のある方の家族への支援
6. その他( )
7. 特にない

**9 障害のある方の権利擁護についておうかがいします。**

問31 あなたは、これまでに障害があるため、差別を受けたり、いやな思いをしたことがありますか。  
(全てはまるものすべてに○)

1. 病院などで診察を断られた
2. バス、電線、タクシーの乗降の対応で、不愉快な思いをした
3. ホテル、温泉宿、旅館などを利用することを断られた
4. 駅前通り、駅前通りに行ったとき、乗降の対応で不愉快な思いをした
5. 学校、職場、施設などで不愉快な思いを受けた
6. ホームヘルパーやガイドヘルパーなどの対応で、不愉快な思いをした
7. 文書・連絡している施設職員等の対応の対応で、不愉快な思いをした
8. 駅前や施設の又の警備による被害を受けた
9. 近所の入居の対応で、不愉快な思いをした
10. その他( )
11. 特にない

問32 問31で「1」～「10」と答えた方におうかがいします。  
問32 差別を受けた、いやな思いをした経緯について、誰かに打ち明けた、相談したりしましたか。(1つに○)

1. 相談した →問34へ
2. 相談しなかった →問33へ

問33 問32で「2. 相談しなかった」と答えた方におうかがいします。  
問33 相談しなかったのは、なぜですか。(全てはまるものすべてに○)

1. 誰も相談する人がいなかったから
2. どこ(誰)に相談してよいのかわからなかったから
3. 恥ずかしくて誰にも言えなかったから
4. 相談しても無駄だと思ったから
5. 相談したことがわかると、拉致しを受けたり、もっとひどい被害を受けると思ったから
6. 相談先の担当者や職員等の対応により不快な思いをと思ったから
7. 自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから
8. 相談するのが怖いから
9. 解決を急ぎたくなかったから
10. そのことについて思い直したくなかったから
11. 自分にも悪いところがあると思ったから
12. 相談するほどのことでもないと思ったから
13. その他(具体的な)

**10 情報入手や新卒の相談についておうかがいします。**

問34 あなたは現在、ICTで商品(パソコンやスマートフォンなど)をどのくらい利用していますか。  
(それぞれ1つに○)

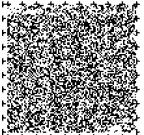
	1 ほぼ毎日利用している	2 月に数回利用している	3 ほとんど利用していない	4 まったく利用していない
①パソコン	1	2	3	4
②スマートフォン	1	2	3	4
③タブレット型端末	1	2	3	4
④動画配信	1	2	3	4
⑤その他( )	1	2	3	4

問35 あなたは普段どのような経路でICTで商品を利用していますか。  
(全てはまるものすべてに○)

1. 情報の取得・検索
2. コミュニケーション(メール・SNSなど)
3. 検索(動画やゲームなど)
4. 学習や仕事
5. 行政サービスの利用
6. その他( )

問36 今後、ICTで商品を利用するうえで行政の相談にどのような支援を期待しますか。  
(全てはまるものすべてに○)

1. 操作方法を学ぶ講習会やサポート
2. 商品や通信設備の提供
3. 障害特性に合わせた商品・ソフトの提供(音声読み上げ、拡大表示など)
4. オンラインでの相談・手続き支援
5. 特に希望はない
6. その他( )



※27 福祉に関する情報は、どこから集めますか。(おてはまるものすべてに○)

1. 都や市の広報・ホームページやガイドブック	8. 障害福祉サービス事業所
2. 新聞・雑誌	9. 学校の先生・地域の団体
3. テレビ・ラジオ	10. 障害などに関する団体
4. インターネット(パソコン、スマートフォン)	11. 障害者団体・家族会など
5. 家族や友人	12. 障害者相談支援事業所
6. 市役所・保健所・児童相談所	13. ハローワーク
7. その他( )	14. その他( )

※28 あなたは、相談支援機関について、どのようなことの充実を望みますか。(おてはまるものすべてに○)

1. 福祉の専門職を派遣した相談窓口
2. 同じ障害をもつ相談員によるカウンセリング
3. 休日や夜間の相談窓口
4. 家族の悩みを受け止める家族相談員
5. 子どもの教育・発達支援に関する専門的な相談
6. 障害や障害者の支援に関する専門的な相談
7. その他( )
8. 特になし

※29 障害福祉サービスについておうかがいします。

※30 次のサービスについて、あなたの「(1)利用状況」と「(2)今後(2～3年以内)の利用希望」を質問紙から1つずつ選んでください。

■相談支援サービス

サービス種別	(1)利用状況		(2)今後(2～3年以内)の利用希望			
	現在利用している		十分利用できている	もっと利用したい	利用希望はない	
生活援助支援	1 はい	2 いいえ	1	2	3	4
生活訓練支援	1 はい	2 いいえ	1	2	3	4
生活相談支援	1 はい	2 いいえ	1	2	3	4
生活支援相談支援	1 はい	2 いいえ	1	2	3	4

※31 障害者・障害児施設全般についておうかがいします。

※32 障害のある子どもたちが就職活動で成長するにあたってどのようなことが重要だと思いますか。(おてはまるものすべてに○)

1. 家族の理解	10. 障害や障害者に対する理解の向上
2. 地域のニーズの把握	11. 就職できる環境の整備
3. 市役所や公共施設の雇用の確保	12. リハビリや訓練などの施設
4. 学校の先生や雇員の理解	13. 自立した生活を営むことができる住まい
5. 障害福祉の充実	14. 就職活動から就職までの一貫した支援
6. インターネット教育等の支援	15. 障害のある子どもの国際交流
7. 障害者団体などの情報の見直し	16. その他( )
8. 障害のある若・子どもに対するサービス	17. わからない
9. 就職前や就労中の適切な就業	18. 特になし

※33 障害者を支援するための、長寿化に向けた支援や学習支援を通じて、市民全体の福祉に対する意識の向上や心のケアサービスなどを推進するために導入する教育システム

※34 障害や支援で、さらに充実させたいと思うことはありますか。(3つまで○)

1. 就職活動の充実
2. 障害・障害者の理解の向上
3. 専門職の相談体制
4. 地域における障害、リハビリテーション等の推進
5. 障害者や障害者の相談支援、教育の充実
6. 学校での障害者理解の普及、啓発
7. 自立に向けた専門的な教育の充実
8. 障害・福祉の普及、普及の支援
9. 就職前や就労中の適切な就業
10. 安心して暮らせる地域環境の整備
11. 地域との交流の促進や関係づくり
12. 就職前や就労(支援)できない層への就職前や就労
13. 就職活動の充実
14. 障害福祉事業所と学校の連携
15. 又用職員の充実
16. その他( )
17. 特になし

■相談サービス

サービス種別	(1)利用状況		(2)今後(2～3年以内)の利用希望			
	現在利用している		十分利用できている	もっと利用したい	利用希望はない	
生活相談	1 はい	2 いいえ	1	2	3	4
生活訓練	1 はい	2 いいえ	1	2	3	4
生活支援	1 はい	2 いいえ	1	2	3	4
生活相談支援	1 はい	2 いいえ	1	2	3	4

■その他サービス

サービス種別	(1)利用状況		(2)今後(2～3年以内)の利用希望			
	現在利用している		十分利用できている	もっと利用したい	利用希望はない	
生活訓練(ショートステイ)	1 はい	2 いいえ	1	2	3	4
生活訓練(短期入所)	1 はい	2 いいえ	1	2	3	4
生活訓練(長期入所)	1 はい	2 いいえ	1	2	3	4
生活訓練(短期入所)	1 はい	2 いいえ	1	2	3	4
生活訓練(長期入所)	1 はい	2 いいえ	1	2	3	4
生活訓練(短期入所)	1 はい	2 いいえ	1	2	3	4
生活訓練(長期入所)	1 はい	2 いいえ	1	2	3	4

※35 福祉の各種制度の創設、障害のある若・子どもを取り巻く環境の改善などについて、ご意見・ご要望がありましたら、自由に書きください。

---



---

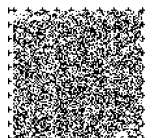


---

以上で、調査は終わります。ご協力ありがとうございました。

お書きいただきましたアンケート用紙は、お送りした封筒と一緒に入っていた返信用の封筒に入れて、12月15日(月)までにポストに投函してください。

切手は不要です。



### 3 障害福祉サービス事業所調査票

#### 武蔵村山市 障害福祉サービス事業所調査のお願い

日頃から本市の障害福祉行政にご理解、ご協力いただき、厚くお礼申し上げます。  
本市では現在、令和7～11年度を期間とする「第七次障害者計画・第八期障害福祉計画・第4期障害児福祉計画」の策定に向けて準備を進めております。  
それに伴い、市内の障害福祉サービス事業所の皆様へ運営状況やご意見等をおうかがいするアンケート調査を実施することといたしました。  
この調査結果は、障害福祉サービス事業所の皆様の課題への対応策を検討する際の重要な基礎資料とさせていただきます。その他の目的で使用されることはございません。お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣意をご理解いただき、ぜひご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和7年11月

武蔵村山市

#### ご記入にあたってのお願い

回答方法は「①アンケート用紙で回答」と「②WEBで回答」があります。いずれか一方の方法でお答えください。

- 1 回答は、**令和7年10月1日現在の**貴事業所についてご記入ください。
- 2 誤脱によっては、一部の事業所のみにご回答いただく場合があります。

#### ①アンケート用紙で回答

- 1 濃い鉛筆または黒のボールペンでご記入ください。
- 2 〇印は、あてはまる番号を囲むように書くついでにしてください。(例：1・②・3)
- 3 「その他」を選択された場合は「」内に具体的な内容を記入してください。
- 4 ご記入いただきました調査票は、封筒の返信用封筒（切手は不要です）に封入し、**令和7年12月15日(月)**までにご返送ください。

#### ②WEBで回答

- 1 パソコン、タブレット、スマートフォンで下記のURLか、二次元コード(QRコード)から調査画面にアクセスいただき、IDを入力の上画面の指示に従って回答してください。

■ URL | [https://www5.webcas.net/fora/pub/essays/muzashimura\\_03](https://www5.webcas.net/fora/pub/essays/muzashimura_03) ■ 二次元コード

■ ID :

※事業所別の識別のための番号となり、個人を特定するものではありません。



この調査に関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。

【調査についてのお問い合わせ先】  
武蔵村山市 健康福祉部 障害福祉課 電話：042-590-1185（直通）  
(平日8:30～17:15)

問4 令和7年10月1日時点の、貴事業所の従業員数をサービス種類ごとに記入ください。

サービスの種類番号 (表3のサービスから番号を記入してください)	男 7 人								
1 正職員	0人	人	人	人	人	人	人	人	人
2 非正職員 (嘱託、契約、臨時、パート等) (派遣職員)	0人	人	人	人	人	人	人	人	人

問5 貴事業所が提供している障害のある人(障害児)に対するサービス種類名、サービス種類ごとの令和7年10月1日～令和7年10月31日における利用者(うち武蔵村山市市民の人数)を実人数でご記入ください。なお、重複障害は主たる障害で計上してください。

サービスの種類番号 (表4から記述してください)	定員	利用者数 (うち武蔵村山市市民の人数)
例 7 10000	30	20 ( 10 )
		( )
		( )
		( )
		( )
		( )

#### 1 貴事業所の概要についておうかがいします。

問1 貴事業所の運営主体の種類はどれに当てはまりますか。(1つに○)

1 社会福祉法人	5 営利企業(株式会社・有限会社)
2 医療法人	6 特定非営利活動法人(NPO法人)
3 一般社団法人・一般財団法人	7 その他( )
4 公益社団法人・公益財団法人	

問2 貴事業所の創設年はいつですか。(1つに○)

1 平成12年以前	4 平成23年～平成27年
2 平成13年～平成17年	5 平成28年～令和2年
3 平成18年～平成22年	6 令和3年以降

問3 貴事業所で提供している障害福祉サービス、児童福祉法に基づく障害児サービスはどれに当てはまりますか。(あてはまるものすべてに○)

1 居宅介護	17 共同生活援助(グループホーム)
2 重度訪問介護	18 自立生活援助
3 同行支援	19 計画相談支援
4 行動支援	20 地域移行・地域定着支援
5 重度障害者等包括支援	21 訪問入浴サービス
6 療養介護	22 日中一時支援
7 生活介護	23 移動支援
8 自立訓練(機能訓練)	24 児童発達支援
9 自立訓練(生活訓練)	25 医療型児童発達支援
10 就労移行支援	26 放課後等デイサービス
11 就労移行支援	27 障害訪問型児童発達支援
12 就労継続支援(A型)	28 養育等訪問支援
13 就労継続支援(B型)	29 障害児相談支援
14 就労定着支援	30 障害児入所支援
15 短期入所(ショートステイ)	31 訪問看護
16 施設入所支援	32 その他( )

#### 2 貴事業所の運営状況等についておうかがいします。

問6 貴事業所の、運営状況はいかがですか。(1つに○)

1 十分安定的に運営できている	3 少々厳しい
2 やや安定的に運営できている	4 かなり厳しい

問7 貴事業所において、運営上の課題はどのようなことですか。(あてはまるもの3つまでに○)

1 職員の確保	10 情報の入手や活用が十分ではない
2 職員の定着率が低い	11 他サービス事業所との機会が難しい
3 専門職の確保	12 他サービス事業所との連携
4 利用者の確保	13 医療ニーズへの対応
5 利用者や家族がサービスをよく理解していない	14 報酬単価が低い
6 経費・活動資金が不足している	15 市民・近隣住民の理解
7 利用者からの苦情や事故への対応	16 その他( )
8 訪問や遠征が非効率(エリアが広い等)	17 特になし
9 設備等の整備環境	

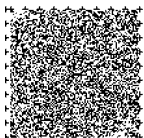
問8 貴事業所では、業務に対する職員(人手)の充足具合はいかがですか。(1つに○)

1 十分である	→ 問10へ
2 やや不足している	→ 問9へ
3 不足している	
4 非常に不足している	→ 問10へ
5 わからない	

問9 【問8で「2」～「4」と回答した事業所におうかがいします】

不足と感じる理由について教えてください。(あてはまるものすべてに○)

1 報酬率が高い(定着率が低い)
2 人材の確保が難しい
3 その他( )



問10 貴事業所から離脱する理由のうち、主な理由はどのようなことだと思われますか。  
(あてはまるものすべてに○)

- 1 能力や実績に照らして、給与（賃金）や手当てが低い
- 2 業務量、労働時間、超過勤務が多い
- 3 勤務ローテーションやシフトが不規則なため
- 4 有給休暇や特別休暇等が取りにくい
- 5 キャリアアップ・研修制度・資格取得等の人材育成が不十分のため
- 6 人員不足による、個々の責任の負担が大きいため
- 7 夜間や深夜時間帯の勤務における緊急対応への不安があるため
- 8 身体的負担が大きい（体力に不安がある）ため
- 9 精神的負担が大きい
- 10 障害福祉事業に対する社会的評価が低い
- 11 職場の人間関係が悪い
- 12 その他（ ）
- 13 特に離職者が多いと感じていない

問11 貴事業所が職員定着のために取り組んでいることは何ですか。  
(あてはまるものすべてに○)

- 1 給与面での改善
- 2 勤務条件（出勤回数、勤務時間等）の改善
- 3 福利厚生面（育児、介護休暇など）での改善
- 4 資格取得のための金銭的な支援
- 5 資格取得のための休暇取得の支援
- 6 外部の研修への金銭的な参加支援
- 7 外部の研修への休暇取得の支援
- 8 事業所内での研修機会の確保
- 9 キャリアアップのための人事制度の導入
- 10 職員向けアンケートの実施や法人長への意見箱の設置など職員の声を聞く機会づくり
- 11 その他（ ）
- 12 特に取り組みはしていない

問12 貴事業所が人材確保のために取り組んでいることは何ですか。  
(あてはまるものすべてに○)

- 1 賃金の改善
- 2 福利厚生（育児、介護休暇など）の充実
- 3 柔軟な勤務形態の導入（短時間勤務など）
- 4 資格取得のための金銭的な支援
- 5 資格取得のための休暇取得支援
- 6 実習生や研修生の受け入れ
- 7 求人広告や求人会社の活用
- 8 ホームページ等による認知度アップ
- 9 その他（ ）
- 10 特に取り組みはしていない

問13 貴事業所が人材育成のために取り組んでいることは何ですか。  
(あてはまるものすべてに○)

- 1 OJTの実施
- 2 部の専門研修の活用
- 3 部以外の専門研修の活用
- 4 資格取得支援
- 5 人事評価制度
- 6 その他（ ）
- 7 特に取り組みはしていない

### 3 サービス提供についておうかがいします。

問14 今後3年間の事業の見通しについて、どのように検討されていますか。（1つに○）  
また、「1」が「3」を選択された場合は、問15の回答項目から番号を3つまで記入してください。

- |                     |             |
|---------------------|-------------|
| 1 拡大予定（問15回答項目の番号：） | 3 縮小予定      |
| 2 現状維持              | 4 検討中、わからない |

問15 武蔵村山市内全体の事業所で不足していると思うサービス種類は何だと思いますか。  
(あてはまるもの3つまでに○)

- |                  |                    |
|------------------|--------------------|
| 1 居宅介護           | 17 共同生活援助（グループホーム） |
| 2 重度訪問介護         | 18 自立生活援助          |
| 3 同行介護           | 19 計画相談支援          |
| 4 行動援護           | 20 地域移行・地域定着支援     |
| 5 重症障害者等相談支援     | 21 訪問入浴サービス        |
| 6 療養介護           | 22 日中一時支援          |
| 7 生活介護           | 23 移動支援            |
| 8 自立訓練（機能訓練）     | 24 児童発達支援          |
| 9 自立訓練（生活訓練）     | 25 高齢児童発達支援        |
| 10 就労選択支援        | 26 放課後等デイサービス      |
| 11 就労移行支援        | 27 非営利型児童発達支援      |
| 12 就労継続支援（A型）    | 28 保育所等訪問支援        |
| 13 就労継続支援（B型）    | 29 障害児相談支援         |
| 14 就労定着支援        | 30 障害児入所支援         |
| 15 短期入所（ショートステイ） | 31 訪問看護            |
| 16 施設入所支援        | 32 その他（ ）          |

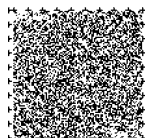
問16 過去1年間に於いて、利用者からの依頼に対して、受け入れ（サービス提供）ができなかったことはありますか。（1つに○）

- |      |   |      |      |   |      |
|------|---|------|------|---|------|
| 1 ある | → | 問16へ | 2 ない | → | 問16へ |
|------|---|------|------|---|------|

問17 【問16で「1」あると回答した事業所におうかがいします】  
その理由を下記の選択肢から選んでください。（あてはまるものすべてに○）  
また、「3」事業所では対応できない困難なケースだった」を選択された場合は、具体的な内容を下記の記入欄にお書きください。

- 1 希望される利用者を利用が難しく、定員に余裕がなかった
- 2 希望される時間帯にサービス提供をしていなかった（夜間・祝日など）
- 3 事業所では対応できない困難なケースだった
- 4 新規利用者を受け入れる余裕がなかった（職員体制など）
- 5 その他（ ）

(具体的な内容をお書きください)



#### 4 地域生活支援への取組についておうかがいします。

問18 障害者（児）が地域で安心して暮らすために必要なことは、何だと思えますか。  
（あてはまるものすべてに○）

- 1 緊急時に24時間365日相談できる体制の整備
- 2 緊急時対応体制（受入施設の空床確保等）の整備
- 3 緊急時対応体制（居宅訪問や受入施設への付き添い）の整備
- 4 緊急時対応体制（ヘルパーの派遣）の整備
- 5 体験の機会や場（グループホーム、日中活動）の整備
- 6 体験の機会や場（一人暮らし）の整備
- 7 医療的ケアに対応できる事業所の確保
- 8 独立行動障害のある方に対応できる職員の確保
- 9 金銭管理の支援（成年後見人を含む）
- 10 地域の障害者理解を促進するための活動
- 11 その他（ ）
- 12 特に必要なことはない

問19 問18の回答項目の中で、貴事業所が協力できることはありますか。  
（あてはまるものすべてに○）

また、「1」「2」を選択された場合は、問18の回答項目から番号をご記入ください。

- 1 協力できる（問18回答項目の番号： ） →問18へ
- 2 同意点分解決できれば協力できる（問18回答項目の番号： ） →問18へ
- 3 協力できない →問18へ

問20 【問19で、「2」と回答した事業所におうかがいします】  
具体的な困難点はありますか。（あてはまるものすべてに○）

- 1 職員が不足している
- 2 専門職を募集しても応募がない
- 3 専門職の人員費を捻出することが難しい
- 4 事業物件の確保が難しい
- 5 初期費用（資金）を確保することが難しい
- 6 報酬が低く、採算が合わない
- 7 支障に見合った報酬がない
- 8 利用者を安定して確保することが難しい
- 9 その他（ ）

8

#### 5 サービスの質の向上についておうかがいします。

問21 貴事業所では、サービスの質の向上のためにどのようなことに取り組んでいますか。  
（あてはまるものすべてに○）

- 1 利用者の個々の状況に応じたサービス提供の工夫
- 2 専門職の配置
- 3 職員研修の実施など、人材育成を行っている
- 4 定期的なケアカンファレンスの開催
- 5 サービス担当者会議への参加
- 6 同事業者との交流機会への参加
- 7 他職種事業者との交流機会への参加
- 8 地域における障害者支援ネットワークの構築
- 9 事業所単独の方法で、定期的に自らのサービスの質の評価を行っている
- 10 利用者からサービスの質に関する評価を受けている
- 11 第三者機関によるサービスの質に関する評価を受けている
- 12 サービス提供マニュアルの作成
- 13 緊急時マニュアルの作成
- 14 事故防止対策
- 15 苦情や相談の受付態勢の整備
- 16 利用者への謝辞の徹底
- 17 その他（ ）
- 18 特に取り組んでいない

問22 貴事業所では、どのような業務でICTを活用していますか。  
（あてはまるものすべてに○）

- 1 給付管理業務で活用している
- 2 相談支援業務で活用している
- 3 利用者支援・家族支援で活用している
- 4 運営管理・労務管理で活用している
- 5 会議や研修で活用している
- 6 その他（ ）
- 7 特に活用していない

9

#### 6 災害や虐待防止の取組についておうかがいします。

問23 貴事業所で、災害時の対応として取り組んでいることは何ですか。  
（あてはまるものすべてに○）

- 1 事業継続計画（BCP）の策定
- 2 定期的に避難訓練を実施
- 3 備蓄品の整備
- 4 コッカー、格等の転倒防止措置
- 5 緊急連絡網の作成
- 6 利用者・家族等との安否確認や連絡方法の共有
- 7 利用者・家族と避難場所の共有
- 8 避難行動計画や災害発生時対応マニュアルを作成
- 9 避難経路の確保
- 10 建物の耐震化
- 11 利用者・職員情報の紙媒体での保管
- 12 特に取り組んでいない
- 13 その他（ ）

問24 貴事業所では、これまでに虐待事案に対応されたことはありましたか。（1つに○）

- 1 ある
- 2 ない
- 3 その他（ ）

問25 貴事業所では、どのようにして虐待防止に取り組まれていますか。  
（あてはまるものすべてに○）

- 1 事業所内で従業員向けに研修を実施している
- 2 武蔵村山市障害者虐待防止センターの連絡先を掲示している
- 3 虐待防止委員会を設置している
- 4 虐待防止マニュアル等を作成している
- 5 職員のメンタルヘルスのための研修等を実施している
- 6 その他（ ）
- 7 特に取り組んでいない

問26 障害者施設や障害者福祉サービス全般について、ご意見などあれば、ご自由にお書きください。

※ご回答いただきました意見等に返信にお答えするものではありませんので、ご了承ください。

最後に、差し支えなければ貴事業所名をご記入ください。  
なお、ご記入いただいた事業所名は公表されることはなく、市の内部資料としてのみ使用いたします。

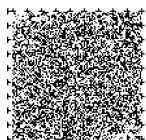
事業所名

以上で質問は終わります。

調査にご協力いただきまして、誠にありがとうございました。  
調査票を同封の返信用封筒に入れて、12月15日（月）までに  
返送（投函）してください（切手を貼る必要はありません。）。

10

11



---

武蔵村山市第七次障害者計画・  
第八期障害福祉計画・  
第四期障害児福祉計画  
策定のための市民意識調査報告書

発行年月 令和8年3月  
発行 武蔵村山市  
編集 武蔵村山市 健康福祉部 障害福祉課  
〒208-8502  
武蔵村山市学園四丁目5番地の1  
武蔵村山市民総合センター内  
TEL：(042) 590-1185 FAX：(042) 562-3966

---

